

東日本大震災に係る支援活動の状況について

(平成 24 年 2 月 29 日現在)

○ 東日本大震災に係る支援活動の実施件数総表

1. 医療支援	1
2. 救援物資等	18
① 緊急物資支援	
② 義援金	
3. 学生及び研究者支援	43
① 被災した学生の入学等の弾力的取扱い	
② 被災大学の学生、教職員への支援	
③ 学生による被災地でのボランティア活動	
④ 被災学生・大学院生の受入れ、講義の履修、聴講	
⑤ 被災大学院生への研究支援	
⑥ 研究者への支援	
⑦ 受入れた学生及び研究者用の宿泊施設の確保	
⑧ その他	
4. 就職支援	102
① 被災した学生に自大学の就職支援等を行うことができるキャリアセンター等の利用	
② 被災した学生に対し、就職活動中の短期宿泊に供することが可能な宿泊施設の提供	
5. 被災大学への教職員の派遣	107
6. 被災者への支援	110
7. その他	116

○東日本大震災に係る支援活動の実施件数総表
(平成24年2月末日現在)

被災大学（東北地区4校、関東・甲信越地区4校）については、支援活動に係る事項のうち、※印を付した活動についてのみ調査を実施。

事 項		北海道	東北	関東・甲 信越	東京	東海・北 陸	近畿	中国・四 国	九州	合計
医療支援 ※		2	6	6	4	9	10	9	8	54
救援物資等	緊急物資支援	7	3	9	11	12	11	10	11	74
	義援金	7	3	9	11	12	13	10	11	76
学生及び 研究者支援	被災した学生の入学等の弾力的取扱 ※ (入学時期の延期、入学金免除、入学直後の休学、 授業開始日の繰り下げ)	7	7	14	11	11	11	10	10	81
	被災大学の学生、教職員への支援 (図書館、インターネット利用等)	5	3	9	12	11	9	10	10	69
	学生による被災地でのボランティア活動 ※	5	7	12	12	12	13	10	11	82
	被災学生・大学院生の受入れ、講義の履修、聴講	1	1	6	6	11	7	9	11	52
	被災大学院生への研究支援	2		5	4	10	5	8	11	45
	研究者への支援 (研究スペースの提供、機器の共用等)	2	2	5	6	9	4	8	10	46
	受入れた学生及び研究者用の宿泊施設の確保	3	1	3	4	8	4	6	11	40
	その他 ※		4	3						7
就職支援	被災した学生に自大学の就職支援等を行うことが できるキャリアセンター等の利用	2	3	7	5	10	4	8	10	49
	被災した学生に対し、就職活動中の短期宿泊に供 することが可能な宿泊施設の提供		2	1	2	7	1	4	6	23
被災大学への教職員の派遣		5	3	2	4	8	6	5	9	42
被災者への支援(住居提供等) ※		6	6	12	8	12	12	9	9	74
その他 ※		4	7	11	9	12	11	10	11	75
合計		58	58	114	109	154	121	126	149	889

【1. 医療支援】

支部分名	大学名	活 動 実 績
北海道	北海道大学	<p>○北海道からの要請に基づき、医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務職員2名で構成する救護チームを10班編成し、岩手県陸前高田市に派遣した。救護チームは同市の長部地区のコミュニティセンターに仮設診療所を設置し、被災者の診療に従事した。(3月20日～5月9日)</p> <p>【救護チーム派遣日程】 第1班(3月20日～3月26日)、第2班(3月24日～3月30日)、第3班(3月30日～4月4日)、第4班(4月4日～4月9日)、第5班(4月9日～4月14日)、第6班(4月14日～4月19日)、第7班(4月19日～4月24日)、第8班(4月24日～4月29日)、第9班(4月29日～5月4日)、第10班(5月4日～5月9日)</p> <p>【救護チーム延べ派遣人数】 医師20名、看護師20名、薬剤師10名、事務職員20名 計70名</p> <p>○警察庁及び宮城県警察本部からの要請に基づき、遺体の検案及び身元確認を行う災害時検案支援医師として、教員2名を派遣。(3月24日～3月31日、4月5日～4月12日)</p> <p>○警察庁からの要請に基づき、遺体の身元確認を行う歯科医師の派遣候補者のリストを提出し、装備等の準備をしたが、その後、派遣依頼はない。</p> <p>○東北大学歯学部あてに口腔ケア用品(入れ歯安定剤、歯磨き粉、歯ブラシ、紙コップ、ペーパータオル、除菌ウエットティッシュ、ティスパーザブルキャップ)等を提供。(3月18日)</p> <p>○弘前大学の薬品、医療材料、手術用品(針・糸等)、汎用品(採血管等)の調達を代行し、物資を発送。(3月22日)</p> <p>○岩手医科大学に医療材料等、支援物資を提供。(3月22日)</p> <p>○青森県保険医協会あてに義歯用の歯科材料を提供。(4月28日)</p> <p>○厚生労働省からの要請に基づき、被災地の歯科医療に従事する教職員2名を宮城県女川町周辺地域に派遣するとともに、現地で不足している口腔ケア用品(歯間ブラシ、キシリトール入りノンシュガーのど飴、歯科用タブレット、白衣)を送付。(5月22日～5月30日)</p> <p>○産婦人科学会の要請に基づき、産科医師1名を宮城県石巻市に派遣(5月21日～27日)</p> <p>○大槌町からの要請に基づき、多くの住民・職員の人命・職場・財産の多くが奪われ、気持ちのつらさが大変強くなっている住民及び町職員の心のサポートを行うため、喪失の悲嘆へのケアに優れた能力を持つ緩和ケア担当医2名を延べ37日間同町に派遣。(10月、2月)</p> <p>○全国医学部長病院長会議被災地医療支援委員会からの要請に基づき、内科医師1名を宮城県南三陸町公立志津川病院に派遣。(2月2日～7日)</p>
北海道	旭川医科大学	<p>○3月11～15日に旭川医科大学病院DMATチーム(医師2名、看護師2名、事務1名)を岩手県いわて花巻空港へ派遣した。(平成23年3月中旬実施)</p> <p>○死体検案支援として、3月16～22日に岩手県へ医師1名、4月11～18日に宮城県へ医師1名、6月21～29日に宮城県へ医師1名、6月22日～7月1日に岩手県へ医師1名を派遣した。(平成23年7月上旬まで実施)</p> <p>○3月22日～5月12日の間、宮城県気仙沼市へ医療救護班(班構成:医師2～3名、看護師2～3名、薬剤師1名、事務1名)を1週間程度の交代で、延べ69名派遣した。(平成23年5月中旬まで実施)</p> <p>○被災地医療支援として、10月17日～24日及び12月13日～20日に、宮城県の公立志津川病院へ医師を各1名派遣した。(継続中)</p>
東北	弘前大学	<p>○緊急医療チーム(DMAT)を派遣(第1次隊 3月11日～13日、第2次隊 3月14日～15日)</p> <p>○被災地の病院へ医師等を派遣(3月18日～19日、3月23日～25日、4月1日～3日、4月1日～4日、3月25日～29日、3月29日～4月1日、4月4日～7日、4月7日～10日、4月10日～13日、4月13日～16日、4月16日～19日、4月19日～22日、4月29日、4月29日～30日、5月27日～29日)</p> <p>○医薬品を被災地の病院へ提供(3月25日、3月29日、4月1日、4月4日、4月7日、4月10日、4月13日、4月16日、4月19日)</p> <p>○放射線測定のため被ばく状況調査チーム(教員、看護師、放射線技師、事務職員)を派遣(第1次隊～3次隊 3月15日～19日、第4次隊 3月20日～23日、第5次隊 3月24日～27日、第6次隊 3月28日～31日、第7次隊 4月11日～16日、第8次隊 4月25日～28日、第9次隊 5月9日～13日、第10次隊 5月16日～20日、第11次隊 5月23日～27日、第12次隊 5月30日～6月3日、第13次隊 6月6日～10日、第14次隊 6月13日～17日、第15次隊 6月20日～24日、第16次隊 6月27日～7月1日、第17次隊 7月4日～8日、第18次隊 7月11日～15日、第19次隊 7月18日～22日、第20次隊 7月25日～29日)</p> <p>URL:http://www.hirosaki-u.ac.jp/houdou/shinsai/O1.html</p> <p>○「一次立ち入りプロジェクト」へのチーム派遣(医師、看護師、放射線技師、事務職員)を派遣(第1次隊 5月25日～28日、第2次隊 天候不良による一次立ち入り中止による派遣取りやめ、第3次隊 6月3日～6日、第4次隊 6月6日～9日、第5次隊 6月17日～20日、第6次隊 6月24日～27日、第7次隊 6月27日～30日、第8次隊 7月5日～8日、第9次隊 7月13日～16日、第10次隊 7月21日～24日、第11次隊 7月23日～26日、第12次隊 7月29日～8月1日)</p> <p>○高度救命救急センターに被ばく患者の受入体制を整備</p> <p>○高度救命救急センターの医師を、原子力災害現地対策本部医療チームの統括として派遣(3月15日～19日、4月3日～7日、4月15日～18日、5月1日～3日、6月6日～6月8日、6月27日～7月2日、8月27日～9月1日)</p> <p>○東京電力福島第一原子力発電所における医療支援活動(10月30日～11月2日、12月10日～12月12日)</p> <p>○3月17日～23日 岩手被災地での死体検案業務応援</p> <p>○3月26日 八戸市湊避難所へ医療支援(医師3名)</p>

【1. 医療支援】

支部分名	大学名	活 動 実 績
東北	岩手大学	<p>○保健師2名が、大槌町からの依頼を受け、4月29日～5月1日まで同町内全戸を対象とする健康調査に携わった。</p> <p>○獣医師が、岩手大学動物病院移動診療車「わんにゃんレスキュー号」で被災地を巡回し、ペットの治療を行った。</p> <p>4月1日～5月18日の間に5回派遣し、延べ131頭（犬100頭、猫30頭、その他1頭）を診療した。</p>
東北	東北大学	<ul style="list-style-type: none"> ・医師、歯科医師、看護師等が避難所の訪問・診療等を実施 http://www.hosp.tohoku.ac.jp/ ・被災地への医師等派遣 県内（石巻、気仙沼、南三陸、県東部・南部市町村） 福島（磐城共立）、茨城（高萩共同）等 【医 師】 1887名 【看護師】 54名 【薬剤師】 67名 【理学療法士等その他】 199名 合計 2207名（24.2.27現在） ・トリアージ活動（3.11～18） 震災直後より、仙台市周辺からの被災者の受診と入院、産科、在宅酸素療法患者を収容 ・県内病院等の支援 最前線病院の負担軽減策として、患者を無条件で受入れるとともに、震災により機能不全に陥った病院から患者を受入れ <ul style="list-style-type: none"> ・石巻・気仙沼等から 452名（3/11～4/10） ・厚生年金病院から 41名 ・気仙沼から透析患者 約80名 等 （透析患者は一旦入院加療後、北海道へ自衛隊機で搬送） ・医薬品、医療器材、食料等の調達並びに被災地病院等への搬送支援 文部科学省等を通じて全国の国立大学病院等に物資等の支援要請を行い、県内外に当院の医師や看護師を派遣する際に支援物資等を運搬。・歯科部門からの遺体確認作業と避難所への巡回診療（23.7.8終了） ・身元確認作業への協力：358名（183会場）（24.2.13現在） ・避難所への巡回診療：354名（196力所）（23.9.30終了） ・口腔ケア用品の提供（23.9.30終了） ・長期戦に備える医療体制の整備 長期滞在型のチーム編成とEIP・ライフを導入するため、宮城県及び被災地拠点病院と調整の上、国立大学附属病院長会議等を通じて全国の国立大学病院等へ医療チームの派遣を依頼。 ・専門家チームの巡回診療 避難所の衛生環境の悪化に伴う感染症の急増や特殊疾患等に対応するため、大学病院の専門性を活かし、感染管理室、眼科、耳鼻科、皮膚科等が避難所巡回診療を実施。 ・放射線被ばく疑い患者への診察と除染業務 <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県からの依頼検査（3.14～3.26終了） 検査数241244件 除染数8件 ・その他来院者検査（3.14～4.15終了） *終了後も希望者がいれば行っている 検査数255263件、除染数1件 合計 検査数496507件、除染数9件 ・宮城県地域医療復興検討会議への参画（具体的各種支援事業への協力） 地域医療の確保が危機的な状況にある被災地域（気仙沼、南三陸、石巻）を中心に、地域医療の復興のあり方、医療機能再開支援と医療従事者の確保方策など、全県の視野で今後の地域医療の復興の基本的な方針を検討。 ・心のケアチームによる巡回診療の実施 精神科等が医師会や関連学会と協力してチームを編成し巡回診療を継続中。 ・本院及び東北地区がんネットワークによる被災地「がん医療」の協力体制を支援 本院がんセンターと東北地区がんネットワークによる被災地医療機関における「がん医療」の現状分析及び協力体制について継続的に支援。 ・緊急時被ばくスクリーニングに係る放射線技師の派遣 住民一時帰宅に伴うスクリーニング受検者増加対応のため、病院放射線技師を福島県内のスクリーニング会場へ派遣（23.9.1現在23.8.11終了：延23名派遣） ・薬剤師免許を有する教員及び大学院生が石巻赤十字病院で調剤業務を支援。 （23.4.1まで実施） ・宮城県薬剤師協会に協力し、石巻高校内臨時診療所での調剤業務支援、エリア内避難所の巡回と被災者へのセルフメディケーション支援・道路状況の調査・衛生管理と指導、石巻高校避難所内薬剤師会本部での一般用薬品の整理・活動記録の電子化等を実施。（3月30日から4月22日までのべ73人）（23.4.22まで実施）

【1. 医療支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	秋田大学	<ul style="list-style-type: none"> ○医薬品、医療材料等を被災地に提供。（3月17, 21, 24日） ○「緊急医療チーム（DMAT）」を派遣。（3月11～13日, 14～16日） ○「こころのケアチーム」を派遣。（4月10～13日, 17～20日, 5月14～17日, 6月5～8日, 9～12日） ○「災害時検案支援医師および歯科医師」を派遣。 （3月18～24日, 18～26日, 4月5～12日, 13～19日, 25日～5月2日, 19～25日, 25～31日, 31日～6月6日） ○「医療支援チーム（医師、看護師、事務職員）」を派遣。 （3月17～21日, 21～24日, 24～27日, 27～30日, 30日～4月2日, 4月2～5日, 5～8日, 8～11日, 11～14日, 14～17日, 17～20日, 20～23日, 23～26日, 26～29日, 29日～5月2日, 2～5日, 5～8日, 9～13日, 16～20日, 23～27日, 30日～6月3日, 6～10日, 13～17日, 20～24日, 27日～7月1日, 4～8日, 11～15日） ○「リレー方式による医療支援活動」へ医師を派遣。（10月2～9日, 11月7～22日）
東北	山形大学	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急医療チーム（DMAT）を派遣（3月11日～3月13日：宮城県） ○医療救護班を派遣（4月21日～4月25日：岩手県宮古市） ○県からの依頼により避難所（県体育館）での巡回診療支援 ○気仙沼市からの要請によりリハビリ職員を二週調査のために派遣（4月～7月までに7回実施） ○県からの要請により医療救護班を派遣（宮城県気仙沼市：5月30日～31日）
東北	福島大学	<ul style="list-style-type: none"> ○3月16日、本学に設置された避難所の避難住民に対し、保健管理センターの医師、看護師、学生総合相談室の臨床心理士が、一日二回巡視活動を実施。医療相談、血圧測定、投薬、院外処方箋発行などの医療活動と共に、避難生活での不安や心配、不満などに耳を傾け心のケアを実施。（4月末まで実施） ○文部科学省対策チーム医療班からの要請により、被爆医療派遣者の宿泊・休憩施設の開設（附属特別支援学校内）し、述べ41名を受入れ。（3月21日～4月3日）
関東・甲信越	筑波大学	<ul style="list-style-type: none"> ○筑波大学附属病院DMAT（災害派遣医療チーム）を北茨城市に派遣し、診療等を実施 ○ボランティア医師、看護師等が避難所（つくば市洞峰公園）を訪問し、診療等を実施 ○精神科医、臨床心理士、薬剤師による「こころのケアチーム」を組織し、被災地（福島県）で診療等を実施 ○大学院生1名：日本看護協会に登録し、宮城県石巻市で看護活動を実施 ○大学院生2名：アルバイト先の病院から指名され、つくば市内の避難所にて看護師として健康相談等の実施 ○附属病院が、全国各地から提供された医療材料及び支援物資のハブ拠点となり、県北医療機関及び宮城県等の被災地へ提供 ○国立大学附属病院長会議常置委員長からの「岩手県への医療支援実施要請」に基づき、医師派遣計画を策定 ○緊急時被ばくスクリーニングに係る対応者を派遣 ○被災者健康支援連絡協議会の下、全国医学部長病院長会議被災地医療支援委員会からの要請に基づき、平成23年9月から、平成24年2月までに10名を派遣し、3月にも1名を派遣予定。 ○筑波大学東日本大震災復興支援プログラム「被災地における心の復興：とくに児童生徒を対象に」により、北茨城市大津町市立城北中学校を精神科医師及び学生が9月及び12月に訪問し、心のケアを実施 ○福島県における小児甲状腺超音波検査の支援（11月に医師を4日派遣、3月にも実施予定） ○本院医師が福島県「県民健康管理調査」における甲状腺検査専門委員として支援 ○医師1名：一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会からの依頼による、石巻及び気仙沼被災地への医療支援（活動期間：H24.3.1～H24.3.31までの1ヶ月間）
関東・甲信越	群馬大学	別紙1のとおり

【1. 医療支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	千葉大学	<p>◎ DMAT活動（延：医師6名、看護師6名、薬剤師3名、事務職員3名）</p> <p>第1班（3月11日～3月12日）【茨城県水戸市】</p> <p>第2班（3月13日～3月15日）【宮城県仙台市】</p> <p>第3班（3月14日～3月17日）【岩手県宮古市】</p> <p>◎ 遺体検案（延：医師20名）</p> <p>第1班（3月12日～3月17日）【岩手県陸前高田市】</p> <p>第2班（3月21日～3月28日）【福島県南相馬市】</p> <p>第3班（4月7日～4月14日）【岩手県宮古市ほか】</p> <p>第4班（4月11日～4月18日）【宮城県名取市ほか】</p> <p>第5班（4月23日～4月30日）【宮城県石巻市】</p> <p>第6班（5月1日～5月8日）【岩手県釜石市ほか】</p> <p>第7班（5月2日～5月9日）【福島県南相馬市ほか】</p> <p>第8班（5月14日～5月21日）【福島県南相馬市ほか】</p> <p>第9班（6月6日～6月13日）【岩手県陸前高田市ほか】</p> <p>第10班（6月10日～6月13日）【宮城県南三陸町ほか】</p> <p>第11班（6月17日～6月20日）【宮城県石巻市ほか】</p> <p>第12班（6月19日～6月22日）【宮城県石巻市ほか】</p> <p>◎医療救護</p> <p>◆本学単独での支援 （延：医師28名、看護師21名、薬剤師6名、理学療法士2名、事務職員5名）</p> <p>第1班（3月16日～3月19日）【宮城県石巻市】</p> <p>第2班（3月18日～3月21日）【宮城県石巻市】</p> <p>第3班（3月20日～3月23日）【宮城県石巻市】</p> <p>第4班（3月22日～3月25日）【宮城県石巻市】</p> <p>第5班（3月24日～3月27日）【宮城県石巻市】</p> <p>第6班（3月26日～3月29日）【宮城県石巻市】</p> <p>第7班（3月28日～3月31日）【宮城県石巻市】</p> <p>第8班（4月4日）【千葉県旭市】</p> <p>第9班（4月18日）【千葉県旭市】</p> <p>第10班（4月28日）【千葉県旭市】</p> <p>第11班（5月10日）【千葉県旭市】</p> <p>◆他大学との連携による支援 （延：医師41名、看護師28名、薬剤師6名、臨床心理士2名、事務職員7名）</p> <p>第1班（3月29日～3月30日）【宮城県東松島市】</p> <p>第2班（4月2日～4月7日）【宮城県南三陸町】</p> <p>第3班（4月2日～4月6日）【宮城県東松島市】</p> <p>第4班（4月13日～4月17日）【宮城県南三陸町】</p> <p>第5班（4月16日～4月19日）【宮城県東松島市】</p> <p>第6班（4月20日～4月22日）【宮城県東松島市】</p> <p>第7班（5月4日～5月8日）【宮城県南三陸町】</p> <p>第8班（5月11日～5月14日）【宮城県東松島市】</p> <p>第9班（5月14日～5月18日）【宮城県気仙沼市】</p> <p>第10班（5月25日～5月28日）【宮城県東松島市】</p> <p>第11班（6月1日～6月3日）【宮城県東松島市】</p> <p>第12班（6月5日～6月8日）【宮城県気仙沼市】</p> <p>第13班（6月15日～6月17日）【宮城県東松島市】</p> <p>第14班（6月22日～6月24日）【宮城県東松島市】</p> <p>第15班（6月30日～7月1日）【宮城県東松島市】</p> <p>第16班（7月4日）【宮城県東松島市】</p> <p>第17班（7月6日～7月8日）【宮城県東松島市】</p> <p>第18班（7月20日～7月22日）【宮城県東松島市】</p> <p>第19班（7月27日～7月29日）【宮城県東松島市】</p> <p>第20班（8月17日～8月19日）【宮城県東松島市】</p> <p>第21班（9月14日～9月16日）【宮城県東松島市】</p> <p>第22班（10月19日～10月21日）【宮城県東松島市】</p> <p>第23班（11月23日～11月25日）【宮城県東松島市】</p> <p>第24班（1月19日～1月20日）【宮城県東松島市】</p> <p>◆全国医学部長病院長会議被災地医療支援委員会の要請による支援 支援先【福島県いわき市立総合磐城共立病院】 （延：医師10名）</p> <p>第1班（9月1日～9月15日）</p> <p>第2班（11月7日～11月18日）</p> <p>第3班（12月5日～12月9日）</p> <p>第4班（1月4日～1月13日）</p> <p>第5班（1月16日～1月20日）</p> <p>第6班（1月23日～1月27日）</p> <p>第7班（1月30日～2月3日）</p> <p>第8班（2月6日～2月10日）</p> <p>第9班（2月13日～2月24日）</p> <p>○茨城県潮来市かすみ保険福祉センターにて保健師有資格者（看護学研究科教員）が支援活動</p> <p>第1班（3月16日～19日）教員4名、第2班（3月19日～22日）教員3名</p>

【1. 医療支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	東京大学	<p>○被災地への医療支援（附属病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地からの患者受入（平成23年4月13日現在で計16名受入） ・医療支援チームの派遣（平成24年2月10日現在で計161名派遣） <p>http://www.h.u-tokyo.ac.jp/topics/20110329.html</p> <p>○放射線測定活動（理学系研究科）</p> <p>福島県にて放射線の測定 （平成23年3月21日～25日、27日～29日、4月2日～5日。計測対象者6,000人）</p> <p>http://www.u-tokyo.ac.jp/public/AntiDisaster/info_20110415_04_j.html</p> <p>○自治体の要請に応じた、教員、研究者等のボランティアによる放射線測定活動の展開（平成23年11月末まで）</p>
東京	東京医科歯科大学	<p>○災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣 （3月11日～14日、3月16日～19日、3月20日～22日 5月25日～31日）</p> <p>○医薬品を被災地へ提供（3月12日）</p> <p>○死体検案のため、福島県相馬市・南相馬市及び宮城県石巻市等へ医師を派遣 （3月16日～22日、3月29日～4月5日、4月20日～27日）</p> <p>○下肢深部静脈血栓症の治療・予防のため、福島県内避難所へ医師を派遣 （3月14日～15日、3月17日～18日）</p> <p>○高齢者医療支援に関する情報収集・診療のため、福島県福島市及び相馬市へ医師及び薬剤師を派遣（3月26日～27日）</p> <p>○緊急被災者医療に対する災害医療アドバイザーとして、原子力災害現地対策本部へ医師を派遣（4月11日～13日）</p> <p>○日本プライマリ・ケア連合学会東日本大震災支援プロジェクト現地派遣支援として、宮城県涌谷町、石巻市へ歯科医師及び歯科衛生士を派遣（4月14日～17日）</p> <p>○被災地から、重症患者を受入れ（3月18日に、福島県郡山市太田西ノ内病院、宮城県亘理郡国立病院機構宮城病院、福島県いわき市いわき共立病院から、また、福島県いわき市から都内に避難中の患者を、それぞれ受入れ。福島県いわき市内の透析患者を、3月18日及び19日から受入れ。）</p> <p>○被災地への医療支援のため、東京大学千葉大学、山梨大学及び群馬大学チームとリレー方式により医師等を派遣 （5月7日～11日、5月18日～21日、5月28日～6月1日）</p> <p>○日本看護協会を通じて、宮城県石巻市内における災害支援看護師の統括者（コーディネーター）として看護師（本学教員）を派遣（3月31日～4月14日）</p> <p>○Primary care for All Team（PCAT）の一員として、宮城県石巻市に保健師（本学教員）を派遣（4月15日～4月19日）</p> <p>○被災地からの避難住民に対する医療支援のため、新潟県見附市へ医師を派遣 （4月1日、8日～9日、22日～23日、26日、30日、5月13日～14日、27日～28日、6月10日～11日、24日～29日、7月8日～9日、22日～23日、8月12日～13日、26日～27日、9月9日～10日、23日～24日、10月14日～15日、28日～29日、11月25日～26日、12月9日～10日、23日～24日、1月13日～14日、27日～28日、2月10日～11日）</p> <p>○東北大学心のケアチームとして、医師及び精神保健福祉士を宮城県石巻市へ派遣 （4月27日～30日）</p> <p>○福島県立医科大学心のケアチームとして、医師を福島県相馬市へ派遣 （4月30日～5月3日）</p> <p>○歯科治療及び口腔ケアのため、歯科医師及び歯科衛生士を宮城県へ派遣 （5月29日～6月6日、6月19日～6月27日）</p> <p>○福島県いわき市立総合磐城共立病院救命救急センターにおける診療指導 （12月12日～25日）</p>
東京	東京工業大学	<p>○文部科学省からの求めに応じ、本学教員が福島県での放射線スクリーニングの活動に参加。（4月2～6日）</p>
東京	お茶の水女子大学	<p>○震災学生の心と身体について相談を受けている。</p>

【1. 医療支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	新潟大学	<ul style="list-style-type: none"> ○災害派遣医療チーム(DMAT隊)を派遣(福島県:3/11~3/17, 新潟消防学校:3/18~3/20) ○医療救護班/救援隊を派遣(岩手県宮古市:3/25~5/1, 宮城県石巻市:5/16~18) ○検死・検案チームを派遣(岩手県:3/15~3/22, 5/6~5/14), (宮城県:3/24~3/31), (福島県:4/3~4/10, 4/14~4/21, 4/29~5/3, 5/14~21) ○避難所におけるエコノミークラス症候群の指導(宮城県:3/19~3/20, 3/24~3/25, 3/26~3/27, 5/3, 5/4, 6/18), (宮城及び岩手県:4/10~4/12), (岩手県:4/28~5/1, 5/26~5/29) (群馬県:5/8), (福島及び宮城県:5/20), (新潟県内:4/8, 4/9, 4/16~4/17, 4/24~4/25, 5/5, 5/19) ○他病院の応援(石巻赤十字病院:5/7~5/13) ○看護師を派遣(宮城県:4/4~4/7, 岩手県:4/4~4/11~4/14) ○被災地患者を新潟県内各病院に移送するためのトリアージを264人に実施(新潟県内:3/17~3/19), 入院患者25人, 外来患者20人を受入 ○新潟県内避難所における歯科衛生士による歯科相談支援を実施(新潟県内:3/27, 4/9) ○酸素ボンベ圧力調整器10個を提供(3/13) ○東北大学病院へ医薬品を提供(3/16) ○秋田大学医学部附属病院へ医薬品を提供(3/19) ○医薬品, 医療材料の受入(富山大学, 福井大学)
関東・甲信越	山梨大学	<ul style="list-style-type: none"> ○医療救護班(医師、看護師、技師、事務)を派遣。(3月18日~5月13日延べ19班) ○関東甲信越地区リレー方式医療救護班(医師、看護師、技師、事務)を派遣。(6月1日~6月4日) ○全国医学部長病院長会議被災地医療支援委員会の要請に基づく医師派遣。(12月24日小児科, 12月12日~12月16日麻酔科) <p>http://www.hosp.yamanashi.ac.jp/news/news/index.html</p>
関東・甲信越	信州大学	<p>URL:http://www.hp.md.shinshu-u.ac.jp/disaster/index.php</p> <ul style="list-style-type: none"> ○緊急医療チーム(DMAT)2隊を派遣(3月11日~17日) ○放射線測定員チーム(医師1名, 放射線技師1名, 看護師1名, 事務職員1名)を派遣(3月15日~18日) ○長野県との合同による医療救護班(医師1~2名, 看護師2名, 薬剤師1名, 事務1名)を派遣(3月18日~5月12日までに13班・延べ73名を派遣) ○心のケアチーム(医師2名, 事務1名)を派遣(4月9日~9月2日までに5班・延べ15名を派遣) ○被災地医療支援システムによる医師の派遣(医師1名)を派遣 ○被災地の妊産婦, 婦人科疾患を有する患者の受入体制の整備 ○被災地の放射線測定者(7名)
東海・北陸	富山大学	<ul style="list-style-type: none"> ○DMATチームを2チーム派遣(3月11日~14日, 15日) ○東北大学へ分娩セット等50箱支援(3月21日) ○富山県を通じて非常食料67箱支援(3月21日) ○東北大学等との連携により宮城県気仙沼市へ医療チームを派遣(3月28日~4月30日) ○国立大学附属病院長会議の依頼により宮城県石巻地区へ医療チームを派遣(5月6日~7月20日) ○全国医学部長病院長会議の依頼により茨城県北茨城市へ医師を派遣(2月17日~3月2日)他
東海・北陸	金沢大学	<ul style="list-style-type: none"> ・山形大学病院へ救援物資送付(3月20日送付/3月21日到着) 物品リスト【滅菌ガウン, マスク, 滅菌ガーゼ, 綿棒, 三方活栓, 輸液セット, シリンジ等】 (物品は業者から寄付) ・DMAT派遣 第1陣(3月11日~3月14日/仙台医療センター) ・DMAT派遣 第2陣(3月15日~3月19日/仙台医療センター) ・放射線測定者派遣(3月16日~3月19日/福島県で活動) ・医療救護(3月19日~3月25日/石巻市雄勝地区で活動) ・医療救護(3月31日~4月4日/石巻市雄勝地区で活動) ・医療救護(4月11日~4月14日/石巻市雄勝地区で活動) ・医療救護(4月21日~4月24日/石巻市雄勝地区で活動) ・医療救護(5月19日~5月23日/石巻市河北地区で活動) ・医療救護(6月9日~6月13日/石巻市渡波地区で活動) ・医師派遣 第1陣(3月18日~3月26日/筑波大学へ) ・医師派遣 第2陣(3月21日~3月25日/筑波大学へ) ・石川県こころのケアチーム(石川県神経科精神科医会が中心となって設立) 第9班の代表として金沢大学附属病院医師を派遣(4月25日~5月1日/石巻市で活動) 第19班スタッフとして金沢大学附属病院看護師を派遣(6月14日~6月20日/石巻市で活動) ・全国医学部長病院長会議の要請により医師を派遣予定(9月16日~9月30日/釜石市で活動) ・被災くスクリーニングに関し放射線技師を派遣(6月3日~6月7日, 6月7日~6月10日, 6月17日~6月20日, 6月24日~6月27日)

【1. 医療支援】

支域名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	福井大学	<ul style="list-style-type: none"> ○循環器、呼吸器検診等の救助活動のため医師を宮城県に派遣（3/23～3/25） ○緊急医療チーム(DMAT)を宮城県に派遣(3月11日～13日) ○附属病院の被ばく医療の専門家を福島県に派遣 （3月12日）（3月13日～17日）（4月24日～27日）（4月27日～5月1日）（5月4日～8日）（5月22日～25日）（6月16日～19日）（6月24日～28日）（7月11日～13日）（7月12日～14日）（7月16日～19日）（7月25日～28日）（7月27日～29日）（7月28日～30日）（8月12日～15日）（8月14日～16日）（8月15日～18日）（8月18日～21日）（9月10日～12日）（10月6日～8日）（10月17日～19日）（10月21日～23日）（10月30日～11月2日）（11月4日～6日）（11月22日～24日）（12月1日～3日）（12月5日～6日）（12月20日～22日）（12月23日～25日）（1月4日～6日）（1月15日～17日）（1月27日～29日）（2月4日～6日） ○附属病院近畿ブロック医療支援チーム（4大学）を宮城県に派遣 （6月7日～12日）（6月24日～27日）（7月9日～14日） ○日本産科婦人科学会の要請により、附属病院の産科医師を宮城県に派遣 （8月19日～27日） ○岩手医科大学附属病院災害対策本部合同巡回チームへの医師派遣（5月27日～29日） ○放射線測定チームを福島県に派遣（附属病院の医師、放射線技師、事務 3月21日～24日） ○附属病院の救護班（医師、看護師、薬剤師、事務）を宮城県に派遣 （3月18日～21日）（3月26日～29日）（4月7日～10日）（4月19日～22日）（4月29日～5月2日）（5月9日～12日） ○附属病院の心のケアチーム（医師、看護師）を派遣 （3月24日～28日：宮城県）（4月27日～5月1日：福島県）（5月25日～29日：福島県） ○看護学科教員を救援活動に派遣 （3月12日～17日：福島県、宮城県）（3月22日～30日：宮城県等）（4月8日～10日：岩手県）（4月29日～5月4日：岩手県）（5月18日～20日：岩手県）（6月3日～5日：岩手県）（6月24日～27日：福島県、岩手県）（8月25日～28日：岩手県）（8月29日～30日：岩手県）（11月2日：福島県）（12月16日～18日：岩手県） ○スクリーニング活動のため教員、技術職員を福島県に派遣 （4月28日～5月4日）（4月29日～5月4日）（5月3日～8日）（5月21日～23日）（5月24日～27日）（6月3日～5日）（6月5日～10日）（6月10日～13日）（6月20日～23日）（7月23日～27日）（7月29日～8月1日）（8月5日～9日）（8月25日～27日） ○警視庁、岩手県警からの依頼により、検案医師を宮城県に派遣（3月17日～25日） ○医療材料（産婦人科手術キット等）を東北大学に提供(3月18日) ○医薬品（透析用医薬品等）を被災地からの患者を受け入れている新潟大学に提供（3月22日） ○附属病院中部ブロック医療支援医師長期派遣 （11月11日～25日：岩手県）（2月3日～17日：茨城県） ○東日本大震災エコノミー症候群（被災者血栓症）予防検診支援会の要請により、附属病院医師、検査技師を岩手県に派遣（9月2日～4日） ○公益社団法人日本医療社会福祉協会の要請により、附属病院メディカルソーシャルワーカーを宮城県に派遣（2月5日～10日） ○盛岡市立病院長の要請により、エコー検査専門医師を派遣（9月2日～4日）
東海・北陸	岐阜大学	<ul style="list-style-type: none"> ○災害派遣医療チーム(DMAT)を派遣（3月12日～14日 10人・日） ○日本小児アレルギー学会がアレルギー対策食を被災地に配給支援 ○筑波大学附属病院へ医療物資を搬送 ○心のケアチームとして、医師、看護師、精神健康福祉士、臨床心理士を派遣（3月19日～5月28日の間、9チーム 172人・日） ○災害ナースを派遣（3月25日～29日 10人・日）、 ○放射線サーベイヤーとして、放射線技師を派遣（3月26日～31日 6人・日）、 ○放射線スクリーニング要員として、放射線技師を派遣（5月21日～23日 3人・日）、 ○スクリーニング支援（3月：教員1名、5月：教員2名技術職員1名、6月技術職員1名、7月教員2名技術職員2名） ○国立大学附属病院長会議常任委員会東海北陸ブロック医療チームとして、医師、看護師、薬剤師、事務職員を派遣（5月10日～7月16日の間、5チーム 149人・日） ○全国医学部長病院長会議被災地医療支援委員会中部地区附属病院被災地医療支援として、医師を釜石病院へ派遣（10月14日～28日15人・日、2月4日～17日15人・日） ○被災地（岩手県）における地域医療研修（被災地派遣プログラム運用モデル事業）として、医師を磐井病院へ派遣（11月28日～12月22日25人・日）
東海・北陸	浜松医科大学	<ul style="list-style-type: none"> ○福島県住民の放射線被ばく線量の測定に放射線技師等5名うい派遣（3月16日～20日） ○宮城県、岩手県の被災地に医療支援のため医師、看護師等23名を派遣（3月18日～4月27日） ○被災地への医薬品提供（3月18日～30日） ○宮城県の被災地に医療支援のため医師、看護師等12名を派遣（5月23日～6月29日） ○福島県の病院支援のため、医師5名を派遣（6月3日～7月22日） ○岩手県の病院支援のため、医師1名を派遣（1月20日～2月3日）

【1. 医療支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	名古屋大学	<p>放射線測定チーム（福島県） 第1陣（2名：放射線技師1名、事務1名）の派遣（3月16日～20日） 第2陣（3名：医師1名、放射線技師1名、助手1名）の派遣（5月24日～28日）</p> <p>医療支援チーム （石巻地区：本院単独での派遣（石巻赤十字病院）） 第1陣（8名：医師4名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名）の派遣（3月18日～23日） 第2陣（8名：医師4名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名）の派遣（3月25日～30日） 第3陣（7名：医師3名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名）の派遣（3月31日～4月5日） （志津川地区：大病院及び千葉大病院との連携による派遣） 第4陣（6名：医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名）の派遣（4月5日～4月10日） 第5陣（6名：医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名）の派遣（4月15日～4月20日） 第6陣（6名：医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名）の派遣（4月26日～5月1日） （石巻地区：中部地区国立4大学病院及び藤田保健衛生大学病院の連携による派遣） 第7陣（7名：医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名）の派遣（5月6日～5月11日） 第8陣（6名：医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名）の派遣（5月17日～5月21日） 第9陣（6名：医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名）の派遣（5月27日～6月1日） 第10陣（6名：医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名）の派遣（6月7日～6月11日） 第11陣（6名：医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名）の派遣（6月17日～6月22日） 第12陣（6名：医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名）の派遣（6月28日～7月2日） 第13陣（5名：医師2名、看護師2名、事務1名）の派遣（7月8日～7月13日） 第14陣（4名：事務4名）の派遣（7月19日～7月21日） （東松島地区：こころのケア医療支援チームの派遣（東大病院、千葉大病院との連携）） 第15陣（3名：医師2名、事務1名）の派遣（5月18日～5月21日） 第16陣（1名：医師1名）の派遣（5月25日～5月28日） 第17陣（1名：医師1名）の派遣（6月8日～6月11日） 第18陣（1名：医師1名）の派遣（6月15日～6月18日） 第19陣（1名：医師1名）の派遣（6月29日～7月1日） 第20陣（1名：医師1名）の派遣（7月20日～7月23日） 第21陣（1名：医師1名）の派遣（8月3日～8月5日） 第22陣（1名：医師1名）の派遣（8月3日～8月6日） 第23陣（1名：医師1名）の派遣（10月31日～11月1日） 第24陣（1名：医師1名）の派遣（11月13日～11月14日）南相馬市 第25陣（1名：医師1名）の派遣（12月25日～12月26日）いわき市 （石巻地区：産科婦人科医療支援チームの派遣） 第26陣（2名：医師2名）の派遣（6月11日～6月18日） （岩手県釜石地区：中部地区国公立大学11病院による長期医療支援） 第27陣（1名：医師1名）の派遣（9月2日～9月16日） 第28陣（1名：医師1名）の派遣（12月9日～12月23日） （北茨城市地区：中部地区国公立大学11病院による長期医療支援） 第29陣（1名：医師1名）の派遣（1月9日～1月20日） （岩手県釜石地区：東海北陸厚生局による被災地研修プログラム運用モデル事業） 第30陣（1名：医師1名）の派遣（11月7日～12月4日） 第31陣（1名：医師1名）の派遣（12月5日～1月3日） 第32陣（1名：医師1名）の派遣（1月4日～1月29日） 第33陣（1名：医師1名）の派遣（1月30日～2月26日）</p>
東海・北陸	名古屋工業大学	○相馬市中心のケア支援（粥川教授）（4月29日～5月1日） 現地視察
東海・北陸	三重大学	<p>○緊急医療チーム（DMAT）を派遣（3月11日～13日） ○三重県の医療救護班として三重大病院医療救護班を派遣（3月17日～6月1日） http://www.hosp.mie-u.ac.jp/oshirase/20110325.html ○放射線被曝のスクリーニングを行うための放射線技師・放射線取扱主任者を派遣（6月30日～） ○国立大学間の連携による被災地域への「リレー方式」による医療支援に医師、看護師、薬剤師、事務職員の三重大病院チームを派遣（5月13日～7月20日）</p>
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	家庭用薬品を福島大学へ送付（3月22日）。【緊急物資支援の項目に再掲】

【1. 医療支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	滋賀大学	○東日本大震災で被災し、滋賀県及び近隣府県に避難されている方々に、保健管理センターの精神科医師が無料の相談を実施 http://www.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=35:2
近畿	滋賀医科大学	①災害派遣医療チーム（DMAT）を花巻空港に派遣（3.12～3.15） ②医療救護「心のケアチーム」を福島県精神保健福祉センターに派遣（4.6～4.10） ③医療支援「保健師チーム」を郡山市 他に派遣（4.6～4.11） ④医療救護チーム（内科）を会津保健福祉事務所に派遣（4.10～4.14） ⑤医療支援「保健師チーム」を郡山市 他に派遣（4.14～4.19） ⑥医療救護チーム（内科）を会津保健福祉事務所に派遣（4.17～4.21） ⑦医療救護チーム（内科）を会津保健福祉事務所に派遣（4.20～4.24） ⑧医療支援「健康支援チーム」を福島県田村郡に派遣（4.25～5.4） ⑨医療救護チーム（整形外科）を会津保健福祉事務所に派遣（5.9～5.13） ⑩医療支援「健康支援チーム」を宮城県気仙沼市へ派遣（5.15～5.18） ⑪医療救護「心のケアチーム」を福島県精神保健福祉センターに派遣（5.18～5.22） ⑫医療救護チーム（内科・小児科）を宮城県石巻市に派遣（6.3～6.8） ⑬サーバランスチーム（放射線量測定）を福島県福島市に派遣（6.5～6.9） ⑭医療救護チーム（内科）を宮城県石巻市に派遣（6.19～6.24） ⑮医療救護チーム（内科）を宮城県石巻市に派遣（7.5～7.10） ⑯サーバランスチーム（放射線量測定）を福島県福島市に派遣（7.13～7.17） ⑰サーバランスチーム（放射線量測定）を福島県福島市に派遣（8.7～8.11） ⑱医療支援医師2名（神経内科、消化器外科）を岩手県立宮古病院に派遣（11.27～12.3） ⑲医療支援医師2名（消化器内科、泌尿器科）を岩手県立宮古病院に派遣（12.4～12.10）
近畿	京都大学	・緊急医療チーム（DMAT）5名を派遣（3月11日～15日） URL:http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news7/2010/110315_1.htm ・京都市消防局からの依頼により、被災地への災害救助隊派遣に伴う消防隊員40名に対する派遣前及び派遣後の健康診断の実施 ・被災地に遺体の検死を行うために医師4名を派遣 ・被災地に被災者の診療を行うために医師等68名を派遣 ・被災地からの患者の受入れ URL:http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/education/info20110317.html
近畿	大阪大学	【医学部附属病院】 ○緊急医療チーム（DMAT）を派遣（3月12日～15日） ○ドクターヘリチームを福島県立医科大学に派遣（3月12日～15日） ○放射線測定のため医師、看護師、放射線技師を派遣（3月15日～16日） ○東北大学の派遣要請に基づき医療支援チームを編成したが、現地支援ニーズの状況変化により派遣を取り止めた。 ○今後の医師等の派遣要請に備え、被災地の現状把握を目的に福島県立医科大学へ事前調査（4月13日～15日）チームの派遣を計画したが、余震の（震度6）の影響から派遣を延期した。 ○日本医師会から大阪府医師会を通じ活動しているJ-MATに薬剤師を派遣（4月20日～24日） ○近畿ブロック4大学（阪大、京大、滋賀医科大、福井大）リレー方式による医療支援チームの派遣（阪大：5/26～5/31、6/11～6/16、6/27～7/2、7/13～7/18） ○岩手県立宮古病院に内科系医師2名を派遣（10/16～10/29） ○文部科学省からの協力依頼に基づき、東京電力福島第一原子力発電所に開設の救急医務室へ看護師1名を派遣（11/18～11/19、12/24～12/25） 【歯学研究科・歯学部附属病院】 ○東北大学歯学部からの要請に基づき、歯ブラシ、紙コップ、ゴム手袋等を支援物資として提供（3月25日、3月29日） ○日本歯科医師会からの要請に基づき、ご遺体の身元確認のための歯科医師の派遣について、派遣要員として歯科医師3名を登録（平成23年4月末現在、派遣要請なし） ○日本歯科医師会からの要請に基づき、被災地における歯科診療のための歯科医療従事者の派遣について、派遣要員として歯科医師6名を登録（平成23年4月末現在、派遣要請なし） ○大阪府健康医療部からの要請に基づき、被災地への医療従事者の派遣協力について、看護師1名を派遣予定（5月26日～5月31日） 【連合小児発達学研究所】 ○「子どもの心のケア」支援チーム（厚生労働省からの要請）参加者の募集（学内関係部局へ）
近畿	大阪教育大学	○文部科学省「東日本大震災 子どもへの学び支援ポータルサイト」において、大学教員9人（医師4人 臨床心理士5人）の派遣を提案している。 URL:http://manabishien.mext.go.jp/

【1. 医療支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	兵庫教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ・教育大学の特色ある支援活動の在り方として、本学富永良喜教授を中心に臨床心理士チームを定期的に派遣し、現地の専門家との連携により被災者の心のケアにあたった。臨床心理士の資格を有している本学教員及び修士が、岩手県教育委員会の「スクールカウンセラーの緊急派遣事業」に参画し、5/9～6/19の6週間に3チームを編成（各チームとも1週間単位で交代して現地に派遣）し、岩手県大船渡市の学校等でセルフケアの伝達・教職員のサポート等支援活動を行った。 ・なお、派遣事業終了後も、派遣チームと派遣先学校及び大船渡市教育委員会との間にメールによるネットワークを構築し、現地の教員からの相談に応じることができる体制を整備している。
近畿	神戸大学	<ul style="list-style-type: none"> ○東北大学病院の要請を受け、看護師2名、事務職1名を派遣（3/14～3/16） ○救急医療チーム（DMAT）を2チーム派遣（3/12） ○兵庫県こころのケアチームとして、本院の医師3名、看護師2名、臨床心理士1名が参画（3/18～3/25、3/30～4/6、5/1～5/8、5/29～6/5） ○小児科学会を通じて、東北大学からの医師の派遣支援依頼に応じ、医師4名を気仙沼市立病院に派遣（3/29～4/5、4/5～4/12、4/12～4/19、4/19～4/26） ○兵庫県薬剤師会からの要請に応じ、薬剤師によるボランティア活動に石巻市に薬剤師1名を派遣（4/7～4/10） ○兵庫県からの要請に応じ、宮城県へ医師・看護師・薬剤師等で構成された1チーム5名程度の救護班を7チーム派遣（4/8～12、4/12～16、4/16～20、5/14～5/18、5/18～5/22、5/22～5/26、6/10～6/14） ○産科婦人科学会からの派遣支援依頼に応じ、石巻地区へ医師2名を派遣（4/9～4/15） ○岩手県からの要請に応じ、岩手県立宮古病院に向けて、医師4名を派遣（11/13～11/19、11/20～11/26） ○医薬品を東北大学病院に提供（3/14）。 http://www.kobe-u.ac.jp/info/topics/t2011_03_earthquake_med.html ○原子力発電所周辺住民への被ばくスクリーニングの実施に対し、職員を派遣
近畿	奈良教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ○奈良県心のケアチームの一員として教員1名が参加。現地スタッフ（気仙沼保健所）と相談のもと、避難所、仮設住宅の訪問、診察（投薬含む）、カウンセリング、幼稚園巡回相談、心のケア講演活動（計3回）を行った（9月26日～9月29日）。 ○奈良県心のケアチームの一員として教員1名が参加。奈良県職員、精神科ソーシャルワーカー、看護師と共に活動を行った。現地スタッフと相談のうえ、避難所・仮設住宅を毎日数箇所訪問し、診察（投薬を含む）、カウンセリング、中学校、小学校の巡回相談を行った（7月11日～15日）。
近畿	奈良女子大学	<ul style="list-style-type: none"> ○文部科学省E O C医療班からの要請により、住民の一時帰宅に伴うスクリーニングの実施に係る放射線測定の実験家（教員6名）を福島県に派遣した。（8月末まで派遣回数12回、作業日数は延べ19日）、（8月末まで実施）
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	<ul style="list-style-type: none"> ○放射線汚染検査機材（サーベイメータ）を貸与（3月24日～）
中国・四国	鳥取大学	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急医療チーム(DMAT)を、3隊派遣(3月13日～15日)、(3月16日～20日) ○医療救護班として、医師24名、看護師18名、薬剤師9名、事務職9名を、派遣(3月17日～5月7日) ○災害医療アドバイザーとして、原子力災害現地対策本部（福島市）に医師1名を派遣（4月27日～4月30日） ○Jビレッジでの医療チームの総括及び現地対策本部での指導・助言のため、医師1名を派遣（5月24日～5月28日） ○緊急被ばくスクリーニング実施のため職員を派遣・計5回(6月13日～8月11日) ○みやぎ心のケアセンターと連携した被災地のメンタルヘルスケア支援（2月末までに精神科医師4名を派遣、平成23年度国立大学協会 震災復興・日本再生支援事業） URL http://www.tottori-u.ac.jp/dd.aspx?itemid=6699#itemid6699

【1. 医療支援】

支部分名	大学名	活 動 実 績
中国・ 四国	島根大学	<p>○厚生労働省の要請を受け、本学DMAT（災害派遣医療チーム）を派遣（3月12日～14日）</p> <p>○宮城県警の要請を受け、検案及び身元確認のため法医学講座教授を派遣（3月23日～31日）</p> <p>○福島県警の要請を受け、検案及び身元確認のため法医学講座教授を派遣（4月20日～27日）</p> <p>○宮城県警の要請を受け、検案及び身元確認のため法医学講座教授を派遣（5月31日～6月8日）</p> <p>○厚生労働省の要請を受け、福島県に放射線身体汚染検査等のため救急医学講座教授を派遣（4月9日～14日）（5月24日～30日）（7月2日～4日）（8月21日～24日）（11月20日～23日）（1月15日～18日）（2月12日～15日）</p> <p>○厚生労働省の要請を受け、福島県に放射線身体汚染検査等のため救急医学講座准教授を派遣（7月7日～9日）（12月11日～14日）（1月29日～2月1日）（2月26日～29日）</p> <p>○島根県の要請を受け、本学DMATを含む医療救護班を派遣（4月14日～17日、20日～23日、26日～29日）</p> <p>○日本栄養士会の要請を受け、宮城県に栄養相談、栄養支援活動のため臨床栄養部栄養士1名を派遣（5月16日～18日）</p> <p>○文部科学省の要請を受け、福島県に放射能警戒区域内への住民一時帰宅に伴う緊急被ばくスクリーニング実施のため放射線技師等を派遣（5月25日～28日、5月28日～31日、6月7日～9日、6月18日～19日、6月21日～22日、6月28日～29日、7月6日～8日）</p> <p>○厚生労働省の要請を受け、福島第一原子力発電所内の現場作業者等の放射線サーベイ実施のため医学部放射線医学講座教務職員を派遣（9月5日）</p> <p>○厚生労働省の要請を受け、福島県に放射線身体汚染検査等のため救急部助教を派遣（12月25日～28日）</p> <p>○福島県の要請により、医療支援のため医学部附属病院神経内科助教を福島県いわき市立総合磐城共立病院に派遣（1月15日～28日）</p>
中国・ 四国	岡山大学	<p>岩手県の要請により、医師、歯科医師等を、順次第1班から第12班までに分け、総計73名を派遣し、同県遠野市で医療支援活動を実施した。（全派遣期間：平成23年3月から4月21日）</p> <p>その後も、文部科学省や地方自治体、各種学会等の要請に応じ、医師、コ・メディカル等（延べ23名）を被災地に派遣し、診療活動、死体検案、心のケア、環境放射線調査、放射線スクリーニング等の支援活動を行ったほか、日本産婦人科学会の要請に基づき、分娩・帝王切開のための医療材料等を提供した。</p>
中国・ 四国	広島大学	<p>○緊急医療チーム(DMAT)を派遣(3月11日～15日)</p> <p>○緊急被ばく医療チーム(医師、放射線技師、看護師等)を派遣(3月12日～現在も派遣中)</p> <p>①福島県オフサイトセンター(緊急事態応急対策拠点施設)、Jビレッジ(救急搬送連携拠点：第2トリアージポイント)や初期スクリーニング拠点において患者のヘリ搬送、診断、除染を実施(3月28日～4月28日)</p> <p>②患者搬送ルートの概要決定(放射線医学総合研究所と協議)</p> <p>③汚染をスクリーニングする体制整備、スクリーニング法の指導並びに多数の市民及び小児甲状腺のスクリーニング実施 → 住民の不安軽減や「安心・安全」を提供</p> <p>④福島県立医科大学の医師、看護師等に対する緊急被ばく医療セミナー実施 → 医療従事者が安心して被ばく患者を受け入れられる環境を整備</p> <p>⑤現地にワゴン車2台投入による緊急被ばく医療活動の機動力確保(3月12日及び15日出発～10月7日)</p> <p>⑥緊急被ばく医療活動を支援する備品や食品、水等(車1台分)を寄付(3月12日出発)</p> <p>⑦派遣チームの後方支援員として、現地で契約専門職員1人を採用(4月18日～9月末日)</p> <p>⑧福島県立医大で実施したホールボディカウンターによる健診及び検診のサポート ・内部被ばく特別健診、274人(5月16日～8月31日) ・慢性内部被ばく検診、約150人(12月5日～16日)</p> <p>○緊急被ばく医療チームは5月20日から一時帰宅に伴うスクリーニングにも対応。また、7月から福島第1原発内へ設置の「救急医務室」(本学は、事務局として、放射線医学総合研究所と連携、全国の国立大学などの協力を得て、医師や看護師、放射線管理の専門家の派遣計画の策定などを担う)への救急医派遣も実施(2月末までの延べ派遣人数、計1,215人)</p> <p>http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html</p> <p>○HICARE放射線量測定チーム(広島県)スクリーニング検査へ技術員を派遣(3月16日～22日)</p> <p>○広島医療チームとして6人(医師、看護師等)を派遣(4月24日～30日)</p> <p>○全国医学部長病院長会議被災地医療支援委員会の依頼により、岩手県陸前高田市(県立高田病院)へ整形外科医(クリニカル・スタッフ(大学院生))を出向派遣(10月31日～11月11日)</p> <p>○全国医学部長病院長会議被災地医療支援委員会の依頼により、福島県いわき市立病院へ神経科医(医科診療医)を出向派遣予定(3月19日～30日)</p>

【1. 医療支援】

支部分名	大学名	活 動 実 績
中国・四国	山口大学	<p>○DMATチーム(5人)を派遣(3月12日~15日, いわて花巻空港)</p> <p>○ドクターヘリ(2人)によるDMAT派遣(3月12日~15日, 福島県立医科大学を拠点に、主に宮城県において活動)</p> <p>○福島県警察本部の要請により、災害時死体検案のため法医学教員を2名派遣(3月14日~3月22日)</p> <p>○山口県薬剤師会(日本薬剤師協会)の要請により、薬剤師1名を派遣(3月22日~3月27日, 気仙沼市立病院(宮城県))</p> <p>○山口県放射線技師会の要請により、避難所における放射線測定のため放射線技師1名を派遣(4月6日~4月10日, 福島県内)</p> <p>○地域医療研修の一環として、研修医1名を研修先病院のチームに参加(4月18日~4月22日, 宮城県塩竈市・松島市内避難所)</p> <p>○岩手県、岩手医科大学及び精神医学講座担当者会議の要請により、山口県立こころの医療センターと連携し、本院から延べ精神科医10名、看護師6名、事務職員2名を派遣(4月29日~7月3日, 岩手県釜石市内の避難所等)</p> <p>○日本歯科医師会・日本歯科衛生士会からの要請により、避難所での口腔ケアのため歯科衛生士1名を派遣(5月15日~5月22日, 岩手県大槌町・山田町)</p> <p>○宮城県警・日本歯科医師会からの要請により、ご遺体身元確認作業のため歯科医師2名を派遣(5月23日~5月29日, 宮城県)</p> <p>○病院戦略会議を災害対策本部とし、重症患者の受け入れや医療支援活動等を計画し行っている。</p> <p>○東電福島第一原発医療体制ネットワーク事務局(広島大学)からの要請により、東京電力福島第一原子力発電所5/6号救急医療室に看護師3名を派遣(12月18日・19日, 1月23日・24日, 1月31日・2月1日 各1名), 3月23日・24日に1名派遣予定</p> <p>○国立大学附属病院長会議の医師長期派遣基本方針により、医師2名を派遣(岩手県立高田病院: 1月30日~2月7日, いわき市立総合磐城共立病院: 2月6日~2月17日 各1名) 3月5日~3月16日に1名派遣予定</p> <p>○岩手県医療局医師支援推進室からの要請により、医師1名を派遣(岩手県立大船渡病院: 2月5日~2月11日)</p>
中国・四国	徳島大学	<p>○東北大学病院の要請により医療チーム8人を派遣(3月17日~21日)</p> <p>○徳島県の医療救護班に医療チーム1班につき3~6人の医師、薬剤師、看護師、事務職員等を派遣(3月25日~29日, 3月28日~4月1日, 3月31日~4月4日, 4月3日~7日, 4月6日~10日, 4月9日~14日, 4月12日~16日, 4月15日~19日, 4月18日~22日, 4月21日~25日, 4月24日~28日, 4月27日~5月1日, 4月30日~5月4日, 5月3日~7日, 5月6日~10日, 5月9日~13日, 5月12日~16日, 5月21日~25日, 5月30日~6月3日)(徳島県の医療救護班の派遣は、6月3日をもって一旦終了)</p> <p>○徳島県の心のケアチームに医師、心理士の5班11人を派遣(3月25日~29日, 3月31日~4月4日, 4月9日~13日, 4月15日~19日, 4月24日~28日)(徳島県の心のケアチームの派遣は4月一杯で終了)</p> <p>○福島県における被災者サーベイランスに歯科医師等2人を派遣(4月5日~14日, 4月26日~5月1日)</p> <p>○福島県の放射線調査に講師を派遣(3月29日~31日, 4月6日~14日, 4月26日~5月1日) ○避難住民一時帰宅支援スクリーニング活動に講師を派遣(文部科学省委請: 5月24日~27日, 6月18日, 7月30日~8月1日, 8月11日~12日)</p> <p>○全国医学部長・病院長会議被災地医療支援委員会の活動として、岩手県立高田病院に整形外科の医師を1名派遣(11月28日~12月9日)、いわき市立総合磐城共立病院に神経内科の医師を1名派遣(1月30日~2月4日)</p>
中国・四国	香川大学	<p>○災害派遣医療チーム(DMAT)を福島県に派遣(3月11日~3月13日)</p> <p>○救護班を宮城県に派遣(3月21日~3月24日, 3月25日~3月28日, 4月8日~4月11日, 4月28日~5月1日)</p> <p>○放射線技師をサーベヤーとして福島県に派遣(3月15日~3月21日)</p> <p>○放射線スクリーニング検査支援として、放射線同位元素実験部門教務職員を福島県に派遣(5月24~5月28, 6月5日~6月10日, 7月21~7月26日)</p> <p>○医師を検死支援として岩手県に派遣(3月20日~3月27日)</p> <p>○歯・顎・口腔外科医師2名が、岩手県において、歯科検察活動支援を実施(5月7日~5月11日)</p> <p>○非常勤教員を遠隔医療ネットワークインフラ構築のための調査員として岩手県に派遣(4月20日~4月24日)</p> <p>○全国医学部長病院長会議において、被災地の要請に基づき、被災地医療支援を実施することが決定し、「中国・四国地区」の大学病院は、岩手県からの要請により、まず、岩手県立高田病院(仮設診療所)に整形外科の医師を10月から3月の半年間、各大学病院で期間を割り振り、医師派遣を実施することとし、本院からは、整形外科医員1名を派遣(11月14日~11月18日)</p> <p>○一般社団法人国立大学協会における「震災復興・日本再生支援事業」に、本学の「遠隔医療技術を用いた震災地域の医療再生プロジェクト」が採択された。 URL:http://www.med.kagawa-u.ac.jp/articles/000/000/320/</p>

【1. 医療支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・四国	愛媛大学	<p>○緊急医療チーム(DMAT)を派遣した。(3月11日～14日)</p> <p>○放射線医学総合研究所において支援活動を実施した。(3月15日～3月17日)</p> <p>○被災地の病院、診療所、医療救護所、避難所等において医療救護支援を実施した。(4月4日～4月10日、4月9日～4月17日、4月23日～5月1日、4月30日～5月8日)</p> <p>○愛媛県の医療救護班として支援を実施した。(6月13日～6月18日、6月17日～22日、6月25日～30日)</p> <p>○福島原発警戒区域一時帰宅者に対する被ばくスクリーニングに係る応援派遣をした。(4回)</p> <p>○医学系研究科 谷川 武教授が、福島第一・第二原子力発電所作業員に対する健康管理支援を実施した。(4月16日～19日、5月6日～9日、6月28日～7月1日、7月22日～25日、9月19日～21日、11月28日～30日、12月19日～21日、2012年2月19日～21日)</p> <p>○全国医学部長病院長会議被災地支援の被災地医療支援医師として岩手県立高田病院に医師を派遣した。(1月15日～28日、2月7日～23日)</p>
中国・四国	高知大学	<p>○緊急医療チーム(DMAT)を派遣(3月11日～3月14日)</p> <p>○医療支援チーム(医師・看護師・コメディカル・事務3～6名)を10班(総勢44名)を派遣(3月19日～4月28日)：東北大学病院の依頼に基づき、石巻赤十字病院の統轄下で支援活動を行った。</p> <p>○医薬品を石巻赤十字病院に(上記医療支援チーム10班を派遣時)提供(3月19日～4月28日)</p> <p>URL http://www.kochi-ms.ac.jp/~hsptl/news1/saigaihaken.htm</p> <p>○自治医科大学医学部同窓会の派遣要請を受け、家庭医療学講座の医師が支援を行う。(4月2日～4月10日)</p> <p>○心のケア、東北大学から診療支援チーム員の募集を受け、神経精神科の医師及び看護師が支援を行う。(3月27日～3月31日、4月8日～4月13日)</p> <p>○心のケア、岩手県からの要請を受け高知県地域福祉部が高知県内精神科病院等と連携し、岩手県宮古市・山田町への「心のケアチーム」派遣し支援を行う。(5月19日～5月23日、6月6日～6月10日、6月9日～6月15日、6月19日～6月26日、6月25日～7月1日、7月18日～7月21日、7月27日～8月3日)</p> <p>http://www.kochi-ms.ac.jp/~hsptl/news1/saigaihaken-2.htm</p> <p>○現地の県警察本部から日本法医学会理事長宛の派遣要請を受け、法医学の医師が死体検案支援を行う。(3月24日～3月31日、4月8日～4月15日、5月25日～6月1日)</p> <p>○石巻市のヤンマー診療所、渡波小学校などの避難所での診療支援を行う。(5月2日～5月5日)</p> <p>○福島県にスクリーニングの実施に係る診療放射線技師の派遣を行う。(6月5日～6月10日、6月14日～6月17日、6月30日～7月3日、7月5日～7月10日、7月13日～7月18日、8月7日～8月10日)</p> <p>○東京電力福島第一原子力発電所の作業員に対する医療及び健康管理に従事する看護師の派遣を行う。(11月9日～11月12日、11月11日～11月14日、12月1日～12月4日、1月4日～1月7日、1月20日～1月23日、1月26日～1月29日、1月28日～1月31日)</p>

【1. 医療支援】

支部分名	大学名	活動実績
九州	九州大学	<p>○災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣 3月12～14日（宮城県霞目駐屯地）、3月12～13日（航空自衛隊春日基地板付地区（福岡））</p> <p>○医師の派遣 ・救護活動（日本医師会災害医療チーム）のため医師を福島県いわき市に派遣（3月13日～15日）。 ・警察庁からの要請を受けて、助教1名が福島県福島市で（3/16～21）、宮城県の各所で（3/22～24）、教授1名が宮城県の各所で（3/20～3/26）、福島県相馬市で（4/15～4/20）、それぞれ活動。 ・4月4日から5日間、福島県立医科大学及び厚生労働省より、福島県内で避難所生活中の精神疾患患者に対する医療支援の依頼があり、精神科神経科医師3名を派遣。 ・福島県立医科大学の支援チームの指揮下での、福島いわき市の避難所等における心のケアに係る医療支援のため医師2名、看護師1名を派遣（4月18日～22日の5日間）。 2回目：4月18日～22日の5日間、福島県いわき市へ医師2名、看護師1名を派遣。 3回目：5月16日～20日の5日間、福島県いわき市へ医師1名、看護師1名を派遣。 4回目：7月4日～8日の5日間、福島県いわき市へ医師1名、看護師1名を派遣。 5回目：8月1日～5日の5日間、福島県いわき市へ医師1名、看護師1名を派遣。 6回目：9月5日～9日の5日間、福島県いわき市へ医師1名、看護師1名を派遣。 7回目：10月3日～7日の5日間、福島県いわき市へ医師1名、看護師1名を派遣。 8回目：11月7日～11日の5日間、福島県いわき市へ医師1名、臨床心理士1名を派遣。 9回目：12月5日～9日の5日間、福島県いわき市へ医師2名、看護師1名を派遣。 ・4月30日～5月7日の8日間、日本産科婦人科学会からの要請に従い、産婦人科の講師1名、助教1名が宮城県石巻市赤病院産婦人科において医療支援活動を実施。 ・4月13日～16日までの4日間、および6月1日～2日の2日間、日本医師会からの要請に従い、九州大学病院救命救急センターの医師（特別教員）1名が、福島県相馬郡新地町の新地町役場仮設診療所及び町内避難所において医療支援活動を実施。・5月21日～24日までの4日間、日本医師会からの要請に従い、九州大学病院救命救急センターのセンター長、同センター医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務職員1名の計7名が、福島県相馬郡新地町の新地町役場仮設診療所及び町内避難所において医療支援活動を実施。 ・6月6日～8日、6月20日～22日、7月11日～13日、8月22日～24日の各3日間、日本心身医学会からの要請に従い、九州大学病院心療内科医師が各日程1名ずつ、宮城県気仙沼市内において震災後ストレス外来診療を実施。 ・6月29日～7月1日の3日間、福島県立医科大学及び日本医学放射線学会からの要請に従い、同大学の「緊急被ばく医療班」への支援のため、教授1名を派遣。 ・7月3日～9日の7日間、岩手医科大学、岩手県医師会より、被災者支援及び妊産婦ケアに関する研修指導について依頼があり、九州大学病院子どものこころの診療部特任教授を派遣。 ・日本医師会の要請に従い、福島県福島市の子羊保育園において米国の放射線防護の専門家による除染活動の立ち会いのために、九州大学病院救命救急センターの医師1名を8月3日に派遣 ・日本医師会の要請に従い、同会の「福島県原子力災害からの復興に関するプロジェクト委員会」の調査および支援活動として、8月10日に東京、9月22日および12月23日に福島県福島市へ九州大学病院救命救急センターの医師（特別教員）1名を派遣。 ・9月4日～17日の2週間、全国医学部長病院長会議被災地医療支援委員会の医療支援活動として、消化管内科の医師2名を1週間交替で、福島県南相馬市立総合病院消化器内科へ派遣。 ・10月16日～29日の2週間、全国医学部長病院長会議被災地医療支援委員会の医療支援活動として、神経内科の医師1名を福島県いわき市立総合磐城共立病院へ派遣。・10月29日～30日の2日間、岩手県医師会より、「こどものこころのケア」に係る講習指導及び診療の実技に係る指導について依頼があり、子どものこころの診療部特任教授を派遣。 ・12月16日～18日の2日間、岩手県医師会及び岩手医科大学から、「こどものこころのケア」に係る医療支援について依頼があり、子どものこころの診療部特任教授を派遣。 ・東京電力の要請に従い、日本救急医学会を通じて九州大学病院救命救急センターの医師1名を福島第1原子力発電所56号機救急室の支援活動に以下の日程で派遣。 11月30日～12月1日、12月22日～23日、2月10日～11日 ・全国医学部長病院長会議被災地医療支援委員会から、茨城県への医師派遣要請があり、九州地区において平成24年1月から3月末の間、北茨城市立総合病院の内科を支援することとなり、3月11日～24日の2週間、肝臓・膵臓・胆道内科の医師1名を派遣予定。</p> <p>○歯科医師の派遣 ・宮城県歯科医師会からの要請により、歯科医療派遣チーム（歯科医師1名、歯科衛生士2名）を派遣。同県被災地において歯科医療活動を実施。（7月10日～18日）</p> <p>○メンタルヘルスケア ・健康科学センター及び学生生活・修学相談室が、本学関係者のうち被災された方などを対象としたメンタルヘルスケアを実施中。 ・人間環境学府附属総合臨床心理センターが、被災者に対するこころのケアのための「ほっとひろば 九大」を開設。</p>

【1. 医療支援】

支域名	大学名	活 動 実 績
九州	佐賀大学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 災害派遣医療チーム (DMAT) を派遣 (3月12日~14日) ○ 千葉県放射線医学総合研究所に医師を派遣 (3月17日~18日) ○ 医薬品・医療材料の提供と医療救護班 (第1班) を派遣 (宮城県) (3月20日~26日) ○ 医療救護班 (第2班) を派遣 (宮城県) (3月25日~31日) ○ 医師等 (心のケアチーム) を派遣 (宮城県) (4月4日~10日) ○ 岩手県大船渡病院に医師を派遣 (4月16日~24日) ○ 医師をJビレッジ (福島県双葉郡) に派遣 (4月18日~21日) ○ 福島県いわき市総合磐城共立病院に医師と看護師を派遣 (5月1日~7日) ○ 宮城県石巻市に医師を派遣 (避難所で医療活動) (5月22日~29日) ○ 医師をJビレッジ (福島県双葉郡) に派遣 (5月29日~6月1日) ○ 医師をJビレッジ (福島県双葉郡) に派遣 (6月4日~6月7日) ○ 医師をJビレッジ (福島県双葉郡) に派遣 (7月28日~7月31日) ○ リハビリテーション工学分野支援のため教員を宮城県名取市に派遣 (8月9日~8月12日) ○ 医師をJビレッジ (福島県双葉郡) に派遣 (8月12日~8月15日) ○ 福島県南相馬市立病院に医師を派遣 (10月2日~9日, 10月10日~15日) に各1名) ○ 医師をJビレッジ (福島県双葉郡) に派遣 (11月6日~11月9日)
九州	長崎大学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緊急医療チーム (DMAT) で5名派遣 (医師, 看護師, 理学療法士) (3月14日~16日) ○ 岩手県遠野市を拠点として釜石市, 大槌町での医療活動等に延べ18名 (医師, カウンセラー, 薬剤師, 看護師, 事務職員) を派遣 (3月15日~29日) ○ 南三陸町での医療活動に医師1名を派遣 (3月14日~21日) ○ 宮城県感染症対策室の支援としての医療活動に医師延べ4名を派遣 (3月28日~現在) ○ 被災者医療支援として調剤, 薬剤管理のための活動に教員1名を派遣 (4月2日~13日) ○ 福島県の放射線健康リスクアドバイザーとして2名の教員が活動 (4月1日~現在) ○ 福島県における緊急ひばく者医療活動に延べ75名程度 (医師, 看護師放射線技師, アイソトープ専門家, 教員) 派遣 (3月13日~現在) ○ 福島第1原発から20~30km圏内の在宅診療活動及び避難所医療支援活動に延べ35名を派遣 (医師, 歯科医師, 看護師, 薬剤師, 事務職) (4月3日~現在)
九州	熊本大学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食料品, 医薬品, 医療材料, 燃料等を東北大学病院へ輸送した。 (平成23年3月19日) ○ 災害医療支援チーム (第1次~第8次) を宮城県石巻赤十字病院へ派遣した。 (平成23年3月18日~4月13日) ○ http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp/etc/topics/topi_230322.html#tohoku_sab_link ○ 神経精神科医を熊本県の災害派遣保健医療チーム (第1次~第10次) の一員として宮城県南三陸町等へ派遣中した。 (平成23年3月21日~5月21日) ○ 神経精神科医を熊本県こころのケアチームの一員として宮城県登米市へ派遣した。 (平成23年9月6日~8日) ○ 日本産科婦人科学会の要請を受け, 産婦人科医を石巻赤十字病院へ派遣した。 (平成23年9月10日~17日) ○ 全国医学部長病院長会議が主体となって行う医療支援に内科医を派遣した。 (平成23年9月19日~10月1日, 平成24年2月5日~18日, 2月16日~3月3日) ○ 全日本民医連が派遣するこころのケアチームに教員 (1名) が精神看護専門看護師として参加し, 宮城県多賀城市の被災所4カ所において支援を行った。 (平成23年4月9日~15日) ○ 日本精神保健看護学会が国際基督教大学, 宮城学院女子大学と連携して実施する災害支援プロジェクトに本学教員 (精神看護専門看護師) が参画し, 復興支援にあたる看護師・保健師の抑うつ予防プログラムとして相談・心理的支援事業を実施している。 (平成23年9月~平成24年3月31日)
九州	大分大学	<ul style="list-style-type: none"> 3月12日に本学医学部医師らが所属する大分DMATが, 仙台入りし, 13日午後まで現地で医療活動を展開した。 (3月13日まで実施) ・ 岩手医科大学との連携による医療支援のため, 4月から6月にかけて延べ6名の医師を岩手県に派遣した。 (6月4日まで実施) ・ 日本薬剤師会からの要請により, 4月11日~16日に薬剤師1名を宮城県に派遣した。 ・ 放射線測定のため, 5月から延べ11名の医師・技師を福島県へ派遣した。 (7月27日まで実施) ・ 被災地の医療機関からの支援要請を受け, 平成24年1月から小児科医2名を派遣し, 消化器内科医1名を派遣中である。

【1. 医療支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	宮崎大学	<p>○日本赤十字社宮崎県支部から派遣要請（6月下旬まで実施） 医師、看護師、薬剤師、事務職の延べ31名を派遣（3月18日～6月10日）</p> <p>○日本看護協会（宮崎県看護協会）から派遣要請 看護師1名を派遣（3月27日～4月2日）</p> <p>○日本医師会から派遣要請 医師1名、技能補佐員2名を派遣（4月23日～28日）</p> <p>○文部科学省から放射線測定派遣要請 教員、放射線技師、技術専門職員、技術職員の延べ12名を派遣（5月24日～8月27日）</p> <p>○宮崎県から心のケアに係る派遣要請 医師、看護師、ソーシャルワーカーの延べ11名を派遣（5月1日～10月23日）</p> <p>○日本臨床心理士会から心のケア支援の派遣要請 教員の延べ11名を派遣（5月9日～11月30日）</p> <p>○日本産科婦人科学会から派遣要請 医師2名を派遣（8月31日～9月4日）</p> <p>○全国医学部長病院長会議（九州地区）被災地医療支援に係る派遣 医師1名を派遣（2月5日～2月11日）</p> <p>○緊急支援物資として、医療材料（医療用ガウン840枚、医療用手袋18,000組、包帯3巻、除菌用ウェットティッシュ1,010ケースなど）を提供（3月21日）</p>
九州	鹿児島大学	<p>○3月12日から本院 DMAT（災害派遣医療チーム）は出動準備を整え待機していたが、鹿児島県からの出動要請はだされなかったため翌週待機を解除した。</p> <p>○宮城県→文部科学省→鹿児島大学へ要請があり、3月25日 石巻赤十字病院へ向け附属病院医師等（内科系1名、外科系1名、精神科1名、看護師2名、事務2名）計7名の医療支援チームが出発、第3班から薬剤師1名が加わり計8名のチームを3日おきに12チーム（派遣者総数94名）派遣（3月25日～5月1日） URL:http://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2011/03/post-63.html</p> <p>○ 医歯学総合研究科法医学分野教員に対する検案 ・ 福島県において死体の検案活動1名（3月16日～3月25日） ・ 岩手県において死体の検案活動1名（4月19日～4月26日）</p> <p>○ 歯科医師派遣の要請 ・ 3月16日 日本歯科医学会会長の要請を受け被災者身元確認作業に附属病院から歯科医師7名を推薦し、待機した。（派遣要請は出されなかった。）</p> <p>○ 学会等からの要請による派遣 ・ 日本小児救急医学会より派遣要請があり、本学附属病院小児外科医員1名を陸前高田市へ医療支援として派遣（4月15日～4月19日） ・ 福島県→厚生労働省→鹿児島県の要請を受け、本院精神科医師計8名を「こころのケアチーム」として派遣 派遣先：宮城県 女川町 派遣期間：5月6日～9月30日（5月～6月：1名1週間の派遣、7月～9月：1名4日間の派遣） ・ 心身医療科医師派遣 日本心身医学会からの要請により宮城県気仙沼市に医師1名を8月1日～8月3日まで派遣し、被災者の診察を行った。</p> <p>○ 福島県への遺体検案前の放射線サーベイ要員の派遣 福島県警→日本放射線技師会→鹿児島大学への要請があり、本院放射線技師1名を福島県相馬市及び南相馬市へ派遣（5月4日～5月10日）</p> <p>○ 福島原発「緊急被ばく医療対策班」いつでも出動できる準備はできており文部科学省の派遣要請待ち（3月15日文部科学省から福島県への出動要請が出されたが出発直前に待機命令が出され、その後待機は解除された。）</p> <p>○ 被ばく疑いの一般市民に対するスクリーニング実施（3名） 3月16日、本院の具体的対応について協議し「福島原発の放射能漏れ事故に対する本院の対応」を作成、3月17日病院敷地内にトリアージ Tent を設置した。福島県からの被ばく疑いの市民3名に対しスクリーニングを実施した。</p> <p>○ 歯科医療支援チーム派遣 被災県知事→厚生労働省→日本歯科医師会→鹿児島大学への派遣要請で宮城県南三陸町に歯科医師1名、歯科衛生士1名を派遣（7月17日～7月23日）し避難所での医療支援活動、主に口腔衛生指導を行った。</p> <p>○ 東京電力福島第一原子力発電所5/6 救急医療室への看護師派遣 厚生労働省から文部科学省に要請があり、本院緊急被ばく医療対策班メンバーの男性看護師1名を、福島第一原子力発電所5/6 救急医療室に派遣（9月25日～9月28日） し、現場の作業者に対する救急医療、健康管理、診療環境整備等に従事 男性看護師2名を同医療室へ派遣予定（3月29日～3月31日 1名、 3月31日～4月1日 1名）</p> <p>○ 全国医学部長・病院長会議からの要請による福島県への医師派遣 福島県南相馬市立総合病院消化器内科へ医師2名を派遣した。 （11月20日～11月26日 1名、11月27日～12月3日 1名）</p>

【1. 医療支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	琉球大学	<p>○医療チームを岩手県へ派遣（3月15日～3月22日） http://www.u-ryukyu.ac.jp/info/support_for_earthquake2011031501/</p> <p>○検死のため、教員を福島県、宮城県へ派遣（3月15日～22日、4月17日～24日）</p> <p>検死のため、医師3名を福島県（3月15日～22日）、宮城県（4月5日～11日）、岩手県（4月7日～13日）、宮城県（4月17日～24日）へ派遣</p> <p>○薬剤師ボランティアを仙台市へ派遣（3月25日～4月1日）</p> <p>○岩手医科大学へ医薬品を提供（3月22日）</p> <p>○医師 1名を岩手県へ派遣（4月28日～5月5日）</p> <p>○心のケアとして、医師2名を岩手県へ派遣（5月5日～12日）</p> <p>○医師1名を岩手県へ派遣（5月10日～16日）</p> <p>○医師1名を岩手県へ派遣（7月10日～17日）</p> <p>○医学部附属病院教員1名が宮城県にて検死を行った。（平成23年6月25日～7月1日）</p> <p>○医師1名を福島県へ派遣（平成24年1月9日～21日）</p>

【2. 救援物資等】 ①緊急物資支援

支部名	大学名	活 動 実 績
北海道	北海道大学	<p>○発電機1機を岩手県水産技術センターに貸与。(3月16日)</p> <p>○国立大学協会の要請に基づき、道内の国立大学の支援物資を取りまとめ、飲料水約5000本、カップ麺約300食、米500キロ、レトルトごはん約200食、マスク約50000枚、トイレトペーパー約5000ロール、その他ゴミ袋、消毒用アルコール、長靴、ブルーシート、乾電池、携帯カイロなど、5トンコンテナ2個分の緊急支援物資を提供。(3月25日)</p> <p>○東北大学電気通信研究所からの依頼に基づき、電気ストーブ、オイルヒーターを提供。(3月29日)</p>
北海道	北海道教育大学	<p>《全学》①国立大学協会(平成23年3月16日付)より依頼の災害救援物資について、北海道大学(各支部代表大学)が取りまとめの上、被災地へ下記のとおり提供を行った。(3月22日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易マスク(240枚入)3箱、簡易マスク(50枚入)19箱、手指消毒アルコール1000ml30本、絆創膏M40枚入1箱、絆創膏LL9枚入3箱、絆創膏ピック7枚入3箱、絆創膏ジャンボ5枚入3箱、胃腸薬46包1箱、ビオアルシ錠130錠入り1箱、消毒用アルコール1000ml10本入り2箱、手指消毒液10本、伸縮包帯(s)2個入り10個、ゴミ袋(45L、10枚組50冊)4箱、ゴミ袋(45L)400枚、ゴミ袋(90L150枚入)5箱、ゴミ袋(45L10枚入)30袋、トイレトペーパー(6R×10入、1R:130m)40箱、カセットコンロ(ボンベ含む)1台(ボンベ10本)、ブルーシート5.4×7.2m5枚、ブルーシート5枚、土鍋2個、バーベキューコンロ2個、長靴5足、懐中電灯9個 ②文部科学省「東日本大震災子ども学び支援ポータルサイト」に支援物資を掲載(4月6日)し、一部の支援物資について、下記のとおり提供を行った。 <p>http://manabishien.mext.go.jp/</p> <ul style="list-style-type: none"> 【岩手県上閉伊郡大槌町(有)高清水建材】(4月25日) <ul style="list-style-type: none"> ・雨傘60本、ハンガー50本、ゴミ袋(45L、10枚入)60袋、ゴミ袋(90L、150枚入り)5箱、マイバット(400ml)12本、キッチンハイター(1500ml)2本、マジックリン(500ml)8本、薬用せっけん(3個入)4箱、クレンザー(粉末)10本、ハンドソープ(250ml)30本、ティッシュペーパー20箱、トイレトペーパー(6R×10入)10箱、バスタオル60枚 【宮城県気仙沼市 気仙沼市立鹿折小学校】(4月27日) <ul style="list-style-type: none"> ・両面テープ10個、クリアファイル100枚、フラットファイル(黄・緑・ピンク・青各50)200枚、電卓(中古)4個、スタンプ台5個 【福島県郡山市 福島県立あさか開成高等学校内 双葉高等学校】(5月10日) <ul style="list-style-type: none"> ・チョーク100本入り黄箱、チョーク100本入り赤8箱、チョーク100本入り青2箱、チョーク100本入り緑1箱、チョーク100本入り白6箱、コピー用紙A4(1×500枚5×)100箱、ホチキス(中古を含む)10個、付箋紙(小25入)1箱、付箋紙(中20入)1箱、セロテープ10個、はさみ(中古)10個 【福島県河沼郡会津坂下町福島県立坂下高等学校内 双葉翔陽高等学校】(5月9日) <ul style="list-style-type: none"> ・チョーク100本入り黄7箱、チョーク100本入り赤7箱、チョーク100本入り青2箱、チョーク100本入り緑1箱、チョーク100本入り茶1箱、チョーク100本入り白6箱、ゼムクリップ10箱、付箋紙(小25入)1箱、付箋紙(中20入)1箱、ティッシュペーパー20箱、トイレトペーパー(6R×10入)10箱、バスタオル60枚 【宮城県東松島市大曲小学校】(6月10日) <ul style="list-style-type: none"> ・一輪車10台、バレーボール用支柱2組 【宮城県石巻市宮城県石巻市立住吉中学校】(5月26~29日) <ul style="list-style-type: none"> ・事務用机3台、事務用椅子5台、パソコンデスク7台、ミーティングテーブル4台、会議用テーブル14台、会議用椅子14台、応接用テーブル1台、ロッカー1台、貴重品ロッカー1台、ガラス保管庫1台、保管庫3台、体育マット5枚、サッカーボール10個、バスケットボール5個 【宮城県東松島市東松島市立大曲小学校】(5月24日) <ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバレーボール15個 【宮城県牡鹿郡女川町 女川第一小学校内 女川向学館】(8月5日) <ul style="list-style-type: none"> ・プロッキー8色セット3組、ボールペン赤20本、ボールペン黒39本、ボールペン青30本、鉛筆110本、シャープペンシル10本、ホッチキス針No.1020個、メモノート100冊 【宮城県宮城郡七ヶ浜町 七ヶ浜町立松ヶ浜小学校】(9月6日) <ul style="list-style-type: none"> ・教室用時計2個 【岩手県釜石市 NPO法人 アジア繊維流通機構 釜石駅前校】(9月15日) <ul style="list-style-type: none"> ・学生用机35台、学生用椅子35脚 【岩手県遠野市 NPO法人遠野まごころネット】(11月18日) <ul style="list-style-type: none"> ・丸椅子30脚 【宮城県気仙沼市 宮城県立気仙沼支援学校】(11月29日、12月2日) <ul style="list-style-type: none"> ・油性マジック赤(中字)20本、油性マジック黒(中字)20本、油性マジック赤(太字)24本、油性マジック黒(太字)24本、布テープ40個、寝袋20個 【宮城県巨理郡山元町 山元町立中浜小学校】(12月9日) <ul style="list-style-type: none"> ・教室用カーテン6枚 【宮城県牡鹿郡女川町 女川向学館】(1月20日) <ul style="list-style-type: none"> ・シューズボックス1台

【2. 救援物資等】 ①緊急物資支援

支部名	大学名	活 動 実 績
北海道	室蘭工業大学	○緊急支援物資として飲料水（500ml）300本、非常食800個、携帯カイロ200個等を提供（3月23日）
北海道	小樽商科大学	○緊急支援物資として、カップ麺(240)、カロリーメイト(170)、飲料水(168)、携帯カイロ(75)、マスク(50枚入)(70)、ゴミ袋(10枚入)(70)、紙皿(20枚入)(10)、割り箸(8,000)、乾電池(2本入)(6)、乾電池(4本入)(14)、生理用品(10)を提供（3月25日）
北海道	帯広畜産大学	○教職員・学生から、緊急支援物資（食品、生活用品、防寒着、毛布など）を募り、NPO法人あうるすを通じ宮城県へ発送した（3月17日）。 ○福島県飯館村にマスクを発送した（4月26日）。 ○生理用品を福島県郡山市へ発送した（4月26日）。
北海道	旭川医科大学	○簡易マスク 25,000枚、米500kg、携帯カイロ 480個、ゴミ袋 2,200枚（北海道地区の大学と共同して平成23年3月下旬に実施）
北海道	北見工業大学	国立大学協会の救援活動に協力する形で支援物資をいつでも送付できるよう準備をしていた。その後、北海道支部の指示により、実際には送付するに至らなかった。
東北	弘前大学	○緊急支援物資として食料（米(30kg)30袋、みそ汁200食、カレー100食）、飲料水(500ml)480本、携帯カイロ2,220個、簡易マスク10,750枚、家庭用薬品（感冒薬、絆創膏等549箱）、栄養ドリンク500本、ゴミ袋1,200枚、紙皿3,613枚、割り箸7,460膳、携帯用簡易トイレ101個、電池（単三160本、単四1,913本）、生理用品518袋、ブルーシート300枚 URL: http://www.hirosaki-u.ac.jp/houdou/shinsai/2-2.pdf
東北	秋田大学	○灯油1,360ℓ、トイレットペーパー2,800個、灯油ストーブ7台、灯油缶20個、単3乾電池100本岩手大学へ提供。（3月27日、29日） ○東松山市鳴瀬第二中学校へシュレッダーの提供。（附属中学校）（5月19日）

【2. 救援物資等】 ①緊急物資支援

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	山形大学	<p>○東北大学へ米1459kg, リンゴジュース(1L)40本, ラフランスジュース(190ml)240本を提供(3月14日)</p> <p>○岩手大学へ石油ストーブ10台を提供(3月28日)</p> <p>○東北大学病院へ医薬品及び非常食等の提供と滅菌業務の受入れ支援</p> <p>○石巻赤十字病院へペットボトル(水)を提供</p> <p>○卒業生から使用しない家電や家具を回収し、被災者の方に無料で提供するリユース活動 URL: http://www.yamagata-u.ac.jp/jpn/you/modules/topics0/article.php?storyid=765</p> <p>○避難所の炊き出し用の米120kg提供(おにぎりプロジェクト4月1日)</p> <p>○学生ボランティアが学内放置自転車を修理して被災者に提供(学生活動)</p> <p>○「山形大学人文学部震災復興支援学生プロジェクト」では、緊急物資支援として、除菌水を作る機械、除菌用の紙雑巾、自転車・小型バイク等を提供してきました。</p>
関東・甲信越	群馬大学	<p>○災害用備蓄食料, 医薬品, 医療材料等の災害支援物資を東北大学病院に提供</p> <p>○国立大学協会からの要請により, 被災した各国立大学に対して, 日用品等の災害救援物資を提供</p> <p>○附属小学校の児童・保護者による被災者の方々への応援メッセージを書いた雑巾を作成し, 被災地へ提供</p> <p>○東北大学電気通信研究所から国立大学附置研究所・センター長会議常置委員会を通じての要請により, 電気ストーブを提供</p> <p>○福島市立飯坂小学校から国際交流団体「船と翼の会ふくしま」を通じての要請により, 裁縫セット(32個)を提供</p> <p>○文部科学省こどもポータルサイトを通じた被災避難者(岩手県)からの教材提供の依頼により, 附属小学校から, 絵の具セット3個, ポスターカラーセット1個を提供</p> <p>○文部科学省こどもポータルサイトを通じた被災避難者(宮城県)からの教材提供の依頼により, 附属小学校から, 習字セット2個, 鉛筆1クロス, のり9個を提供</p>
関東・甲信越	埼玉大学	<p>○国立大学協会からの依頼により, 災害救援物資として, 携帯カイロ90枚, 簡易マスク1, 000枚を被災大学に提供(3月19日)</p>
関東・甲信越	千葉大学	<p>○医療材料、非常食等の支援 3月13日 ガーゼ12箱、非常食1000食等【東北大学病院】 3月19日 手術用手袋、紙おむつ等【福島県立医科大学病院】</p> <p>○救急支援物資 3月18日 国立大学協会からの要請により、電池(単一、単二、単三、単四)をそれぞれ165本、59本、302本、420本を提供</p>
東京	東京大学	<p>○東北大学へトラック2台分の救援物資を輸送(平成23年3月18日、東京地区支部として)</p> <p>○東北大学へトラック1台分の医療支援物資、飲料水、食糧の輸送(同年3月23日)</p> <p>○大槌町赤浜小学校へ車三2台で救援物資の搬送(大気海洋研究所)(同年3月29日から31日)</p> <p>○東北大学へ暖房器具の提供(東洋文化研究所、生産技術研究所)(同年3月末)</p>
東京	東京医科歯科大学	<p>○簡易マスクや電池等の消耗品11点を東北大学に提供(3月18日及び19日)</p>

【2. 救援物資等】 ①緊急物資支援

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	東京外国語大学	○緊急支援物資として、食糧 9,840缶、飲料水 1.5リットル×1,168本、簡易トイレ1セットを提供(3月17日)
東京	東京学芸大学	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城教育大学に被災地の学校の教員用文房具を20セット提供した。 ・宮城県気仙沼市立鹿折小学校留守家庭保護事業学童保育センターへ子どもの学習支援物品と留学生のメッセージカードを30セット提供した。(2011年10月実施) ・現在、名取市の社会福祉協議会と連絡を取り、被災地の子どもへの学習支援物品の送付を検討している。 ・緊急支援物資として水96本、カンパン・ビスケット・クラッカー各96缶、非常食36食、マスク6,000枚を提供。国立大学協会東京地区支部代表の東京大学を通じて東北地方へ提供される。 ・宮城聴覚支援学校に、オーディオメーターと教員研修用DVDを提供した。 ・富岡町立幼稚園・小・中学校設立に向けた支援物資として、サッカーボール10個、ドッチボール10個、ソフトボール7個、サッカーボール10個、ラグビーボール10個を提供した。 ・国際ロータリーの行う被災地にランドセルを送る取り組みに協力して、ランドセル等を408個提供した。 ・宮城県登米市役所に裁縫セット24個を提供した。 ・宮城県巨理保育所に、絵本90冊を提供した。 ・みやぎわらすっこプロジェクトに幼児用椅子30脚を提供した。
東京	東京農工大学	<p>○国大協の要請を受け緊急支援物資を提供(3月17日) 米210kg、乾麺960食、味噌140kg、アルファ米2,000食、豚汁・けんちん汁1,000食、飲料水400本、簡易マスク1,000枚、ごみ袋200枚、トイレットペーパー200個、その他生活雑貨</p> <p>○茨城大学に対して緊急支援物資を提供(3月18日) 米240kg、乾麺240食、味噌70kg、アルファ米1,000食、豚汁・けんちん汁1,000食、飲料水400本、簡易マスク500枚、ごみ袋200枚、トイレットペーパー200個、その他生活雑貨</p>
東京	東京藝術大学	<p>○国立大学協会の依頼により東北大学に緊急支援物資として、石油ストーブ3台、灯油1缶、トイレットペーパー144個、手消毒剤100個、ホカロン 120個(1箱30個入り×4)、お茶 5箱、紅茶 5箱、砂糖 2パック、インスタントコーヒー 2本、クリープ2本を提供(3月17日)</p> <p>○文部科学省子どもの学び支援ポータルサイトを通して、気仙沼市立鹿折小学校緊急支援物資としてプリンター5台、PC用ディスプレイ5台を提供(4月26日)</p> <p>○文部科学省子どもの学び支援ポータルサイトを通して、牡鹿半島をメインに支援活動を行っている団体「ハミングバードスボルテ」の気仙沼市大島での6/5の救援事業(小中学校の児童・生徒も参加)に対し藝大クッキー240箱を提供。</p>
東京	東京工業大学	<p>○国大協の要請を受け、食料、飲料水、簡易以外の物資を支援。(3月17日)</p> <p>○国立大学附置研究所・センター長会議常置委員会からの要請に基づき、東北大学電気通信研究所へ電気ストーブ2台を寄附。(3月29日)</p> <p>○港区へ水ペットボトルを提供。(3月31日)</p> <p>○個人所有のノートパソコンを募り、ノートパソコン10台とインクジェットプリンタ1台を被災地の教育機関に寄附。(6月2日)</p> <p>○不要になった事務什器を被災地の教育機関に寄附予定。(9/20~9/21)</p> <p>○大学所有及び個人所有の不要なパソコンを募り、ノートパソコン54台、デスクトップパソコン1台、ディスクストレージ(外付け)1台を被災地の教育機関に寄附(12/12~12/13)※「学生による被災地でのボランティア活動」に関連記載あり。</p> <p>○子どもの学び支援ポータルサイトを通じ、被災地へ文房具等を提供。</p>

【2. 救援物資等】 ①緊急物資支援

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	東京海洋大学	○ 緊急支援物資として水2752本、非常食(乾パン) 2688食、乾電池、ブルーシート、プラスチックコップ、ホカロン、アルミ温熱シートなどの提供を国立大学協会へ申し出たが(3月24日)、発送依頼がなかった。
東京	お茶の水女子大学	○東北大学に備蓄食料品(1,000食)・水(1.5L 60本)を送付(3月16日) ○岩手大学にパソコン(79台)・プリンター(7台)を送付(5月10日)
東京	電気通信大学	○国立大学協会からの依頼により、緊急支援物資として携帯カイロ200個、簡易マスク3,500枚、灯油54ℓ、ゴミ袋170枚、生理用品20パック、ブルーシート6枚、軍手36双、炭60kg、紙皿、割り箸等を東京大学(支部代表)を通して提供した。(3月17日) ○福島県立双葉高校(避難指示によりサテライト授業を行う)に対して、辞書約150冊、参考書等約90冊を提供した。(4月27日) ○石巻市に対して、辞書48冊、参考書等50冊を調布市被災者支援ボランティアセンターを通して提供した。(5月25日)
東京	政策研究大学院大学	○緊急支援物資として水80本、簡易マスク1,100枚提供(3月17日)
関東・甲信越	横浜国立大学	○災害救援物資として、使い捨てカイロを提供した。(3月18日) ○食料、飲料水の支援を用意している。
関東・甲信越	新潟大学	○九州地区、北海道地区大学からの物資輸送の一時集約拠点としてなり、集約した救援物資を東北大学、福島大学に輸送した。 ○水、食料等を東北大学に提供した。(3/15, 17) ○ガソリン、灯油を山形大学を経由して東北大学に提供(3/17) ○歯ブラシ、うがい薬、ウェットティッシュ、水等を東北大学等に提供した。(3/22~3/24) ○パソコン6台を岩手大学に提供。(6/7着) ○「子どもの学び支援ポータルサイト」による物資支援 ◆傘立て4台、雑誌架1台(宮城県山元町立山下小学校, 5/31着) ◆移動黒板2台(宮城県宮城郡利府町立しらかし台小学校, 6/7着) ◆傘立て6台(宮城県気仙沼市学校法人あしのめ学園, 6/8着) ◆ミーティングチェア35脚(宮城県南三陸町立伊里前小学校, 6/27着) ◆VHSビデオデッキ(宮城県東松島市立矢本西小学校, 7/28着) ◆雑誌架3台(宮城県東松島市立浜市小学校, 12月頃送付予定)
関東・甲信越	長岡技術科学大学	・緊急支援物資として 1) 仙台高専に水(2ℓ×6本)46箱 外27点、(3月14日)、 2) 一関及び八戸高専に越後のごはん(20袋入り)7箱 外4点(3月17日) 3) 福島高専に米(10kg)2袋 外27点(3月20日)を提供
関東・甲信越	上越教育大学	○上越市からの要請により、保存水558本及び非常食600食を提供(4月6日)

【2. 救援物資等】 ①緊急物資支援

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	山梨大学	<p>○医薬品178品目(2,488千円)支援(3月18日~4月5日)</p> <p>○医療材料17品目(37千円)支援(3月18日)</p> <p>○携帯カイロ182個、携帯カイロ(足用)174個、乾電池(単1)12個、乾電池(単3)28個を支援(3月22日)</p> <p>○その他:非常食(2,432食)、医療材料(125品目)を準備(医学部・3月16日現在)</p> <p>○簡易マスク55050枚、絆創膏100枚、サージンパット50枚、ゴミ袋9790枚、紙コップ100個、手消毒剤104本、PL(1g)100包、プルフェン100錠、ゲンタシン軟膏(10g)10本、軍手10双、エプロン10枚、風呂敷4枚を準備(3月18日現在)</p>
関東・甲信越	信州大学	<p>○国立大学協会からの依頼に基づき、緊急支援物資として携帯カイロ325個を筑波大学に提供(3月23日)</p>
東海・北陸	富山大学	<p>○国立大学協会の取りまとめの下、福島大学へ緊急物資支援を実施(3月22日)</p> <p>○子どもの笑顔元気プロジェクトへの支援(合計段ボール17箱分のおもちゃと絵本、乳幼児衣類を送付)(4月22日)</p> <p>○宮城県山元町立山下小学校へ支援物資(チョーク1,000本、救急用品)を送付(子どもの学びポータルサイトを通じた支援)(6月16日)</p>
東海・北陸	金沢大学	<ul style="list-style-type: none"> ・福島大学へ救援物資送付(3月22日送付/3月23日到着) 物品リスト【食糧、飲料水、携帯カイロ、灯油、家庭用薬品、トレット[®]-[®]等】 (複写機用紙は業者から寄付) ・東北大学電気通信研究所へ電気ストーブ5台送付(3月28日送付/3月30日到着) ・福島県浪江町が二本松市に再建予定の中学校に附属中学校保有の机及び椅子110セットを寄贈(7月21日送付) ・被災地区の工業高校に理工学域保有の旋盤(2台)を送付予定(10月13日)
東海・北陸	福井大学	<p>○福島大学へ食料、飲料水、灯油、医薬品、紙おむつ、粉ミルク等を提供(3月23日)</p> <p>○岩手大学へノートパソコン3台を提供(6月8日)</p>
東海・北陸	岐阜大学	<p>福島大学への救援物資搬送(4t車1台 食料・水・衛生用品等)3月28日</p>
東海・北陸	静岡大学	<p>○サーバイメータ10台、ポケット線量計24台を被災地の大学に無償提供。(4月20日)</p> <p>○緊急物資を確保し、被災大学からの要請に対応できる準備を整えた。救援予定先大学から、救援物資の受入れ許容量を超えている状況等から輸送は控えて欲しいとの要請があり、待機していたが、国大協を通じ、当面は充足しており輸送不要である旨の連絡があった。(6月13日)</p> <p>URL:http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_taio.html</p>
東海・北陸	浜松医科大学	<p>学生有志が地域住民に支援物資の提供を呼びかけて回収し、現地へ送付(3月20日)</p>
東海・北陸	名古屋大学	<p>東北大学病院を通じ、患者給食、医薬品及び医療材料等合わせて20トンを提供(3月16日)</p> <p>IT関連機器(ノートパソコン88台等)の輸送(岩手大学)</p>

【2. 救援物資等】 ①緊急物資支援

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	愛知教育大学	<p>○緊急支援物資として宮城教育大学へ精米27キロ、ガソリン70リットル及び本学の備蓄品等を提供(3月18日)</p> <p>○国立大学協会の呼びかけにより緊急支援物資として福島大学へ食料品、灯油等を提供(3月24日) (http://www.aichi-edu.ac.jp/intro/files/AUENews13_110401_2.pdf)</p> <p>○附属岡崎小学校が11月上旬から古タオルを回収して、手縫いして「古雑巾」を作成し、515枚を南相馬市立太田小学校に送った。併せて、募金活動を行い、ロング手袋19個、防塵マスク16個を、古雑巾とともに、南相馬市立太田小学校とその周辺の除染活動を支援する物資として送った。さらに室内で楽しめるゲーム、除染用ネット、テレビ電話用機材も送った。</p>
東海・北陸	名古屋工業大学	<p>○緊急支援物資として水7,200本、乾パン10,240食、カイロ100個、レトルト食品600食等を提供(3月19日) URL:http://www.nitech.ac.jp/news/2011/749.html</p>
東海・北陸	豊橋技術科学大学	<p>○独立行政法人国立高等専門学校機構を通して被災高専へ水1920本(500ml)、食料(中華そば、五目ご飯等約500食)、トイレトペーパー(2000個)、ゴミ袋(2500枚)他提供(3月17日)</p> <p>○福島大学へ水1,925本(500ml)、食料(中華そば、五目ご飯等約500食)、トイレトペーパー(2000個)、ゴミ袋(5000枚)他提供(3月19日)</p>
東海・北陸	三重大学	<p>○国大協からの要請に基づき、本学備蓄物品から福島大学への支援物資を準備。福島大学からの発送要請が入り次第発送予定。(現在発送要請なし)</p> <p>※食糧(アルファ米)3,000食、飲料水(500ml)1,980本、携帯カイロ240袋、簡易マスク11,000枚、灯油180l、トイレトペーパー200個、乾電池150個等</p>
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	<p>飲料水、家庭用薬品等を福島大学へ送付(3月22日)。</p>
近畿	滋賀大学	<p>○3月19日(土)に、福島大学へ下記の支援物資を輸送 レトルトパックごはん 2万7千食 カンパン 1万4千80食 みそ汁 800食 スープ 400食 飲料水(2Lボトル) 4500本 毛布 800枚 アルミマット 800枚 タオル 4500枚 サークルライト 4台 簡易トイレ 6式 緊急用浄水装置 2台 救急箱(50人用) 2セット 防水シート 100枚 トイレトペーパー 1500ロール ガソリン 40L フェイスマスク 3600枚 http://www.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=topics:1411</p>
近畿	京都大学	<ul style="list-style-type: none"> ・本学の災害備蓄食料の一部(約4,000食分)を提供 ・医学部附属病院にて医薬品及び医療材料等を提供 <p>URL:http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/education/info20110317.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報学研究科からICT機器(パソコン、プリンター等)を提供 <p>URL:http://sites.google.com/site/ictfriendshipkyotouniv/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他、研究科・講座単位等にて提供

【2. 救援物資等】 ①緊急物資支援

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	京都教育大学	<p>○附属学校の支援可能物資を文部科学省「子どもの学び支援ポータルサイト」に登録した。</p> <p>○「ソフトボール用バット」の支援が実現した。</p> <p>○「ストップウォッチ」「トランシーバー」「サッカーボール」の支援が実現した。</p> <p>○「卓球ラケット」「ドッジボール」「ソフトバレーボール」「バレーボール」「バトミントンラケット」の支援が実現した。</p>
近畿	京都工芸繊維大学	<p>○緊急支援物資として保健室用品（カットバン、ガーゼ、湿布等の医薬品）一式を提供（4月20日）</p> <p>○緊急支援物資として防災用毛布5枚を提供（4月27日）</p> <p>○緊急支援物資としてトイレトペーパー 7000-ルを提供（5月10日）</p> <p>URL:http://www.kit.ac.jp/O1/shinsaitaiou.html</p>
近畿	大阪大学	<p>○岩手大学にトイレトペーパー（100ヶ入）約50箱、単1電池100本、単3電池：100本、単4電池20本、ストーブ10台等を提供（3月28日）</p> <p>○福島県に単4電池756本を提供（4月15日）</p> <p>○福島県に単4電池178本を提供（4月28日）</p>
近畿	大阪教育大学	<p>○国立大学協会からの要請に基づき、緊急支援物資を提供できるよう、支援可能な物資の確認を行った。</p>
近畿	兵庫教育大学	<p>・附属中学校生徒がワイシャツ（襟付きシャツ）を収集し、別に作製した「布袋」に詰め、5月24日、80セットを宮城教育大学附属中学校等に発送した。</p> <p>・文部科学省・国立大学協会からの照会に基づき、被災者に対する本学で実施可能な支援事項の情報を提供した。</p>
近畿	神戸大学	<p>○保存食とミネラルウォーター約1万5千食を東北大学に提供（3月22日） http://www.kobe-u.ac.jp/info/topics/t2011_03_22_03.htm</p> <p>○文部科学省「子どもの学びポータルサイト」を通じ、附属学校の保護者の協力を得て、学用品やパソコン、衛生用品等を被災地の小学校等5校に提供（H23年4月、5月、6月（2回）、11月） http://sankei.jp.msn.com/life/news/110428/edc11042812100001-n1.htm</p> <p>○小中高生用参考書、書籍、文具等、合計14箱を、気仙沼市の(有)家庭教育情報センターに提供（4月7日） http://rcuss.wordpress.com/2011/04/07/</p>
近畿	奈良教育大学	<p>○被災地所在大学への送付のため、次の災害物資を確保。（国大協からの送付指示があり次第、送付可能）トイレトペーパー：6000個、ゴミ袋：6000枚、消毒液アルボナース：24リットル、乾電池単3型：500本、乾電池単4型：500本、簡易マスク：6640枚、紙皿：20000枚、割り箸：3000膳</p> <p>○ユネスコスクール支援大学間ネットワークをベースとする支援として、学内で衣類・文具等を募集し、集まった物資を送付した。 http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SECRETARY/higasinihondaisinsai.html</p> <p>○支援物資として、衣類及び文具品等を37箱（4月1日）、衣類等28箱（4月6日）、お手玉・文房具等9箱、学用品等（段ボール5箱）（4月19日）を東北大学及び気仙沼教育委員会へ提供 http://www.nara-edu.ac.jp/ADOMIN/SECRETARY/ASPUNsupport.html http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SECRETARY/otedama_project.html</p> <p>○奈良教育大学附属中学校から気仙沼教育委員会へ、学用品や衣料品を中心に段ボール84箱及びストーブ8台を送付した。</p>

【2. 救援物資等】 ①緊急物資支援

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	奈良女子大学	<p>○国立大学協会の要請により、本学において準備できる災害救援物資（食糧2,000食、水12,000L、トレットパー12000L他を報告し、直ちに搬送できるよう倉庫に準備したが、4月末現在において搬送の要請がなかった。その後においても搬送の要請がなく、また同要請が解除となったため、上記支援物資の確保は解除した。</p> <p>○附属中等教育学校は、ユネスコスクール及び本校生徒会を通じて、衣料品及び学用品を被災地拠点に随時発送した。（4月中）続いて陸前高田市へ、水1.8トンを送った。（5月）また、後援会から、石巻市立住吉中学校吹奏楽部にホルン（約30万円）を寄贈した。（5月）さらに、生徒会活動として、福島県立小高商業高校にクリアファイル1000枚とボールペン250本を送り（6月）、宮城県山元町立山下中学にクールネクタイを300本送った。（7月）生徒会活動として、宮城県七ヶ浜町立七ヶ浜中学にA4ファイル3000冊、デジタル体温計10本、ラミネーター1台を送った。（12月）</p>
近畿	和歌山大学	<p>国大協へ支援物資リストを提出し、しばらく待つように指示を受けている。</p> <p>パソコンを被災地学校に送付した。</p> <p>○福島県立平養護学校からの要請により、デスクトップパソコン3台を無償提供</p> <p>○福島県教育委員会からの要請により、福島県立富岡高校（現在は福島北 高校内）に、ノートパソコン2台を無償提供</p> <p>○岩手大学よりICT機器の提供依頼があり、ノートパソコン4台を無償提供</p> <p>○宮城県気仙沼市立大谷幼稚園にノートパソコン3台を無償提供</p> <p>○東日本大震災緊急救援市民会議事務局に中古PCデスクトップ1台</p> <p>○宮城県立気仙沼支援学校にカンパン100缶サバイバルシート100個</p>
中国・四国	鳥取大学	<p>○緊急支援物資として、簡易マスク20,000枚、水16,200本(500ml)を提供(3月16日～4月4日)</p> <p>○宮城県内及び福島県内の小・中・高等学校等に、パソコン・パソコン用プリンター・移動式黒板・顕微鏡・長机・パイプ椅子・手回し発電機付きラジオ・チョーク・ボールペン・フラットファイル等を提供</p> <p>(文部科学省「子どもの学び支援ポータルサイト」等を通じた支援)</p>
中国・四国	島根大学	<p>○緊急支援物資として消毒液、カイロを岡山大学を通じ東北大学へ提供（3月17日）</p> <p>○緊急支援物資として農場で生産しているトマトジュース30箱（900本）を出雲市を通じ福島県へ提供（3月17日）</p>
中国・四国	岡山大学	<p>本学及び鳥取大、島根大、徳島大、鳴門教育大、香川大、愛媛大及び高知大の支援物資（食料：α飯4795食、カップ麺1863食等、水5657本、カイロ4607個、毛布等）を12トントラックへ満載し東北大へ輸送した。</p> <p>ユネスコスクール支援大学間ネットワーク加盟校である東北大学大学院環境学研究科を通じて、防寒着等の支援要請を受け、段ボール箱38箱分を送付した。衣類は、東北大学を通じ、気仙沼市教育委員会へ届けられた。</p>

【2. 救援物資等】 ①緊急物資支援

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・ 四国	広島大学	<p>○東北大学及び福島大学への支援物資（国大協取りまとめ：11tトラック2台分）を提供（3月19日発送）</p> <p>○東北大学（歯学部）へ義歯洗浄剤及び義歯ケース（各300）を提供（4月14日発送）</p> <p>○「子どもの学び支援ポータルサイト」により岩手県大槌町教育委員会へ、帯及びちりとり（各30）を提供（4月26日発送）</p> <p>○岩手大学から依頼のあった情報機器（ノートパソコン 17台、プリンタ 6台、スキャナ 2台、ネットワーク機器 5台）を提供（5月31日発送）</p> <p>○「子どもの学び支援ポータルサイト」により宮城県石巻北高等学校へ救援物資（電気スタンド6台、鉛筆削り1台）を提供（6月15日発送）</p> <p>○「子どもの学び支援ポータルサイト」により宮城県石巻市立相川保育園へ救援物資（パソコン用ソフトウェア 2個）を提供（8月19日発送）</p> <p>http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html</p>
中国・ 四国	山口大学	<p>○緊急支援物資として、福島県立医科大学に物資を支援（3月23日）</p> <p>内訳 マスク 162,000枚、プラ手袋 19,000枚、患者用非常食、その他食器類等</p> <p>総額 340万円相当</p>
中国・ 四国	徳島大学	<p>○筑波大学附属病院の要請により食料品約2,700食を提供（3月16日）</p> <p>○緊急支援物資として水600本、マスク12,000枚を提供（3月17日）</p> <p>○緊急支援物資として医薬品3,500個、歯ブラシ600本、LEDペンライト30本、乾電池34個を提供（3月23日）</p> <p>○緊急支援物資として義歯安定剤30本、紙コップ2,000個、軍手600組、長靴30足を提供（3月24日）</p> <p>○緊急支援物資として義歯洗浄剤60箱、歯ブラシ300本、除菌ウェットティッシュ10箱、LEDペンライト2本、乾電池18個を提供（3月28日）</p> <p>○緊急支援物資としてエッセンシャルガウン504枚、メディカルキャップ500枚、紙コップ500個、消毒用ウェットティッシュ500本、ペーパータオル1,020袋、ゴム手袋1,000枚、歯磨き粉600本18個を提供（3月29日）</p> <p>○緊急支援物資として貼るカイロ1,500枚、カイロ1,500枚を提供（4月1日）</p> <p>○緊急支援物資としてゴム手袋500組、乾電池20本を提供（4月5日）</p> <p>○NPO法人TICOと連携して避難所へ雑誌約500冊を送付（4月18日）</p> <p>URL:http://www.tokushima-u.ac.jp/docs/2011041300040/</p>
中国・ 四国	鳴門教育大学	<p>○平成23年3月17日 岡山大学を通じて東北大学へ、緊急支援物資として、「救急絆創膏」等を提供（別紙リスト「鳴門教育大学災害救援物資リスト」のとおり）。</p> <p>○平成23年4月11日 東北大学へ、緊急支援物資として、「防寒着、下着類、靴下」等、段ボール24箱（約600点）を提供。</p> <p>○平成23年4月18日 東北大学へ、緊急支援物資として、「文具、ピアノカ」等の学用品、段ボール16箱を提供。</p> <p>○平成23年4月21日 文部科学省「東日本大震災子どもの学び支援ポータルサイト」を通じて、宮城県女川町教育委員会へ、支援物資として、「子供用マスク600枚」を提供。</p> <p>○平成23年4月28日 宮城県女川町教育委員会へ、支援物資として、「布団10組」、「電子体温計50個」を提供。</p> <p>○平成23年6月1日 文部科学省「東日本大震災子どもの学び支援ポータルサイト」を通じて、福島県大熊町立大熊中学校へ、支援物資として、「ホワイトボード 1個」、「高圧洗浄スチームクリーナー（ポータブル） 1台」を提供。</p> <p>○平成23年8月3日 文部科学省「東日本大震災子どもの学び支援ポータルサイト」を通じて、福島県富岡町小中学校事務局へ、支援物資として、「トイレットペーパー 240ロール」、「飲料水（ペットボトル555ml） 48本」、「マスク（大人用）2,500枚」を提供。</p> <p>※鳴門教育大学ホームページ URL：http://www.naruto-u.ac.jp/earthquake/</p>

【2. 救援物資等】 ①緊急物資支援

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・ 四国	香川大学	<p>○緊急支援物資として食料（リッツ缶 10缶）等を提供（詳細は別紙一覧表のとおり） ※岡山大学が中四国8大学分をとりまとめの上、自衛隊の車両にて、3月19日に東北大学へ提供 ○緊急支援物資として食料（白粥1.85kg、牛肉すき焼き22.8kg）を提供（3月25日） ※医学部から三木町経由で自衛隊へ依頼</p>
中国・ 四国	愛媛大学	<p>○緊急支援物資として、非常食（α米）4,745食を始め、携帯カイロ、簡易マスク、割り箸、ストーブ、消毒用アルコール、毛布を提供した。（3月17日） ○附属小学校PTAの呼びかけで、ランドセル、文房具を被災地の子どもたちへ贈った。（4月上旬） ○5年生が声かけを行い、文房具を赤十字社を通して被災地の学校へ送った。（8月、12月）</p>
中国・ 四国	高知大学	<p>○緊急物資配送ボランティアを通じた物資支援 URL http://www.saigaimessenger.info/ ○高知市自主防災グループとの連携による福島県、宮城県への子供向け物資の提供 ○立命館大学等との連携による、女性用アメニティセットの提供 URL http://ameblo.jp/ibousai-rits/ ○緊急支援物資として、非常食594食、飲料水1278本外を提供(3月17日) 詳細別紙のとおり ○文部科学省が開設している子どもの学び支援ポータルサイトにて支援物資として青ボールペン（20本×5箱）、経皮鎮痛消炎剤240枚、手指消毒液80本、精米（5kg）20袋、マスク2000枚を提供（4月22日、4月28日） URL http://manabishien.mext.go.jp/</p>
九州	福岡教育大学	<p>○緊急支援物資として、九州地区大学の取りまとめを行う九州大学に、トイレトーパー約720ロール、消毒用アルコール約340本、マスク約2000枚などを送付（3月23日） これらの物資は被災地の東北大学に送られた。 http://www.fukuoka-edu.ac.jp/2011earthquake.html#05</p>
九州	九州大学	<ul style="list-style-type: none"> ・九州地区の11国立大学法人からの救援物資を九州大学でとりまとめた後、鹿児島大学「かごしま丸」により博多港から新潟大学まで搬送。国立大学協会の指示に基づき、新潟大学から物資を必要とする大学へ搬送。 ・歯学研究院が、全国歯科大学学長・歯学部長会議常置委員会の要請に応じて、東北大学歯学部からの要望リストに基づき、医薬品等を支援物資として提供。 ・薬学研究院が、東北大学病院からの食糧確保の協力要請に対して、杏林大学経由で米と缶詰を搬送。 ・工学研究院が、岩手県水産部の水産廃棄物処理の情報収集やIT機器の支援に協力。 ・システム情報科学研究院が、研究室の自発的支援として、3月29日に、永年の共同研究体制にある東北大学電気通信研究所の研究室に物資（食料品、飲料水、日用品、医薬品等）を送付。
九州	九州工業大学	<p>○国立大学協会の依頼に基づき、学内にある日用品、テント等の物資を被災地域の大学に提供した。（3月22日発送）</p>
九州	佐賀大学	<p>○緊急支援物資としてマスク、トイレトーパー等段ボール50箱程度を提供（3月23日）</p>

【2. 救援物資等】 ①緊急物資支援

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	長崎大学	<p>○緊急支援物資として、マスク、ゴミ袋、手指消毒液、毛布、ダンボール、タオル、トイレトペーパー、紙おむつ、粉ミルク、乾電池、懐中電灯等を提供（3月14日日本学練習船にて搬送）</p> <p>○国大協と通じた緊急支援物資として、ブルーシート、ゴミ袋、トイレトペーパー、食糧（カロリーメイト等補助食品）、飲料水、紙皿、割り箸、乾電池、カセットコンロ、コンロ用ガスボンベ、生理用品等を提供（3月23日）</p> <p>○東北大学歯学部への緊急支援物資として使い捨てカイロ、歯ブラシ、歯安定剤等を提供（3月25日）</p> <p>○長崎大学病院から被災地での診療材料及び緊急支援物資等を提供（別紙参照）</p>
九州	熊本大学	<p>○国立大学協会の要請を受け、食料、飲料、生活用品等の支援物資（約4トン）を提供した。（平成23年3月23日）九州地区においては、九州大学がとりまとめ、被災大学へ輸送した。</p> <p>○子どもの学び支援ポータルサイトによる物的支援 文部科学省が運営する「子どもの学び支援ポータルサイト」を利用し、石巻市教育委員会へ支援物資を提供した。（平成23年7月20日）</p>
九州	大分大学	<p>国大協の緊急呼びかけを受け、学内に在庫しているマスク、トイレトペーパー、使い捨てカイロ、電池、ブルーシート、寝袋等の物資を3月22日に発送した。</p>
九州	宮崎大学	<p>○緊急支援物資として、水1,000本、カンパン1,008缶、ご飯1,040食などを提供(3月19日)</p> <p>○緊急支援物資として、水1,100本、カンパン1,100個、ご飯1,100食、粉ミルク106缶、離乳食274食、生活用品（トイレトペーパー500個、ビニール袋125袋、ベッドシーツ422枚、子ども肌着270枚など）を提供(3月21日) ※医学部同窓会からの支援分を含む</p>
九州	鹿児島大学	<p>○水産学部附属練習船「かごしま丸」により九州大学を經由して家庭用薬品類2箱、使い捨てカイロ4箱、ポリ袋類10箱など計40箱を提供（3月23日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社団法人国立大学協会からの要請に対する被災大学および災害救援派遣団体等への支援について（3月23日） <p>URL:http://www.kagoshima-u.ac.jp/information/2011/03/post-33.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北地方太平洋沖地震に係る救援物資輸送のため、かごしま丸が出航（3月23日） <p>URL:http://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2011/03/post-58.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北地方太平洋沖地震に係る救援物資を輸送したかごしま丸が帰航（3月31日） <p>URL:http://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2011/03/post-64.html</p> <p>上記において積み残しとなっていたトイレトペーパー8箱、手袋36箱、テント5箱など計56箱を九州大学を經由して提供（4月4日）</p> <p>○本学附属病院より、医薬品及び医療材料を東北大学へ提供（3月25日）</p>
九州	鹿屋体育大学	<p>○国立大学協会を通じて、携帯カイロ、簡易マスク、家庭用薬品、ゴミ箱、トイレトペーパー、ストーブ、ブルーシート、消毒液を提供（3月22日）</p> <p>○教職員から集めた防寒着、毛布等をグリーンコープを通じて提供（4月1日）</p> <p>○鹿児島県肝属町役場を通じて学生サークルから提供のあったマスク・タオル・Tシャツ・ジャージ・男女用靴下・下着・ばんそうこう・懐中電灯・電池等を送付(6月末まで実施)</p>

【2. 救援物資等】 ①緊急物資支援

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	琉球大学	○国立大学協会より、東北大学への物資支援依頼があり、3月22日（火）に附属図書館所有のブルーシート9枚を九州大学（九州地区とりまとめ）へ送付した。

【2. 救済物資等】 ②義援金

支部名	大学名	活動実績
北海道	北海道大学	<p>○学内で義援金を募り、集まった17,306,898円を日本赤十字に寄付。(5月16日)</p> <p>○学内義援金とりまとめ終了後も、引き続き博物館に募金箱を設置し、来館者から寄せられた47,692円を日本赤十字社に寄附。(5月16日)</p> <p>○工学部・工学院において、外国人留学生教育相談室の教員が発起人となって英語コース所属の留学生から義援金を募り、集まった義援金26万円を、工学部・工学院所属の被災学生15名に交付セレモニーを実施後配分。(6月9日)</p> <p>○文学研究科・文学部において、部局内で義援金を募り、石巻市における震災ボランティア活動に参加した同研究科・学部の学生25名に対し、旅費の一部支援として各1万円を支給。(10月中旬)</p> <p>○文学研究科・文学部において、部局内で義援金を募り、集まった300,000円を東北大学文学部に寄附。(1月25日)</p> <p>○先端生命科学研究院×線構造生物学研究室において義援金を募り、集まった88,000円を日本赤十字社に寄附。(4月22日)</p>
北海道	北海道教育大学	<p>《全学》○北海道教育大学被災学生義援金募金を実施中(現金、給与天引き、口座振り込み)(23.4.19から5.31まで)集まった6,100,000円を8月17日被災学生本学の被災した学生27名(実家が全壊・半壊・床上浸水、学資支給人が死亡・行方不明)に対し、(学資支給人が死亡・行方不明45万円、全壊22万円、半壊15万円)を支給した。</p> <p>《全学》○東日本大震災被災者義援金募金実施中(募金箱)(23.4.19から5.31まで)集まった101,759円を日本赤十字社に寄付(6月7日)</p> <p>《全学》○国際交流協定を締結している韓国漢城大学から3月23日送金され義援金253,772円を北海道教育大学被災学生義援金募金に募金した。</p> <p>《札幌校》○札幌校に在籍する交換留学生在が募金活動を行い、集まった31,006円を北海道教育大学被災学生義援金募金に募金した。</p> <p>《札幌中学校》○生徒会で募金活動を行い、集まった244,755円を日本赤十字に寄付(3月28日)</p> <p>《旭川校》○学内外で教職員及び学生が募金活動を行い、集まった912,767円を日本赤十字社に寄付(4月20日)</p> <p>URL:http://www.asa.hokkyodai.ac.jp/news/student/000175.html</p> <p>《旭川小学校》○児童会を中心に募金活動を行い、集まった272,425円を日本赤十字社に寄付(4月7日)</p> <p>《旭川中学校》○父母と先生の会から義援金として、481,500円を北海道新聞東日本大震災義援基金に寄付(3月19日掲載)</p> <p>《旭川中学校》○旭川市中連生活部の呼びかけによる募金活動を行い、集まった162,218円を北海道新聞東日本大震災義援基金に寄付(4月5日掲載)</p> <p>《旭川幼稚園》○園内教職員からの募金14,000円を日本赤十字社北海道支部に寄付(3月28日)</p> <p>《旭川幼稚園》○幼稚園PTAからの募金10,000円を日本赤十字社北海道支部に寄付(4月7日)</p> <p>《釧路校》○学生による義援金活動を行い、集まった90,244円を日本赤十字社に寄付(5月2日)</p> <p>《附属釧路中学校》○生徒会を中心に全校生徒、保護者(卒業生も含む)及び教職員への呼びかけを行い、集まった418,604円を日本赤十字社釧路事務局へ寄付(3月24日)</p> <p>《附属釧路中学校》○PTAから、釧路市PTA連合会を通じて5,000円を被災地へ寄付(4月19日)</p> <p>《旭川校》○学内に募金箱を設置し、集まった20,409円を日本赤十字社に寄付(6月2日)</p> <p>《岩見沢校》○学生による街頭等募金活動の募金全額と、教職員による義援金765,000円を日本赤十字社に寄付(3月末)</p>
北海道	室蘭工業大学	<p>○学内で募金活動を行い、集まった1,822,699円を日本赤十字社に寄付した(3月29日)</p> <p>URL:http://www.muroran-it.ac.jp/saisin/disaster/index.html</p>
北海道	小樽商科大学	<p>○学内で募金活動を行い、集まった1,280,000円を日本赤十字社に寄附(4月28日)</p>
北海道	帯広畜産大学	<p>学内で募金活動を行い、集まった261,690円を日本赤十字に寄付した(4月28日)。</p>

【2. 救援物資等】 ②義援金

支部名	大学名	活動実績
北海道	旭川医科大学	○学内で募金活動を行い、集まった2,195,225円を日本赤十字に寄付 (平成23年5月2日寄附)
北海道	北見工業大学	教職員に協力を依頼するとともに、学位記授与式で卒業生及び父母に協力を依頼した。集まった義援金は、1,656,539円を日本赤十字社に寄附した。(3月31日)
東北	弘前大学	○学内で募金を募り、2,167,834円が集まり、被災学生の生活支援費として給付することとした。 ○6月24日医学研究科脳神経外科学講座より「河北新報社3.11大震災見舞金」へ100万円を寄附した。 ○医学研究科脳神経外科学講座：9月に弘前において主催した「第20回日本意識障害学会」会場に募金箱を設置し、集まった29,550円を「日本赤十字社 東日本大震災義援金」に寄付した。
東北	秋田大学	○学内において3月16日から4月末まで募金活動を行い、2,938,999円を日本赤十字社秋田県支部に寄付。 ○教育文化学部所属の被災学生への学生支援基金給付(返済不要)を決定。希望する学生を募集し、給付している。 http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/eventa/item.cgi?pro&137 ○学内教職員からの寄附金により、被災学生へ見舞金を給付した。 ○学外からの寄附金により、被災学生へ入学準備金・生活支援金・就職活動支援金を給付していくこととしている。
東北	山形大学	○東日本大震災被災学生に対する理学部緊急経済支援として、教科書購入等に係る学資支援として、理学部被災学生63人に対して一人につき1万5千円分の図書カードを支給した。 ○学内及び病院内で募金活動を行い、集まった20万円を山形放送愛の事業団に寄附(3月28日) ○医学部卒業生一同による義援金(山形新聞愛の事業団へ54万円、3/28) ○農学部で、義援金42,000円を日本赤十字社へ寄付(5/2) 義援金58,115円を日本赤十字社へ寄付(6/24) ○被災学生52人に対して、一人2万円の図書券を配布した。
関東・甲信越	群馬大学	○教育学部附属特別支援学校で募金活動を行い、集まった69,000円を日本赤十字社東北関東大震災義援金に寄附 ○教育学部学生委員会を中心に卒業生等学生有志から義援金を募り、集まった150,000円を日本赤十字社群馬支部に寄附 ○教育学部附属幼稚園では、PTA・教職員一同が募集活動を行い、集まった382,883円を日本赤十字社東日本大震災義援金に寄附 ○教職員による義援金の募集を行い、集まった478万円を被災した本学学生に御見舞金として総額88万円を贈呈するとともに、390万円を被災地復興支援に役立てていただくため日本赤十字社群馬県支部へ寄附 ○工学部同窓会である群馬大学工業会会員から学生支援(寄附20万円)があり、被災した学生及び原発事故による避難者へ寄附 ○教育学部附属特別支援学校で実施した「ふようまつり」における模擬店及び作業製品の売上げの一部、会場での募金の合計額14,069円を義援金として日本赤十字社群馬県支部へ寄附

【2. 救援物資等】 ②義援金

支部名	大学名	活動実績
関東・甲信越	埼玉大学	○エコポイント191万1,000点を日本赤十字社に寄附（4月1日）
関東・甲信越	千葉大学	○緊急災害募金（募金対象：教職員、学生及び学生の保護者） 1,747,028円（5月2日及び9日に日本赤十字社に寄託） ○千葉大学校友会及び千葉大学経済人倶楽部「絆」の募金 1,464,175円（内80万円を3月31日に日本赤十字社千葉県支部に寄託） ○千葉大学SEEDS基金被災支援特別募金 4月25日から募金活動を開始 ○学生による募金活動 学外での募金活動（西千葉駅、千葉駅周辺） 5,260,729円 学内での募金活動（ガイダンス時等） 119,006円 学内での募金活動（留学生による大学祭開催時） 108,605円 ○千葉大学海外校友会及び校友からの寄附金 海外在住千葉大学卒業生有志 114,637円 中国校友会 301,065円
東京	東京大学	○東日本大震災の被災者救援義援金の開設を募集を行い、集まった義援金を岩手県、宮城県、福島県、茨城県、釜石市、遠野市、大槌町にお届けした（平成23年8月3日まで）。 ○東京大学被災学生支援等義援金の開設募集を行った。集まった義援金は本学被災学生の奨学金として活用定した（前期支給決定：平成23年7月22日、後期支給決定：11月28日）。 http://www.u-tokyo.ac.jp/public/anti_disaster_20110311_03_j.html ○上記義援金の受け付けを平成23年6月22日をもって締切り、新たに「東京大学東日本大震災に関する救援・復興支援プロジェクト基金」を設立。東京大学が行う救援・復興支援活動、ボランティア活動、東京大学の被災学生への経済的援助等に活用予定。 http://utf.u-tokyo.ac.jp/project/pjt13.html
東京	東京医科歯科大学	○学内で募金活動を行い、集まった12,161,633円を日本赤十字社に寄附を行った。（5月11日）
東京	東京学芸大学	・学内に設置した募金箱により義援金を集め、5月2日に日本赤十字社を通じて788,497円の寄附を行った。 ・学内に設置した募金箱により義援金を集め、被害が大きかった宮城教育大学に6月16日に300,000円の寄附を行った。
東京	東京農工大学	○学内で義援金活動を4月末日まで行い、集まった義援金1,446,547円の一部を家屋が全壊又は半壊した7名の学生に見舞金として支給し、残額は6月28日に日本赤十字社へ寄付した。
東京	東京藝術大学	○平成23年3月22日～4月22日までの期間、口座振込による募金、及び学生支援課事務室、横浜校地大学院映像研究科事務室、取手校地美術学部事務室、美術館エントランスホール、奏楽堂において募金箱を設置した。 募金活動にお寄せいただいた義援金は、4月22日現在で、991,668円となり、日本赤十字社へ送金した。 また、奏楽堂においては引き続き募金箱を設置し、文化庁が進めている「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）」のため(公財)文化財保護・芸術研究助成財団が行っている東日本大震災被災文化財の救援と復旧のための募金へ送金する予定。 ○【文化財保存学】学外にて卒業式を開催した際に募金活動を行い、日本赤十字社を通して239,500円を寄付（平成23年3月28日） http://www.tokyogeidai-hozon.com

【2. 救済物資等】 ②義援金

支部名	大学名	活動実績
東京	東京工業大学	○募金活動を行い、6月7日に約360万円を日本赤十字社に寄附 ○タイ国にて、東工大タイオフィス・TAIST Tokyo Tech・タイ蔵前会・NSTDA職員で共同で募金を行い、約8万円を日本赤十字社に寄附。
東京	東京海洋大学	○品川・越中島両キャンパスに募金箱を設置、並びに義援金口座を開設してHPに掲載し、募金活動を実施。4/28日まで実施し、集まった義援金（2,858,631円）については日本赤十字社に寄附（5月10日） http://www.kaiyodai.ac.jp/topics/2101/15341.html ○被災した本学学生への継続的な就学支援を目的に「東京海洋大学東日本大震災被災学生支援募金」を開始した。（5月10日） http://www.kaiyodai.ac.jp/topics/2101/15408.html
東京	お茶の水女子大学	○被災学生支援基金を設立し本学被災学生の修学支援を行い、1万円を114人に支援し、なかでも被害の大きかった8人に、その被害程度に応じ、30万円または15万円を支援。平成24年度の入学者、在学学生に対しても一部制度を適用。 ○学生自治会及び学生有志による募金活動を実施（実施中） ○大学及び学生団体との共催によるチャリティイベントを開催し、集まったお金を「全国友の会」に寄付した。
東京	電気通信大学	○東日本大震災被災者義援金（日本赤十字社を通じて被災地の復興支援のための義援金）、電気通信大学被災学生義援金（東日本大震災より経済的支援が必要な本学学生への奨学金等のための義援金）の2種類を5月31日までの受付期間で口座開設をした。 参考： http://www.uec.ac.jp/news/announcement/20110711-1.html 震災義援金 4,688,229円を日本赤十字社に寄付した。（6月7日） 学生義援金 5,950,000円を本学の対象学生16名に支給した。（7月11日） ○学生ボランティアによる卒業式、入学式での募金活動で集まった約16万円の義援金を日本赤十字社に寄付した。
東京	一橋大学	○7月31日まで、教職員・学生を対象に募金活動を行い、集まった義援金を日本赤十字社へ寄付を行った。
東京	政策研究大学院大学	○学内HPにて義援金募集团体の情報提供(平成24年3月末終了予定)
関東・甲信越	横浜国立大学	○3月15日から31日の間の教職員・学生による義援金1,383,991円を、日本赤十字社と日本ユニセフ協会に寄付した。（4月4日） ○4月8日から9月20日の間の大学と同窓会による義援金620,158円を、日本赤十字社と日本ユニセフ協会に寄附した。（9月29日）
関東・甲信越	新潟大学	○学内募金による義援金（9,479,514円）を日本赤十字社新潟県支部に寄附した。（5/30）

【2. 救済物資等】 ②義援金

支部名	大学名	活動実績
関東・甲信越	長岡技術科学大学	<ul style="list-style-type: none"> ・学内に義援金箱を設置、入学式で有志が募金活動、タイ、バンコクで本学留学生、元留学生が募金活動イベントに参加 ・集まった義援金は、2大学、5高専へ寄付（4月28日）及び日本赤十字に寄付予定 ・本学協力会から受入れた義援金を被災学生に配分（12月22日）
関東・甲信越	上越教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ○学内で募金活動を行い、集まった623,591円を日本赤十字社に寄付（5月2日） ○特別支援教育実践研究センターにおいて、教員を対象にした心理検査に関するチャリティー研修会を開催し、義援金128,000円を日本赤十字社に寄付（7月2日） ○学生有志ボランティアが募金活動等を実施し、1,413,404円を寄付（3月17日～9月30日） ○大学祭執行部が、第29回越秋祭(10月29日～30日)にて、学祭Tシャツの売り上げの一部と募金を義援金として寄付
関東・甲信越	山梨大学	<ul style="list-style-type: none"> ○学内及び同窓生等に呼びかけ募金活動を行い、3,975,940円を寄付。（5月19日） ○学生が街頭で募金活動を行い、集まった250,646円を日本赤十字に寄付。（3月28日） ○附属病院内設置の募金箱に寄せられた82,000円を震災救援金として山日YBS厚生文化事業団に寄付。（11月25日）
関東・甲信越	信州大学	<ul style="list-style-type: none"> ○学内で募金活動を行った。集まった義援金について、日本赤十字社及び長野県栄村への寄附、学生への見舞金支給を5月に行った。役職員、学生、大学生協、国際交流協定校から集まった総額8,986,049円について、義援金として日本赤十字社に6,754,279円、栄村に1,000,000円を寄附し、1,231,770円を被災した学生への見舞金とした。（5月10日）
東海・北陸	富山大学	<ul style="list-style-type: none"> ○学内で募金活動を実施し、義援金（3,669,100円）を日本赤十字社富山県支部へ寄付（6月17日）http://www.u-toyama.ac.jp/jp/news/2011_taiou/110711/index.html
東海・北陸	金沢大学	<ul style="list-style-type: none"> ・3月15日学内周知、集まった8,884,897円を被災在学生（28人）への見舞金（各10万円）、平成22年度卒業生（1人）への見舞金（5万円）を支給。残金及び利子は日本赤十字社に寄付(6,035,139円・6月27日) ・人間社会学類学校教育学類附属中学校で募金活動を行い、集まった140,000円を日本赤十字社へ寄付（3月17日） ・人間社会学類学校教育学類附属特別支援学校で募金活動を行い、集まった130,000円を日本赤十字社へ寄付（3月18日） ・人間社会学類学校教育学類附属高等学校の生徒会で募金活動を行い、集まった163,466円を岩手県、福島県及び宮城県の災害対策本部へ寄付（5月6日）
東海・北陸	福井大学	<ul style="list-style-type: none"> ○教育地域科学部送別会（兼同窓会入会式）会場において募集した義援金85,940円を、社会福祉法人福井県共同募金に寄付（3月末） ○日本赤十字社福井県支部に教職員、学生からの義援金、チャリティーコンサート入場料等2,474,000円を寄付（4月8日）、その後も募集を続け、新たに4月末までに集まった義援金を福島県へ調査団を派遣した際に4,000,000円寄附（5月24日）、日本赤十字社福井県支部に362,687円寄附（7月8日）
東海・北陸	岐阜大学	<ul style="list-style-type: none"> 教職員・学生対象の義援金の募集、卒業生・保護者等対象の義援金受付口座を開設 集まった9,275,834円（9月末まで実施）を日本赤十字社に寄附。

【2. 救済物資等】 ②義援金

支部名	大学名	活動実績
東海・北陸	静岡大学	○学内で募金活動を行い、集まった3,118千円を日本赤十字社に寄附。(5月13日) URL: http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq20110315_bkn.html
東海・北陸	浜松医科大学	学内で募金活動を行い、集まった3,272,203円を日本赤十字社に寄付(4月28日)
東海・北陸	名古屋大学	学内で募金活動を行い、集まった23,620,000円を愛知県被災地域支援対策本部長(大村愛知県知事)に届けた(3月31日) 附属病院内で募金活動を行い、集まった1,220,361円を愛知県被災地域支援対策本部長(大村愛知県知事)に届けた(11月7日)
東海・北陸	愛知教育大学	○学生や教職員が中心となって、駅前や卒業式会場等において支援金を募ったり、チャリティ演奏会を開催し、これまでに100万円を超える募金を復興支援金として日本赤十字社に送金した(3月31日)。また、5月18日～22日に開催する大学祭においても実行委員会(学生)が中心となって募金活動を行う予定である。い、学生、教職員合わせて16万円近くの募金を復興支援金として日本赤十字社に送金した(6月15日)。 ○大学後援会から、義援金100万円を中日新聞社を通じて寄付した。(3月30日) ○音楽教育講座に所属する教員によるチャリティーコンサートを開催し、募金活動を行った。 集まった約10万円を義援金として中日新聞社を通じて寄付した。(3月17日) ○同窓会から、中日新聞社会事業団へ100万円を寄付した。(5月26日) ○学内で募金活動を行い、集まった15万円を全附属カンガルーフレンズ事務局に寄付(10月17日) ○附属岡崎小学校が街頭募金活動を行い7万円を集めた(11月14日)。また、校内にて募金活動を行い3万円を集めた。(11月10日, 11日, 15日) ※その中から8万円を南相馬市立太田小学校の再開を支える義援金として12月に寄付した。残りを前述の緊急物資支援の購入に充てた。 ○附属岡崎小学校が街頭募金活動を行い約3万円を集めた(12月16日)。また、校内にて募金活動を行い約10万円を集めた。(12月16日, 19日) ※その中から10万円を南相馬市立太田小学校の再開後の生活を支援する義援金として3月に寄付する予定。残りを前述の緊急物資支援の購入に充てた。
東海・北陸	名古屋工業大学	○学内で募金活動を行い、集まった1,203,481円を愛知県に寄付(3月18日～6月23日) URL: http://www.nitech.ac.jp/other/anti_disaster_16.html
東海・北陸	豊橋技術科学大学	○3月18日～4月28日まで義援金募集。 ○5月10日～7月29日まで義援金募集(受付期間延長) ○被災した国立高等専門学校5校、独立行政法人国立高等専門学校機構及び日本赤十字社へ義援金振込(5月) ○家計支持者の住居が全壊した本学学生7名に対し見舞金を支給(7月・2月)。 ○義援金を独立行政法人国立高等専門学校機構へ寄附予定(3月)。
東海・北陸	三重大学	○学内で募金活動を行い、集まった1,000万円を日本赤十字に寄附。(4月14日) ○本学の協定校であるタイのコンケン大学から、東北地震被災者に対する義援金100万円が贈られ三重テレビ及び中日新聞社にそれぞれ50万円ずつ寄託。(4月20日)
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	学内で義援金を募り、4月末までに集まった700,044円を日本赤十字へ5月上旬に寄附予定(5月2日)。

【2. 救済物資等】 ②義援金

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	滋賀大学	○被災者の方々への救援、復興のため、役員、教職員、学生の有志が呼びかけ人となり、義援金の募金活動を行っており、日本赤十字社を通じて5月20日に寄付した。 http://www.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=35:4
近畿	滋賀医科大学	○学内で募金活動を行い、集まった1000万円を日本赤十字社滋賀県支部に寄附（4月6日） ○学内で募金活動を行い、集まった約8万円を日本赤十字社滋賀県支部に寄附（8月11日）
近畿	京都大学	・大学全体にて東日本大震災の被災者義援金を募集終了（9月29日まで実施）中 URL:http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news5/2010/110328_1.htm ・卒業式・入学式において義援金を募集 URL:http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news5/2010/110322_1.htm ・被災者救援義援金の送付 URL:http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news7/2011/110824_1.htm ・その他、研究科・講座単位等にて義援金の募集・提供
近畿	京都教育大学	○学内で募金活動を行い、集まった493,715円（3月分）を日本赤十字社に寄付した。（4月6日） ○大学開放行事で募金活動を行い、集まった10,814円を日本赤十字社に寄付した。（4月11日） ○被災地出身の学生が呼びかけ人となり賛同した学生たちによる、伏見区内での街頭募金（3月18日～21日）を募った。 ○学生自治会・学園祭実行委員会・学生有志が中心になっての学内での活動などにより募金を募り、義援金を日本赤十字社に寄付した。 ○学内で募金活動を行い、集まった107,647円（4月分）を日本赤十字社に寄付した。（5月2日） ○東日本大震災宮城教育大学被災学生支援募金」について、教職員からの募金及び音楽科関係教員有志によるチャリティーコンサートによる収益の263,370円を宮城教育大学に寄付した。
近畿	京都工芸繊維大学	○学内で募金活動を行い、集まった1,184,168円を日本赤十字社に寄附（9月末まで実施） URL:http://www.kit.ac.jp/O1/shinsaitaiou.html
近畿	大阪大学	○学内で募金活動を行い、集まった14,028,597円（5/10現在）のうち、第一弾として10,000,000円を日本赤十字社に寄付（4/8）、その後、6月末まで募金を受け付け、第二弾として5,441,065円を日本赤十字社に寄付（7/8）
近畿	大阪教育大学	○学内で募金活動を行い、集まった1,142,487円を日本赤十字社に寄附（4月19日） ○325,860円を日本赤十字社に寄附（5月16日）

【2. 救援物資等】 ②義援金

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	兵庫教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地の復興支援のため3月18日から学内で募金活動を行い、本学教職員、学生、児童、生徒、PTA等から1,259,743円の義援金があり、4月7日、全額を日本赤十字社を通じて寄付した。 ・附属小学校において、児童、教職員が募金活動を行い、4月27日に64,447円を日本赤十字社を通じて寄付した。 ・3月17日、18日 加古川駅前において、吹奏楽部によるチャリティーコンサートを開催し、収益金46万円を義援金として寄付した。 ・毎年、学位記授与式の後に実施している院生協主催の大学院の謝恩会（3月23日）を中止し、当該実施予算を義援金として寄付した。 ・3月24日、後援会から、義援金として20万円を寄付した。 ・4月11日～22日の間、ボランティアサークルが学内で募金活動を行い、4月27日に72,839円を日本赤十字社を通じて寄付した。 ・5月12日に、学部学生が学内でフリーマーケットを開き、売上金の6,242円を義援金として寄付した。 ・7月12日に、大学院同窓会から、被害の大きい岩手県、宮城県、福島県の教育委員会に学校等の教育支援を目的として、各20万円、合計60万円を寄付した。 ・宮城教育大学が実施している「宮城教育大学被災学生支援募金」の趣旨に賛同し、6月2日～6月30日の間、募金活動を行い、8月1日に208,113円を寄付した
近畿	神戸大学	<ul style="list-style-type: none"> ○学内で募金活動を行い、総計1942万円を日本赤十字社等に送金。 http://www.kobe-u.ac.jp/info/topics/t2011_06_24_02-1.htm ○H23.8.3開催した東日本大震災に係る公開シンポジウムで、参加者から集まった義援金9,908円をH23.8.5に日本赤十字社に寄附 ○神戸新聞に¥100,000円寄附(H23.5.11) ○青野原俘虜収容所再現コンサートで募金活動を行い、集まった義援金について、日本政府を通じて送金(平成23年10月14日、16日) http://www.office.kobe-u.ac.jp/crsu-chiiki/news/111021_bokin.html
近畿	奈良教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員に募金を呼び掛け、集まった1,156,110円を日本赤十字に寄付(4月4日)。 ○学内外で学生有志が募金活動を行い、集まった1,071,504円を日本赤十字社に寄付（3月24日、4月4日）。 URL:http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SECRETARY/higasinihondaisinsai.html ○附属中学校生徒会が校内で募金を呼び掛け、集まった300,987円を日本赤十字社に寄付（3月31日）。 URL:http://www.nara-edu.ac.jp/JHS/

【2. 救済物資等】 ②義援金

支部名	大学名	活動実績
近畿	奈良女子大学	<p>○大学として募金活動を行い、学内の募金活動だけでなく、学生及び教員の有志で行った学内及び街頭での募金活動を行ったものも一括して、8月末で募金額は累計995,570円となり、日本赤十字社に寄附した。学内での募金活動は、現在も継続中である。</p> <p>○大学を通じたものその他、附属学校独自でも行っており、附属中等教育学校では生徒会及び卒業生有志による駅前での音楽演奏等を行い幅広く義援金を募り、集まった約300万円を日本赤十字社他に寄附。（4月中）この活動は現在も継続中であり、7月末で募金額は累計約700万円になり、日本赤十字社などに義援金として、宮城県名取市で医療活動支援を行うNPO法人「地球のステージ」への支援金として送。支援を継続している。また、東日本大震災支援委員会を立ち上げ、「地球のステージ」への募金活動の広報に協力した。さらに、卒業生が被災地支援として作成したCD「復興の音色」の広報と販売にも協力した。</p> <p>附属小学校においては、3月19日の創立百周年記念式典、並びに記念同窓会において、児童、保護者、同窓生、教職員から義援金を募り、305,391円の募金があり、日本赤十字社奈良県支部へ持参した。（5月11日）</p> <p>附属幼稚園においては、卒園式において保護者に呼びかけ集まった約120,000円を日本赤十字社に寄附。（3月22日）また、4月29日にPTA総会等で呼びかけ、集まった30,079円を全附連カンガルーフレンズ事務局に寄附をした。（5月2日）</p> <p>○東日本大震災で被災した文化財の保全、救出、応急措置等の支援を目的として設立された、「文化財レスキュー応援せんと！実行委員会（事務局：奈良文化財研究所研究支援推進部内）」に参画している。古代学学術研究センターにおいては、活動の一環として、第7回若手研究者支援プログラム「古事記と萬葉集」（2011年8月21日～23日）のほか同センターの研究会、本学史学会大会、国大協との共催シンポジウム「古都奈良の都市防災」、第6回都城制研究集会（2012年2月5日）などにおいて募金活動を実施し、2月末で募金額は20,969円となった。平成24年3月末までに集まった募金をとりまとめ、実行委員会に送金予定であり、集募金は同委員会を通じて東日本大震災で被災した文化財の保全、救出、応急措置等に役立てられる予定。募金活動は今後も継続して行う。</p> <p>○文学部文化メディアコースでは、県立図書館で、海外での感謝の表し方や客のもてなし方を調査した一環で、日本の代表的なもてなし文化である茶会を開催し、その収益を東日本大震災の復興支援金として寄付した。</p>
近畿	和歌山大学	<p>学内で募金活動を行い、集まった669,235円のうち535,388円を日本赤十字社和歌山支部に、133,847円を全国大学生生活協同組合連合会に寄付。</p>
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	<p>○学内で募金活動を行い、集まった1,305,021円を日本赤十字に寄付（5月6日）</p>
中国・四国	鳥取大学	<p>○学内で募金活動を行い、義援金として総額228万円を日本赤十字社に寄附（義援金の募集は、9月末まで実施）</p>
中国・四国	島根大学	<p>○学内及び入学式等で募金活動を行い、360万円を日本赤十字社へ寄附（4月25日）</p>
中国・四国	岡山大学	<p>学内で募金活動を行い、累計14,163,150円を社会福祉法人山陽新聞社社会事業団を通じて東日本大震災義援金として寄付した。</p>
中国・四国	広島大学	<p>○学内で募金活動を行い、3月末日までに集まった15,092,249円を、日本赤十字社へ振込（4月8日）</p> <p>なお、8月末日まで募金受付</p> <p>○4月末日までに寄せられた義援金4,048,112円を、日本赤十字社へ振込（5月16日）。義援金合計19,140,361円。5月30日義援金「目録」を、日本赤十字社広島県支部（事務局長）へ持参</p> <p>○8月末日までに寄せられた義援金682,387円を、日本赤十字社へ振込完了（9月16日）。義援金合計19,822,748円。</p>

【2. 救援物資等】 ②義援金

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・ 四国	山口大学	<p>○学内で募金活動を行い、集まった7,155,346円を義援金（第1次）として日本赤十字に寄付した。（4月28日）。また、引き続き8月31日まで義援金の募集を行う。</p> <p>○8月31日まで学内で募金活動を行い、集まった1,316,602円を義援金（第2次）として日本赤十字に寄付した。（9月6日）</p>
中国・ 四国	徳島大学	<p>○環境サークルエコイストツ（学生サークル）が義援金募集活動を行い、日本赤十字社徳島県支部に寄附（3月27日）</p> <p>○防災サークルまもりすと（学生サークル）が義援金募金活動を行った（3月19日）。また、卒業式においても義援金募金活動を行い、日本赤十字社徳島県支部に寄附（3月23日）</p> <p>○学内において教職員、学生、患者の皆様義援金を募集中（24年3月31日まで）</p> <p>○教職員に対し、被災地支援金を募集中（5月31日まで実施）</p> <p>○東日本大震災義援金と被災地支援金880万円を日本赤十字社徳島県支部に寄附（6月3日）</p>
中国・ 四国	鳴門教育大学	<p>○学生による、募金活動を3月18日に実施し、集まった寄附金146,532円を日本赤十字社徳島県支部へ義援金として寄附した。（3月22日）</p> <p>○学生による、チャリティイベント(フットサル大会)を3月20日に実施し、集まった寄附金10,976円を日本赤十字社徳島県支部へ義援金として寄附した。（3月20日）</p> <p>○学生によるチャリティーバザーを4月9日から13日まで実施し、売上金及び寄附金の合計95,169円で必要な学用品(ハーモニカ吹口、ピアノカ等)を購入し、ユネスコ・スクールのネットワークを通じて、被災地の学校へ送付した。（4月25日）</p> <p>○学生・教員による、チャリティーライブを5月20日に実施し、集まった寄附金110,955円を日本赤十字社徳島県支部へ義援金として寄附した。（5月20日）</p> <p>○鳴門教育大学と鳴門市との連携による募金活動を3月22日から9月30日まで実施し、学生、教職員からの寄附金として、日本赤十字社徳島県支部へ次の寄附を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・45,357円(3月25日) ・30,089円(4月8日) ・34,765円(4月22日) ・23,000円(5月17日) ・46,787円(6月24日) ・26,600円(7月29日) ・60,701円(10月3日) <p>合計 267,299円</p> <p>※鳴門教育大学ホームページ URL : http://www.naruto-u.ac.jp/earthquake/</p>
中国・ 四国	香川大学	<p>○学内等で募金活動を行い、集まった4,470,467円を日本赤十字に寄託（4月19日）</p> <p>※上記、義援金には、帰国留学生ネットワーク（香川大学への留学生OB）中国支部からの義援金約42万円を含む。</p> <p>URL:http://www.kagawa-u.ac.jp/articles/000/006/974/</p> <p>○教育学部附属坂出小学校児童会8名が、校内で募った義援金290,584円を坂出市役所を通じて日本赤十字社へ寄託（3月24日）</p> <p>○教育学部附属高松中学校生徒会が、生徒会で募った義援金100,000円を日本赤十字社へ寄託（3月30日）</p> <p>○教育学部附属高松小学校教頭が、児童のお小遣い等から募った義援金55,340円を日本赤十字社へ寄託（5月12日）</p>

【2. 救援物資等】 ②義援金

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・ 四国	愛媛大学	<p>○学内学生団体等が、松山市内で募金活動を実施した。(3月16日)</p> <p>○附属高校生徒会で募金活動(募金箱の設置)を行い、集まった49,914円を日本赤十字社(愛媛県支部)に寄付した。(3月18日)</p> <p>○海外研修「リーダーシップ・チャレンジ in 韓国」参加学生が、韓国で募金活動を行い、集まった約154万8000ウォン(米ドル・日本円含む)を韓国赤十字社に寄附した。(3月22日)</p> <p>○附属中学校内PTAで募金活動を行い、集まった228,821円を愛媛県教育委員会に寄付した。(3月23日)</p> <p>○附属小学校児童会の呼びかけで義援金活動を行い、赤十字社を通して254,765円(3月24日)、全附連カンガルーフレンズ事務局を通して200,002円(4月19日)を寄付した。</p> <p>○附属幼稚園内PTAで募金活動を行い、集まった32,047円を愛媛県教育委員会に寄附した。(3月末送付)</p> <p>○学内で募金活動(3月末卒業式での募金活動を含む。)を行い、集まった6,939,158円を日本赤十字(愛媛県支部)に寄付した。(4月7日)</p> <p>○学生吹奏楽団が「スプリングチャリティコンサート」を開催し、集まった義援金を日本赤十字社に寄附した。(4月23日, 24日)</p> <p>○附属特別支援学校生徒会を中心に募金活動を行い、集まった169,989円の内47,500円を全附連東日本大震災義援金活動に、122,489円を全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会に寄付した。(5月18日19日)</p> <p>○附属高校農業クラブが愛媛県学校農業クラブ連盟を通して、会費の一部、1,030円を義援金として寄付した。(5月25日)</p> <p>○附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、教育実践総合センターの教員92名で27,390円を愛媛県教育会に寄付した。(6月24日)</p> <p>○附属幼稚園PTAで募金活動を行い、集まった15,158円を全国国立大学附属学校連盟に寄付した。(7月19日)</p> <p>○附属高校愛附祭での利益の一部、72,006円を義援金として寄付した。(10月)</p> <p>○実家が被災し、家が全壊した理学部生1名に理学部後援会から10万円を支給した。</p>
中国・ 四国	高知大学	<p>○学内で募金活動を行い、集まった3,408,850円を高知県庁を通じて被災地に寄付(4月5日)</p>
九州	福岡教育大学	<p>○学内で募金活動を行い、集まった1,396,156円を日本赤十字に寄付(4月20日) http://www.fukuoka-edu.ac.jp/whatsnew/details.php?id=430</p> <p>○社会のみなさまへも呼び掛け、東日本大震災の被災者を救援するために、義援金を募っている。</p>
九州	九州大学	<p>・本学学生、教職員に募金への協力を呼びかけ、第1回締切日4/6、第2回締切日6/15、第3回締切日9/21までに寄せられた寄付金を日本赤十字社に送金。</p> <p>・マス・フォア・インダストリ研究所、文学部、文学部親交会、法学部、比較社会文化研究院、数理学研究院、附属図書館においても募金活動、寄付を実施。</p>
九州	九州工業大学	<p>○学内外で募金活動を行い、集まった4,871,899円を区役所を通じて日本赤十字社に寄付した。(4月28日まで受付) 〔URL:http://www.kyutech.ac.jp/info/id413.html〕</p>
九州	佐賀大学	<p>○学内等で募金活動を行い、集まった2,056,500円を「社会福祉法人佐賀県共同募金会」及び「社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会」に寄附(4月22日)</p> <p>○学生ボランティアが学内外で募金活動を行い、集まった約150万円を「社会福祉法人佐賀県共同募金会」等に寄附(3月28日)</p> <p>○文化教育学部東日本大震災復興支援チャリティー講演会、学内音楽コンサート(5月20日)を行い、集まった26,730円を「日本赤十字社佐賀県支部」に寄附(6月13日)</p> <p>○留学生会で募金活動を行い、集まった17,158円を佐賀新聞社へ持参(5月27日)</p>

【2. 救援物資等】 ②義援金

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	長崎大学	○学内外で募金活動を行い、集まった2,373,000円を日本赤十字に寄付
九州	熊本大学	○教職員・学生等を対象に義援金を募り、集まった11,036,240円を熊本日日新聞社を経由して日本赤十字社へ寄付（平成23年3月31日、4月25日） http://www.kumamoto-u.ac.jp/whatsnew/2010/news1329.html （第一次報告） http://www.kumamoto-u.ac.jp/whatsnew/2011/news1344.html （第二次報告）
九州	大分大学	3月31日に大分合同福祉事業団へ義援金を届けた。 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員からの義援金 8,390,000円 ・患者さんからの義援金 40,661円
九州	宮崎大学	○学内で募金活動を行い、集まった5,834,625円（国際交流協定校からの義援金を含む）を日本赤十字社に寄付（5月10日、6月22日）
九州	鹿児島大学	○全学の取組（全学教職員・学生対象） <ul style="list-style-type: none"> ・第一次：3月14日～3月31日（1,456万円） （4月14日に日本赤十字社鹿児島支部長（伊藤鹿児島県知事）へ目録贈呈、同日振込） URL:http://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2011/04/post-68.html ・第二次：4月1日～4月25日（98万円） 5月13日に日本赤十字社鹿児島支部へ振込 ・第三次：5月10日～7月29日（718,782円） 8月9日に日本赤十字社鹿児島支部へ振込 ・第四次：8月8日～12月22日（410,551円） 1月6日に日本赤十字社鹿児島支部へ振込 ・第五次：1月11日～3月22日 （鹿児島宇宙焼酎ミッション（「宇宙だより」収益金の一部 717,120円の申込みあり） ○ボランティア支援センターの取組（金額は上記に含む） <ul style="list-style-type: none"> ・学内に募金箱を設置（3月14日～3月31日） ・学生が、天文館等で募金活動（3月17日～3月20日まで） ・学内において募金活動（4月1日～4月25日） ・学祭期間中、学内において募金活動（11月11日～11月12日）
九州	鹿屋体育大学	○学内で募金活動を行い、集まった680,901円を日本赤十字社に寄附（5月13日）
九州	琉球大学	○東日本大震災で被災された方々のために在学生の保護者、学生及び教職員等から義援金を募集し、約6百万円の寄附を行った。（一部を3月29日に中央共同募金会へ寄附し、残金については、5月11日に日本赤十字社に寄附を行った。）また、8月24日に宮城県災害対策本部へ約38万円の寄附を行った。なお、学内での義援金の募集を9月22日まで継続して行い、9月末までに全額を日本赤十字社へ寄附を行う予定としている。

【3. 学生及び研究者支援】 ①被災した学生の入学等の弾力的取扱い

支部名	大学名	活動実績
北海道	北海道大学	<p>○入学料の免除及び返還、授業料免除、寄宿料の免除等について実施。 授業料免除前期78件 (学部生47名、修士課程23名、博士課程4名、専門職学位課程4名) 後期108件、(学部生65名、修士課程34名、博士課程6名、専門職学位課程3名) 前後期延べ186件 入学料免除13件(学部生2名、修士課程9名、博士課程1名、専門職学位課程1名) 寄宿料免除1件(学部生1名) ○大学院入学予定者からの要請に個別に対応し、入学手続き期間を延長。 ○東日本大震災で被災した本学学部志願者27名に対し、受験支援金の給付を決定。</p>
北海道	北海道教育大学	<p>《全学》○震災の影響を受けた入学志願者を対象に3回の追試験を実施 ○本学の被災した新入学生10名(実家が全壊・半壊・床上浸水、学資支給人が死亡・行方不明)に対し、入学料の全額免除を実施した。(7月1日) ○本学の被災した学生25名(実家が全壊・半壊・床上浸水、学資支給人が死亡・行方不明)に対し、前期授業料の全額免除を実施した。(7月1日) ○本学の被災した学生28名(実家が全壊・半壊・床上浸水、学資支給人が死亡・行方不明)に対し、後期授業料の全額免除を実施した。(12月28日) ○平成24年度の本学への入学志願者のうち、東日本大震災により自宅家屋が全壊したり、家計支持者が死亡した者等については、進学機会を確保するため、入学検定料返還の特別措置を講じた。</p>
北海道	室蘭工業大学	<p>○被災した学生の授業の対応について(4月11日~5月6日)(5月6日まで実施) ※震災に付随する事由により授業を欠席した学生については、登校できないその期間については、補講による授業、インターネットを活用した学修、レポート提出等により欠席扱いとしないこととした。 ○被災学生の入学料免除申請をあらためて行うとともに、授業料免除申請期間を延長(新入生、在学学生とも)した。 URL:http://www.muroran-it.ac.jp/saisin/disaster/index.html 被害の程度に応じて、全額免除・半額免除とした。(入学料:全額免除3名、半額免除1名/前期授業料:全額免除13名、半額免除6名/後期授業料:全額免除10名、半額免除1名) ○大学入試センターの特例措置(検定料免除)の趣旨に賛同し、同センターの特例措置を受けた志願者を対象に申請により学部一般入試の入学検定料を免除することとした。(3月実施予定)</p>
北海道	小樽商科大学	<p>○被災した学生に対して、入学料免除、授業料免除を措置(平成23年度まで) ○被災した学生に対して、学生寮の寄宿料の免除を措置(平成23年度まで) ○被災した受験生に対して、検定料の不徴収を措置</p>
北海道	帯広畜産大学	<p>入学手続き期間を猶予した。1名について入学料免除を決定した。授業料免除について、被災学生6名について弾力的に取り扱った(半額免除・猶予を全額免除とした)。 ○後期分授業料免除についても被災学生6名について弾力的に取り扱った(半額免除・猶予を全額免除とした)。 ○被災した学生に対する検定料の免除を、大学院を含むすべての入学試験を対象に行った(一旦検定料を払わせた後に、2月に免除申請期間を設け、許可された受験者に返納)。</p>
北海道	旭川医科大学	<p>○被災した学生に対する日本学生支援機構奨学金の緊急採用及び応急採用の措置について周知した。(平成23年度末まで実施) ○風水害等の災害による、入学料又は授業料の免除及び徴収猶予について周知した。(平成23年4月12日まで実施) ○平成23年4月から、学習に専念できる環境の整備を図ることを目的に、大学独自の奨学資金貸与制度を整備した。 授業料免除や日本学生支援機構奨学金の支給に加えて、経済的支援を必要とする場合は、本制度の活用も図ることとしたが、希望者はなかった。(平成23年4月下旬まで実施)</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ①被災した学生の入学等の弾力的取扱い

支部名	大学名	活動実績
北海道	北見工業大学	<p>入学料免除、授業料免除及び寄宿料免除について検討中である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学料免除、前期分授業料免除、寄宿料（4～9月分）免除、奨学金の支給を実施済み。 ・後期分授業料免除、寄宿料（10～3月分）免除、奨学金の支給を実施済み。 ・被災学生1名の休学を4月に遡及し許可した。（6月21日申請） ・被災者等の検定料全額免除を実施した。
東北	弘前大学	<p>○授業開始日を5月9日（月）に繰り下げた。 URL:http://www.hirosaki-u.ac.jp/information/01.pdf</p> <p>○授業料納付期限の繰り下げを6名に対して行った。</p> <p>○納付済みの入学料・授業料を申し出に応じ、3名の学生に返還した。</p> <p>○入学料・授業料免除の申請期限を延長（4月25日まで。震災枠は5月13日まで）した。</p> <p>○本学の被災学生への入学料・授業料免除枠を設定するとともに、生活支援金を給付することとし、被災学生枠として入学料免除を16名、授業料免除を70名に実施した。また、生活支援金として59名の被災学生に一時金を支給した（7月まで実施）。</p> <p>○学生寮への入寮について、被災学生枠を設け、優先的に入寮を許可した（現在3名）。 URL:http://www.hirosaki-u.ac.jp/information/06.pdf</p> <p>○弘前大学農学生命科学部後援会では被災学生に対し、一律3万円を給付（15名）。また、平成23年度入学者に対する初年次教育の学習助言者として、被災学生に担当を依頼し、謝礼金を給付している（2名）。</p>
東北	岩手大学	<p>○平成23年度の授業開始日を5月9日とした。（教育学部2年次以上の専門科目は4月18日から開始）</p> <p>○平成23年度入学式を中止し、新入生歓迎の行事（5月9日9時30分～「新入生歓迎の集い」）を実施した。</p> <p>○被災学生の平成22年度入学料及び授業料を徴収猶予（6ヶ月）した。</p> <p>○就職内定取消の 学生が大学に籍を置いて進路を検討する場合は、入学検定料や授業料を徴収しない「特別学部研究生」として2名を受け入れた。</p> <p>○被災学生の平成23年度入学料、授業料及び寄宿料を免除・減額した。また、希望者に対し奨学金を給付した。これらの措置は平成24年度も継続する。</p> <p>○被災受験生の平成24年度入試検定料を免除した。</p>
東北	東北大学	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度学位授与式中止（学位記及び総長告示を4月上旬に郵送） ・学部、大学院入学式、新入生オリエンテーション等を4月6日から5月6日に変更（各局部単位で実施） ・授業開始日：全学教育（学部1、2年次）5月9日、学部専門授業及び大学院授業4月25日以降、準備が整い次第開始 ・一般入試（前期日程）の入学手続の締切日を3月15日から3月27日に延長した。また、一般入試（後期日程）についても、合格発表日は3月20日を3月25日とし、入学手続は、3月25日～27日を3月28日～4月8日とした。 ・東日本大震災により被災した学部入学志願者に対する入学検定料の免除について、被災者の経済的負担を軽減し、受験生の進学機会の確保を図るために、今年度を実施する学部入学者選抜試験に限り、入学検定料免除の特別措置を講ずることとした。
東北	宮城教育大学	<p>○平成23年度の授業開始日を5月9日に繰り下げ。</p> <p>○入学料及び授業料免除枠の拡大（24年度も実施予定）</p> <p>入学料免除 全免20名（うち被災学生20名）、半免6名（うち被災学生1名）</p> <p>前期授業料免除 全免192名（うち被災学生111名）、半免95名（うち被災学生17名）</p> <p>後期授業料免除 全免220名（うち被災学生131名）、半免88名（うち被災学生28名）</p> <p>○被災した平成24年度入学志願者126名の検定料免除</p>
東北	秋田大学	<p>○被災学生については入学料・授業料免除の申請期間を延長し、可能な限り対応した。</p> <p>○被災学生については入学金料・授業料の免除枠を別枠に設け行った。</p> <p>○被災学生で希望した場合は、免除判定結果前に既納の入学料・授業料を返還した。</p> <p>○授業開始日を4月13日に繰り下げた。</p> <p>○医学部医学科2～6年次において、授業開始日を4月4日から4月18日に繰り下げた。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ①被災した学生の入学等の弾力的取扱い

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	山形大学	<p>○本学教職員から寄附を募り(山形大学被災学生支援基金)、被災された本学の学生へ返還不要の奨学金として前期分授業料免除対象者に給付した。後期分授業料免除対象者にも同様に奨学金を給付予定である。</p> <p>○被災学生で修学が困難な学生に対して、通常の休学期間には算入せずに1年を超えない範囲で休学を許可する規則の改正を行った。</p> <p>○被災学生に対して、被災の度合いに応じて、前期分授業料の半額または全額の免除を適用した。なお、後期分授業料も同様の基準で、免除を実施した。</p> <p>○被災学生に対して、平成24年度についても入学料免除及び授業料免除を実施することとした。</p> <p>○大学独自の奨学金制度について、規程を一部改正し、被災学生の実情に応じて、貸与金額を増額及び返済期間を延長可能とした。</p> <p>○平成23年度前期分授業料免除願書受付期間を3月中旬(農学部のみ4月上旬)から4月20日(水)まで繰り下げた。</p> <p>なお、被災学生に対しては、6月8日(水)まで受け付けた。</p> <p>○平成23年度入学料免除申請受付期間を4月7日(木)・8日(金)から4月21日(木)・22日(金)に繰り下げた。</p> <p>○入学料を納付し入学手続きを行った後に被災した学生に対して、「入学料免除申請」を受け付けた。</p> <p>○被災した新入学生及び在学生の学生寮への受け入れ。</p> <p>○学生寮入寮者及び新入寮者で、被災した学生の寄宿料免除について、13名から申請があり、全員を6ヶ月間の寄宿料を免除とした。</p> <p>○基盤教育の授業開始日を4月25日に繰り下げた。</p> <p>○人文学部では、授業開始日を4月25日に繰り下げた。</p> <p>○理学部では、授業開始日を4月25日に繰り下げた。</p> <p>○医学部では、授業開始日を4月4日から5月9日に繰り下げた。</p> <p>○工学部では、授業開始日を4月22日まで繰り下げた。</p> <p>○農学部では、授業開始日を当初の4月11日より2週間遅らせて4月25日からとした。(小白川の1年生を除く農学部学生を対象)</p> <p>○工学部被災学生に対する独自の奨学金制度の創出と基金設立</p> <p>○被災された受験生に対して、平成24年度学部入学者選抜試験に係る検定料の免除を行った。(申請者数284人)</p>
東北	福島大学	<p>○被災学生の入寮許可。</p> <p>○5月から授業開始。(新入生を迎える会(入学式)5月9日、授業開始5月12日など)</p> <p>○入学料・授業料免除申請などの手続きは5月。</p> <p>○入学手続き期間の延長。</p> <p>○入学手続きの弾力的取扱い。(意思確認をもって入学予定者とし、入学料や手続き書類等の遅れに柔軟に対応した)</p> <p>○今年度全ての入試について、検定料を免除。</p> <p>○被災状況に応じ、入学料・授業料免除を実施。</p>
関東・甲信越	茨城大学	<p>○入学手続きの弾力化(期間終了後の手続き者152名)、オリエンテーション等の実施時期及び授業開始日を繰り下げ、また、参加できない学生については別途対応</p> <p>○定期健康診断等を指定日に受診できない学生について、別日程での受診を許可</p> <p>○奨学金の返済猶予申請について、申請が困難な場合は個別に対応</p> <p>○前期分授業料免除・徴収猶予の受付について、時期を延期</p> <p>また、郵便による申請も受け付けるとともに、申請が困難な場合は個別に対応</p> <p>○新入生に対する入学料免除(49名)、授業料免除、奨学金の給付を実施</p> <p>○在校生に対する授業料免除、奨学金の給付を実施</p> <p>(授業料免除は、前期・後期あわせて443名、本学独自の奨学金は1人18万円 20名)</p> <p>【東日本大震災に関する本学の対応(新入生・在学生の授業開始等について)】</p> <p>【東日本大震災に関する本学の対応(東日本大震災及び福島第一原発事故による被災にかかる平成24年度学費の免除について)】</p> <p>http://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/jishinjouhou/</p> <p>○留学生のための就学相談を実施</p> <p>○被災学生に対する学生寮への優先受付</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ①被災した学生の入学等の弾力的取扱い

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	筑波大学	<p>○4月中に提出された休学願は、4月1日からの休学を許可</p> <p>○新入生オリエンテーション欠席者には個別対応を実施</p> <p>○授業開始に間に合わない学生には、特別な配慮（補講、課題、レポート等）</p> <p>○入学時期の延長</p> <p>○被災した世帯の学生に対して入学料、授業料、寄宿料の減免を実施</p> <p>○被災地域の大学の学生の受け入れ体制（科目等履修生、特別研究学生）を整備し、HPで周知した。</p> <p>○個別学力検査等（前期日程）の入学手続期間について、郵便事情を勘案して配慮した。</p> <p>○個別学力検査等（後期日程）の実施を中止し、大学入試センター試験成績及び調査書等の成績をもって合格者を決定した。</p> <p>○個別学力検査等（後期日程）の合格発表日を3月20日から3月24日に変更した。</p> <p>○個別学力検査等（後期日程）の入学手続期間について、郵便事情を勘案して配慮した。</p>
関東・甲信越	筑波技術大学	<p>・平成23年度の入学式を4月6日から4月13日に繰り下げ。</p> <p>・平成23年度の授業開始日を4月11日から4月18日に繰り下げ。</p> <p>・東日本大震災及び長野県北部の地震により災害救助法（昭和22年法律第118号）が適用された地域で被災した学生に係る入学料、授業料及び寄宿料を、災害の程度により全額または半額免除する特別措置をとることとした。</p> <p>5月下旬に免除を決定・通知。その後、更に、被災状況の再調査を行い、7月下旬に追加の免除を決定・通知した。</p> <p>・被災した学生への義援金を学内で集め、上記免除結果と併せて5月下旬に被災学生に対して義援金を贈呈した。</p>
関東・甲信越	宇都宮大学	<p>○平成23年度入学料の免除を予定し実施した。</p> <p>○東日本大震災の影響により、授業料納付が遅れた学生に対し、授業料納付期限の延長措置を行った。</p> <p>○学部1年次生入学試験（私費外国人留学生入試を除く）において、入学検定料免除の実施を決定し、該当学生募集要項及び大学ホームページにおいて周知した。</p> <p>http://www.utsunomiya-u.ac.jp/admission/pdf/kenteiryomenjo.pdf</p> <p>その後、19名に対し、入学検定料免除を実施した。</p>
関東・甲信越	群馬大学	<p>○東日本大震災により被災した学生に対する経済的な支援の一環として、学費負担者の家屋の損害や家計収入の減少などを理由として授業料等の納付が困難となった学生に対して、入学料免除 15名、授業料免除 45名を実施</p> <p>○東日本大震災に罹災した志願者に係る検定料免除を実施（12人）</p>
関東・甲信越	埼玉大学	<p>○前期日程合格者の入学手続期限を3月11日から3月15日に延長（3月12日）</p> <p>○入学料免除の再募集</p> <p>○授業料免除の再募集</p>
関東・甲信越	千葉大学	<p>○被災学生について、当初の受付期間を延長して、入学料免除申請・授業料免除申請を受け付けた。（被災関係入学料免除申請：45件、被災関係授業料免除申請：121件）</p> <p>→各免除者数：入学料免除（全額免除）37件 前期授業料免除（全額免除）114件</p> <p>後期授業料免除（全学免除）131件</p> <p>○4月28日までに学生から休学申し出があった場合、4月1日に遡って休学を認めることとした。（計19名）</p> <p>http://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/article2011/20110418kyuugaku.html</p> <p>○前期授業日程については、土曜日に授業開講・被災学生の履修登録期間の延長等、可能な限り弾力的に取扱うこととした。</p> <p>http://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/article2010/20110325zyugyokaishi.html</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ①被災した学生の入学等の弾力的取扱い

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	東京大学	<p>○授業開始日の繰り下げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年5月6日に繰り下げ（工学部） ・同年5月10日に繰り下げ（経済学部） <p>http://www.u-tokyo.ac.jp/public/AntiDisaster/info_20110325_j.html</p> <p>○避難留学生に対して、申請に基づき2ヵ月以上の休学を許可</p> <p>http://www.u-tokyo.ac.jp/public/AntiDisaster/info_20110405_j.html</p> <p>○被災した入学志願者の検定料免除の決定（平成23年12月2日）</p> <p>平成24年4月入学者選抜試験（平成23年10月1日を含む）に係る検定料を免する特例措置を講ずることとした。</p>
東京	東京医科歯科大学	<p>○本学独自の取り組みとして、入学料並びに授業料及び寄宿料の免除について実施した。</p> <p>○平成24年度4月入学者に係る入試について、被災した学生の入学検定料免除制度を設け、1名から申請があり免除した。</p>
東京	東京外国語大学	<p>○本学の被災学生に対する義援金を募集し、約378万円の寄附が集まった（7月7日現在）。東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故により保護者が被害を受け、就学に当たり経済的支援を要する学生17名に対し総額170万円の義援金を配分し、残額も東北地方太平洋沖地震による被災学生への緊急奨学金等に充てた。</p> <p>http://www.tufs.ac.jp/jishin/information/gienkin_bosyu.html</p> <p>○東京外国語大学基金（創立百周年記念教育研究振興基金）を活用し、新入学生については、入学料（282,000円）及び年間授業料（535,800円）の合計額（817,800円）を、また、在学生については、年間授業料（535,800円）を、合わせて18名に支給した。</p> <p>http://www.tufs.ac.jp/jishin/applicants/kikin-shien.html</p>
東京	東京学芸大学	<p>・被災した学生には、何かあったら学生課へ相談に来てほしいと3月24日ホームページやweb掲示板で案内した。相談を申出た学生には、大学で案内できる具体的な支援（jassoをはじめ大学外の奨学金や大学独自の奨学金、授業料免除等）を説明し、どのような支援を希望するのか、また被害の状況や家族の現況などを記入してもらい、学生委員会委員によるヒアリングを行った。→授業料免除の申請書類の提出に関し、被災の影響で遅れるものについて締切日を過ぎても受領することとした。</p> <p>・ヒアリングの結果をもとに、通常の免除とは別に、春学期分として被災特別枠を設け免除（入学料・授業料・寄宿料）を実施した。その後も被災相談の申出があるので、秋学期の免除申請受付は終了したものの、秋学期について、被災学生への支援をどうするかを検討した結果、被災特別枠として、①春学期に被災枠で免除を実施した学生で免除申請のあった学生について秋学期分についても状況に見合った免除を、②4月の被災学生面接以後に被災を申出た学生については10月末に学生委員会委員の面接を実施し、秋学期授業料の免除を実施した。</p> <p>なお、当初学内予算で被災学生支援分の特別授業料免除の経費を措置したが、補正予算の配分があったので、補正予算での不足分を学内予算で措置した。</p> <p>・平成16年の中越地震時にならない、被災学生を支援するために、通常とは別枠で入学料と授業料と寄宿料の免除を実施するとして学内経費で予算を確保し、通常の免除枠にプラスして免除を実施した。</p> <p>入学料免除（全額1名、半額1名）、 前期授業料免除（全額13名、半額17名）、 前期寄宿料免除（5名）、 後期授業料免除（全額10名、半額25名）、 後期寄宿料免除（5名）、 東京学芸大学独自奨学金「学芸むさしの奨学金」（前期24名・後期9名支給）。</p> <p>・平成24年度入学試験受験者に関し被災を理由とした入学検定料の免除を実施。 ・平成24年度以降の東日本大震災等被災学生への入学料・授業料・寄宿料の免除について方針を役員会で決定。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ①被災した学生の入学等の弾力的取扱い

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	東京農工大学	<p>○被災地域出身学生が様々な事情で授業を欠席する場合は、欠席扱いとしない等の配慮を行う。</p> <p>○被災等の理由（留学生が母国からの退避勧告等による場合のほか、自己判断で一時帰国している場合を含む）により、学生が休学を申し出た場合は、授業料納付期限前（5月末日）であれば4月1日に遡及し休学を認める。（5月末日まで実施）</p> <p>○電力の総量規制等電力抑制に対応するため、小金井キャンパスにおいて授業時間を45分繰り上げるサマータイムを実施した。（6月20日～7月末まで）</p> <p>○学年暦の変更については、部局の事情に合わせて弾力的に運用することを可能とし、前学期の授業を7月末までに終了した。</p> <p>○「東日本大震災」及び「福島第一原子力発電所の事故」により被害を受けた平成23年10月入学及び平成24年4月入学の志願者（学部及び大学院）に対し、入学検定料免除の措置を実施し、延べ11名の検定料を免除した。</p>
東京	東京藝術大学	<p>○入学料免除：（1315名申請→1312名免除）、授業料免除：（2836名申請→2432名免除）</p> <p>○「履修登録ができない」学生については、履修手続き期間の延長を行った。</p> <p>○「授業に出席できない」学生については、4月は出席扱いとし、5月以降は個別対応を行うこととした。</p>
東京	東京工業大学	<p>○被災したため期日までに入学手続きができない学生に対して入学意思の確認をしたうえで入学手続きの期日を延長。被災のため入学直後に休学を希望する学生に休学を許可する体制を整備。（希望者なし）</p> <p>○本学HPで各種経済支援について周知したところ、11名の被災学生から入学料免除申請があった。</p>
東京	東京海洋大学	<p>○被災し後期日程を受験できなかった者に対し、本人からの申請に基づき、別途受験機会を与えたところ（4/15までを受け付け申込み期限とした。）、1名の応募があった。 http://www.kaiyodai.ac.jp/topics/2107/14984.html</p> <p>○学生寮の空室を、東日本大震災で被災した地域の学生を対象に募集を行った。（募集期間：平成23年4月18日～28日）</p> <p>○東日本大震災の地震及び津波等により被災した学生を対象に、入学料免除及び授業料免除の募集を行った。（募集期限：4月28日） http://www.kaiyodai.ac.jp/news/3105/15194.html http://www.kaiyodai.ac.jp/news/3105/15195.html</p> <p>○東日本大震災の地震及び津波等で被災したことにより、家計が急変し、経済的に困窮している学生に対して、25万円給付の募集を行った。（募集期限：5月20日） http://www.kaiyodai.ac.jp/news/3105/15196.html ※追加募集（募集期間：平成23年9月5日～9月30日予定） http://www.kaiyodai.ac.jp/news/3105/15862.html</p>
東京	お茶の水女子大学	<p>○被災学生の学生寮への優先的入寮枠を確保（6名）（4月上旬まで線下）</p> <p>○入学料及び授業料免除の受付期間の延長（19件）（4月下旬まで線下）</p> <p>○入学手続き時における提出書類の受付期間の遅延（適宜線下）</p> <p>○被災学生に対する授業料等免除取扱特例制度を設置し、これにより入学料1名、授業料3名を免除した。平成24年度入学者、在学生に対しても適用する。</p>
東京	電気通信大学	<p>○東日本大震災のため研究生及び科目等履修生等の入学料及び授業料徴収猶予に関する申合せを制定した。（正規生に関しては制定済み）</p> <p>○在学生の学資負担者が被災して亡くなったため、4月1日に遡及して休学を許可した。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ①被災した学生の入学等の弾力的取扱い

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	一橋大学	<p>○授業開始日を2週間繰り下げて4月18日とした。入学式や新入生向けの各種ガイダンス等も1~2週間繰り下げた。</p> <p>○平成24年度学部入試において、入学検定料免除の実施した。(東日本大震災により被災した者に係る一橋大学学部の検定料の免除に関する特例規則)</p> <p>○入学料免除の実施(一橋大学入学料免除及び徴収猶予規則第2条第一項)</p>
関東・甲信越	横浜国立大学	<p>○入学手続き期間の延長</p> <p>○入学料及び授業料の免除、徴収猶予</p> <p>○入学直後の休学</p>
関東・甲信越	新潟大学	<p>○後期日程試験(3/12)に追試験日(3/17)を設定した。</p> <p>○後期日程試験(追試験)を受験できなかった者に受験機会を確保する特別措置を実施した。(4/15までに申出)</p> <p>○前期日程の入学手続き期間(3/15まで)の延長を行った。</p> <p>○後期日程の入学手続き期間(3/27まで)の延長を行った。</p> <p>○23年度入学生で入学料納入後に被災した学生に対して入学料免除の体制を整備した。</p> <p>○被災した学生の23年度前期分・後期分の授業料免除(全学又は半額)の体制を整備した。</p> <p>○被災のため仕送りができない学生に対して修学支援貸与金制度を設定した。</p> <p>○家計急変により就学の継続が困難になった学生に対して、奨学金給付制度を設定した。</p>
関東・甲信越	長岡技術科学大学	<p>・入学料、授業料及び寄宿料の免除を実施。</p> <p>平成24年度入学者 入学料、授業料免除 本学独自の奨学金制度から被災学生に給付</p>
関東・甲信越	上越教育大学	<p>○入学料の全額又は半額を免【全額2人、半額2人】</p> <p>○平成23年度の授業料に限り全額又は半額を免除【全額6人、半額19人】</p> <p>○平成23年4月から9月分までの寄宿料の全額を免除【11人】</p> <p>○岩手県、宮城県、福島県、茨城県から派遣される現職教員の検定料、入学料、授業料を3力年不徴収とする特例規程(H23.6.15制定)を整備</p> <p>○平成24年度学校教育学部入学試験(一般入試(前期・後期)及び推薦入試)に係る検定料を免除</p>
関東・甲信越	山梨大学	<p>○被災地出身の学生について、実家や保護者の被災状況に応じて入学料免除及び授業料免除を実施した。</p>
関東・甲信越	信州大学	<p>○被災地域出身学生に対し、被災状況に応じて以下を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学料、授業料等の免除・猶予 ・学生寮への入寮の配慮(入寮枠の確保) ・授業料引き落とし時期の延期(5/26) ・平成24年4月学部入学者に対する3.11東日本大震災及び3.12長野県北部地震に係わる入学料免除 <p>http://www.shinshu-u.ac.jp/news1/2011/03/post-17.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度入学者に係る入学料、授業料等の免除・猶予
関東・甲信越	総合研究大学院大学	<p>○入学料免除措置・・・震災により被災した学生で、既に入学料を納付した者は、罹災証明書等を提出すれば入学料を返還するものとした。</p> <p>○授業料免除措置・・・震災により被災した学生の申請書類提出締切を延ばし、また、被災の状況を考慮した上で、授業料免除申請の対象とした。</p>
東海・北陸	富山大学	<p>○被災した入学生へ入学料免除の手続きを実施</p> <p>○被災した入学志願者(学部1年次への入学志願者)へ検定料免除の手続きを実施</p> <p>○被災した学生へ授業料免除の手続きを実施(平成24年度も継続)</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ①被災した学生の入学等の弾力的取扱い

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	金沢大学	<ul style="list-style-type: none"> 被災学生に対し、入学料徴収猶予扱いとし、入学料免除を実施（大学院修士2名） 被災学生に対し、平成23年度前期授業料免除を実施（学部学生7名、大学院修士2名） 被災学生に対し、入学直後の休学、授業開始日の繰り下げ等を行う体制を整備
東海・北陸	福井大学	<p>①学資負担者死亡（行方不明を含む）②住宅被災（半壊以上）③学資負担者の失職（これに準ずる場合を含む）があった被災した学生等の入学料及び授業料を全額免除とすることを決定すると共に、相談窓口を設置</p>
東海・北陸	岐阜大学	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の影響により受験できなかった受験生に対し、受験機会を確保するため特別措置入試を実施した（合格者5名、入学者2名）。（H23年3月終了） 平成24年度学部・大学院入試（平成23年度実施）の入学志願者の検定料の免除（8名） 平成24年度入学者の場合、被災後1年以上経過しているが、入学料免除の申請を可能とした。（ただし、免除には経済状況の審査あり。）
東海・北陸	静岡大学	<p>○入学手続き書類の未着、入学料等の支払いが難しい場合は、当分の間猶予扱いとした。 ○新入生の入学料・授業料及び在学生の授業料については、免除（全免又は半免）扱いとした。 ○附属幼稚園については、検定・入園・保育料（前期）の免除を実施。 ○保護者等が被災した学生（38名）に対し、「静岡大学特別奨学金給付金」を支給することとし、要項・実施要領を制定。（5月13日） また、その財源となる寄附金の募集を行い、約650万円が財源として確保され、当初予定の一人あたり18万円（3万円×6か月分）を当該学生に給付した。 URL:http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq20110315_stunw.html URL:http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq20110315_stuh.html URL:http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq20110330_start.pdf URL:http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_kisoku.pdf</p>
東海・北陸	名古屋大学	<p>日本学生支援機構奨学金（緊急採用、応急採用）申請方法、入学料・授業料免除の経済支援策について本学HP及び学内掲示により周知し、入学料・授業料免除申請手続きについては、提出書類及び日程等について柔軟に対応することとした。 大学から積極的に連絡の上、罹災学生がいた場合には、経済、住居、心身の健康について状況確認を行い、入学料・授業料免除申請、学生宿舍及び民間宿舍の斡旋、学内における相談センター等について案内した。 また、学生の保護者で組織される名古屋大学校友会の義捐により、災害救助法の適用を受ける地域の出身学生及び学資負担者が同地域に居住している学生で、被災により経済的に困窮している者を対象に修学支援金を支給することにした。 入学手続き期間について、学部前期日程試験の入学手続きについては3月22日まで、大学院の入学手続きについては3月31日まで延長する措置をとった。</p>
東海・北陸	愛知教育大学	<p>○自宅住所が、災害救助法適用地域にある学生に対し、一般枠とは別に授業料免除の特例措置を設けた。（http://www.aichi-edu.ac.jp/campus/support/menjo_jugyou.html#m01） また、同条件の2名の新入生に対し、既納入分の入学料の返還手続きをした。 ○上記特例措置により、9名の学生について、平成23年度前期分授業料を全額免除した。また、そのうち2名の新入生について、入学料相当額を返還した。 ○被災した受験生について、検定料を徴収しないことができることとした。 ○東日本大震災により被害を受けた平成24年度入学生を対象とし、一般枠とは別枠で入学料免除及び授業料免除の特別措置を講じることとした。また、授業料免除措置については、在學生についてもその対象として取り扱うこととした。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ①被災した学生の入学等の弾力的取扱い

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	名古屋工業大学	<p>○授業料免除を4月12日に繰り下げた。 URL:http://www.nitech.ac.jp/other/anti_disaster_03.html</p> <p>○就学に困難を生じている学生への相談を受け付けた。 URL:http://www.nitech.ac.jp/other/anti_disaster_09.html</p> <p>○平成23年度に実施する平成24年度学部入学者選抜試験に限り入学検定料を免除した。 URL:http://www.nitech.ac.jp/examination/index.html</p> <p>○平成24年度入学料免除（徴収猶予）及び前期分授業料免除申請において、通常の証明書類に代わり、り災証明の提出により申請できることとした（学部新入学生対象）。</p> <p>○学生寮等への入寮について、他の入寮希望者に優先して入寮させることとした。 URL:http://www.nitech.ac.jp/examination/request/docs/ichibu24.pdf</p>
東海・北陸	豊橋技術科学大学	<p>○入学手続き期間の延長。</p> <p>○入学料免除、授業料免除申請に必要な罹災証明書等申請書類の提出期限を弾力的に対応。</p> <p>○入学料・授業料相当額の経済支援対応。</p> <p>○東日本大震災により被災した受験生に係る既納の検定料を、学内規則に基づき返還した。</p>
東海・北陸	三重大学	<p>○個別学力検査前期日程合格者の入学手続き期間を延長した。（2名が3月28日手続き完了）</p> <p>○平成24年度入学者選抜試験における検定料免除の特別措置 被災した志願者の検定料を免除（返還）することにより、経済的負担を軽減し、進学機会の確保を図るため、平成24年度入学者選抜試験における検定料免除の特別措置を実施</p>
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	<p>被災した入学予定者及び在学者に対しては、授業料減免や寄宿料免除、学生貸付金、休学の手続き、メンタル相談等をメールや窓口にて周知した。授業料減免及び寄宿料免除を実施した。</p> <p>なお、被災した新入生全てが4月上旬には修学できる状態であったため、入学時期の延期や授業開始日の繰り下げ等の措置は行っていない。</p>
近畿	滋賀大学	<p>○被災した学生に対して、入学料免除・授業料免除・奨学金についての支援体制を整備 http://www.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=topics:1412</p>
近畿	滋賀医科大学	<p>○納入された入学料の返還及び免除手続きの案内（H23.6.15全額免除通知）</p>
近畿	京都大学	<p>・入学試験合格者への入学手続きの対応、相談 URL:http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news1/2010/110311_1.htm</p> <p>・入学料免除、授業料免除、生活支援奨学金の支給 URL:http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news5/2010/110315_1.htm</p> <p>・就学が困難になった本学学生へ支援金の募集終了（12月28日まで実施） URL:http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news5/2010/110328_1.htm</p>
近畿	京都教育大学	<p>○学資負担者が被災した学生に対して、入学料免除・授業料免除・寄宿料免除を行った。また、平成24年度について、入学検定料返還を新たに行うこと及び入学料免除・授業料免除・寄宿料免除を引き続き行うことを決定した。</p> <p>○実家または学資負担者が被災した学生に対して、生活支援奨学金制度の新設し、奨学金を支給している。</p> <p>○大学院連合教職実践研究科において、教職員・院生が募金を募り、生活支援金として支給した。</p>
近畿	京都工芸繊維大学	<p>○被災した学生の入学料免除の事例：全額免除2名（学部生1名、修士学生1名）</p> <p>○被災した学生の前学期授業料免除の事例：全額免除3名（学部生1名、修士学生2名）</p> <p>○被災した学生の後学期授業料免除の事例：全額免除4名（学部生3名、修士学生1名）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ①被災した学生の入学等の弾力的取扱い

支部名	大学名	活動実績
近畿	大阪大学	<p>○授業関係：補習授業の実施や課題レポートの提出等の活用、履修登録期間の延長等</p> <p>○学籍関係：4月中に申し出があった場合、4月1日に遡って休学を承認</p> <p>○受入関係：被災地の大学の学生を特別聴講学生又は特別研究学生として受入れ</p> <p>○被災学生に対する入学検定料免除（H24年度学部入試：申請5件）、入学料免除、授業料免除</p>
近畿	大阪教育大学	<p>○被災した学生を対象として、授業料免除制度を設定（前期1名、後期1名（それぞれ別の学生）の授業料を半額免除）</p> <p>○被災した志願者を対象として、入学検定料の免除制度を設定</p>
近畿	兵庫教育大学	<p>・学校教育学部後期日程入試に関して、特例措置として試験実施時刻の個別繰下げ及び追試験（3月14日（月）、15日（火））を決定した。</p> <p>・合格者の居住地確認等を実施し、震災の影響により入学手続について配慮が必要な場合の対応を検討した。</p> <p>・平成24年度、25年度の学校教育学部、大学院学校教育研究科及び大学院連合学校教育研究科の入学試験において、被災された方を対象に検定料免除の特別措置を講じた。</p>
近畿	神戸大学	<p>①入学手続き期間の延長(4月末)、②履修登録（前期）期間の弾力化（5月9日まで実施）、③個別授業の対応（5月9日まで実施）、④休学期間の扱い等について制度を整備し実施している。⑤2012年度学部入学者選抜試験（一般入試・AO入試・推薦入試）において、震災により被災した入学志願者の検定料を免除した。</p> <p>・4月渡日をキャンセルした全学協定（タイプ1）留学生7名の内1名が2011年10月入学許可され、4名が2012年4月入学許可される予定である。</p> <p>・学部生1名が東北地方の親戚被災による救援活動に従事するため、前期の履修登録を5月9日（月）まで延長（5月9日まで実施）</p>
近畿	和歌山大学	<p>○地震の影響で受験できなかった受験生について、3月17日（木）に追試験を実施</p> <p>○被災した大学院生（1名）に対し、入学時期の延長措置を実施</p> <p>○被災した学生に対し、入学料免除（1名）・授業料免除4名措置を実施</p>
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	<p>○東北地方出身（青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県）の入学予定者9名に対して、入学後の行事等への出席等について個別に対応</p>
中国・四国	鳥取大学	<p>○後期日程入学試験（3/12）を受験出来なかった受験生に対する再試験を実施（4名受験）</p> <p>○被災学生への経済的支援として、平成23年度に入学料免除（1名）、授業料免除（前期分5名、後期分6名）のほか、生活一時金を支給（9名）。</p> <p>○震災及び台風により被災した本学志願者の経済的支援と受験機会の確保のため、平成24年度入学者選抜試験において入学検定料免除の特別措置を実施（1名申請）。</p>
中国・四国	島根大学	<p>○後期日程志願者（新潟県以北）の安否及び受験の有無を確認し、後期試験の追試験を実施（3月16日）</p> <p>○被災地方出身学生へ経済的支援について個別に通知</p>
中国・四国	岡山大学	<p>被災により、学費の納入が困難となった在学生及び新入生を対象に、4月入学者の入学料免除・前期分授業料免除の申請受付期間を延長した。（終了）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ①被災した学生の入学等の弾力的取扱い

支部名	大学名	活動実績
中国・四国	広島大学	○入学料及び授業料の免除申請があった学生（入学料全額免除1人、授業料全額免除13人）について、被災状況にかんがみ、申請どおり全員の入学料・授業料を全額免除 ○本人又は学資負担者が被災した場合で、入学料の納付が著しく困難なであると認められる者については、当分の間、入学料免除等の対象として取扱うよう規則を改正（改正前は、対象を入学前1年以内に限定）
中国・四国	山口大学	○被災した学生の入学料、授業料の徴収を猶予するとともに、入学料、授業料の免除申請に必要な罹災証明書、損害額証明書等の提出期限を延長した。 ○被災した学生の入寮にあたり、入寮期日まで本学の宿泊施設に宿泊させた。 ○平成24年度の授業料免除等については、特に被災者に対する優遇措置はない。
中国・四国	徳島大学	○被災した学生への経済的支援について、学内に周知するとともにホームページに掲載 URL http://www.tokushima-u.ac.jp/tohoku_earthquake_disaster.html ○被災した学生3名（実家が全壊又は半壊）について、今年度の授業料を全額免除
中国・四国	鳴門教育大学	○東日本大震災で被災した学生に対する取扱い及び相談受付等、次の事項を学生各位へ周知した。 1. 本学が平成23年度前期分授業料の免除又は納付時期の猶予についての取扱いについて 2. 独立行政法人日本学生支援機構は、緊急採用(第一種)奨学金及び応急採用(第二種)奨学金の申込み ※鳴門教育大学ホームページ URL : http://www.naruto-u.ac.jp/earthquake/ ○平成24年度における東日本大震災による被災者に対する入学料、授業料及び寄宿料の免除措置について検討した。
中国・四国	香川大学	○被災した学生1名に対して、入学料及び授業料を免除。 ○東日本大震災により被災した平成24年度入学志願者に係る検定料を免除することを決定した（12月16日）
中国・四国	愛媛大学	○被災学生の3名の授業料を全額免除した。また、4名を半額免除した。 ○被災した平成24年度一般入試志願者1名の検定料を免除した。
中国・四国	高知大学	○授業料免除申請期間の延長（在学生・新入生） ・在学生3月16日、新入生4月7日の申請期限を、4月18日まで延長した。 ・学資負担者の勤務先が被災した2名の学生から申請があり、状況を確認して受付けた。 ○福島大学のマレーシア政府派遣留学生2名（2年生及び福島大学入学予定者）を本学人文学部に受け入れた。（4月27日入学）。 ○平成24年度学部推薦入試Ⅱ及び一般入試（前期日程・後期日程）において、以下の事項に該当する者の検定料の免除制度を整備し、8名の受験者から申請があった。 ①東日本大震災における災害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、主たる学費負担者が被災された方 ②居住地が、福島第一原子力発電所の事故により、警戒区域又は計画的避難区域に指定された方
九州	福岡教育大学	○東京学芸大学に留学中の協定留学生を本人の希望により4月から本学で受け入れた。（8月末で留学期間を終えた。） ○既に転学制度を設けているので、相談に応じ、弾力的に取り扱うこととした。（現時点で相談者なし） ○被災した学生が入学料及び授業料免除の申請を希望した場合は受け付けることとしている。（実績はなし）

【3. 学生及び研究者支援】 ①被災した学生の入学等の弾力的取扱い

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	九州大学	<p>○入学手続き ・入学料の納入確認や入学手続き書類の受付については、個々の合格者の事情に応じて対処。</p> <p>○経済支援 ・被災地域出身学生に対し、個々の事情を確認したうえで、経済支援を実施。 1) 入学料については原則全額免除（申請者無し） 2) 授業料については全額または半額免除（前期：全額免除2名、後期：全額免除4名） ・災害特別奨学給付金制度を創設し、被災地域出身学生のうちで経済的困難を抱えている学生に対して奨学給付金（1人当り50万円）を支給。（4名） ・九州大学学生後援会において、緊急支援助成（1人当り10万円）を実施。</p> <p>○生活支援 ・学生寮・ドミトリイの入居については、被災学生の優先入居を実施。また大学生協と連携し、伊都地区周辺のアパート(30戸程度)を、ドミトリイ相当の家賃で提供できるように準備。</p>
九州	九州工業大学	<p>○入学手続き期間内に手続きを完了できない場合の期間延長を可能とした。 ○授業料及び入学料の免除、徴収猶予を可能とした。その後、申請者3名について、審査のうえ、以下のとおり免除等を決定した。 ・大学院博士前期課程：入学料・授業料免除申請者 2名（全額免除） ・大学院博士後期課程：授業料免除申請者 1名（不許可） 〔URL:http://www.kyutech.ac.jp/important/fee.html〕 ○授業料免除について、平成23年度後期分及び平成24年度前期分も引き続き実施することとなった。平成23年度後期分については、申請者2名について、審査のうえ、以下のとおり免除等を決定した。 ・大学院博士前期課程：授業料免除申請者 2名（全額免除） 〔URL:http://www.kyutech.ac.jp/important/student-fee.html〕 ○入学料免除について、平成24年度も引き続き実施することとなった。 〔URL:http://www.kyutech.ac.jp/important/new-student-fee.html〕 ○奨学金支給制度を創設した。その後、申請者2名について、審査のうえ、奨学金を支給した。 〔URL:http://www.kyutech.ac.jp/important/scholarship.html〕</p>
九州	佐賀大学	<p>○佐賀大学志願者への検定料免除の特例措置 被災者の経済的負担を軽減し、受験生の進学機会の確保を図るため、平成24年度学部入学者選抜試験に限り、入学検定料免除の特例措置を行った。 (http://www.sao.saga-u.ac.jp/tokureisoti.html) 対象となる入学者選抜試験：平成24年度学部入試（一般入試、推薦入試、帰国子女特別入試、社会人特別入試、私費外国人留学生入試） 一般入試で1名の免除を行った。</p>
九州	長崎大学	<p>入学手続き期間の延長（5名） 入学料半額免除（1名）</p>
九州	熊本大学	<p>○被災の影響による追試験を実施した。（該当者1名） ○所定の期間（平成23年3月11日～15日）に入学手続きができない者に対する特別措置を実施した。（書類郵送遅延についての申出者3名） ○所定の期間（平成23年3月25日～27日）に入学手続きができない者に対する特別措置を実施した。（申出者なし）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ①被災した学生の入学等の弾力的取扱い

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	大分大学	<ul style="list-style-type: none"> ・全合格者のうち、地震の影響により所定の期間に入学手続きを行うことができない方に特別措置を実施予告した。(該当者なし) ・東北関東大震災で実家等が被災し、経済的苦境にある学生への支援制度を案内した。(申請者なし) ・平成23年度入学生及び在学生の入学料免除及び授業料免除について、被災者のための特別枠を設けた。(前期授業料免除申請者1名、後期授業料免除申請者1名) ・被災した新入生及び在学生を対象とした、「大分大学学生支援特別給付奨学金」を創設した。 ・平成24年度入学生及び在学生の入学料免除及び授業料免除について、被災者のための特別枠を設けた。 ・平成24年度入学者選抜試験に係る入学検定料の特別措置として、被災した受験者の入学検定料を不徴収とした。
九州	宮崎大学	<ul style="list-style-type: none"> ○入学試験 一般入試(後期日程)の追試験を実施し、7名が受験(3月17日) ○学務行事 該当者がいなかったため、学務行事については予定どおり実施 ○経済支援 実家が被災した5名について、23年度前期授業料の全学免除4名、半額免除1名とした。
九州	鹿児島大学	<ul style="list-style-type: none"> ○3月18日 保護者家庭の被災状況に応じて、授業料免除等の支援を決定 ○9月15日 東日本大震災の被災者に係る授業料免除特例措置を策定
九州	鹿屋体育大学	<ul style="list-style-type: none"> ○入学時期の延期、入学直後の休学、授業開始日の繰り下げについて検討したが、該当者がいなかった。 ○被災した入学生(1名)に対し、授業料免除、学生宿舍の優先入居、寄宿料免除について検討した結果、前期分授業料の免除、今年度学生宿舍入居許可及び前期分寄宿料の免除を行った。(4月中に手続き完了)
九州	琉球大学	<ul style="list-style-type: none"> ○一般入試(後期日程)における追試験を実施し、志願(受験)者11名のうち5名が合格、入学した。 ○前期日程合格者及び私費外国人留学生の入学手続期間を3月15日から3月18日正午まで延長した。 ○被災地出身学生(入学料及び授業料免除申請者)に対して入学料・前期授業料免除を実施した。後期授業料についても前期同様授業料免除を実施した。 ○被災された本学学生の入学料免除及び授業料免除申請期間を延長した。 ○被災地等の大学等から本学への転入学・編入学についての具体的な支援策・対応を決定した。 ○被災地出身の本学学生(2名)を、入寮手続期間(2/21~2/25)は過ぎているが、特別に学生寮に受け入れた。 ○被災された本学学生に対し、本学の学生援護会から奨学金を支給するため、新たに「学生援護会東日本大震災奨学金給付要項」を制定した。同要項に基づき、被災した本学学生6名(うち、新入生4名)に対し、奨学金(給付型)を支給した。 ○被災地出身学生に対し、H24年度入学料免除・前期授業料免除を実施予定。 ○東日本大震災における災害救助法適用地域が適用されている地域で被災した志願者について、また、居住地が福島第一原子力発電所事故により警戒区域又は計画避難区域に指定された志願者については、検定料を免除した。(4名) また、検定料をすでに納付した受験生についても、後日、証明書等を提出すれば、検定料を返還することとした。(2名)

【3. 学生及び研究者支援】 ②被災大学の学生、教職員への支援

支部名	大学名	活 動 実 績
北海道	北海道大学	<p>○附属図書館で被災地の学生・教職員への図書の貸出や、閲覧個室やインターネットの利用を可能にするとともに、自習室等を利用可能とすることにより、被災学生の自習環境を提供。(3月16日～)</p> <p>○被災学生を対象に、パソコンのHINES(本学が運用するネットワーク)への接続、教育情報システムの端末の使用、学内無線LANを使用したネットワークへの接続を提供。(3月23日～)</p> <p>○東北大学公共政策大学院の要請に基づき、同大学院に入学予定の札幌出身学生に対し自習机を提供する体制を整備。(3月下旬～5月上旬)</p>
北海道	北海道教育大学	<p>《全学》○東北地方太平洋沖地震被災大学の学生・教職員に対して、本学附属図書館(5館)の利用(インターネット利用等含む)及び貸出を学内利用者に準ずる内容で行っている。</p> <p>支援実績：札幌館 学生1名、旭川館 教員1名</p>
北海道	帯広畜産大学	<p>図書館で被災学生に貸出用の図書館利用証を作成した(5名)。</p>
北海道	旭川医科大学	<p>○電子ジャーナルや文献情報データベースの閲覧などが無料である旨をホームページでアナウンスしている。(継続中)</p>
北海道	北見工業大学	<p>被災大学に所属する学生・教職員に対し、図書館利用証の発行や図書の貸出等のサービスを提供している。</p> <p>また、被災大学に所属する学生・教職員から申請があった場合、情報処理センターのコンピュータ演習室・無線LANを提供する体制を整えた。</p>
東北	弘前大学	<p>03/18より被災学生に対する支援を開始。本学附属図書館の利用を希望する被災学生に対して利用者証を発行し、図書館資料及び学内ネットワークの利用を可能にした。</p> <p>3/22～4/30の間に東北大学、仙台大学、山形大学の学生9人が、合計30回図書館を利用した。</p> <p>URL:http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/guidetop/bulletin.html</p>
東北	秋田大学	<p>○被災大学学生及び教職員に対し、本学の学生と同様の条件で、図書館の利用を可能にした。(継続中)</p>
東北	山形大学	<p>○図書館で被災学生・教職員に対し、館内資料の閲覧・図書の貸出・パソコン利用サービスを提供した。</p> <p>○学生相談室を開放し、今回の震災に対する学生の心のケアを行った。</p> <p>○各指導教員をメンターとして配置し個別支援体制を強化した。</p>
関東・甲信越	群馬大学	<p>○被災された大学等の学生、教職員並びに地域の皆様に、当面の間、図書館利用サービスを提供</p> <p>URL：http://www.media.gunma-u.ac.jp/00/post_48.html</p>
関東・甲信越	埼玉大学	<p>○被災大学等の学生・教職員に対し、本学図書館の利用・図書の貸出を可能にした。(4月12日)</p> <p>http://www.saitama-u.ac.jp/announce/2011-0412-1625-1.html</p>
関東・甲信越	千葉大学	<p>○被災地の大学等に所属する方からの申し出に基づき、図書館の利用を許可している。</p> <p>本館8名、亥鼻分館1名、松戸分館1名</p> <p>http://www.ll.chiba-u.jp/news/news20110324.html</p>
東京	東京大学	<p>○被災地域の大学及び短期大学の学生・教職員に、図書館内資料の閲覧・複写が可能な臨時入館証を発行(平成23年3月～5月)</p> <p>http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/news/news/fuzokuto_11_03_23.html</p> <p>○被災地域に所属の教員・研究者・医療従事者(学部学生除く)に対し、本学が契約する電子ジャーナル等のアクセスを東京大学SSL-VPN Gatewayサービスを通じて提供(同年3月～5月)</p> <p>○京都大学と連携し、国立大学図書館協会として東日本大震災対応HP「被災した大学に所属する教職員、学生向けの図書館サービス案内」により各大学の被災大学等の教職員、学生への支援情報を提供(同年3月～)</p> <p>http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/janul/</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ②被災大学の学生、教職員への支援

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	東京医科歯科大学	○被災大学から来館した学生に対し、本学図書館の利用を本学学生と同様に利用できるように配慮した。(3月1名、4月1名、6月1名、7月1名)
東京	東京外国語大学	○附属図書館において、被災した大学等に所属する学生・教職員に対し、館内資料の閲覧・複写、貸出を可能にした。(4月～12月)
東京	東京学芸大学	・被災地域の大学等に所属する学生及び教職員に対し、図書館での館内資料の閲覧、複写、図書の貸出及び館内PCの利用を可能にした。
東京	東京農工大学	○被災した大学・短期大学・高等専門学校に所属する学生・研究者等の方のうち、府中市又は小金井市とその周辺地域に避難等されている方に対して、図書館の利用を可能にしたところ、希望があった2名の者に図書館利用カードを発行した。
東京	東京藝術大学	○上野本館館内パソコン室内におけるインターネット端末の利用 ○上野本館において資料の貸出(身分証を提示し、貸出冊数3冊・貸出期間2週間を実施)
東京	東京工業大学	○附属図書館におけるサービスを被災学生・教職員が利用できるよう体制を整備。 http://www.libra.titech.ac.jp/news/20110318tohokudai.html ○理学部・大学院理工学研究科において、関東圏に帰省している被災地の大学生、大学院生へ無線LANの使用を可能とした。(3人が利用)
東京	東京海洋大学	図書館で、被災地の大学等の所属者に対し、資料の閲覧・複写・貸出・館内パソコンの利用を可能にした。(従来より所属の区別なく、図書館を開放してきたが、震災に際し、改めてホームページに掲載し、利用できることを広報した。)
東京	お茶の水女子大学	○図書館で臨時入館証を発行して、受け入れ態勢を整備(4月末まで実施)
東京	電気通信大学	○被災地域の大学に所属する方に、図書館資料の閲覧、貸出、複写等を利用可能とし、本学図書館及び国立大学図書館協会のホームページに載せた。東北大学の学生が2回来館した。(4月30日) ○電気通信大学学園活動後援会の寄付金から、3万円の修学支援一時金を本学の対象学生24名に支給した。(7月11日)
東京	一橋大学	○一橋大学基金「東北地方太平洋沖地震奨学一時金」を創設、4名に給付を行った。二次募集を行い、新たに4名に給付を行った。 ○如水会会員の義捐金により一橋大学「東日本大震災奨学金」を創設、7名に対し標準修業年限まで奨学金を支給している。 ○図書館で被災した大学に所属する教職員・学生に対し、閲覧席の利用及び図書の貸出を可能とした。(4月30日まで実施)
東京	政策研究大学院大学	○図書館で被災学生に対し閲覧・貸出等の利用サービスを提供(4月末まで)。 http://www.grips.ac.jp/main/lib/news-j.html
関東・甲信越	横浜国立大学	○平成23年末まで、東北地方太平洋沖地震で被災した大学・短大・高専に所属する学生(入学予定者も含む)・教職員で緊急の帰省や避難等をされている者に対して本学学生とほぼ同じ条件で附属図書館を利用可能とし、被災学生3名を受け入れた。(提供サービス:資料の閲覧貸出、施設の利用、館内複写機の利用、電子ジャーナル・データベースの利用、PCの利用)【附属図書館】 ○特別受入としてユーザーIDを発行し、インターネット利用を可能とした。【情報基盤センター】(発行数 5) http://www.lib.ynu.ac.jp/hus/lib/3233/
関東・甲信越	新潟大学	○図書館では、被災大学の学生及び教職員に本学在学学生と同等に、施設の利用、資料の閲覧・貸出等の利用環境を整備した。(利用カード発行者23人、閲覧者延べ100人) ○実務法学研究科では、東北大学及び東北学院大学の両法科大学院学生に対し、研究室、パソコンの利用環境を整備し、東北大学大学院生2人が利用した。
関東・甲信越	長岡技術科学大学	・図書館で被災学生の受入れに対し図書の貸し出しや電子ジャーナル閲覧、無線LANの利用を可能にした。

【3. 学生及び研究者支援】 ②被災大学の学生、教職員への支援

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	上越教育大学	○被災した大学の学生・教職員及び入学予定者に、図書の閲覧、貸出等を可能とした。（3月18日）
関東・甲信越	山梨大学	○附属図書館で被災学生に対し、図書館利用（インターネット含む）カードの発行及び24時間特別利用を可能とし、5月7日まで実施した。
関東・甲信越	信州大学	○図書館で被災地域の学生・教職員に限らず全ての人を対象に、図書の貸出、文献複写、パソコンの利用を可能にした。 URL: http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/information/2011/03/earthquake-sufferers.html
東海・北陸	富山大学	○被災した地域の大学の教職員・学生等への図書館サービスを開始（3月22日） ○被災した地域の大学の教職員・学生等への情報システム利用サービスを開始（3月29日）
東海・北陸	金沢大学	・東北大学から特別研究学生（大学院自然科学研究科）1名を受入（学寮に入寮） 〔4/27から2ヶ月間程度→7月末まで〕 ・図書館において、北陸3県在住者以外にも館外貸出を認めるとともに、自然科学系図書館の研究用個室の利用を可能とした ・総合メディア基盤センターにおいて、ネットワークIDの発行による学内の無線LANの利用を可能とした
東海・北陸	福井大学	○総合情報基盤センター内のPC利用及びインターネットへの接続を可能にした ○図書館については、学内者と同様の利用を可能にした ○本学学生及び福井県に避難している被災大学の学生に、福井大学生協の協力を得て教科書を無償提供するための体制を整備
東海・北陸	岐阜大学	・岐阜大学図書館で以下の各サービスを提供。 館内資料の閲覧、館内施設の利用、館内資料の文献複写、一般図書の貸出（本館のみ） ※ なお、被災地区大学からの依頼により、大学院生1名に対し、本学学生に準じた図書館利用を認めている（H24年3月末まで）。
東海・北陸	静岡大学	○各学部研究室で被災学生、研究者の受け入れに対し研究スペースの利用を可能にした。 ○図書館で被災学生、研究者の受け入れに対し貸し出しやパソコンの利用を可能にした。 ○学内保育施設の利用を可能にした。 ○学生、研究者の学内LAN利用及び研究者の受け入れに対し、サーバ（クラウド環境）、SNS（ソーシャル・ネットワーク・システム）等の利用を可能にした。 URL: http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_taio.html URL: http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_kisoku.pdf

【3. 学生及び研究者支援】 ②被災大学の学生、教職員への支援

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	名古屋大学	以下の支援を5月31日まで実施した。 03/16 東日本大震災で被害にあった大学に所属する方へ 下記の被災地域の大学に所属されている方は名古屋大学の図書館を利用することができます。 対象者：青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県の大学、短期大学の学生及び教職員 サービス期間：2011年3月17日～5月末日 中央図書館 1. 閲覧 受付カウンターでお申し込みください。 2. 貸出 貸出を希望される方は、特例として5月末期限の中央図書館利用証を発行しますので、受付カウンターでお申し込みください。 その際に学生証もしくは氏名、住所等が確認できるもの（免許証等）と通知のための官製葉書をお持ち下さい。 受付時間は、平日の8時30分～17時までです。 3. 研究個室 特例として、研究個室が利用できます。受付カウンターでお申し込みください。 その際に学生証もしくは氏名、住所等が確認できるもの（免許証等）をお持ちください。 4. 複写 5. 電子ジャーナル、データベースの利用 参考カウンターに相談して下さい。ただし、セキュリティ、契約条件により利用できない場合があります。 6. PC利用 ご持参のPCについては図書館内に電源があり、ご利用いただけます。インターネット（無線LAN）の利用は参考カウンターにお申込みください。その際に学生証をお持ち下さい。館内で貸出用PC（利用時間：平日8:30-17:00）が利用できます。参考カウンターにお申込みください。その際に学生証もしくは氏名、住所等が確認できるもの（免許証等）をお持ちください。 参考カウンター受付時間：平日8:30-17:00
東海・北陸	愛知教育大学	○被災大学の学生、教職員に対し本学図書館館内資料の閲覧、貸出及びコピー機の利用（有料）を行っている。（ http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/lib/osirase/osirase.html#o200 ）
東海・北陸	名古屋工業大学	○図書館で被災学生の受入れに対し図書館サービスを提供した。 URL: http://www.nitech.ac.jp/other/anti_disaster_08.html
東海・北陸	豊橋技術科学大学	○被災地の大学等の学生・教職員の利用可能を案内（3月22日）
東海・北陸	三重大学	○三重大学附属図書館は学外の方も居住地域に関わらずご利用可能。 http://www.lib.mie-u.ac.jp/news/news.html#1056
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	附属図書館については、通常のサービスの範囲内で支援ができると判断し、特段の措置は行っていない。 インターネットの利用については、特別研究学生等の本学の身分があれば、利用可能である。
近畿	滋賀大学	○被災地の大学の学生及び教職員で、緊急避難や帰省のため滋賀県及び近隣に滞在されている方に、図書館での図書貸し出しを可能とする体制を整備 http://www.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=9/1/19/8:10
近畿	京都大学	・被災学生・研究者の受入れに対し図書館施設（電子ジャーナル、データベース、資料貸出）の利用 URL: http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/article.php?storyid=795 ・被災学生の受入れに対し情報環境（学内ネットワーク、インターネットへの接続、教育用コンピュータ）の利用
近畿	京都教育大学	筑波大学プールの震災被害による使用不能に伴い、8月上旬に筑波大学水泳部の合宿（プール及び休憩場所の提供）を本学にて受け入れた。

【3. 学生及び研究者支援】 ②被災大学の学生、教職員への支援

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	京都工芸繊維大学	○図書館で図書資料の閲覧・複写・貸出や研修室、研究個室、AVコーナー等館内施設の利用を可能にした。 URL: http://www.kit.ac.jp/O1/shinsaitaiou.html
近畿	大阪大学	○附属図書館で被災地の大学に所属される方へのサービスとして、特別利用者票（来館利用）の発行及び文献複写の郵送サービスを行う体制を整備（5月末まで実施）
近畿	兵庫教育大学	・附属図書館では、3月18日より被災学生等の受入に対し、書籍の貸出、個人研究室及びパソコンの利用を許可した。 http://www.lib.hyogo-u.ac.jp ・入学料・授業料についても、申請・選考の上、全学又は一部を免除する制度も設けている。なお、平成23年度における申請者はなかった。
近畿	神戸大学	○被災地域の大学の学生・教職員の図書館サービスの提供（9月末で終了） http://www.kobe-u.ac.jp/info/topics/menu/us2011_03_18_01.htm ○被災者支援のための復旧復興関連文献の送信提供サービスの開始（5月末で終了） http://www.kobe-u.ac.jp/info/topics/menu/us2011_04_07_01.htm ○被災された大学関係者の方々へのアカウント発行 http://www.istc.kobe-u.ac.jp/contents/support/index.html
近畿	奈良女子大学	○国立大学法人32大学理学部長会議の呼びかけにより、被災大学の学生及び教職員の他大学での図書館利用を可能にする支援活動に本学も参加し、3月22日より被災大学の学生・教職員に対して図書館利用の便宜を図る制度を設け、図書館ホームページ等で広報した。 4月末までに被災大学の学生・教職員3名に対して図書館利用証を発行した。 なお、総合情報処理センターに申請することにより、図書館内のPCの使用も可能とした。また、この情報は、3月23日付の国立大学図書館協会ホームページにも掲載された。
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	○図書館で被災学生等に対し、貸出や電子ジャーナル・データベースの利用を可能にした。（実績はなかった） ○被災大学院生、研究者等に対する教育研究支援体制を整備 http://www.naist.jp/news/jisin_taiou.html
中国・四国	鳥取大学	○図書館で被災して県内等に滞在している方に対し、貸し出しやパソコンの利用を可能にした。
中国・四国	島根大学	○被災地の学生等への図書館利用のための体制を整備
中国・四国	岡山大学	被災大学の学生・教職員については、本学学生並の利用が可能となる扱いを行っている。（現在、8名が図書館利用カードの作成を行っている。） 閲覧、貸出、文献複写・現物貸借の利用、電子ジャーナル、データベースの利用実績 ○利用実績—東北大学：学生20人・教職員1人、筑波大学：学生6人、一橋大学：学生3人、茨城大学：教職員1人、東京大学：学生9人、早稲田大学：学生5人 ○利用期間—平成23年3月18日～平成23年5月6日まで
中国・四国	広島大学	○図書館の利用（貸出しを含む。）並びに教育用情報端末及びネットワークの利用ができるよう体制を整備 http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html
中国・四国	山口大学	○被災地域大学等の学生・教職員の図書館利用受入れ ○被災地域大学等の教職員のネットワーク利用許可 ○通信ネットワーク環境基盤のサポート（大学ホームページ・バックアップ等）

【3. 学生及び研究者支援】 ②被災大学の学生、教職員への支援

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・四国	徳島大学	○被災した大学の学生・教職員に対する館内資料の閲覧、館内資料のコピー、図書の貸出等の学習・研究支援 URL http://www.tokushima-u.ac.jp/tohoku_earthquake_disaster.html
中国・四国	鳴門教育大学	○被災地域の大学の学生・教職員へ、本学図書館での施設利用、図書貸出等を可能とした。
中国・四国	香川大学	○東北・関東地区の大学に在学中の学生及び教職員で、緊急帰省等、震災のため、香川県に滞在せざるを得なくなった方を対象に、図書館サービス（貸し出しやパソコンの利用）を利用できるよう対応し、中央館で4名、工学部分館で2名の利用者があった。
中国・四国	愛媛大学	○図書館の利用について、被災地の大学の学生・教職員へ向けて、受入れ可能であることなどを改めて周知した。（3月29日） http://www.lib.ehime-u.ac.jp/cgi-bin/NEWS/disnews.cgi?sel=431&loc=1 ○教育用パソコンのアカウントを発行し、総合情報メディアセンター及び図書館でのパソコンの使用（インターネット含む）を可能にした。【東北大学生：2名】
中国・四国	高知大学	○被災学生・研究者に対し、①研究スペースの利用②図書館の利用及びインターネットの使用③研究スペース利用に伴う宿泊施設の提供について支援体制を整えた。
九州	福岡教育大学	○図書館で被災学生・教職員に対し資料の閲覧・貸出、インターネット利用を可能とする体制を整備した。（利用実績なし）
九州	九州大学	・被災地域の学生、研究者に附属図書館の利用を可能とした。 <被災地域の学生の利用状況> 中央図書館 12名（東北大9名、筑波大1名、東大1名、慶応大1名） 伊都図書館 4名（東北大3名、青山学院大1名）
九州	九州工業大学	○図書館において、被災学生・教職員の受入れに対し、館内資料の閲覧・複写及び貸出、施設（パソコン等）の利用を可能にした。その後、戸畑キャンパスにおいては、以下の利用があった。 ・3名の貸出用利用者カード作成（カード申請日：3/28、4/11、4/16） ・4名（上記カード作成者含む）の閲覧利用（延10回。閲覧のみ利用者閲覧開始日：3/23）及び3名の貸出利用（延13冊） 〔URL: http://www.kyutech.ac.jp/info/id420.html 〕
九州	佐賀大学	○ 附属図書館の利用を可能にした。 ○ 総合情報基盤センターの利用を可能にした。
九州	熊本大学	○附属図書館において、震災により熊本県（近隣）に滞在せざるを得なくなった関東・東北地方の大学に在学中の学生及び入学予定者を対象に、本学学生と同等のサービスを利用できることとした。（利用者4名）（平成23年3月18日～継続中） http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/cgi-bin/oldnewsview.cgi?rcid=200833 ○本学が加盟する大学eラーニング協議会が、ニフティ（株）、住商情報システム（株）とともに被災大学を支援するインターネットを活用した高度教育基盤の提供を開始し、本学からは情報基礎A、情報基礎Bの学習コンテンツを無償提供し、併せて、eラーニング活用法に関する相談にも対応することとした。（平成23年4月22日～継続中） http://www.kumamoto-u.ac.jp/pageimages/daigakujouhou/earthquake/uela.pdf ○理学部において、被災地域の大学の学生・大学院生および教職員が理学部の図書室を利用できることとした。（継続中） http://www.sci.kumamoto-u.ac.jp/index-j.html ○教員（1名）が教職員への支援として福島県立医科大学大学院において講義を行うとともに、福島県内の保健所保健師の被災者支援のための相談事業を行った。（平成23年8月8日、21日）さらに、福島県は精神科病床880床を災害でなくし、精神障害者が地域で生活することを余儀なくされており、精神科ケースマネジメントの地域支援システムを構築する必要があることから、福島県立医科大学看護学部との情報交換、助言を行っている。

【3. 学生及び研究者支援】 ②被災大学の学生、教職員への支援

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	大分大学	東日本大震災で実家等が被災し、経済的苦境にある学生への支援制度を案内し、在学生1名（栃木県出身）から授業料免除の申請があった。 関東・東北地方の大学に在学中の学生及び入学予定者で、緊急帰省など震災のため、大分県近隣に滞在せざるを得なくなった方を対象に、本学学生と同等のサービスを利用できるようにしている。URL: http://www.lib.oita-u.ac.jp/news_arch/2010/news_0318.html
九州	宮崎大学	○図書館で、資料の閲覧・貸し出し、文献複写、電子ジャーナル閲覧、インターネット利用可能
九州	鹿児島大学	○鹿児島大学附属図書館中央図書館の支援 ・3月15日「東北地方太平洋沖地震」で被災された地域の大学・短大に在学中の皆様へ、帰省された際には、鹿児島大学附属図書館の中央図書館が利用できるよう措置。 ・資料の館内利用、資料の館外貸し出し（学生証あるいは帰省先住所の確認できる郵便物等を提示。）、その他、可能な限り本学所属の学生・教職員と同様の支援を行う。 ・附属図書館及び学術情報基盤センターで被災した学生等への学習支援を開始（3月15日） URL: http://www.kagoshima-u.ac.jp/about/shinsai.html ・被災された地域の大学・短大に在学中の学生・教職員の皆様へ（附属図書館） URL: http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/modules/bulletin/article.php?storyid=344 ○鹿児島大学学術情報基盤センターの支援 ・「東北地方太平洋沖地震」で被災された地域の大学・短期大学に在学中の皆様へ、帰省された際には、鹿児島大学学術情報基盤センターの端末（学術情報基盤センター及び附属図書館）が利用できるよう措置（利用希望があれば、学術情報基盤センターで利用申請書により申込みすれば、利用者証（ID・PW）の発行を行い学術情報基盤センター及び附属図書館の端末が利用可能） URL: http://www.cc.kagoshima-u.ac.jp/information/announce/post_2.html ○農学部の研究室としての支援 ・植生理学会、植物学会の被災者支援掲示板に以下の内容を掲載 鹿児島に実家があったり親戚がいる（それに限定するものではありません）という研究者・院生の方で、研究を進めたいという方がおられましたら、直接ご連絡ください。 以下の支援が可能 1. 2-3名程度の植物研究者・院生の一時的受け入れ （我々の研究室の装備でできる実験なら可能、お問い合わせください）。 2. 植物等の栽培（培養室、ガラス室、圃場が使用可能） 3. -80℃、-20℃の冷凍庫の提供 4. コンピューター、インターネット環境の提供
九州	鹿屋体育大学	○被災大学の学生、教職員への図書貸出は、従来本学で実施している学外者への貸出と同様の扱いにより、貸し出し可能である。
九州	琉球大学	○帰省学生及び教職員の図書館利用について学外者貸し出しカードを発行し、学内学生及び教職員と同等の貸し出しをしている。 ○教員・大学院学生への研究個室の貸与可としている。 公表しているホームページ http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/?p=6052 ○熱帯生物圏研究センター・瀬底研究施設において、東日本大震災で被災した北里大学海洋生命科学部（岩手県大船渡市）の学生を3名受け入れ研究の場を提供した。なお、宿泊施設使用料については、無償とした。 6月→2名受入（1名：H23年6月13日～6月20日、1名：H23年6月1日～8月23日）その内、1名は、平成24年4月から本学理工学研究科に進学する予定。 7月→1名受入（H23年7月18日～H24年3月31日） ○農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター・与那フィールドにおいて、フィールドワークの場が津波被害を受けた宮城教育大学が「自然フィールドワーク実験」という授業科目を開講できるよう、施設及びフィールドを提供した（9/1～9/8、教員2名、学生7名）。滞在期間中に係る教育支援、滞在費援助を行った。 http://www.u-ryukyu.ac.jp/info/agr_lecture2011090901/

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
北海道	北海道大学	<p>○本学学生99名から、被災地のボランティア活動に参加する届出があった。(学生が個人的に参加)</p> <p>○本学学生相談室において、ボランティア活動後のメンタルヘルスケアのため、活動を行った学生全員と連絡を取り、必要に応じて学生との面談を行っている。</p>
北海道	北海道教育大学	<p>《全学》○学生のボランティア活動への参加を促進するため、「東日本大震災の被災地でのボランティア活動を学生が申し出た場合の取扱い」(平成23年4月12日学長裁定)を定め、参加学生は授業を欠席扱いにしないこととし、履修期間の不足分については補講・レポート等で補完することができることとした。また、活動経費の補助として1日2,000円を支給することとした。</p> <p>《札幌校・旭川校・岩見沢校》○4月下旬から、5月の連休期間中に札幌校の学生3人が岩手県釜石市、宮城県石巻市、同県仙台市若林区、旭川校の学生5人が岩手県遠野市において、また、岩見沢校の学生1人が宮城県仙台市、岩手県花巻市において家の中の泥撤去や物置の荷物運搬、床下のヘドロ撤去などに従事した。</p> <p>《岩見沢校》○岩見沢校のスポーツ教育課程アウトドア・ライフ専攻の学生7人と教員2人が、3月27日、被災地の岩手県野田村に現地入りし、ボランティア活動を開始した。テントで自炊生活をしながら、子ども遊び隊を結成し避難所で生活している野田小学校の子どもたち(延べ60人)とゲームをしたり、家屋のがれきの撤去や避難所の風呂掃除などに従事し4月10日、岩見沢に戻った。</p> <p>○上記活動の第2弾として、8月4日から8月7日の4日間、再び岩手県野田村に現地入りし、夏休み中の子ども達を対象に、ネイチャーゲームや草木染め、野田村特産の塩を使ったうどん作り等、遊びを通じた支援活動を行った。(6月中旬にも現地を訪れ、事故調査を行い、今後の支援の在り方を検討した。)</p> <p>《釧路校》○学生1名が岩手県大船渡市で4月14日から26日にかけて、13日間ボランティア活動に従事した。</p> <p>《釧路校》○災害支援くしろネットワークに学生9名が参加し、7月下旬から8月にかけて、岩手県釜石市と岩手県(釜石、気仙沼、遠野市)でそれぞれ3日間ボランティア活動に従事した。</p> <p>《全学》○平成24年2月29日までに学生68名が岩手県や宮城県の被災地に赴き、がれき撤去やヘドロ除去等のボランティア活動を実施した。</p> <p>《全学》○宮城教育大学からの要請に基づき、「宮城教育大学教育復興支援センター 復興支援塾事業」へ本学学生1名を派遣した。(7月25日~28日)</p> <p>《旭川校》○平成23年6月15日から18日まで、旭川校学生2名が宮城県山元町において、被災家屋の庭の泥掃除、がれきの撤去作業を行った。</p> <p>《旭川校》○平成23年6月25日から29日まで、旭川校学生1名が宮城県南三陸町において、炊き出し支援、ボランティアセンターの受付業務等を行った。</p> <p>《旭川校》○平成23年8月13日から14日まで、旭川校学生1名が宮城県南三陸町において、がれきの撤去作業を行った。</p> <p>《旭川校》○平成23年10月2日から11日まで、旭川校学生1名が宮城県気仙沼(大島)において、仮設住宅のアセスメント及びイベント(芋煮会)補助を行った。</p> <p>《旭川校》○平成23年10月10日から12日まで、旭川校学生1名が宮城県南三陸町において、河川等のがれき撤去作業を行った。</p>
北海道	室蘭工業大学	<p>○夏期休暇中に被災地でのボランティア活動を計画している学生に、事前の計画(現地状況把握、登録等)、安全確保、保険等についての情報提供を行った。</p>
北海道	小樽商科大学	<p>○本学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻の社会人学生1名が、被災地にて2週間のボランティア活動(5月上旬まで)</p>
北海道	帯広畜産大学	<p>全国大学生協連が募集したボランティアに、学生6人(留学生1名を含む)の参加申込みがあった。</p> <p>○実習で作られた野菜を被災地に持参し、学生・教員が炊き出しを行った(11月3日名取市)。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	弘前大学	<p>○人文学部ボランティアセンターに登録の学生ボランティア、延 1,038名を岩手県九戸郡野田村へ派遣し、瓦礫撤去や物資仕分作業等を行った。 (本学教員及び弘前市民の登録者も派遣) URL : http://huvvc.net/ ※4月12日、～8月31日迄実施。9月以降は復興祭等イベント活動の支援を行った。</p> <p>○人文学部ボランティアセンターでは、被災地への支援・交流活動を単位修得の必須条件とした「東日本大震災復興論」を21世紀教育科目として開設し、120名の学生が受講した。</p> <p>○被災地においてボランティア活動を実施する学生団体等へ活動費を助成することとした。11件の申請があり、9件を採択、うち8件が実施済みで、465,775円を支給した(現在受付中)。 URL : http://www.hirosaki-u.ac.jp/information/06.pdf</p> <p>○被災地(6/17、8/25、8/26 岩手県宮古市、10/10 宮城県登米市、11/1岩手県岩泉町、11/5岩手県野田村、11/27岩手県釜石市、12/3岩手県久慈市、12/17宮城県仙台市、12/18福島県郡山市)での演奏活動による被災者支援活動(活動団体はグラスハープ・アンサンブル、スティールパン部、津軽三味線サークル、カンターピレオーケストラ)</p>
東北	岩手大学	<p>○大船渡市災害ボランティアセンター：被災住宅内の片付け作業、大船渡市教育委員会：校舎内の清掃作業・仕出しおにぎり作り 4/6～4/7、4/14 延べ138名 ○盛岡YMCA宮古ボランティアセンター：宮古市内の支援ニーズ調査、屋内片付け、地域のイベント運営支援等 4/13～(継続中) 延べ557名 ○陸前高田市災害ボランティアセンター：避難所及びボランティアセンターの運営支援等 4/7～(継続中) 延べ330名 ○山田町：避難所での炊き出しの手伝い 4/16 7名 ○岩手県少林寺拳法連盟からの要請：陸前高田市での炊き出しの支援 4/10、13 延べ11名 ○岩手県教育委員会からの要請： ・花巻市での支援物資(学用品)の仕分け 4/20～4/22 延べ4名 ・大船渡市での図書の整理作業 6/13、6/22 延べ20名 ・住田町での体育の授業補助 7/11、7/27 延べ6名 ○日本助産師会などの要請：八幡平市での被災地の妊婦や乳幼児の母親を対象としたプログラム実施のサポート 4/28～5/1 延べ32名 ○二十一世紀倶楽部・夢の課外授業実行委員会主催：夢の課外授業・希望プロジェクトのサポート 5月30日 5名 ○文部科学省職員教育行政等実務研修：宮古市での民家の健在の撤去作業等 8/23、8/24、8/29 延べ1821名 ○宮古市、釜石市及び大槌町での、中学生を対象とした学習支援活動 12/25～(継続中) 延べ93名 http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/activities.shtml#volunteer</p>
東北	東北大学	<p>・本学学生ボランティア組織には現在1000人ほどの学生が登録。介護老人福祉施設、県庁関係部局での事務補助など活発な支援活動を行っている。また、宮城県より要請を受け4月6日より山元町へ毎日40人以上の学生等が赴き避難所等における支援活動や、気仙沼避難所等への支援物資搬送、仙台市内の避難所や仮設住宅において児童への学習支援など活発に活動を展開 http://tohokugakuseifukko.blogspot.com/ ・震災に伴う本学学生のボランティア活動を支援し、学生が安心・安全に活動できるよう内外の調整を行うため、学生ボランティア支援室を設置(6月～)</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	宮城教育大学	<p>○大学が仙台市ボランティアセンターでの支援物資荷下ろし、仕分け作業に学生ボランティア6名を派遣（3月19日）</p> <p>○大学が県立石巻支援学校に避難している障害のある児童生徒の学習支援ボランティア及び避難住民のサポートとして、学生24名を派遣（4月11日～5月12日）</p> <p>○大学が仙台市内の中学校での学習支援等ボランティアとして、学生28名を派遣（4月18日～4月28日）5月2日以降も、4名～6名が日程調整をしながら交替で継続して活動中（5月2日～現在）</p> <p>○大学が仙台市内の中学校での沿岸部の被災地への炊き出しボランティアとして、学生6名を派遣（4月23日）</p> <p>○大学が仙台市内の中学校での簡易給食の調理補助して、学生10名を派遣（4月26日～5月6日）</p> <p>○230名の学生が、自主的に各地区ボランティアセンター等で瓦礫の片付け、汚泥のかき出し、子どもの遊び相手等のボランティア活動を行っている。（3月11日～現在）</p> <p>○大学が仙台市内の小学校3校で、学習支援等のボランティアとして、学生72名を派遣し、日程調整をしながら交替で支援活動中（5月16日～現在）</p> <p>○6月28日に、「教育復興支援センター」を立ち上げ、教育大学の任務として教育現場の支援を全面的に開始した。全国の11国立教育系大学及び国立大学の教員養成学部の協力のもと、全国からの学生ボランティアを本学が受け入れ、被災学校のニーズに応じ、中長期的な視野で教育復興支援を今日まで継続している。2月末時点では、県内外の61ヶ所の小・中・高校に学習支援等のボランティアを、約560名（内、他大学生120名）を派遣している（7月21日以降）。</p>
東北	秋田大学	<p>○医学科の学生2名がNPO法人ジャパンハートの呼びかけに対して石巻市の避難所にてカルテ整理・血圧測定等のボランティア活動を行った。（4月5日～13日）</p> <p>○教育文化学部の学生1名がNPO法人と一緒に気仙沼市にて瓦礫撤去・ヘドロ上げのボランティア活動を行った。（3月30日～4月1日）</p> <p>○秋田県内他大学の学生と一緒に医学科学生4名と工学資源学部学生2名が日帰りで岩手県陸前高田市の被災地でボランティア活動を行った。（4月30日）</p> <p>○教育文化学部の学生4名が宮城県仙台市の避難所における子どもとの交流、レクリエーション等を行った。（5月4日）</p> <p>○秋田県内他大学の学生と本学学生の合同で災害ボランティア活動を行った。 （5月14日、6月26日、岩手県陸前高田市：本学学生延べ19名） （5月21日、6月4日、6月18日、7月3日、12月18日、宮城県気仙沼市：本学学生延べ62名） （6月26日、岩手県大船渡市：本学学生10名）</p> <p>○秋田学生復興支援ネットワーク主催の被災地支援ボランティア活動への参加学生に対し、大学から参加費を援助している。</p> <p>○秋田大学及び県内の他大学の学生で組織する「秋田学生復興支援ネットワーク」（通称：SSN）に対し、県内の高等教育機関で組織する「大学コンソーシアあきた」を通じて、必要物品等の支援及び参加学生に対し、本学から参加費を援助している。</p> <p>○工学資源学部の学生2名が岩手県陸前高田市で草刈り・瓦礫撤去のボランティア活動（主催：やらねば！横手（地震・災害支援の会））を行った。（9月15日）</p> <p>○秋田大学学生支援総合センター主催による2泊3日の被災地支援ボランティア活動（草刈り作業、瓦礫撤去作業等）を実施した。 （9月9日～11日、岩手県釜石市：教職員4名、本学学生34名） （11月25日～27日、岩手県陸前高田市：教職員4名、本学学生30名）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	山形大学	<p>○5月4日、5日の2日間で、約180名の学生、教職員、社会人のチームで石巻に日帰りボランティアバスツアー（スマイルエンジン）を実施。石巻の被災地の側溝のヘドロ掃除と一般住宅の瓦礫撤去、清掃作業を実施した。この活動はSmile Trade 10%の中の1つとして位置づけられるもので、今後 毎週土曜日に継続して学生や社会人を被災地にボランティアとして送り込むシステム構築を目指している。</p> <p>これまでに34回の実施で約1300名が参加し、8月には、立命館大学や京都造形大学も新たに加わり石巻での瓦礫撤去作業や仮設住宅へのボランティア活動を実施した。</p> <p>○2011年度前期基盤教育科目「実践的キャリア教育学」の一環として4月29日から実施したボランティア活動では、仙台市における被災者宅の瓦礫撤去、清掃、畑の復旧活動、ボランティアセンターの支援等、塩釜市浦戸桂島における瓦礫撤去、清掃、畑の復旧活動、避難所の支援物資の搬送等、本吉郡南三陸町の仮設住宅における炊き出しや学生自身が栽培した無農薬野菜の配付等を行った。8月末日まで被災地ボランティアは計13回実施し、のべ合計337名（うち山大学生275名）が参加した。今後9月中に、宿泊を伴う活動を含め4回を予定している。</p> <p>○山形県等からの要請で、以下のボランティアに学生を派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月18日、山形県ボランティア本部からの要請で、山形県庁内のボランティア本部における記録及びメール送信業務のため、学生を派遣した。 ・3月18日から4月6日まで、山形県ボランティア本部からの要請で、被災者の避難所となっている山形県体育館において、避難者の子供達の相手、支援物資の運搬及び仕分け、ポスター作成等のため、12、3名の学生を派遣した。 <p>○ボランティアを希望する学生に対して、社会福祉協議会のボランティア活動保険への加入にかかる費用を大学が全額負担している。</p> <p>○学生が「山形大学人文学部震災復興支援学生プロジェクト」を立ち上げ、避難所などへ学生ボランティアとして参加している。被災者と被災地の支援活動を精力的に行っている。学生プロジェクトは、これまで、山形市内避難所（山形市総合スポーツセンター）でのボランティア活動に取り組みながら、宮城県東松島市と石巻市における復興支援活動として、①除菌水を作る機械の設置・除菌用品の提供、②炊き出し、③ヘドロの処理、④瓦礫の処理等の活動を行ってきた。また、被災地で使用する自転車・小型バイクの収集・修理・提供等も行っている。（8月までの5ヶ月間で40回以上実施）</p> <p>○山形県栄養士会からの要請を受け、地域教育文化学部の学生59人を避難所に派遣した（炊き出し、給仕活動、支援物資の仕分作業）。</p> <p>○地域教育文化学部の学生が自主的に避難所で児童生徒を対象に支援活動（遊び・スポーツ活動、本の読み聞かせ、話し相手活動等）を行った。</p> <p>○山形市教育委員会から、避難所周辺の小中学校へのスクールサポーター要請があり、地域教育文化学部の学生を派遣した。</p> <p>○理学部及び農学部の学生が中心となって、本県の避難施設の一つとなっている山形市総合スポーツセンターに、被災者への食事提供として、学生及び教職員からお米の寄附を募り、「おにぎりプロジェクト」を実施した。</p> <p>○学生が被災地へボランティア活動をする際の基本的な注意事項を作成した。それを学生に活動前に確認させ、ボランティア保険への加入を義務づけた上で参加することとし、後日、報告書の提出を義務づけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生ボランティアが米沢市の避難所において支援活動（個人参加） ○学生ボランティアが避難住民の方々向けの花見会を支援（個人参加） <p>URL : http://www2.yz.yamagata-u.ac.jp/dayori/2011/110501volunteer.html?storyid=767</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害ボランティアの募集と被災地派遣（個人参加、5月21日～7月23日及び11月12日～12月3日まで、宮城県沿岸部、米沢市社会福祉協議会と共同実施） ○学生ボランティアが学内放置自転車を修理して被災者に提供（個人参加、準備中） ○学生による芋煮の炊き出し支援を実施した（石巻市、南三陸町など）

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	山形大学	<p>○自転車の提供（無償提供された中古自転車を修理し、被災地に届ける（5月9日現在、43台を提供（宮城県）） 8月31日現在、93台を提供（宮城県） 6月30日現在、被災地で80名、被災地外で330名の学生が参加</p> <p>○農場のヤギとのふれあいを実施（エサあげ・乳しぼり等(福島県)）（5月5日） 5月 5日(福島県福島市：教職員1名 学生2名参加) 参加人数：約40名 5月21日（山形県山形市：教職員1名 学生3名参加）参加人数：約60名 6月11日（宮城県巨理町：教職員1名 学生2名参加）参加人数：約40名 6月11日（宮城県山元町：教職員1名 学生2名参加）参加人数：約40名</p> <p>○福島県からの米沢市に避難している住民に対するお茶飲み会の支援（学生参加） ○米沢市への避難住民に対する交流・復興イベントの支援（教員参加） ○学部の正規科目である「地域づくり特別演習（二）」に新たに震災支援部門を設け、通算1週間以上ボランティア活動を行い、かつ学部の定める要件を満たした学生3人に2単位を与えた。 ○5月7日に山形県体育館において、避難者たちに元気を付けるために、留学生たちによりコンサートを開いた。</p> <p>○「山形文化遺産防災ネットワーク」の一員として、宮城県立農業高等学校の蔵書や陸前高田市立博物館の所蔵資料をお預かりして、本学で週一回、クリーニングのボランティア活動を行い、教員指導のもと本学部の学生を含む10名程度学生が積極的に参加している。</p> <p>○2011年度後期基盤教育科目「現代社会を生き抜くためのプレゼンテーション学」の一環として10月2日から実施したボランティア活動では、塩釜市浦戸桂島における瓦礫撤去、清掃、仮設住宅における炊き出し、被災地のニーズ聞き取り調査、観光資源復旧のための葉の花畑の復旧活動、観光再生のための観光ツアー企画運営等を実施した。2月末までのこれらの被災地ボランティアは計17回実施し、前期の活動と合計して、のべ合計772名（うち山大学生634名）が参加した。3月末までに、2回実施する予定である。</p> <p>また、上記授業の一環として、10月から、仙台市NPOとの連携による子供の学習支援を、仙台市内の仮設住宅、集合住宅等で毎週平日月曜日～金曜日に実施している。2月17日までの参加者合計は山大学生だけのべ225名。今後3月末までに、のべ59名が参加する予定であり、この活動は、4月以降の2012年度前期基盤教育科目「実践的キャリア教育学」で引き続いて実施する予定である。</p>
東北	福島大学	<p>○大学生協が募集するボランティアへの参加者16名。 宮城県七ヶ浜町にて5日間従事、3年生（男6名、女3名）、4年生（男1名、女6名）。</p> <p>○学生ボランティア約70人が大学開設避難所の食事準備・物資運搬や子ども達との工作等の多岐にわたる支援活動をローテーションで実施。（3月16日～4月30日）</p> <p>○学生ボランティアの活動を紹介しているブログを開設。 URL:http://fukudai311.blog.fc2.com/</p> <p>○人間発達文化学類 東日本大震災教育支援プロジェクト「子ども支援ボランティア」として、あづま総合体育館、土湯・飯坂・磐梯熱海温泉、郡山養護学校、ピックパレットふくしまの避難所にて、のべ90回の学習・遊び・生活支援活動を実施。（4月下旬～7月下旬） (http://web.me.com/hirokiyura/volunteer/volunteer_blog/volunteer_blog.html)</p> <p>○附属中学校音楽部による避難所慰問演奏会を実施。 ・ 4月16日：福島大学生協ロビー（生徒27名） ・ 4月23日：あづま運動公園内体育館（生徒27名） ・ 6月25日：あづま運動公園内体育館（生徒40名）</p> <p>○5月1日に「学生団体 福島大学災害ボランティアセンター」が発足。</p> <p>○学生による被災地での主なボランティア活動は以下参照。 <人間発達文化学類東日本大震災教育支援プロジェクトホームページ> http://web.me.com/hirokiyura/volunteer/volunteer_blog/volunteer_blog.html <学生団体 福島大学災害ボランティアセンターホームページ> http://fukudai-volunteer-center.jimdo.com/</p> <p>○東日本大震災に伴うボランティア活動に対して単位の認定を決定。 ○人間発達文化学類において、8月7日～10日に被災児童・生徒を対象とした「自然体験学校」を開催し、113名が参加。</p> <p>○福島市教委主催の「のびのび遊ぼう夏休み体育館開放事業」や「福島市の子どもたち・夏のリフレッシュ体験事業」に学生ボランティアとして参加。</p> <p>○人間発達文化学類及びうつくしまふくしま未来支援センターにおいて、浪江町教育委員会・NPO法人と共催し、9月から3月まで、福島市・二本松市・本宮市内の6カ所の仮設住宅において遊びと学び教室「未来のたね」を毎週土曜日に実施。同事業の一環として、12月17日は福島大学で「クリスマスパーティー」を、2月12日及び19日には「日曜日ともキャンパス」を開催。 http://fure.net.fukushima-u.ac.jp/event/in-1.php</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	茨城大学	<p>○県内で被害が最も大きい北茨城市に、塙等の後片付け・支援物資の整理・聞き取り調査・学習機製作を行う学生ボランティア21人を派遣（4月4日～4月8日）</p> <p>○地元小・中学校児童・生徒の相談相手・資料整理、幼稚園の保育補助を行う学生ボランティア延べ84名を派遣（4月25日～8月26日）</p> <p>○上記活動に対し、東日本大震災ボランティア活動報告会を開催（10月6日）し、ボランティア参加学生に活動証明書を授与（参加者数23名）</p> <p>○県内4カ所の避難所の子供達の心のケアを行う心理専門の教員4名と院生2名を派遣（4月1日）</p> <p>○高萩市に届けられた支援物資の仕分け作業の手伝いを行う学生ボランティア13名を派遣（5月24日）</p> <p>○福島から避難されてきた妊産婦・お母さんと茶話会を実施し、情報交換や専門家への取り次ぎなどの相談を行った。（7月13日、9月2日）</p> <p>○学生によるボランティア体験談を、大学HPにて募集。16件の投稿</p>
関東・甲信越	筑波大学	<p>○ボランティア活動について単位認定（1単位）→学群5名、大学院2名の単位認定を行った。</p> <p>○ボランティア活動従事期間における授業欠席に対する特別な配慮（補講、課題、レポート、追試等）</p> <p>○福島県会津坂下町の川西地区（元小学校体育館）に避難した葛尾村住民約100人を対象に、音楽を使った30分の運動（ストレッチ、深呼吸）を2日行った。避難者に好評だったため、避難者が自分たちで継続できるように、指導者養成を行った。養成対象は、葛尾村役場の生活担当の人が推薦した10代から20代の若い女性4人。3日かけて講習して指導者養成を行った。ボランティアは、筑波大学院生1名が中心となって会津坂下町職員1名、坂下町住民2名のチームで行った。院生は3/29～31日滞在。交通・宿泊費等は全て院生の自己負担で行った。その後電話でフォローアップも行った。実際に養成者による運動指導が行われた。</p> <p>○4年次学生1名：東京都民ボランティアに参加し、宮城県内で1週間、がれき撤去、泥のかき出し等の活動を行なった。</p> <p>○3年次学生3名：それぞれ、いわき市、福井市、つくば市の避難所や帰省先にてがれき撤去、支援物資の仕分け、学習補助等を行なった。</p> <p>○学生支援GPのプロジェクトにより学群生・大学院生、計37名が被災地でのボランティアに参加し復旧作業を行なった。</p> <p>○つくば市や社会福祉協議会と連携しながら、つくば市民や福島県からの避難者への支援活動（がれき撤去、給水補助、お年寄りの話し相手など）を実施した。</p> <p>○本学附属図書館の蔵書250万冊のうち7割が書棚から落下し、学生ボランティアにより復旧作業を開始し行った。</p> <p>○福島県からの避難者のうち、つくば国際会議場の子供たちに向けて無償で学習指導を実施した。</p> <p>○【SAVE I BARAKI】ツイッターで流れている茨城県に関する情報をまとめて流すwebサイトを運営した。</p> <p>○大学院2年次学生3名：建築家による復興支援ネットワーク「アーキエイド」主催による宮城県石巻市の浜に関する共同調査に参加。住民から被害状況と要望を聞き取り、被害状況に関するカルテと復興計画案を作成し石巻市に提出した。</p> <p>○つくば市・インテル社と連携して被災地からの避難児童・生徒に対する学習支援プログラムを7月、8月に実施した。</p> <p>○筑波大学学生団体芸術系サークル「津軽三味線倶楽部、無絃塾（部員数45名）」の学生が、平成23年8月28日（日）に、原発により避難している福島県富岡町の町民200名を牛久中央生涯学習センター文化ホールに招き、ボランティアで三味線や民謡・踊りなどを披露し、好評であった。なお、この様子は、9月23日（金）に「NHKスペシャル-のど自慢被災地からの歌声（仮題）-」にて放映される予定。</p> <p>○硬式野球部員90名が1月14日～15日宮城県山元町を訪れ、おてら災害ボランティアセンターでがれき撤去及び野球教室を行った。</p> <p>○ボランティア情報の共有・提供、他団体・他活動との交流促進、大学としての一元的な情報把握・ノウハウ蓄積を行うため、筑波大学ボランティア情報サイトを構築した。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	筑波大学	<p>○福島県いわき市(5月28日)および宮城県石巻市(6月4日,5日)で、被災者を対象に運動教室を開き、ストレッチや軽運動を実施した。プログラムとしては、被災者同士およびサポートスタッフとの交流を促進するために、ペアでの身体的な交流を中心とした体操を音楽に合わせて実施した。</p> <p>○1月14、15日の2日間にかけて宮城県山元町花釜地区で被災家屋の清掃活動を行った。作業は硬式野球部員80名で行った。</p> <p>http://www.nippon-foundation.or.jp/org/moyo/2011935.html(産経エクスプレス、2月6日) http://www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1062/20120130_10.htm(河北新聞、1月30日)</p> <p>○3回にわたり、BAMISプロジェクトサイエンスカフェにて、体育と復興支援についてワークショップおよびセミナーを実施した。(5月21日、6月27日、10月25日)</p> <p>○宮城県気仙沼市気仙沼第一小学校を視察訪問</p> <p>鹿折地区仮設住宅(3か所)にて体操教室in気仙沼を実施(のべ80人が参加)</p> <p>日本国際ボランティアセンターの活動サポートとして、気仙沼鹿折地区仮設住宅のコミュニティ形成を促進する活動として、炊き出しサポート。筑波大学体育系長谷川聖修教授ほか体育学系学生2名参加。(9月9-11日)</p> <p>○宮城県石巻市内避難所を訪問、歌いながら踊る健康体操、フリフリグッパを実施。中高年者約30人が参加。筑波大学体育系征矢英昭教授参加。(10月6-7日)</p> <p>○宮城県気仙沼市大峠山仮設住宅の中高齢者に対して呼吸法、体操教室を行った。また、その後のコミュニティ形成の一環として行う茶話会の活動支援を行った。また、日本国際ボランティアセンターの活動サポートとして、気仙沼市立鹿折小学校・公民館主催の「復幸祈念祭」について、準備進行の支援を行った。筑波大学体育系井出幸二郎助教、菊池章人研究員ほか学生3名参加。(10月7-9日)</p> <p>○宮城県気仙沼市西八幡地区仮設住宅の中高齢者・児童に対して呼吸法、体操教室を行った。また、その後のコミュニティ形成の一環として行う茶話会の活動支援を行った。また、日本国際ボランティアセンターの活動サポートとして、気仙沼市立浦島小学校筑波大学体育系井出幸二郎助教、菊池章人研究員ほか体育課科学系修士課程学生1名、トライアスロン部学生2名参加。(11月18-20日)</p> <p>○筑波大学軟式庭球部員9名と卒業生9名が、岩手県陸前高田市スポーツドームを訪問し、岩手県立高田高校女子ソフトテニス部15名を指導・交流。高田高校教諭川口倫氏、高田高校ソフトテニス部コーチで陸前高田市体育協会事務局長、一本松プロジェクト代表菅野 修氏ら3名も参加。(11月26日(土))</p> <p>○同上メンバーが、岩手県陸前高田市住田町生涯スポーツセンターを訪問し、岩手県立高田高校女子ソフトテニス部16名を指導・交流。同上の川口教諭、菅野コーチら3名、ソフトテニス部員保護者8名も参加。(11月27日(日))</p> <p>○宮城県気仙沼市にて日本国際ボランティアセンターの呼びかけにより、社協の生活支援相談員、復興支援コーディネーター、KRA(NPO)、サポートセンターのそれぞれのスタッフ総勢30名に対して、仮設住宅などで実施可能なように「なかよしラジオ体操」の指導を行う。筑波大学体育系長谷川聖修教授が参加。(12月10-11日)</p> <p>○「LIFE」メンバーにて被災地にある福島県立博物館での「会津・漆の芸術祭」への出典協力。</p> <p>○被災地(北茨城市)の小・中学校にてアニメーションワークショップの開催、及びWS活動の記録映像制作。</p> <p>○原発関連の避難者もいる喜多方市にて、空き地を利用しての祭りを企画。出店・明和電気のライブ。</p> <p>○木造仮設住宅における生活環境改善のための家具づくりワークショップを行った。(11月3日)</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	宇都宮大学	<p>○石巻市において、学生ボランティアによる避難所での炊き出し、家屋内の泥出しとして、4月28日～5月1日に学生153名が参加した。その際、職員9名を派遣した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/index.php?id=264 ○6月4日、5日に宮城県七ヶ浜町蔵で行われた海浜清掃作業に学生21名を派遣した。 ○7月16日～18日に、4月のボランティアに参加した学生が主体となって企画し石巻市内の民家のがれき撤去等に約140名の学生ボランティアを派遣した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/index.php?id=337 ○8月24日～8月30日に、岩手県釜石市および大槌町において仮設住宅入居者対象の「お茶っこサロン」(入居者の方がお茶を飲みながらくつろぐ場)の運営活動に学生11名が参加した。その際、職員1名を派遣した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/index.php?id=353 ○9月9日、11日に、宮城県南三陸町において被災住宅の片付け及び演奏会に混声合唱団所属の学生37名が参加した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/index.php?id=365 ○11月5日・6日に宮城県亘理町公共ゾーン仮設住宅にてわたりモールの運営に学生10名が参加し、教員1名が引率した。 ○11月19日～21日の大学祭(峰ヶ丘祭)において被災地応援グッズ(被災者が作ったキーホルダー、バッジ、菓子など)を販売した。 ○11月23日に、宮城県山元町において被災住宅の片付け・がれき撤去等に学生15名、教職員2名を派遣した。 ○1月15日に宮城県山元町において炊き出し及び学習支援等に学生4名、教職員2名を派遣した。</p>
関東・甲信越	群馬大学	<p>○教育学部1名(4月30日～5月4日), 社会情報学部1名(4月26日～30日), 工学研究科5名(5月4日～8日), 工学研究科1名(5月21日～5月22日), 工学研究科1名(6月11日～12日), 工学研究科1名(9月2日～7日)が仙台市を拠点として活動</p> <p>○被災地の児童生徒の教育支援(補習授業の補助)のため、教育学部教職インターンシップを活用し、宮城教育大学の協力を得て、宮城県女川町立の中学校に学生を派遣 ・8月1日～3日 教育学部4年生8名</p>
関東・甲信越	埼玉大学	<p>○学生に対し、「東日本大震災に伴うボランティア活動について」を発信、ボランティア活動に参加する際の留意事項等を整備(4月13日)し、9名の学生の届出があった。 http://www.saitama-u.ac.jp/announce/20110413-2.pdf ○さいたまスーパーアリーナに避難している子どもに対し、サークル等で子どもの教育等にかかわっている学生が、勉強や遊びを行うボランティアを実施。 ○旧騎西高校に避難している双葉町(福島県)の小・中・高生等に対し、学生がボランティアとして学習支援やイベント等を実施。(8月23～31日) ○学生が宮城県にてボランティア活動を行った。(8月29～31日) ○学生が宮城県、福島県にてボランティアとして活動を行った。 ・個人宅、病院公共施設の清掃(9月11日、12日、22日、23日) ・炊き出し、物資配付、サッカー教室(11月23日) ・クリスマスイベント(イルミネーションの装飾)(12月17日、18日) ・いちご農家の復興支援(1月13日、14日) ・瓦礫の撤去処理等(2月16日)</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	千葉大学	<p>●大学企画 8/4～8/7 宮城県気仙沼市（瓦礫撤去等）教職員7名 学生31名 9/23～9/26 宮城県南三陸町（瓦礫撤去）教職員10名 学生24名 H24.2/3 福島県富岡小中学校（学校イベントへの協力）教職員12名 学生19名</p> <p>●個人活動 ○岩手県 78件（炊き出し瓦礫の撤去、泥かき） ○宮城県 889件（泥かき、家屋の清掃・片付け、小学校での学習支援） ○福島県 37件（避難所での生活支援・児童への娯楽提供、支援物資仕分け、安否確認支援）</p> <p>○千葉県内 52件 旭市 7件（土砂の撤去作業、炊き出し、支援物資配達） 佐倉市 16件（歴史的資料の搬出・整理） 千葉市 8件（支援物資の仕分け、土砂撤去、募金活動） 習志野市 1件（募金活動） 船橋市 10件（避難所での被災者受入支援、募金活動） 浦安市 8件（土砂の撤去作業、簡易トイレの配達、建物被災度調査（市役所職員の補助）） 君津市 2件（中学校にて活動報告） ○その他 13件（NPO等での募金活動、支援物資荷積みなど） （東京都・京都府）</p>
東京	東京大学	<p>○東京大学学生・教職員によるボランティア活動の報告・連絡会を開催（平成23年4月27日、6月28日、10月7日） http://www.u-tokyo.ac.jp/public/archive2011_j.html#a1 ○学生・教職員有志によるボランティア隊を被災地に派遣（平成23年8月から9月にかけて計5回。約220名が参加） http://www.u-tokyo.ac.jp/public/archive2011_j.html#272 ○ボランティア活動支援金の開設（平成23年12月6日） ボランティア活動を行う学生を支援するため、交通費または参加費の範囲内（上限2万円）で支給を開始した。 http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html ○陸前高田市「学びの部屋」への学習支援ボランティア活動（年末年始の期間、16名が参加） ※平成24年2月から3月にかけても実施を予定。 http://www.u-tokyo.ac.jp/public/archive2011_j.html#293</p>
東京	東京医科歯科大学	<p>○4月30日～5月4日までの間、保健衛生学科3年の2名が宮城県仙台市においてボランティア活動を行った。 ○4月17日～4月18日、4月26日～4月29日、6月4日～6月6日、6月28日～6月30日の期間、保健衛生学研究科博士後期課程3年の大学院生1名が、千葉県鴨川市において福祉避難所のボランティア活動を行った。 ○5月13日～5月21日の期間、保健衛生学研究科博士後期課程3年1名および2年1名が、宮城県石巻市において、ヘドロ除去や清掃作業などのボランティア活動を行った。 ○7月26日～7月30日の期間、保健衛生学位研究科博士後期課程1年1名が、宮城県気仙沼市において避難所における支援マニュアル作成等のボランティア活動を行った。 ○8月11日～13日までの間、保健衛生学科の教員1名が宮城県本吉郡南三陸町と石巻市において、ボランティア活動を行った。</p>
東京	東京外国語大学	<p>○東日本大震災に関するボランティア活動について、学生向けのガイドラインを作成するとともに、講習会を4～6月に実施した。9月現在、大学で把握している限りで約25名の学生がボランティア活動を行った。そのほか、学生が自主的に支援隊を結成し、大学としてはテント、ヘルメット等の物的支援を行っている。その後さらに46名の学生がボランティア活動に参加した。 http://www.tufs.ac.jp/jishin/parents/volunteer.html</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	東京学芸大学	<p>・ BunB東京スポーツ文化館で避難生活している中・高校生の学習支援にあたる学生ボランティア22人を、4月25日～7月20日の間、各曜日3～4人の体制に割り振り派遣した。 URL:http://www.u-gakugei.ac.jp/news/2011/04/post-58.html 夏休み期間は中断したが、後期に入って再開し、8人の学生ボランティアが各曜日1～2人体制で9月26日～24年2月末日まで継続して学習支援を行った。</p> <p>・ 宮城県大崎市鳴子温泉地区に避難している小・中学生の学習支援・遊び・心のケア、並びに地域の文化活動などの支援にあたる学生ボランティア107人を、毎週各金曜日ごとに大学のバス（公用車）を用いて約10人を送迎、大学が現地に拠点となる宿を確保し、1週間ごとの体制で小学校や児童館などに派遣した。（7月15日～9月30日） URL:http://www.u-gakugei.ac.jp/news/2011/08/-in.html</p> <p>・ その他学生が個人的に参加したもので、把握しているものは以下のとおり。（人数の記載のないものは各1名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NGO J L M Mに所属し、宮城県塩釜市において、泥出し、掃除等の作業に従事。（3月28日～29日） ・ 宮城県南三陸町ベイサイド災害ボランティアセンターにおいて、ボランティアに対する活動場所の割り振り等の業務に従事。（4月8日～25日） ・ 世田谷区防災ボランティアセンターに所属し、街頭募金活動。（4月9日～） ・ 東京ボランティア市民活動センターに所属し、宮城県石巻市、東松山市ボランティアセンターにおいて、がれき撤去や清掃等の作業、小学校の入学式準備作業、民家の泥よけ、家財道具の運搬、被災者のメンタル支援に従事。（4月17日～23日） ・ 岩手県山田町災害対策ボランティアセンターにおいて、社会福祉協議会の手伝い、炊き出し支援、避難所ニーズ調査、物資提供、情報収集、個人営業食堂再開の手伝い等に従事。（4月18日～27日） ・ 宮城県亘理町災害ボランティアセンターにおいて、ヘドロの撤去等の作業に従事（4月25日～28日） ・ 「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」に所属し、東松山市、岩沼市、多賀城市、亘理市など宮城県南の避難所において、障害者や高齢者、子どもなど社会的立場の弱い人のニーズを発見し、NPOなどの専門団体につなげ支援するプロジェクトに従事。（4月25日～5月1日） ・ 福井県災害ボランティアセンターに所属し、宮城県石巻市において、物資の配送、避難所清掃、瓦礫撤去、泥出し作業等に従事（4月28日～5月2日） ・ 大学生協ボランティアセンターに所属し、宮城県ボランティアセンターと協力して、仙台市、多賀城市、石巻市、塩竈市周辺において泥出し、家財運搬、片付け等の作業、炊き出し、子どもたちの世話等に従事。（4月30日～5月4日）2人、（5月4日～8日）2人、このほか6月26日までの間に5人。 ・ 岩手県災害ボランティアセンターに所属し、岩手県沿岸被災地において、家屋内外の片付け、泥の撤去、物資の仕分け等の作業に従事。（5月2日～5日） ・ 日本財団学生ボランティアセンターに所属し、「大学生泥かきボランティア隊」として、宮城県石巻市において、泥かき作業に従事。（5月3日～7日） ・ 東京ボランティア市民活動センターに所属し、岩手県においてがれき撤去や清掃等の作業に従事。（5月6日～9日） <p>・ 東京弁護士会（NPO法人キッズドア）が運営した、都内で避難生活している被災児童への学習・遊び支援のボランティアに3人の学生が参加（4月28日～6月末）。</p> <p>・ NPO法人寺子屋方丈舎、NPO法人東京学芸大学こども未来研究所が募集した、福島県磐梯青少年交流の家及び周辺避難所における被災児童への学習支援、遊びワークショップ等のボランティアに27人の学生が参加（6月11日～29日）。</p> <p>・ 国立青少年教育振興機構が主催した、福島の子供・生徒対象のリフレッシュキャンプボランティアに14人の学生が参加（7月22日～8月30日）。</p> <p>・ 全国大学生協連が募集した、宮城県七ヶ浜における中高生の学習支援、海浜清掃、炊き出し等のボランティアに2人の学生が参加（8月29日～9月18日）。</p> <p>・ 公益財団法人修養団（SYD）青年部が主催した宮城県石巻市におけるがれきの撤去、泥かき、写真等の清掃・仕分け等のボランティア（第2期）に9人が参加（9月30日～12月25日）。</p> <p>・ 「宮城県石巻市湊小学校を支援する東京サポート」が主催する、石巻市湊小学校での学習支援ボランティアに3人の学生が参加（1月23日～3月11日）。</p> <p>・ 公益財団法人修養団（SYD）青年部が主催した宮城県石巻市における被災家屋の清掃、泥かき、公園整備等のボランティア（第3期）に22人が参加申込（1月13日～3月18日）。</p> <p>・ 大学院2年生（手話堪能、社会福祉資格所持）が東京聴覚障害者支援センターと協力して、宮城県（岩沼、石巻）の聴覚障害者のニーズ調査に協力した。</p>
東京	東京農工大学	<p>○8月末日までに2423名の学生からボランティア参加届の提出があり、被災地において炊き出し・がれき撤去・中高生の学習支援等の作業に参加している。 ○学生が災害ボランティア活動のため、授業等を欠席する場合は、欠席扱いとしない等の配慮を行った。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	東京海洋大学	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティア活動のための修学上の配慮（学生が活動期間中に授業を欠席する場合等の配慮、また、参加する学生に対する安全管理の徹底、ボランティア保険加入への指導）→学生のボランティアの届出3名 ○ 日本財団ROADプロジェクト「大学生泥かきボランティア隊」派遣の学生ボランティア募集をホームページに掲載 http://www.kaiyodai.ac.jp/news/3105/15242.html ○ 石巻市での海岸の漁具回収、海岸沿いの民家の片付け、土砂や瓦礫の撤去等の活動に主に夏休み中、学生ボランティアが参加。（延べ17名参加） ○ 海洋科学部の海洋科学教育学術支援財団による学生ボランティア支援活動により、8月22～26日に山田町および「鯨と海の科学館」施設の復旧作業を支援した。（7名参加） http://www.kaiyodai.ac.jp/Japanese/shienzaidan/news/110817.html ○ 同財団により、9月23～10月2日の間に第2回目の活動を支援した。（22名参加） http://www.kaiyodai.ac.jp/Japanese/shienzaidan/news/110912.html
東京	お茶の水女子大学	<ul style="list-style-type: none"> ○条件付きで推奨している。 ○ミサンガ袋詰めや仮設住宅訪問等のボランティア活動にあたる学生5人を気仙沼市に派遣（平成23年12月3日～4日） ○仮設住宅での餅つき大会ボランティア活動に参加する学生6人を会津若松市に派遣（平成23年12月9日～10日）
東京	電気通信大学	<ul style="list-style-type: none"> ○授業に影響のない範囲で活動することは認めた。 ○学生が被災地へのボランティア活動に個人で参加した（2名）。 ○福島県いわき市、双葉町などから調布市の味の素スタジアム避難所に避難した小中高生に対して、学習室に教材、器材、文房具を配備し、学生ボランティア20名、教員4名を派遣し、個別指導的な学習支援を行った。（3月28日～4月16日）
東京	一橋大学	<ul style="list-style-type: none"> ○本学の学生サークルである一橋大学チーム・えんのしたと社会学研究科の猪飼周平准教授が共同で、宮城県南三陸町の子どもに絵本・児童書・紙芝居などの支援を行うプロジェクトを企画、実行した。本はツイッター、メール等で募集し、約3000冊を集めた。現地入りしたのは、猪飼准教授、えんのしたの綾・渡辺、保育士二名の計五名で、4月13日～4月17日の計五日間支援を行った。現地では、1）小学校長・保育所長の情報、2）地域の未就学児童の居場所を知る顔役からの情報、3）子どもをもつ親からの情報を活用して、個別訪問を軸に絵本を配布した。 ○学生の個人参加による被災地での清掃作業、仮設住宅地での学習支援等について夏季休業を利用して実施した。 ○被災地においてボランティア活動に参加する本学学生（学部学生・大学院生）を支援するため、参加費用（宿泊費・交通費・ボランティア保険料）の一部を援助することとした。 URL：http://www.hit-u.ac.jp/function/outside/news/2011/0825.html
東京	政策研究大学院大学	<p>ボランティア活動について、学修に影響が無いと判断された場合に事前に大学に届け出ることにより、欠席扱いとしない等の措置について定めている。</p> <p>現在のところ、上記によるボランティア活動への参加の届け出はない。</p> <p>なお、個人的に休日等を利用しボランティア活動に参加している学生がいるが、実際の活動については、休日等の活動であるために把握できない。</p>
関東・甲信越	横浜国立大学	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動に参加を希望する学生に対し、自己の安全を最優先すること、必ずボランティア保険に加入すること等の留意点を示し、常に大学と連絡が取れるよう、届け出をさせるようにした。（届出者 23名）
関東・甲信越	新潟大学	<ul style="list-style-type: none"> ○新潟県内の避難所で生活する被災者の方々に次のようなボランティア活動を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園から中学生までを対象とした学習支援を行った。 ・健康維持のため、ウォーキング指導や子供向けの体操教室等を行った。 ・落語研究部が寄席を開いた。 ・子供を対象に工作教室を行った。

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	長岡技術科学大学	・福島県相馬郡新地町でのボランティア活動を実施（3日単位） 4月22日～4月24日 4月26日～4月28日 4月29日～5月1日 5月2日～5月4日 5月5日～5月7日 (2日単位) 5月21～5月22日 6月4日～6月5日 7月9日～7月10日 宮城県山元町でのボランティア活動 11月19～20日
関東・甲信越	上越教育大学	○上越教育大学学校教育学部授業科目「ボランティア体験」における自然災害に伴うボランティア活動に関する取扱要項（H23.6.15学長裁定）を整備 ○国立大学法人上越教育大学の東日本大震災に関する支援活動方針（H23.6.21学長裁定）を策定 ○東日本大震災の支援活動に伴う学生・職員ボランティアを募集（6月29日） 【登録人数：職員7人，学生7人】 ○子どもの学び支援ポータルサイト「支援の提案情報」登録（6月30日） ○学部4年生12人が宮城県巨野郡山元町にてボランティア活動（8月2日） ○JTBとの共同企画による被災地（宮城県）ボランティア日帰りバスツアーを実施 第1回8月20日参加人数：学生8人，教職員9人，一般14人，合計31人 第2回9月3日参加人数：学生33人，教職員10人，一般12人，合計55人 第3回12月17日参加人数：学生44人，教職員10人，一般12人，合計66人 ○被災地ボランティア日帰りバスツアー(9/3)参加学生（学部1年生1人，学部2年生2人）が学部授業「ボランティア体験」の履修時間認定を申請
関東・甲信越	山梨大学	○共同ボランティア活動団体が、5月13日からボランティアバスの運行をする予定であり、これについて学生に周知。 ○ボランティア活動を最長5日間(休祭日を除く)とし、講義を欠席した場合、補習等を実施し不利にならないように扱うことを教授会において決定。(医学部) ○大学院生1名が自治労東京都本部のボランティア活動に参加。福島県相馬市にて看護師・保健師として活動。(5月7日～17日) ○医学部医学科生1名がボランティアインフォの活動に参加。宮城県内のボランティア募集团体を訪問し、ボランティア募集のサポート活動を実施。(8月13日～20日)
関東・甲信越	信州大学	○学生による被災地でのボランティア活動への参加に向けた体制の整備 http://www.shinshu-u.ac.jp/current/topics/2011/04/post-234.html ○学生による被災地でのボランティア活動 経済学部生1名(4/15～4/24)，理学部大学院生1名(4/29～5/7)，医学部生(20名 3/22～栄村で活動)，学部生5名・大学院生1名(5/3～5/8，人文学部1名，経済学部1名， 理学部2名，工学部1名，教育学研究科1名)，理学部生1名(5/6～5/8)，繊維学部生1名 (4/1～3/31 休学期間利用)，繊維学部生1名(5/1～9/30 休学期間利用) 農学部151名(4月末～7月中旬 延べ人数)，経済学部生3名(5/4～5/8)，繊維学部生1名 (5/14～5/21)，農学部大学院生1名(4/10～5/8)，農学部大学院生2名(4/29～5/5)，教育 学部生1名(7/23～7/24)，繊維学部生1名(1/13～1/21)
東海・北陸	富山大学	○ボランティア活動の手続きや修学上の配慮について周知(4月26日) ○富山県と連携し富山県派遣のボランティア活動へ学生を派遣(4月27日～) ※12月月末までに6026名の学生を派遣 ○職員が災害ボランティアへ参加(8月31日～9月2日)

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	金沢大学	<ul style="list-style-type: none"> ・HPを活用してボランティア活動に関する留意点等、情報提供を行った ・ボランティア参加の講習会を開催した(4月25日, 6月6日, 8月10日, 11月8日) ・ボランティアグループ「灯」が米沢市で足湯を実施(4月29~4月30日) ・学生が仙台市等でボランティア活動に従事(5月3~5月10日) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 炊き出し, 海岸清掃を実施(5月13~5月16日) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市でボランティア活動に従事(5月3日~5月10日, 実施主体: コープ石川) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 海岸清掃を実施(6月10日~6月12日) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市でボランティア活動に従事(5月3日~5月10日, 実施主体: コープ石川) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 瓦礫撤去を実施(7月1日~7月3日) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市でボランティア活動に従事(7月8日~7月10日, 実施主体: コープ石川) ・学生が陸前高田市でボランティア活動に従事(7月15日~7月18日, 実施主体: 石川県ユネスコ協会) ・学生が陸前高田市でボランティア活動に従事(7月20日~7月24日) ・学生が気仙沼市でボランティア活動に従事(8月19日~8月22日, 実施主体: 石川県ユネスコ協会) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 瓦礫撤去を実施(8月21日~8月24日) ・学生が仙台市等でボランティア活動に従事(9月6日~9月11日) ・学生が七ヶ浜町でボランティア活動に従事(8月19日~8月22日, 実施主体: 全国生協) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 瓦礫撤去を実施予定(9月20日~9月23日) ・学生が気仙沼市でボランティア活動に従事(9月23日~9月26日, 実施主体: 石川県ユネスコ協会) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 瓦礫撤去等を実施(11月18日~11月20日) ・ボランティアグループ「灯」が陸前高田市で足湯, 瓦礫撤去等を実施(12月21日~12月23日) ・金沢大学学生ボランティアさぼーとステーションが足湯, 瓦礫撤去等を実施(1月20日~1月22日) ・金沢大学学生ボランティアさぼーとステーションが足湯, 瓦礫撤去等を実施(2月19日~2月21日) <p>金沢大学学生ボランティアさぼーとステーションとは 本学におけるボランティア活動を志す学生のとりまとめや学内外からのボランティア派遣要請の受け入れ窓口を行う組織であり, 平成24年1月から本格的に活動を開始した。</p>
東海・北陸	福井大学	<ul style="list-style-type: none"> ○福井県災害ボランティアセンター連絡会が行う岩手県へのボランティア派遣に参加 (3月19日~4月1日: 医学部学生1名) (3月29日~4月2日: 医学部学生2名) (4月24日~29日: 医学部学生1名) (5月2日~6日: 医学部学生8名) (6月5日~9日: 教育地域科学部学生1名) (6月20日~24日: 工学部学生1名) (7月15日~18日: 工学部学生1名) (8月26日~29日: 医学部学生1名) (8月29日~9月2日: 医学部学生15名) (9月12日~16日: 医学部学生8名) ○NPO法人TICO(徳島県)及びNPO法人フェアトレード東北(宮城県)と連携した石巻市及び東松島市でのボランティア活動に参加 (4月29日~5月5日: 医学部学生1名) ○宮城県でのボランティア活動に参加 (6月9日~12日: 工学部学生15名, 工学研究科学生1名) (6月13日~18日: 工学部学生8名) (6月17日~20日: 工学部学生1名) (7月29日~8月3日: 医学部学生1名) ○福井県大学連携リーグが行う岩手県へのボランティア派遣に参加 (8月9日~12日: 教育地域科学部学生1名, 工学部学生7名, 工学研究科学生2名) (8月23日~26日: 医学部学生7名, 工学部学生3名, 工学研究科学生1名)

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	岐阜大学	・希望者は、学生支援課に相談することとしている。（実績4件あり）
東海・北陸	静岡大学	○震災直後の被災地では安全面・健康面の確保が十分に行えないため、自粛を要請した。（3月18日） ○教員(1名)及び学生(5名)が避難所へのPC・ネット環境の提供・利用支援活動、及び災害ラジオウェブサイト提供とサポート活動等の情報支援活動を行った。（4月6日～5月8日／宮城県山元町） ○HPにて学生ボランティア（静岡県社会福祉協議会）の情報提供を行った。（4月20日） ○HPを活用して学生ボランティア活動における留意点等、情報提供を行った。（6月20日） URL: http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq20110315_svo.html
東海・北陸	浜松医科大学	学生2名が宮城県気仙沼市においてボランティアに参加（4月23日～26日） 学生2名が宮城県石巻市においてボランティアに参加（4月29日～5月5日） 学生1名が宮城県石巻市においてボランティアに参加（7月7日～10日） 学生5名が宮城県気仙沼市においてボランティアに参加（7月19日～23日） 学生1名が宮城県仙台市、角田市においてボランティアに参加（9月22日～25日） 学生1名が岩手県陸前高田市においてボランティアに参加（9月23日～25日） 学生4名が宮城県南三陸町においてボランティアに参加（12月20日～24日） 学生1名が福島県南相馬市においてボランティアに参加（1月4日～8日） 学生1名が福島県南相馬市においてボランティアに参加（1月4日～7日）
東海・北陸	名古屋大学	1. ボランティア参加希望者に対して、活動の心得、ボランティア保険、現地受け入れ状況、生協・NPOによるグループ参加などについて、ガイダンスと情報提供を行った。 2. 名古屋における後方支援ボランティアの紹介・調整を行った。 ボランティア活動に行くため授業を欠席する学生に対しては、以下のとおり対応する (1) 1週間程度の欠席については、不利益とならないよう教育的な措置をとる。 (2) 一部の実習科目、セミナーでボランティア活動に対して単位を与える。
東海・北陸	愛知教育大学	○復興支援ボランティアを募集し、現在140名以上が登録している。現在、夏季休業中におけるボランティア派遣に向けて、実施方法等を検討中である。また、被災地を訪れる学生は、必ず事前に学生支援課まで活動予定等を連絡するように指示しており、現在、1名の学生が5月から休学し、家族でボランティア活動に従事している。 ○教育復興支援ボランティアとして、8/8～12に学生7名を南三陸町へ、8/16～21に学生5名を気仙沼市へ派遣した。また、9/5～9に学生1名を岩沼市へ派遣した。なお、今後も教育復興支援ボランティアを継続する予定であり、引き続き、学生のボランティア登録を受け付けている。 ○春季休業中におけるボランティア派遣について、宮城教育大学と連携しニーズ等を調整中。
東海・北陸	名古屋工業大学	○ボランティア活動希望者の登録を受け付け、これまで30人が登録し、うち6人の学生が被災地でのボランティア活動に参加した。 URL: http://www.nitech.ac.jp/other/anti_disaster_07.html
東海・北陸	豊橋技術科学大学	○学生ボランティアサークルが被災地に行かずにできる活動として、豊橋駅前で義援金の募集活動を実施。 ○本学留学生による義援金募集活動を実施。 ○学生ボランティアサークルが宮城県岩沼市で復興支援ボランティア活動を実施。（5月2日～5日） ○学生ボランティアサークルが宮城県南三陸町でボランティア活動を実施（9月11日～15日） ○学生2名が岩手県宮古湾にてボランティア活動(10月8日～10日)

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	三重大学	<p>○被災地のボランティアセンター運営業務の支援のため、学部生1名が岩手県山田町に県の団体の一員として参加（4月28日～5月4日）</p> <p>○被災地のカウンターパートと共に学部学生1名が福島市及びいわき市で活動（4月29日～5月6日）</p> <p>○被災地での家屋片付け、給水手伝い、炊き出し等に従事するボランティア活動に、3名の学部生が陸前高田市、気仙沼市で参加（4月30日～5月9日）</p> <p>○被災地の小学校教諭と学校薬剤師への支援のため院生1名が三重県薬剤師会からの要請を受け福島市他で活動（5月6日～5月10日）</p> <p>http://www.mie-u.ac.jp/activity/contribution/volunteer.html</p> <p>○官民協働運営の「みえ災害ボランティア支援センター」が企画するボラパック（岩手県山田町でのボランティア活動）に28名が参加し、その他の団体による活動に延べ3名が参加している。</p> <p>○美し国おこし・三重さきもり塾（大学院の特別の課程生）の塾生及び卒業生（美し国おこし・三重さきもり倶楽部会員）2名が官民協働運営の「みえ災害ボランティア支援センター」が企画するボランティア活動（岩手県山田町）に参加し、その他の団体による活動に2名が参加している。</p> <p>○官民協働運営の「みえ災害ボランティア支援センター」が企画するボラパック（岩手県山田町でのボランティア活動）に6名が参加した。</p>
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	全学生に対し、メールにて、ボランティア保険の加入先を通知し、震災地域へ移動する場合は、事前に届け出るよう指導。
近畿	滋賀大学	<p>○ボランティア活動に参加する場合は、事前に大学の窓口に届けた上で、ボランティア保険に加入して行う体制になっている。16名の学生が宮城県・岩手県での活動を届け出、うち、申請のあった5名についてボランティア活動の単位を認定した。</p> <p>http://www.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=35:3</p>
近畿	滋賀医科大学	○13名が自主的に活動した。 7.25～7.29 1名が参加。（計14名）
近畿	京都大学	<p>・被災地でのボランティア活動への参加については、大学への届出及び保険加入を義務付けたいうえで参加を認めている</p> <p>URL:http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news5/2011/110415_1.htm</p> <p>・本学学生ボランティア73人が被災地にて活動</p> <p>・東北復興支援 京都大学学生ボランティアの派遣（21人）</p> <p>URL:http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news7/2011/110830_1.htm</p>
近畿	京都教育大学	<p>○被災地ボランティアに参加する学生には、大学に事前の届出及び終了後の報告を行うことなどを義務づけている。ボランティア活動期間は、半期につき2週間以内とし、その間の授業の欠席について履修上不利とならないよう配慮を行っている。</p> <p>○学生7名が、ゴールデンウィーク期間を中心に、大学生協ボランティアセンター等を通じて参加した。</p> <p>○8月末時点で、夏季休業期間を中心に13名が参加した・参加予定。（うち5名は宮城教育大学教育復興支援センター、その他は大学生協ボランティアセンター等を通じて参加。）</p>
近畿	京都工芸繊維大学	学生が個人的に京都災害ボランティア支援センターの募集する「被災地支援活動ボランティア」に参加し、宮城県気仙沼市大島にて民家の泥だし、瓦礫撤去を行った。（8/26～8/29）
近畿	大阪大学	<p>○被災地での学生のボランティア活動の参加に際しての手續等を周知</p> <p>○被災地での学生のボランティア活動の参加に際しての修学上の配慮について周知</p> <p>○ボランティア活動に関する説明会（4/13（水）、5/25（水）、7/14（木）、8/5（金）の4回）を実施</p> <p>○学資負担者学生支援組織の支援による岩手県へのボランティアバスの運行（8/25～8/29、8/31～9/6）</p> <p>○ボランティア活動参加学生団体主催・学生部他後援によるボランティア活動への理解と普及等を目的とした報告会の開催（10/15、1/28 参加対象：学生・教職員（他大学を含む）、一般）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	大阪教育大学	<p>○大阪教育大学東日本大震災復興支援対策委員会を設置し、学生・教職員がボランティア活動を行うための体制を検討している。</p> <p>○宮城教育大学と連携し、宮城県内の中学校・高等学校5校に学生31名を派遣</p> <p>○特別支援教育教員養成課程の学生5名が、岩手県での被災障害児支援及び被災障害児家族のレスパイトケアに従事</p>
近畿	兵庫教育大学	<p>・4月27日に、これまでに2回にわたって震災ボランティアに参加した学部学生による報告会「ボランティア経験者が、東日本震災の現状を語る！-いま我々ができること、すべきことは!?-」を学生及び教職員を対象に開催した。</p> <p>・ボランティア活動に参加する学生のためにボランティア保険に大学が加入することにより、学生がボランティアに参加しやすい環境を整備した。</p> <p>・学生のボランティア活動について、大学として次のとおり体制を整え、学生に周知を図った。</p> <p>①ボランティア関連サイトの情報を提供し、学生が的確に情報を把握できるよう対応した。</p> <p>②学生がボランティアに参加する場合に、安全確保や動向把握のためにボランティア活動届をクラス担当教員もしくは指導教員に確認印をもらった上で学生支援課に提出することとした。</p> <p>③ボランティアに参加する学生が、ボランティア保険に加入する経費を大学で負担することとした。</p> <p>④教務上の注意として、欠席届の提出やボランティアの単位化に関する情報提供を行った。</p> <p>⑤ボランティア参加に関する留意事項を掲載し、周知を図った。</p> <p>・学生ボランティア派遣検討WGを立ち上げ、東日本大震災に伴う学生ボランティア派遣計画を策定し、平成23年度、24年度の2ヶ年度に渡り、本学の教育・研究活動の特性を生かし、被災地の学校の学習環境整備、学習支援を中心に、夏季休業期間中にボランティア活動を行うこととした。平成23年度は8月8日（月）から8月12日（金）の期間、教職員2名の引率のもと、学部学生6名、大学院生19名がボランティア活動に参加した。当該活動では、宮城県石巻市内で、横浜市立学校の教員と協働して、「学習支援活動」に2日間、石巻市災害ボランティアセンターでの「災害ボランティア活動」に1日をそれぞれ従事した。なお、本活動は学部授業科目の「社会ボランティア体験学習」（担当：森田啓之准教授）での30時間のボランティア活動に充当可能として対応した。</p> <p>また、10月6日（木）には、東日本大震災兵庫教育大学学生ボランティア報告会を開催し、約70名の参加者があった。なお、報告は、ボランティア活動に参加した学生25名のうち代表者4名による報告を行った。</p> <p>・6月30日に、東日本大震災に係るボランティアに伴う授業の取扱いを定め、学生が欠席した授業については、可能な代替措置（補講又はレポート等）を行うことにより、履修上不利とならないように配慮することとした。</p>
近畿	神戸大学	<p>○ボランティア活動を届出制とすると共に、本震災に伴う授業の公欠制度を導入</p> <p>○本学の学生ボランティアバスによる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生23名参加（4/30-5/8） ・学生18名参加（4/28-5/5） ・学生16名参加（6/28-7/5） ・学生20名参加（8/16-8/23） ・学生10名参加予定（8/31-9/5） ・学生20名参加（9/8-9/15） ・学生48名参加（11/22-11/29） <p>○その他、大学以外の団体による活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生延べ39名参加 <p>○ボランティア活動による休学学生 3名（3名共に10月復学）</p> <p>○チャリティコンサート活動「はこべ・プロジェクト」（4/29）学生22名参加</p>
近畿	奈良教育大学	<p>○被災地等でボランティア活動を行う学生への修学上の配慮として、授業に係る補講の実施、レポートによる学修の補充・評価等を行うことを決定した。（現時点では、直接の被災地での活動は行われていない。）</p> <p>○震災ボランティア研修会を開催（5月11日）、学生、教職員ら約80名が参加。 講師：長友学長「福島第一原発事故と放射線の影響」、市来准教授「子どものこころの理解とケア」</p> <p>○学生1名が宮城県等におけるNPOのボランティア活動に個人的に参加（6月4日～10日）</p> <p>○宮城県気仙沼市への奈良市災害支援ボランティアバスに学生2人が参加（4月29日～5月3日1人、5月1日～5月5日1人）</p> <p>○宮城県気仙沼市への奈良県災害ボランティア隊に学生1人が参加（6月9日～6月13日）</p> <p>○宮城教育大学教育復興支援センターとの連携の下、学習支援にあたる学生ボランティア8人を宮城県七ヶ浜町及び大崎市に派遣（7月30日～8月6日） http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/SECRETARY/23vol_haken_1.html</p> <p>○宮城教育大学教育復興支援センターとの連携の下、学習支援にあたる学生ボランティア6人を宮城県岩沼市に派遣（9月10日～9月17日）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	奈良女子大学	<p>○大学として3週間を上限として、ボランティア活動を公欠としてみとめる制度を設け、2月末日現在、13件の活動届出があった。</p> <p>○附属中等教育学校の生徒会から2名、8月に陸前高田市でボランティア活動を行った。</p> <p>○〈共に生きる〉女子大学ネットワークin関西の活動の一環として、学生5名が、岩手県釜石市只越町商店街にて復興支援を行った。（平成23年12月26日～29日）主な活動は、学内や地域の商店街から寄付された物資を届け、現地の仮設商店街内でのイベントの実施や商店街でのニーズ調査。</p> <p>活動内容参考：http://www.nara-u.ac.jp/iec/index/reports/tomonikiru_report(11_1226).html</p>
近畿	和歌山大学	<p>○大学院生2名・学生1名・教員2名が被災地でボランティア活動に従事した。</p> <p>○和歌山大学東日本大震災ボランティアバスプロジェクト実行委員会主催によるボランティアバスを運行。陸前高田市災害ボランティアセンターを拠点に活動（参加者：学生4名、教員3名、職員4名）</p>
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	<p>○学生が自発的にボランティア活動に参加（4月7日～10日）</p> <p>○留学生が自発的にボランティア活動に参加（8月26日～29日）</p>
中国・四国	鳥取大学	<p>○避難所における救援支援物資の提供を行うため、学生ボランティア2人が宮城県東松島市にて活動（4月8日～10日）</p> <p>○被災地における泥出し、家財運搬等を行うため、学生ボランティア2人が宮城県東松島市にて活動（5月21日～22日）</p> <p>○被災地の仮設住宅入居者に対する世帯情報の入力、高齢者への訪問と現況調査するため、学生ボランティア1人が岩手県釜石市にて活動（6月26日～7月9日）</p> <p>○被災家屋等の片付け、清掃、泥出し等を行うため、学生1人が宮城県石巻市にて活動（7月20日～22日）</p>
中国・四国	島根大学	<p>○被災地でのボランティア活動については、事前に大学へ届け出るよう指導</p> <p>○本学独自に支援活動を実施したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 畑の整備、拾得物の清掃にあたる学生ボランティア10人を宮城県気仙沼市に派遣（8月25日～9月2日） <p>○NPO法人等の活動に加わり支援活動を実施したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がれきの撤去、家屋の片付け、泥かき作業等のため学生7名が宮城県石巻市で支援活動実施（4月30日～5月5日） ・ 子供が楽しめるようなイベント活動、泥かき作業等のため学生2名が宮城県東松島市で支援活動実施（7月22日～24日） ・ 児童デイケアのため学生1名が宮城県仙台市で支援活動実施（8月21日～26日） ・ がれきの撤去、家屋の片付け、泥かき作業等のため学生1名が宮城県石巻市周辺で支援活動実施（8月25日～27日） ・ 震災跡地の片付け等のため学生1名が宮城県東松島市で支援活動実施（8月28日～9月2日） ・ がれきの撤去、家屋の片付け、側溝の泥出し作業等のため学生1名が宮城県本吉郡南三陸町で支援活動実施（2月18日～22日）
中国・四国	岡山大学	<p>学生によるボランティアについては、事前に登録を行い実施するようにルール化した。</p> <p>7月初旬に、夏季休業等を利用して、被災地支援のボランティア活動に参加を希望する学生のためにホームページに「災害ボランティア活動を考えている皆さんへ」を掲載した。2月末現在、29名の学生が被災地でボランティア活動を行った。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・四国	広島大学	<p>○学生ボランティアについては、実際に届け出のあったのは46人（2月末日現在） ※学生ボランティアについては登録窓口を設置（3月14日）している。 https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/life/earthquakedisaster.html</p> <p>○広島大学震災復興支援ボランティア「OPERATIONつながり」の「つながり隊」1次隊として、学生23名が、災害復興支援団体「L&D仙台」（大学生中心のボランティア団体）と連携し、仙台市内において被災者支援活動（子供への学習支援、清掃、ブース別・国際交流等）を実施した。「広島大学東日本大震災復興支援ボランティア計画」に基づき、交通費（バス借上）や活動経費等（宿泊費の一部補助を含む。）約138万円を、「広島大学基金」から支弁。（派遣期間：9月14日～9月20日）</p> <p>○2次隊として学生26名（うち留学生5名）を派遣、仙台市、岩沼市、巨理郡巨理町の仮設住宅において傾聴やお手伝い、交流会の開催、学習支援を行うとともに、復旧作業、泥かき、雑草除去などを実施した。交通費等約105万円を、「広島大学基金」から支弁。（派遣期間：12月1日～12月8日）</p> <p>○3次隊として学生14名を派遣、東北大学川内北キャンパスで学生シンポジウム（今、ほくたちができること～広島大学の学生と震災復興を考えよう～）を開催するとともに、仙台市、岩沼市、名取市、巨理郡巨理町の仮設住宅において傾聴やお手伝い、交流会の開催、学習支援などを実施した。交通費等は、「広島大学基金」から支弁予定。（派遣期間：平成24年2月14日～2月24日）</p> <p>○4次隊として学生を仙台市等へ派遣、名取市の仮設住宅において傾聴やお手伝い、交流会の開催、学習支援などを実施予定。（派遣期間：平成24年3月10日～3月19日） http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/intro/shinsaishien/volunteer/</p>
中国・四国	山口大学	<p>○8月31日現在、復興ボランティアに参加し届出のあった学生は計14名（春休み1名、GW期間11名、その他は土日）</p> <p>○夏季休業中にボランティアを検討している学生は5名程度（結果については、学生から報告なし）</p> <p>○9月以降にボランティアに参加した学生は5名であった。</p> <p>○3月にボランティアを検討している学生は5名程度。</p>
中国・四国	徳島大学	<p>○学生のボランティア活動の実施（修学上の配慮も含む）について、ホームページに掲載 URLhttp://www.tokushima-u.ac.jp/tohoku_earthquake_disaster.html</p> <p>○NPO法人と連携して避難所での健康状態、ニーズなどの聞き取り調査及び家屋内に堆積している泥の撤去作業にあたる学生ボランティア12人を石巻市及び東松島市に派遣（4月29日～5月5日）</p> <p>○民医連による塩釜市・多賀城市の避難所での医療活動の手伝いにあたるボランティアとして2人が個人的に参加（4月29日～5月3日、5月1日～5日）</p> <p>○被災した学校や家屋の泥かき、がれきの撤去、清掃など、ボランティアとして13人が参加（5月連休～8月末日）</p> <p>○宮城復興支援センターの協力を得て、南三陸町や仙台市において支援物資の整理、仮設住宅の生活支援、物産店の接客・販売などにあたる学生ボランティア9人を同センターに派遣（9月4日～14日）</p> <p>○社会貢献共同体ユナイテッド・アースの活動に学生1名が参加し、南三陸町周辺においてキッズサポート、ボランティアサポート（料理、洗濯、掃除）等のボランティアとして活動（12月24日～12月30日）</p>
中国・四国	鳴門教育大学	<p>○学生8名（延べ9回）が被災地域（宮城県石巻市、福島県いわき市等）へ出向き、ボランティア活動を実施。このほか1名が被災地域の子どもを招へいするボランティア活動に参加。</p>
中国・四国	香川大学	<p>○4年生1名が、香川県社会福祉協議会の災害ボランティアの1員として、石巻市災害ボランティアセンター地で讃岐うどん・お菓子等を被災者に配付して激励した。（4月14日～4月20日）</p> <p>○学生3名・卒業生1名が、支援物資（食料・飲料・生活雑貨等）を自分達で準備して、宮城県郡山元町・巨理町・牡鹿郡女川町の被災者に届け、現地の実情を見聞きして、何が必要なのか、今後の活動のために現地とのつながりを作る等を目的として活動（4月7日～4月11日）</p> <p>○医学部学生3名が、宮城県の避難所における健康状態、ニーズなどの聞き取り調査・傾聴、家屋内に堆積している泥の撤去作業を実施（4月29日～5月5日）</p> <p>○チーム香川STUDENTS（香川大学医学部学生ICLS勉強会を中心とした災害医療に関心のある学生有志）の医学部生5名、経済学部生1名が石巻市において、在宅避難民への傾聴、聞き取り調査、配給の補助を行った。（8月10日～8月12日）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・四国	愛媛大学	<p>○「学生による東日本大震災被災地でのボランティア活動」の取扱いを定め、授業欠席等について配慮する措置を講じた。約61名の学生が被災地でのボランティア活動実施。</p> <p>○学内に拠点をおくNPO法人愛媛アカデミアが内閣府支援による地域インターンシップを被災地に振り向けることにより、企業支援ボランティアとしてのべ48名の学生を派遣した。</p> <p>○工学部環境建設工学科として、7月3日～16日の間教員5人、学生38人を岩手県に派遣し、被害調査、ボランティア活動、および陸前高田市における災害インターンシップを行った。</p>
中国・四国	高知大学	<p>○東日本大震災に伴う学生のボランティア活動に関しての方針を決定した。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出発前：計画書及び保護者の承諾書を提出させる。帰学後：活動終了届を提出させる。 ・ボランティア保険等への加入（保険料は大学負担）を義務付ける。 ・ボランティア活動は原則2週間以内とし、その間の授業は特例欠席として扱う。 ・授業科目の目的と密接に関わる場合は、授業担当教員の判断でボランティア活動を単位として認定することができる。 <p>○大学からのボランティア学生の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島県いわき市（5名）：引越し手伝い、被災家屋片づけ 8月18日～8月24日（活動期間8月19日～8月22日、8月23日は被災地視察・学校訪問） <p>○学生の自主的なボランティア活動への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県気仙沼市（2名）：物資仕分・被災家屋片づけ・移送等 4月29日から5月9日（うち活動期間4月30日から5月8日） ・宮城県東松山市（1名）：がれき・汚泥の撤去等 4月29日から5月5日（うち活動期間5月1日から5月4日） ・宮城県石巻市（1名）：がれき・汚泥の撤去、炊出し 6月15日から6月19日（うち活動期間6月15日から6月18日） ・宮城県登米市（6名）：病院業務補助 7月30日～8月6日（活動期間7月31日～8月6日） 7月31日～8月8日（活動期間7月31日～8月8日） 8月13日～8月21日（活動期間8月14日～8月20日） 8月14日～8月20日（活動期間8月14日～8月20日） 8月14日～8月22日（活動期間8月14日～8月22日） 8月20日～8月28日（活動期間8月21日～8月27日） ・宮城県本吉郡南三陸町（3名）：医療スタッフの業務支援 8月13日～8月21日（活動期間8月14日～8月20日） 8月14日～8月20日（活動期間8月15日～8月20日） 8月21日～8月27日（活動期間8月21日～8月27日） ・宮城県石巻市（1名）：被災家屋片づけ、野菜マーケット・リサイクルマーケットの運営等 8月14日～8月24日（活動期間8月15日～8月24日） ・宮城県登米市（1名）：救援物資の整理、泥出し、炊出し 8月17日～8月21日（活動期間8月18日～8月20日） ・宮城県登米市（1名）：外来・病棟業務補助 8月26日～9月2日（活動期間8月28日～9月2日） ・宮城県石巻市（1名）：動物の世話、広報、物品管理等 8月31日～9月11日（活動期間9月1日～9月10日） ・宮城県登米市等（1名）：がれき撤去 9月9日～9月19日（活動期間9月12日～9月16日） ・宮城県東松山市、石巻市（1名）：除草作業、仮設住宅物資配給、泥かき 9月17日～9月21日（活動期間9月18日～9月20日） ・宮城県気仙沼市（2名）：がれき撤去、泥出し、清掃等 9月20日～9月26日（活動期間9月22日～9月24日） ・岩手県陸前高田市（1名）：がれき撤去 9月22日～9月26日（活動期間9月24日～9月24日） ・岩手県釜石市（1名）：高圧洗浄機による洗浄、がれき撤去 9月26日～10月3日（活動期間9月28日～9月29日） ・岩手県陸前高田市（1名）：がれき撤去、炊出し 10月7日～10月17日（活動期間10月9日～10月15日） ・岩手県釜石市、陸前高田市（2名）：施設清掃、がれき撤去、仮設住宅住民への足湯提供 10月29日～11月4日（活動期間10月31日～11月2日） ・宮城県仙台市（1名）：ビニールハウス 10月30日～10月31日（活動期間10月30日～10月31日） ・宮城県石巻市（1名）：仮設住宅訪問ケア 12月8日～12月18日（活動期間12月10日～12月17日）

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	福岡教育大学	<p>○学生1名が社会人2名とともに個人的にボランティア活動に参加した。</p> <p>○「宮城教育大学教育復興支援センター」と連携し、被災地の小中学生を対象とした教育支援ボランティアとして、自学自習への支援に5名の学生が参加した。</p> <p>○学生3名がそれぞれ個人的にボランティア活動に参加した。</p> <p>○学生2名がそれぞれ個人的にボランティア活動に参加した。</p> <p>○平成24年3月から、「宮城教育大学教育復興支援センター」と連携し、学校支援ボランティアとして、学生を派遣する予定。</p>
九州	九州大学	<p>・ボランティア活動に関する文部科学副大臣通知(H23.4.1)を踏まえ、九大の運用指針を以下のとおりとした。</p> <p>1)各学部、学府等の判断により、ボランティア活動を希望する学生については、教育研究上支障がない場合に限り、修学上の配慮(補講・追試の実施、レポートの活用による学修評価等)を行うことができる。</p> <p>2)各学部、学府等の判断により、ボランティア活動が授業の目的と密接に関わる場合は、ボランティア活動を実習・演習等の授業の一環として位置付け、単位を付与することができる。</p> <p>3)ボランティア活動を行うことによる休学の願い出があった場合は、学部通則第29条第2項及び大学院通則第35条の第2項に掲げる特別な事情として取り扱うものとする。</p> <p>4)情報提供の在り方についてはホームページの掲載内容について検討中。</p>
九州	九州工業大学	<p>○ボランティア活動基本方針を定め、学生が参加できるボランティア活動は公的団体等に限り、参加に伴う授業の欠席については柔軟に取扱うこととした。その後、学内の4団体がボランティア活動を行った。そのうち1団体は、北九州市立大学主催のボランティアに参加し、活動を行った。</p> <p>〔URL:http://www.kyutech.ac.jp/info/id768.html〕</p>
九州	佐賀大学	<p>○復興支援ボランティアの募集とボランティアサポート体制を整備中。</p> <p>○経済学部学生1名が宮城県気仙沼市及び岩手県陸前高田市でのボランティア活動に参加(H23.6.19~H23.6.25)</p> <p>○理工学部学生1名が宮城県石巻市でのボランティア活動に参加(H23.10.28~H23.11.5)</p>
九州	長崎大学	<p>○学生が個人的にがれき等の清掃作業のボランティア活動に参加</p> <p>(宮城県岩沼市:4月28日~5月1日)</p> <p>(宮城県気仙沼市:5月23日~5月28日,6月25日~7月10日)</p> <p>(宮城県南三陸町:5月21日~5月29日,9月20~9月22日)</p> <p>(宮城県七ヶ浜町:8月29日~9月2日)</p> <p>(宮城県石巻市:11月19日~11月24日)</p> <p>(岩手県山田町:9月22日~9月26日)</p> <p>(岩手県陸前高田市:9月25日~9月28日)</p> <p>(岩手県遠野市:2月22日~2月28日)</p>
九州	熊本大学	<p>○医学部保健学科学生(2名)がNPO法人のボランティアとして、宮城県において災害物資の運搬、がれきの撤去等に参加した。</p> <p>○文学部学生(1名)が地元ボランティアグループの一員として4月末からの連休中に宮城、岩手、青森の避難所を慰問した。</p> <p>○医学部医学科学生(1名)が仙台市津波ボランティアセンターでのボランティア活動に参加した。(平成23年7月28日~31日)</p> <p>○くまもとアートポリス東北支援「みんなの家」プロジェクトの一環として、自然科学研究科大学院生5名が教員と共に、「みんなの家」(被災者の方々々が精神的安らぎを感じられる空間)の設計を行った。「みんなの家」は、仙台の仮設住宅内に建設され、建設時には現場でボランティア活動を行った。(平成23年4月~9月:設計、平成23年10月:ボランティア)</p>
九州	大分大学	<p>医学部の学生有志による街頭募金活動、経済学部学生有志らによる救援物資の収集等を実施した。また、4月6、7日に、旦野原キャンパスの文化会・体育会の学生が、学内で募金活動を行った。</p> <p>さらに、「東日本大震災に伴う学生のボランティア活動に関する大分大学の方針について」を公表した。URL:http://www.oita-u.ac.jp/O1oshirase/volunteer2.html</p> <p>・2月末現在で、延べ11名の学生が、瓦礫撤去等のボランティア活動を行った。</p> <p>・6月17日~22日に、経済学部の山浦准教授及び学生3名が「七夕ぶどう」プロジェクトに参加した。このプロジェクトは、6月に大分県安心院町と宮城県多賀城市の園児・児童がぶどう栽培で使う袋に片面つつ絵を描き、9月に熟したぶどうを袋に入れたまま、再び多賀城市に届けるものである。(9月上旬まで実施)</p> <p>・大分県が創設した「大分県被災地支援木造施設等事業」に協力する形で、木製ベンチの製作を学生及び教員で行った。平成23年11月18日に宮城県七ヶ浜町で贈呈式を行った。寄贈したベンチは七ヶ浜町の仮設住宅敷地内に設置されている。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	宮崎大学	<p>○教育・学生支援センターにおいて、東日本大震災にかかるボランティア活動経費（交通費及び宿泊費）の一部助成を開始</p> <p>○活動状況（計13名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県栗原市 3名（5月1日～5月8日：畳の搬入、物資の仕分け、国境なき医師団のサポート） ・宮城県南三陸町 2名（5月5日～5月8日：保健師サポート、避難所雑用） ・宮城県石巻市 1名（7月22日～7月31日：道路、側溝の泥かき、物資の仕分け、配布） ・宮城県東松島市、石巻市等 1名（8月7日～8月13日：炊き出し、泥かきだし） ・宮城県東松島市、石巻市等 1名（8月7日～8月15日：中学校清掃、卒業式手伝い、女川復興祭手伝い） ・岩手県陸前高田市、釜石市等 1名（9月4日～9月8日：がれき撤去、被災者支援） ・岩手県大槌町、釜石市 1名（9月24日～9月25日：体育館清掃、がれき撤去、泥かき） ・岩手県宮古市、北上市 1名（9月24日～9月25日：体育館清掃、がれき撤去、泥かき） ・宮城県南三陸町 1名（9月24日～9月30日：イベント準備、がれき撤去、託児） ・宮城県気仙沼市 1名（10月11日～10月20日：がれき撤去、泥搬出、被災者支援）
九州	鹿児島大学	<p>○4月13日 東日本大震災に伴う学生のボランティア活動について、教育担当理事名で各部署長に対し、危機管理の観点から、当該学生は必ずボランティア支援センターへ登録するよう指導方を要請。併せて修学上の配慮についても要請。4月20日 ボランティア支援センター長名で、各部署長に対し、被災地でのボランティア活動に関する情報提供及び参加から活動終了までの手続方法等について周知。</p> <p>○被災地における瓦礫の撤去作業にあたる学生ボランティア17名45名が参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 1名：石巻市（3月31日～4月5日） 2名：亘理町（4月28日～5月8日） 1名：東松島市（6月17日～6月20日） 1名：大槌町・陸前高田市（8月20日～8月22日） 3名：七ヶ浜町（8月29日～9月2日） 4名：七ヶ浜町（9月2日～9月6日） 2名：七ヶ浜町（9月6日～9月10日） 3名：七ヶ浜町（9月10日～9月14日） 1名：東松島市（9月16日～9月18日） 1名：大槌町・陸前高田市（9月20日～9月28日） 1名：陸前高田市（9月26日～9月30日） 2名：陸前高田市・釜石市（9月29日～10月1日） 5名：石巻市（10月1日） 2名：石巻市（10月22日） 2名：陸前高田市・釜石市（12月3日） 2名：盛岡市（12月27日～12月31日） 1名：石巻市（1月20日～1月28日） 2名：宮古市（1月29日～2月2日） 2名：七ヶ浜町（2月11日～2月12日） 2名：陸前高田市（3月2日～3月3日）（予定） 2名：遠野市（3月2日～3月9日）（予定） 1名：遠野市（3月2日～3月12日）（予定） 1名：遠野市（3月8日～3月11日）（予定） 1名：遠野市（3月8日～3月18日）（予定） <p>○被災地での活動を希望する学生が安心してボランティア活動に参加できるよう、また、支援ボランティア活動の啓発に繋げるため、6月29日に実際に現地で行った学生の報告会（災害支援ボランティア活動報告会）を行った。</p> <p>○被災地でのボランティア活動を支援するため、災害用ボランティア活動保険（保険料は大学側が負担）に加入させ、併せてボランティア用具（簡易テント、作業着、手袋、防塵メガネ、防塵マスク等）の貸出を行った。</p> <p>○被災地で3日以上（移動日を含む）ボランティア活動に従事した学生に対し、希望者には3万</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ③学生による被災地でのボランティア活動

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	鹿屋体育大学	<p>○学生が個人活動として、休学（H23.4.1～H24.3.31）によるボランティア活動を願い出たため、それを許可した。</p>
九州	琉球大学	<p>○日本法医学会の要請により医学研究科の大学院生（2名）を死体検索支援のため岩手県に派遣した。（4/4～4/19、4/6～4/15）</p> <p>○法文学部の学生（1名）が、宮城県石巻市にて家屋から泥をかき出す活動等に従事した。（4/19～4/22、日本財団（東京都港区）大学生ボランティアの一員として）</p> <p>○農学部の2年次学生（1名）が、被災により県内に避難されてきた家族（特に子供）をサポートするため、休学（4/1～3/31）してボランティア活動に参加している。</p> <p>○「東日本大震災にかかる学生のボランティア活動への指導手続要項」に基づき、被災住宅の泥の掻き出し等のボランティアに、法文学部の学生2名が自主的に参加する。（4/19～4/22、5/3～5/7）</p> <p>○学生による被災地でのボランティア活動への配慮について（教務関係）の具体的な対応を決定した。</p> <p>○「学生援護会東日本大震災ボランティア活動支援金実施要項」を制定し、被災地において自発的なボランティア活動をする学生に対し、活動支援金を支給することを決定した。</p> <p>○「東日本大震災にかかる学生のボランティア活動への指導手続要項」に基づき、被災住宅の泥の掻き出し等のボランティアに、学生7名が自主的に参加した。（5/27～5/30、8/23～8/26）</p> <p>○NPO法人エクスブリッジの復興支援ボランティアプロジェクトを通し、8月28日～9月5日までの約1週間、7名の学生を被災地に派遣し、がれきの撤去や被災した中小企業の復興支援を行った。</p> <p>○「学生援護会東日本大震災ボランティア活動支援金実施要項」に基づき、被災地でボランティア活動を行った学生5名に対して活動支援金を支給した。（11/1）</p> <p>○理学部3年次学生（1名）が地元、長野災害ボランティアセンターを通じて、大槌町にてボランティア活動を行った。（8/22～8/28）</p> <p>○理学部3年次学生（1名）が宮城県の海岸清掃活動に参加した。（9月）</p> <p>○工学部3年次学生（2名）が、宮城県名取市、仙台市、多賀城市、石巻市でガーデン整備等のボランティア活動に参加した。（2月18日～26日）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ④被災学生・大学院生の受入れ、講義の履修、聴講

支部名	大学名	活 動 実 績
北海道	北海道大学	○被災した他大学の大学院生を「特別研究学生」として受け入れることができるよう取扱いを定め、大学院生1名を受入れ。(7月1日～9月30日) ○被災した他大学の学生(大学院生を含む)を「特別聴講学生」として受け入れることができるよう取扱いを定め、大学院生1名、学部学生3名を受入れ。(大学院生:4月1日～9月30日, 学部学生:10月1日～3月31日予定)
東北	弘前大学	○被災学生から申し出があれば、特別聴講学生として受け入れることとし、特別聴講学生として1名の申し出があった。現在、特別聴講学生規程を整備しているところである。
関東・甲信越	群馬大学	○教育学部附属特別支援学校に福島大学教育学部附属特別支援学校(被災地域)から、中学部2年生1名受入れ(平成23年5月2日(月))
関東・甲信越	千葉大学	○本学の近辺に避難等する者が本学で学習することを希望する場合、特別聴講学生規程を準用して、可能な限り受け入れることとした。(現時点申請者0名) http://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/article2011/20110407risyu.html
東京	東京大学	○研究等の遂行が困難となっていた被災地域の大学の学生を平成23年3月から5月にかけて約60名受け入れた。
東京	東京農工大学	○被災した大学に所属する学生・大学院生の方のうち、府中市又は小金井市とその周辺地域に避難等されている方で、授業の履修を希望される方は可能な限りの受入れを行う。 ○「食糧、感染症対策など21世紀の重要課題解決に寄与する社会システムの変革」を推進するための高度な専門性を有する博士後期課程学生のうち、東日本大震災の影響により、平成23年度に休校措置等があった大学に所属する博士後期課程学生等に対して、教育機会(インターンシップ)参加の支援を行ったが応募者がなかった。(9月末まで実施)
東京	東京工業大学	○被災学生・大学院生を検定料・入学金・授業料免除で講義の履修・聴講が可能となる体制を整備。 http://www.titech.ac.jp/public/news/detail_1910.html?id=topics
東京	東京海洋大学	北里大学より、学部及び大学院博士前期学生各2名、計4名の受入を行った。(受入期間:平成23年7月1日～平成24年3月31日)
東京	お茶の水女子大学	○被災地の学生の一時受け入れ態勢を整備 5月と6月に被災学生から受入れ希望があり、学生の所属大学と調整した
東京	電気通信大学	○申し入れがあれば可能な限り対応することを決定した。
関東・甲信越	横浜国立大学	○科目等履修生として受け入れる体制を整備し、東北大学の学生を2名受け入れた(9月末まで)。 http://www.ynu.ac.jp/hus/koho/2719/ ○実習等の受け入れ
関東・甲信越	長岡技術科学大学	・被災した大学の学生及び被災した学生に対して本学の対面授業並びに遠隔授業を聴講可能とした。 希望者なし
関東・甲信越	上越教育大学	○本学の授業履修に関する相談窓口を設置しているが、問い合わせはない。
関東・甲信越	信州大学	○被災地の学生の一時受け入れのための体制を整備 ・公立大学及び私立大学に在籍する学生の授業料の不徴収

【3. 学生及び研究者支援】 ④被災学生・大学院生の受入れ、講義の履修、聴講

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	富山大学	○東日本大震災による被災大学学生への学習支援等について掲載（4月15日）
東海・北陸	金沢大学	・東北大学から特別研究学生（大学院自然科学研究科（博士前期課程））1名を受入れ（4月27日）→受入期間は7月末まで。 ・東北大学から特別聴講学生（大学院自然科学研究科）1名を受入（受入期間は1年）（5月26日）
東海・北陸	福井大学	○福井県に避難している被災した学生等で本学の授業の履修、聴講を希望する学生等を受け入れるための体制を整備
東海・北陸	岐阜大学	・特別聴講学生として受け入れる旨をHPに掲載。（現在実績なし）
東海・北陸	静岡大学	○特別聴講学生として授業料等を徴収しないで受け入れる体制を整備。 URL: http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_ukeire_forout.html URL: http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_tyoko.pdf URL: http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_kenkyu.pdf
東海・北陸	名古屋大学	以下について、各学部・研究科に対し、対応を要請した。 （1）期限までに履修登録ができなかった学生については、受講調整期間等に最大限の配慮を行う。 （2）授業に出席できない学生については、不利益とならないよう、教育的な措置を取る。 （3）履修ガイダンス未受講学生には、個別に必要事項を説明する。 （4）被災した大学からの学生の受入については、個別に状況を確認し適切に対応していくことにしている。
東海・北陸	愛知教育大学	○各講座毎に学部生、大学院生それぞれ若干名の受け入れが可能である。
東海・北陸	名古屋工業大学	○被災された大学の学生等の受入体制を整備 URL: http://www.nitech.ac.jp/other/anti_disaster_12.html
東海・北陸	豊橋技術科学大学	○特別聴講学生又は大学院特別聴講学生として、原則無償での受講を可能とする体制を整備。
東海・北陸	三重大学	○被災地学生・大学院生の受入れ可能。（8月末現在申込者なし）
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	特別聴講学生として受け入れるための取扱いを整備するとともに相談窓口を設置し、ホームページにて周知した。 URL: http://www.jaist.ac.jp/news/update/2011/post-9.html
近畿	滋賀大学	○被災地の学生・大学院生に対して、本学での講義の履修、聴講について、受け入れるための体制を整備。福島大学経済経営学類の学生1名を本学経済学部で特別聴講学生として受け入れた。 http://www.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=35:1
近畿	京都大学	・被災学生・大学院生等に係る受入れ規程を制定し、聴講科目に係る試験のうえ単位の取得を可能にしている URL: http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/policy/other/revision/documents/h23/sou1-17-23.pdf ・被災学生・大学院生等18人を受け入れ
近畿	京都教育大学	被災県の国立大学附属学校より児童・生徒4名を受け入れた。

【3. 学生及び研究者支援】 ④被災学生・大学院生の受入れ、講義の履修、聴講

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	大阪大学	○東北大学から国費外国人留学生（学部1年）3名を受入（転入学） ○東北大学から特別研究学生1名を受入（受入期間：平成23年5月1日～平成24年3月31日） ○東北大学から特別聴講学生1名を受入（受入期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日）
近畿	神戸大学	○特例措置により、授業料等不徴収による科目等履修生、研究生として受入る制度を整備（該当者なし） ○特例措置により、実習料不徴収による実習生の受入れ制度を整備し、関東より1名受入れた。（寮も斡旋）
近畿	奈良女子大学	○附属中等教育学校は、被災地域の国立大学法人附属学校の高校生（中等教育学校後期課程含む）について、1年生数名・2年生数名の受入れ体制を整えたが、4月末日現在で希望者はなかった。8月1日より、福島県の私立学校から3年生男子1名及び5年生男子1名の転入生を受け入れた。その際、入学料免除措置を行った。
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	○特別研究学生として東京大学の学生を1名受入れ
中国・四国	鳥取大学	○東北地方の大学に入学予定だった留学生を1名受入れ
中国・四国	島根大学	○法科大学院修了者への施設等利用のための体制を整備 ○特別聴講学生として受入れ体制を整備
中国・四国	岡山大学	被災した他大学の学生・大学院生に向けて、本学の授業科目を履修による所属大学における単位の認定の希望がある場合は、授業料不徴収により、本学への受け入れが可能とする取り組みを導入した。
中国・四国	広島大学	○すべての学部・研究科において無償での受入体制を整備 http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html ○生物生産学部において北里大学海洋生命科学部の学生（4年）1名を受入 受入期間 … 6月1日～平成24年1月27日 宿泊施設 … 池の上学生宿舎を提供（無償）
中国・四国	山口大学	○科目等履修生又は特別聴講学生としての受け入れ体制を整備したが、希望者はいなかった。 ○平成24年1月、本件についてのホームページ上の掲載を削除した。
中国・四国	徳島大学	○特別聴講学生として受け入れ、履修単位は被災学生・大学院生が所属する大学の単位として認定できるよう協議する体制を整備（23年4月末日現在希望者なし）
中国・四国	香川大学	○4月7日から被災児童1名を教育学部附属高松小学校へ受入、現在は元の在籍校へ転出。
中国・四国	愛媛大学	○被災学生・大学院生の講義の履修については、授業料を原則免除とし、履修単位は被災学生・大学院生が所属する大学の単位として協議の上認定できるよう措置を講じた。 ○特別聴講学生として宇都宮大学の学生2名（7月13日（水）～9月29日（木））、8月18日（木）～9月29日（木）、北里大学の学生2名（2名とも7月1日（金）～3月31日（土））の計4名を受け入れた。
中国・四国	高知大学	○「東日本大震災により被災した他の大学に在籍する学生の教育・研究支援に関する内規」を作成し、被災学生の特別聴講学生としての受け入れを可能とした。授業料は徴収しない。
九州	福岡教育大学	○科目等履修生としての受入れ体制を整備した。受入れにあたっての検定料、入学料、授業料は免除とした。（現時点で希望者なし。）

【3. 学生及び研究者支援】 ④被災学生・大学院生の受入れ、講義の履修、聴講

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	九州大学	・研究継続のため、東北大学や筑波大学から、博士課程学生2名、学部4年生1名を受け入れ。 ・物質・材料研究機構に在籍していたスイス及びフランスの学生（各1名）を訪問研究員として受け入れ。
九州	九州工業大学	○特別聴講学生として受入れる場合、公私立大学の学生についても授業料は原則免除とすることとした。 〔URL: http://www.kyutech.ac.jp/info/id607.html 〕 ○短期訪問学生の制度を規則化し、希望があれば、受け入れることとした。
九州	佐賀大学	○科目等履修生に対し、eラーニング等での授業提供を可能にした。 (http://www.saga-u.ac.jp/koho/H23e-kamoku.pdf)
九州	長崎大学	○被災地の学生の一時受け入れのための体制を整備（4月28日まで実施） （特別聴講学生として北里大学の学生1名を受入れ）
九州	熊本大学	○東北大学大学院工学研究科博士前期課程の学生（1名）を特別研究学生として受け入れた。（平成23年7月19日～8月3日）
九州	大分大学	被災学生・大学院生に対する学習機会を提供するため、すべての学部・研究科において、科目等履修生として受け入れることとした。検定料・入学料・授業料は徴収しない。履修した単位は、被災学生・大学院生が所属する大学の単位として認定できるよう所属大学と協議する予定である。URL: http://www.oita-u.ac.jp/O1oshirase/gakusyusien.html
九州	宮崎大学	○特別聴講学生として受け入れるための体制を整備
九州	鹿児島大学	○法文学部での支援 ・4月8日 法文学部長が17大学人文系学部長へ下記のとおり通知 「特別聴講学生」を受け入れる場合は、学則等に基づき当該大学と協議を行い受け入れる予定。 「特別聴講学生」 1) 受入れ可能数 学部・研究科の収容定員の5%程度 2) 受入れ条件（受講資格） 被災大学の在学証明書 3) 手続きの時期 前期：原則として被災校の授業開始前まで 後期：9月30日をめど 但し、特段の理由がある場合は、その限りにあらず。
九州	鹿屋体育大学	○被災学生・大学院生からの科目等履修等の申し出については、優先的に受け入れることを検討しているが、その申し出がない。
九州	琉球大学	○被災された学生・大学院生の講義の履修についての具体的な支援策・対応を決定した。 ○共通教育等科目に係る科目等履修生の受入れなし

【3. 学生及び研究者支援】 ⑤被災大学院生への研究支援

支部名	大学名	活 動 実 績
北海道	北海道大学	○今回の震災の被害により研究環境が確保できなくなっている大学等の大学院生へ必要に応じ研究スペース等を提供する体制を整備し、大学院生14名を受入れ。
北海道	帯広畜産大学	原虫病研究センターの施設利用・技術移転研修公募の中で被災大学院生対象の枠を新たに設け、受入の体制を整備した。(応募申請は0件、締切日：5月31日)。
関東・甲信越	埼玉大学	○被災大学院生に対し、本学が研究指導を行うことを可能にした。(4月4日) http://www.saitama-u.ac.jp/announce/20110404-4.html
東京	東京農工大学	○被災した大学に所属する大学院生の方のうち、府中市又は小金井市とその周辺地域に避難等されている方で、研究指導を受けることを希望される方は可能な限りの受入れを行う。
東京	東京工業大学	○被災大学生を授業料免除の特別研究学生として受け入れる体制を整備。 http://www.titech.ac.jp/public/news/detail_1910.html?id=topics
東京	お茶の水女子大学	○被災地の学生の一時受け入れ態勢を整備
東京	電気通信大学	○申し入れがあれば可能な限り対応することを決定した。
関東・甲信越	横浜国立大学	○実験設備の開放
関東・甲信越	新潟大学	○本学施設・設備等が利用できる体制を整備した。
関東・甲信越	信州大学	○被災地の学生の一時受け入れのための体制を整備 ○被災大学の大学院生の研究支援として、研究場所の提供を行った。 ・東北大学大学院在籍者2名(理学部内研究室の利用)
関東・甲信越	総合研究大学院大学	○被災地の学生の一時受け入れのための体制を整備 http://center.soken.ac.jp/act/press20110408.html
東海・北陸	富山大学	○東日本大震災による被災大学学生への学習支援等について掲載(4月15日) ○東北大学の学生(1名)と大学院生(1名)を研究支援のため受入(6月10日～13日)
東海・北陸	金沢大学	・被災地の学生を各研究室への一時受け入れのための体制を整備
東海・北陸	福井大学	被災大学院生への研究支援体制を整備(「特別研究学生」として受け入れ、被災大学との協議の上、研究指導を行う)
東海・北陸	岐阜大学	・特別研究学生として受け入れる旨をHPに掲載し、東北大学の学生3名を受け入れた。
東海・北陸	静岡大学	○被災地の学生の一時受け入れのための体制を整備。 URL: http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_kenkyu.pdf
東海・北陸	名古屋大学	各部局を通じて各研究室単位での受入れ可能情報をとりまとめ、(学生等受入れ可能な研究室等が125で、受入れ可能人数は350人程度)ホームページに掲載し希望を募っている。
東海・北陸	名古屋工業大学	○被災された大学の学生等の受入体制を整備(再掲) URL: http://www.nitech.ac.jp/other/anti_disaster_12.html ○被災された大学及び研究機関等の研究者の受入体制を整備 URL: http://www.nitech.ac.jp/other/anti_disaster_13.html

【3. 学生及び研究者支援】 ⑤被災大学院生への研究支援

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	豊橋技術科学大学	○大学院特別研究学生として、原則無償で研究指導を受けることができる体制を整備。
東海・北陸	三重大学	○現在（該当者なし）特段の整備は行っていない。（要請等あれば整備について検討。）
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	特別研究学生として受け入れるための取扱いを整備するとともに相談窓口を設置し、ホームページ（URL: http://www.jaist.ac.jp/news/update/2011/post-9.html ）にて周知を行い、平成23年7月に特別研究学生を1名受け入れた。
近畿	滋賀大学	○被災大学院生を特別研究学生として受け入れる体制を整備 http://www.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=35:1
近畿	京都大学	・被災学生・研究者の受入れに対し図書館施設（電子ジャーナル、データベース、資料貸出）の利用 URL: http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/article.php?storyid=795 ・被災大学院生の受入れに対し情報環境（学内ネットワーク、インターネットへの接続、教育用コンピュータ）の利用
近畿	大阪大学	○各研究室において学生・教職員等を受入れ（東北大15名、東京大3名、筑波大2名、千葉大1名）
近畿	神戸大学	○学生身分以外による短期間（1ヶ月未満）の受入状況 ・東北大学の学生を2名（学部1名、大学院生1名）を特別研究学生に準じた取り扱いにて受け入れ研究支援した。（4月中に終了） ・東北大学大学院博士後期課程の留学生を研究員として受け入れ、研究場所としては共同研究室を提供しゼミなどにも参加した。（4月中に終了）
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	○被災大学院生等に対する教育研究支援体制を整備 http://www.naist.jp/news/jisin_taiou.html ○特別研究学生として東京大学の学生を1名受け入れ
中国・四国	鳥取大学	○被災地の研究者の一時受け入れのための体制を整備
中国・四国	島根大学	○被災地の学生への研究環境提供のための体制を整備 ○特別研究学生として受け入れ体制を整備
中国・四国	岡山大学	被災した他大学の学生・大学院生に向けて、本学における研究指導の希望がある場合は、授業料不徴収により、本学への受け入れが可能とする取り組みを導入し、1名の受入を行った。
中国・四国	広島大学	○被災地の学生の受入体制を整備 http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html ○法務研究科において東北学院大学の法科大学院生（3年）1人を受入 受入期間 … 4月5日～5月6日 宿泊施設 … 病院レジデントハウスを提供（無償） ○国際協力研究科において東北大学大学院の学振特別研究員1人を受入 受入期間 … 3月21日～4月22日 宿泊施設 … 山中会館を提供（無償）
中国・四国	山口大学	○研究生又は特別研究生としての受け入れ体制を整備したが、希望者はいなかった。 ○平成24年1月、本件についてのホームページ上の掲載を削除した。
中国・四国	徳島大学	○本学に適当な研究指導者がいれば、被災大学院生を特別研究学生として受け入れる体制を整備（23年4月末日現在まで問い合わせなし）

【3. 学生及び研究者支援】 ⑤被災大学院生への研究支援

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・四国	愛媛大学	<p>○愛媛大学に適当な研究指導者がいれば、被災大学院生を特別研究学生として受け入れる措置を講じた。</p> <p>○被災大学院生を特別研究学生として受け入れた。 （東北大学大学院生1名を受入。4月25日(月)～6月30日(木)）</p> <p>○特別研究学生として東北大学大学院の学生1名(前述)、北里大学大学院の学生1名(6月1日(水)～3月31日(土))、東京大学大学院の学生1名(8月1日(月)～9月30日(金))の計3名を受け入れた。</p>
中国・四国	高知大学	<p>○「東日本大震災により被災した他の大学に在籍する学生の教育・研究支援に関する内規」を作成し、被災大学院生の特別研究学生としての受け入れを可能とした。授業料は徴収しない。</p> <p>・東北大学の大学院生1名を特別研究学生として受け入れ(5月10日～8月10日)</p> <p>○研究スペースおよび実験機器一式を大学院生3名に提供 (3月25日～4月18日、3月28日～4月8日、5月10日～8月5日・9月19日～10月7日)</p>
九州	福岡教育大学	<p>○受入の時期や研究内容等の相談に応じ、受け入れる体制を整備した。受入れにあたっての検定料、入学料、授業料は免除とした。(現時点で相談者なし。)</p>
九州	九州大学	<p>・被災地の学生の一時受け入れのための体制を整備。特に、農学研究院、法学研究院が、被災地の大学院生への研究環境提供等の支援についてのお知らせをホームページに掲載。 http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/ http://www.law.kyushu-u.ac.jp/tools/displaynews.php?id=113</p>
九州	九州工業大学	<p>○特別研究学生として受入れる場合、公私立大学の学生についても授業料は原則免除とすることとした。 〔URL:http://www.kyutech.ac.jp/info/id607.html〕</p>
九州	佐賀大学	<p>○ 総合情報基盤センターの利用を可能にした。</p> <p>○ 総合分析実験センターの利用を可能にした。 (http://www.iac.saga-u.ac.jp/aid.pdf)</p> <p>○ シンクロトロン光応用研究センターの利用を可能にした。 (http://www.slc.saga-u.ac.jp/old20110907/support.html)</p>
九州	長崎大学	<p>○被災地の大学院生の一時受け入れのための体制を整備(4月28日まで実施) (特別研究学生として東北大学の大学院生1名の受入れ)</p>
九州	熊本大学	<p>○大学院法曹養成研究科において、震災の影響により新司法試験までの学修場所を確保することが困難な東北大学及び東北学院大学法科大学院等の修了生を支援するため、研究科の施設を利用できることとした。(平成23年4月13日～5月31日) http://www.ls.kumamoto-u.ac.jp/cgi-bin/information.cgi?mode=logfile&tgnun=11</p>
九州	大分大学	<p>被災地域の大学に在学する大学院生で当該大学における研究活動が困難な学生に対して、当該大学と協議の上で特別研究学生として受け入れることを公表した。 URL:http://www.oita-u.ac.jp/O1oshirase/kenkyusien.html</p>
九州	宮崎大学	<p>○特別研究学生として受け入れのための体制を整備</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ⑤被災大学院生への研究支援

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	鹿児島大学	<p>○水産学部での支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月6日 鹿児島大学水産学部では、この度の震災に伴い所属大学での修学や研究が困難になった学生、院生、教職員に対して、附属海洋資源環境教育研究センター東町ステーション（旧水産実験所）をはじめとする施設の利用や、当学部の授業の公開（聴講）、卒論研究支援等を行う用意がある旨の連絡があり、4月13日に本学ホームページに掲載するとともに国大協へ報告。 <p>URL:http://www.kagoshima-u.ac.jp/information/2011/04/post-40.html</p> <p>○農学部での支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北大学大学院に博士課程に進学予定であった生物資源化学科研究室の大学院生を東北大学の始業まで当該研究室に置くことにした。
九州	鹿屋体育大学	<p>○被災大学院生からの研究支援の申し出があった場合の方策について、検討を進めている。</p>
九州	琉球大学	<p>○被災地の大学院生の受け入れのための体制を整備</p> <p>○北里大学の大学院生（博士前期）を7月（1週間）に1名受入れた。（亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構：REIMER JAMES DAVIS特命准教授の研究室にて）</p> <p>○熱帯生物圏研究センター・瀬底研究施設において、東日本大震災で被災した北里大学海洋生命科学部（岩手県大船渡市）の大学院生を1名受け入れ研究の場を提供した。なお、宿泊施設使用料については、無償とした。</p> <p>6月→1名受入（H23年6月29日～9月10日）</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ⑥研究者への支援

支部名	大学名	活 動 実 績
北海道	北海道大学	<p>○今回の震災の被害により研究環境が確保できなくなっている大学等の研究者へ必要に応じ研究スペース等を提供する体制を整備し、教員・研究員15名を受入れ。</p> <p>○大型計算機が使用できなくなった大学における大型計算機の利用者5名に対し、本学の大型計算機を利用させた。(7月22日まで)</p> <p>○文部科学省プロジェクト「21世紀気候変動予測革新プログラム」の情報交換用webサイトを運用していた(独)国立環境研究所(つくば市)のサーバが停止したため、同webサイトを本学に設置するサーバで運用。(4月25日～)</p> <p>○独立行政法人農業生物資源研究所(茨城県つくば市)からの依頼に基づき、計算機をリモートで使用することを許可。(3月31日～2月17日)</p> <p>○被害を受けた公的機関に対し、試料の保管スペースとして低温室(-50℃等)を提供する体制を整備。(3月22日～)</p> <p>○東北大学大学院医学研究科感染症分野に対し、抗体等の試薬を提供。(8月1日)</p> <p>○本学が文部科学省の「先端研究施設共用促進事業」として実施する産業イノベーション事業において、被災研究者支援の一環として、震災の影響により研究活動が困難となっている者の機器利用料を免除する体制を整備し、2件の機器利用料を免除。(10月4日)。</p> <p>○岩手県水産技術センターの要請に基づき、同センターに万能投影機等の研究機器類を提供。(3月16日)</p> <p>○岩手県水産技術センターの要請に基づき、同センターと協力して岩手県沿岸域における被災後の漁場環境調査及び水産資源動態に関する調査を実施。(8月, 10月, 12月)</p> <p>○東京海洋大の要請に基づき、放射能測定用プランクトン標本を採集し、同大へ提供。(7月29日～8月4日)</p>
北海道	小樽商科大学	<p>○震災に伴う交通網の遮断に関連し、他大学へ異動する教員の引っ越しの延期に配慮(5月まで)</p>
東北	弘前大学	<p>○被災大学の研究者に対して、機器分析センターの登録機器の使用を無償で提供するための体制を整備。 URL:http://www.rprc.hirosaki-u.ac.jp/~kiki/gakugai/txt/oshirase.html</p>
東北	山形大学	<p>○研究に支障が無いよう、研究期間の確保に努めた。</p>
関東・甲信越	千葉大学	<p>○環境リモートセンシング研究センター(全国共同利用機関)では、東日本大震災の被災機関や震災に伴う緊急の課題の申請の場合、申請期間を過ぎても引き続き平成23年度共同研究の申請を受け付けている。 http://www.cr.chiba-u.jp/indexjp.htm ※4/20千葉大学HPに掲載、現時点まで申請期限後の申請者はいない。</p>
東京	東京医科歯科大学	<p>○被災研究者支援のための共同研究を随時募集している。</p>
東京	東京外国語大学	<p>○研究室、研究に伴う宿泊施設等について10人分程度の提供を用意した。 http://www.tufs.ac.jp/jishin/information/kenkyusha_shien.html 被災地の研究者の一時受け入れのための体制を整備したが、調査時点で希望者はいなかった。</p>
東京	東京農工大学	<p>○被災地域の大学において甚大な被害を受け、研究環境の再構築が長期にわたって困難な研究者に対して、研究環境の確保について可能な範囲での支援(受入研究室のマッチングなど)を行う。</p>
東京	東京工業大学	<p>○資源化学研究所、精密工学研究所、応用セラミックス研究所の一部で研究者受け入れの体制を整備。</p>
東京	お茶の水女子大学	<p>○被災地の研究者の一時受け入れ態勢を整備</p>
東京	電気通信大学	<p>○申し入れがあれば可能な限り対応することを決定した。</p>
関東・甲信越	横浜国立大学	<p>○被災地の研究者に対して研究スペースの提供、研究機器を共用等の体制を整備した。 http://www.ynu.ac.jp/hus/koho/2665/detail.html ○実験設備の開放</p>
関東・甲信越	新潟大学	<p>○本学施設・設備等が利用できる体制を整備した。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ⑥研究者への支援

支部名	大学名	活動実績
関東・甲信越	信州大学	○被災地の研究者の一時受け入れのための体制を整備
関東・甲信越	総合研究大学院大学	○被災地の研究者の一時受け入れのための体制を整備 http://center.soken.ac.jp/act/press20110408.html
東海・北陸	富山大学	○和漢医薬学総合研究所において共同利用研究の利用枠の提供等を実施
東海・北陸	金沢大学	・がん進展制御研究所において、研究室等が被災し、研究の遂行に支障を来している研究者に「共同研究（被災研究者支援）」を募集（4月1日から）
東海・北陸	福井大学	被災地の研究者の一時受け入れのために研究スペース（松岡キャンパス）を確保
東海・北陸	静岡大学	○被災地の研究者の一時受け入れのための体制を整備。 URL:http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_ukeire_forout.html
東海・北陸	名古屋大学	各部局を通じて各研究室単位での受け入れ可能情報をとりまとめ、（学生等受け入れ可能な研究室等が125で、受け入れ可能人数は350人程度）ホームページに掲載し希望を募っている。 受入実績は、4件13名
東海・北陸	名古屋工業大学	○被災された大学及び研究機関等の研究者の受入体制を整備(再掲) URL:http://www.nitech.ac.jp/other/anti_disaster_13.html ○被災された大学及び公的研究機関からの受託分析の低料金での優先実施 URL:http://www.nitech.ac.jp/other/anti_disaster_14.html ○被災された大学の機械加工のサービス提供について URL:http://www.nitech.ac.jp/other/anti_disaster_15.html
東海・北陸	豊橋技術科学大学	○被災した国立高等専門学校5校に対し、共同利用機器の無償使用について通知。
東海・北陸	三重大学	○現在（該当者なし）特段の整備は行っていない。（要請等あれば整備について検討。）
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	客員研究員や特別研究員制度による受け入れで対応することとし、受入規模、受入期間等については、状況に応じて弾力的に対応することとした。
近畿	京都大学	・全学共用スペースを被災研究者に対する支援スペースとしての弾力的運用 ・計画停電等により質量分析計を稼働できない機関を対象に質量分析測定との協力 ・スーパーコンピューターセンター間での計算資源の融通 ・その他、研究科単位にて研究スペース、機器の共用を支援 URL:http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/~kenkyubu/shukai.htm ・被害を受けられた研究者の方々の研究活動を支援するために共同研究を公募 URL:http://www.virus.kyoto-u.ac.jp/kyoten/eq_kyodo.html ・特殊研究材料、遺伝子改変動物の維持・保持・管理への協力 URL:http://www.med.kyoto-u.ac.jp/J/earthquake.html
近畿	大阪大学	○各研究室において学生・教職員等を受け入れ（東北大15名、東京大3名、筑波大2名、千葉大1名）

【3. 学生及び研究者支援】 ⑥研究者への支援

支部名	大学名	活動実績
近畿	神戸大学	<p>○被災された研究者の方々への支援 http://www.kobe-u.ac.jp/info/topics/menu/us2011_04_12_01.htm ○平成23年3月に東北大学又は東北学院大学の法科大学院を修了した者に対し、施設利用ができるように体制を整備した。(該当者なし) ○放射線関連研究者の支援(測定器貸し出し、被ばく管理、汚染管理、助言、放射線施設の提供) ○農学研究科による一般公開講座で使用される牛肉の放射能測定支援 ○被災された研究者の方々への支援 http://www.kobe-u.ac.jp/info/topics/menu/us2011_04_12_01.htm 研究所HP「お知らせ欄」掲載中：http://www.rieb.kobe-u.ac.jp/</p>
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	<p>○被災大学院生等に対する教育研究支援体制を整備 http://www.naist.jp/news/jisin_taiou.html</p>
中国・四国	鳥取大学	<p>○被災地の研究者の一時受け入れのための体制を整備 ○被災研究者支援共同研究を臨時公募し、総額574,000円の研究費を支援</p>
中国・四国	島根大学	<p>○被災地の研究者への研究環境提供のための体制を整備</p>
中国・四国	岡山大学	<p>(資源植物科学研究所) 共同利用研究の利用枠の提供 ・共同研究テーマー遺伝資源または植物のストレス科学を中心とする植物研究に関する共同研究 ・利用実績ー東北大学工学研究科 魚住教授 他4人(教員2人、大学院生3人) ・利用期間ー平成23年4月12日～平成24年3月31日まで (地球物質科学研究センター) 共同利用研究員の追加公募ー実績はなし 他にも、自然科学研究科、理学部附属臨海実験所等へ装置利用等の依頼が多数</p>
中国・四国	広島大学	<p>○被災地の研究者の受入体制を整備 http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html</p>
中国・四国	山口大学	<p>○山口県内にある実家に避難した被災地研究者に、本学の大学情報ネットワーク利用を提供(許可)。(6月30日まで実施)</p>
中国・四国	徳島大学	<p>○実験装置部品の提供</p>
中国・四国	愛媛大学	<p>○研究スペースや研究機器の利用についての支援を提供できることとした。</p>
中国・四国	高知大学	<p>○研究スペースおよび実験機器一式を研究者3名に提供(3月28日～4月5日、5月10日～6月3日、8月1日～8月20日)</p>
九州	福岡教育大学	<p>○被災地の研究者の一時受け入れのための体制を整備(現時点で希望者なし)</p>
九州	九州大学	<p>・被災地の研究者の一時受け入れのための体制を整備。 特に、農学研究院、法学研究院、生体防御医学研究所が、被災地の研究者への研究環境提供等の支援についてのお知らせをホームページに掲載。 http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/ http://www.law.kyushu-u.ac.jp/tools/displaynews.php?id=113 http://www.bioreg.kyushu-u.ac.jp/mib/activities_collabo.html ・先導物質化学研究所において、「物質・デバイス領域共同研究拠点」の東北・北関東地区の施設利用支援等の重点実施について、4月よりHPに掲載。支援経費を準備し、10月より活動を本格化した。 ・計算機設備(PCクラスター)の提供のほか、計算機リソースやスパコンなどについても被災地の研究者が利用できるよう、体制を整備。</p>

【3. 学生及び研究者支援】 ⑥研究者への支援

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	九州工業大学	○研究実施等に関し、被災地域大学からの支援相談に関する学内調査を実施し、研究者に寄せられている支援要請等の状況把握を行った（継続実施）。その後、本学の教員1名から、震災に伴う計画停電等により影響を受けた大学に在籍する職員の受入申請があり、研究者1名及び帯同者5名を8日間（8月6日～8月14日）受け入れた。なお、宿舍、学内共同教育研究施設等・附属図書館の利用、研究装置等の移転については無かったが、研究者受入時の支援については、宿舍料の支援、研究機器等の移転費、研究経費、光熱水費、初期活動費等の予算措置を含め、様々なケースが考えられるため、臨機応変に対応することとしている。また、計画停電地域の大学で運用されていた、ある学会のメーリングリストを、本学の研究室のサーバーに移して運用しているなどの対応も行っている。
九州	佐賀大学	○ 総合情報基盤センターの利用を可能にした。 ○ 総合分析実験センターの利用を可能にした。 （ http://www.iac.saga-u.ac.jp/aid.pdf ） ○ シンクロトロン光応用研究センターの利用を可能にした。 （ http://www.slc.saga-u.ac.jp/old20110907/support.html ）
九州	長崎大学	○被災地の研究者の一時受け入れのための体制を整備
九州	大分大学	被災地域の大学において甚大な被害を受け、研究環境の再構築が長期にわたって困難な研究者に対して、研究スペースの提供等可能な限り柔軟に対応することを公表した。 URL: http://www.oita-u.ac.jp/O1oshirase/kenkyusien.html
九州	宮崎大学	○研究スペースの提供や研究機器の利用等の便宜を図るなどの対応
九州	鹿児島大学	○水産学部での支援 ・4月6日 鹿児島大学水産学部では、この度の震災に伴い所属大学での修学や研究が困難になった学生、院生、教職員に対して、附属海洋資源環境教育研究センター東町ステーション（旧水産実験所）をはじめとする施設の利用や、当学部の授業の公開（聴講）、卒論研究支援等を行う用意がある旨の連絡があり、4月13日に本学ホームページに掲載するとともに国大協へ報告。 URL: http://www.kagoshima-u.ac.jp/information/2011/04/post-40.html ○【大学連携設備NW】（FSRC） ・3月14日 分子科学研究所機器センターより、東京電力での輪番停止による計画停電が計画・実施により、装置をまともに稼働出来ず多くの大学で装置を停止しているとの情報があることから、設備ネットワークではこの状況を集中的にケアする為に利用可能な設備の案内をホームページ上で行うこととなり、3月30日に本学「電界放出形走査電子顕微鏡」など8設備が可能（依頼分析に限る）として回答
九州	鹿屋体育大学	○被災研究者からの支援申し出があった場合の方策について、検討を進めている。
九州	琉球大学	○被災地の研究者の受け入れのための体制を整備

【3. 学生及び研究者支援】 ⑦受入れた学生及び研究者用の宿泊施設の確保

支部名	大学名	活 動 実 績
北海道	北海道大学	○研究支援のため受け入れた被災大学の大学院生（外国人留学生）1名に対して、本学インターナショナルハウスの入居を手配。また、教員1名、大学院生2名についてホテルを手配。
北海道	帯広畜産大学	空き学生寄宿舍を利用できる体制を整備した。
北海道	北見工業大学	経済的な理由から学生1名を職員用宿舍へ無償で受け入れた。
東北	山形大学	○学生避難所として工学部百周年記念会館を開放した。 ○学生・教職員向けに学部内宿泊施設（ゲストハウスYU）を開放した。
東京	東京外国語大学	○研究室、研究に伴う宿泊施設等について10人分程度の提供を用意した。 http://www.tufs.ac.jp/jishin/information/kenkyusha_shien.html 研究者用に宿舍を臨時で利用できるよう体制を整備したが、調査時点で希望者はいなかった。
東京	東京農工大学	○文部科学省からの照会に基づき、利用可能な宿舍・寮の戸数を回答したが、入居者を受入れた実績はなかった。
東京	東京工業大学	○被災学生・大学院生に対して本学が所有する学生宿舍を無償（光熱水料等は実費負担）貸与することとした。
東京	お茶の水女子大学	○個別に対応
関東・甲信越	横浜国立大学	○職員用宿舍、学生寮等の施設を確保した。 http://www.ynu.ac.jp/hus/koho/2665/detail.html
関東・甲信越	新潟大学	○職員宿舍等36室（五十嵐地区職員宿舍10室、国際交流会館4室、理学部附属臨海実験所宿泊施設8室、農学部附属フィールドセンター宿泊施設14室（村松8、佐渡6））を確保した。
関東・甲信越	総合研究大学院大学	○宿泊施設を臨時で利用できるよう体制を整備 http://center.soken.ac.jp/act/press20110408.html
東海・北陸	金沢大学	・東北大学から特別研究学生（大学院自然科学研究科）1名を受入（学寮に入寮）（4月27日） →受入期間は7月末まで。 ・宿舍の入居可能部屋数を調査（3月15日） ・被ばく者の受入可能人数を調査（3月17日）
東海・北陸	福井大学	○文京キャンパス近隣住民（大家）からのアパート無償提供について、大学ホームページにて周知 ○留学生用宿舍（松岡キャンパス）の空室を利用できるよう体制を整備（空室の確保） ○新入生1名を入学前から学生宿舍に入居できるよう措置
東海・北陸	岐阜大学	今年度本学入学の被災学生は、優先的に学生寮に入寮できるように配慮する。
東海・北陸	静岡大学	○職員宿舍、ゲストハウス等を臨時で利用できるよう体制を整備。 URL: http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_ukeire_forout.html URL: http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_kisoku.pdf
東海・北陸	名古屋大学	本学のレジデンス等の空さを確保しつつ、愛知県と協議しながら県営住宅を提供できるよう対応したが、入居希望はなかった。
東海・北陸	名古屋工業大学	○職員用宿舍を臨時で利用できるよう体制を整備
東海・北陸	三重大学	○職員宿舍、学生寮、学内宿泊施設を利用可能とした。（現在入居希望者なし）
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	特別聴講学生や特別研究学生として受け入れる学生に対して学生寄宿舍を宿泊施設として提供することとし、平成23年7月に特別研究学生を1名受け入れた。
近畿	京都大学	・本学宿泊施設5室を用意したが、入居者はなかった。
近畿	大阪大学	○職員用宿舍及び宿泊施設を臨時で利用できるよう体制を整備 確保した72戸のうち提供実績16戸（学生受入数：東北大8名、研究者受入数：東北大8名）

【3. 学生及び研究者支援】 ⑦受入れた学生及び研究者用の宿泊施設の確保

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	神戸大学	○特例措置により、寄宿料不徴収とした学生寮入寮制度を整備 ○留学生寮（インターナショナル・レジデンス）1室を被災者（研究員）に提供（4月末で退去）
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	○学内宿泊施設及び職員用宿舎を臨時で利用できるよう体制を整備 ○受け入れた学生1名を学内宿泊施設に入居（7月11日～8月10日）
中国・四国	鳥取大学	○職員用宿舎を臨時で利用できるよう体制を整備中（職員宿舎16室を被災者用に確保したが、現在、入居希望者は無）
中国・四国	広島大学	○ゲストハウス、職員用宿舎及び学生宿舎を無料で利用できるよう体制を整備（受入：学部生1人、大学院生1人、学振特別研究員1人）
中国・四国	山口大学	○希望者があった場合に対応することとしていたが、希望者はなかった。
中国・四国	鳴門教育大学	○職員宿舎30室を被災者用に準備している、2/29現在、入居希望者はいない。
中国・四国	愛媛大学	○学生宿舎50室を無償貸与できるよう措置を講じた。（東北大学大学院生1名、宇都宮大学生2名に無償貸与、北里大学大学院生1名、愛南町に宿舎を借り上げ北里大学生2名、同大学院生1名に無償貸与）
中国・四国	高知大学	○福利厚生施設（非常勤講師宿泊施設および厚生会館）において、学生2名と研究者3名を受入れた。宿泊利用料は、徴収しない。
九州	福岡教育大学	○受け入れた学生が希望すれば学生寮への入寮が可能とした。（現時点で受入実績なし） ○被災地の研究者の一時受け入れのための体制を整備した。（現時点で希望者なし）
九州	九州大学	・被災地の学生や研究者の方々が学生寮、ドミトリー、職員用宿舎を臨時で利用できるよう体制を整備。
九州	九州工業大学	○学寮、職員宿舎、学内宿泊施設及び学外研修施設の利用を可能とし、使用料は原則免除とすることとした。
九州	佐賀大学	○利用可能な職員用宿舎・宿泊施設等22室の情報提供を行ったが、入居及び利用希望者はなかった。
九州	長崎大学	○職員用宿舎を臨時で利用できるよう体制を整備（特別研究学生及び特別聴講学生が利用中）
九州	熊本大学	○学生・留学生用宿舎約15室、教職員用宿舎1室、その他宿泊施設を被災者用として確保し、これまでのところ、特別研究学生として受け入れた東北大学大学院生（1名）に非常勤講師宿泊施設を無償貸与（平成23年7月19日～8月2日）した。
九州	大分大学	職員用宿舎を臨時で利用することは可能である。
九州	宮崎大学	○寄宿舎及び職員用宿舎を利用できるよう体制を整備
九州	鹿児島大学	○職員用宿舎等（13戸）を臨時で利用できるよう体制を整備
九州	鹿屋体育大学	○受入学生及び研究者用の宿泊施設として、職員用宿舎7室を準備しているが、現在のところ申出のあった（受入した）学生及び研究者はいない。
九州	琉球大学	○いつでも入居可能なように職員宿舎を整備・確保しているが、現時点での入居希望者はいない。 ○国際交流会館の外国人研究者宿泊施設2部屋を被災者用に用意しているが、現時点での入居希望者はいない。

【3. 学生及び研究者支援】 ⑧その他

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	岩手大学	<ul style="list-style-type: none"> ○被災学生の修学支援を目的とした「被災学生支援募金」の呼びかけを行い、289名の学生に修学支援金として募金を給付した。 ○被災した学生へ修学支援金を貸与した。 ○経済的援助が必要な学生や内定取消を受けた学生、更には心のケアが必要な学生への相談窓口を設置した。 ○引越が困難な卒業生の引越荷物の一時預かりを行った。(4月下旬まで) ○同じく引越が困難な卒業・修了生のアパート等の退去延長を、不動産業者へ要望した。 ○新入生に対する入寮の追加募集を行った。(入居募集4/4~4/15、入寮者決定4/21)
東北	東北大学	<ul style="list-style-type: none"> ・従前の入学科・授業料免除等の申請手続期間延長(約2ヶ月間) ・被災学生への経済的支援(入学科・授業料の免除、奨学金給付、応急学生寄宿舍など)
東北	宮城教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ○被災学生のメンタルヘルスケア ○被災学生の優先入寮 ○被災学生に対し学内(大学会館)に臨時の居住場所を設置(4月末まで) ○被災により住宅確保に困難をきたしている学生に「応急学生寄宿舍」を提供し、18名が入居中(10月1日以降入居開始 平成24年度入学者用に10名分確保) ○被災により家計が急変し就学が著しく困難となった学生77名に対し、「東日本大震災宮城教育大学被災学生支援奨学金」として一人10万円支給(財源は、「東日本大震災宮城教育大学被災学生支援募金(9月30日まで受入)」の一部を充当)(H23.8) ○震災により自宅が全壊するなどした附属学校の幼児、児童、生徒58名に対し「東日本大震災宮城教育大学被災学生支援募金」から一人10万円の奨学金を給付(H23.10) ○附属特別支援学校に言語聴覚士を配置(H24.1.1~3.31)
東北	福島大学	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急連絡HP、緊急連絡掲示板で情報提供。 ○経済的支援などのための義援金受入れを募集。集まった義援金を被災した学生へ配分。 ○メンタル面の支援のための相談窓口を開設。 ○学生よろず相談 twitter を開設。 ○放射線値を下げるため、キャンパス内の土砂の処分や側溝の清掃等の除染活動を実施。(7月6日~8月5日)(追加) ○キャンパス内屋外運動施設・課外活動施設及び中央広場芝生除染工事を実施。(11月~2月)3月より、中央広場インターロッキング舗装部分の除染を予定。 http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/torikumi-josen.html
関東・甲信越	筑波大学	<ul style="list-style-type: none"> ○被災学生1人(企業法学専攻2年生)の休学について、4月以降の届出であったが4月1日に遡り許可した。 ○人文社会科学部において、年度内に3回設定(5月、9月、12月または1月)している修士論文の提出期間のうち、5月提出者の提出期限を9日間延長した。 ○被災した世帯の学生に対し、緊急経済支援として被災状況により緊急支援金(20万円又は40万円)を支給した。 ○学生支援を目的とした義援金事業を立ち上げ、被災した世帯の学生に対し緊急経済支援を実施した。 ○震災直後から学内に臨時の総合相談窓口を開設した。 ○学生宿舎入居者に対し、学内厚生施設(食堂)に協力を要請し食事を配給及びつくば市等からの支援物資(飲料水、保存食)を配給した。 ○学生宿舎入居者からボランティアを募り、学生宿舎エリアの防犯パトロールを実施した。 ○学生宿舎の入居について、被災地の学生を優先するとともに、入居日について柔軟に対応した。 ○学生宿舎3月末退去予定者の留学生で、震災後一時的に母国等に避難中の者について、退去手続きを4月末まで延長した。 ○就職活動中の学生に対する個別対応した。 ○震災後の企業採用情報の提供等を行った。 ○現在も震災の影響を受けた学生に就職支援情報を提供している。 ○学生と教職員に向けて、「東日本大震災によるストレス」に関する講演会を開催した。 ○被災した学生、研究者への住環境と勉学、研究環境の提供(菅平高原実験センター)

【3. 学生及び研究者支援】 ⑧その他

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	筑波大学	<p>○筑波大学軟式庭球部員（体育4名・国際1名・生物資源1名・医学1名・数学1名・応用理工1名）と部長がOB・OG有志9名と共に2011年11月26・27日に陸前高田市に赴き、現地の被災状況を観察。2日間にわたり、高田高校女子ソフトテニス部と合同練習会を行い、テニスを通じた交流活動を行った。費用は、OB・OGの有志の寄付金と学生の自己負担による。その後も連絡を取り合っている。3月～5月に再度、訪問し、ソフトテニスを通じた交流と現地で復興ボランティア活動を行う予定。</p> <p>○日独友好150周年記念事業に伴うドイツ大統領のいわき市視察に随行（10月25日）</p> <p>○1月15日に宮城県山元町の少年野球チームを対象に硬式野球部員10名が野球教室を行った。</p>
関東・甲信越	筑波技術大学	<p>3月11日に発生した東日本大震災により被災した大学・短期大学（以下、大学）のうち、新学期の情報保障体制を整えるのが困難な大学に対して、遠隔地からモバイル型遠隔情報保障システム等を用いて、遠隔地からパソコンノートテイクによる情報保障支援を提供するための体制作りを開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月28日から4月中旬にかけ、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）の連携大学・機関を中心に支援担当大学を募集した。 ・同志社大学（4月22日）、関西学院大学（4月23日）、早稲田大学（4月25日）に、支援実施のための技術講習会を実施し、計7大学の職員、学生に対して指導を行った。 ・宮城教育大学・東北福祉大学・東北生活文化大学・宮城学院女子大学に在籍する17名の聴覚障害学生のうち、遠隔支援の利用を希望している11名に対しての支援を5月から実施した。 ・宮城教育大学（5月13日）、東北福祉大学（5月13日）に、支援利用のための技術講習会実施し、計4大学の職員、学生に対して指導を行った。 ・5月から始まった1学期の間に、週20コマ、のべ260コマ以上の授業に支援を行った。支援担当校には13校が登録し、支援学生はのべ600名程度、実数でも80名以上の学生が本支援に参加している。 ・本支援は当初前期のみで終了する予定であったが、支援利用大学・支援担当大学の双方から継続を希望する声があがったため、後期についても規模を縮小して継続実施することとなった。 ・後期の授業では、週9コマ、のべ90コマ以上の授業に支援を行った。支援担当大学は14校で、支援学生はのべ230名程度、実数で50名程度であった。 ・いずれの大学も前期～後期を通じて支援体制が復旧したため、本支援の実施は2011年度を持って終了するとともに、本支援から生まれた大学間支援の体制を別途プロジェクトとして進めていくことになった。
関東・甲信越	宇都宮大学	<p>○地域と連携し、被災学生向け民間アパートの無料提供の情報提供及び手続き支援（入居決定5件）を行った。</p> <p>○全てにおける相談対応窓口として「緊急学生相談窓口」を設置した。</p> <p>○原子力発電所事故に係る情報として、専門機関の最新情報を提供している。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/for_student.html#about_20</p> <p>○留学生対応として、個別面談により震災の状況、計画停電、原発事故の状況について説明を行った。</p> <p>○留学生に対し、ホームページにより震災の情報をQ&A方式で提供するとともに、英文でも関係機関等へのリンク先を掲載した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/for_student.html#about_18</p> <p>○国外退去する留学生への対応として、交通機関等の運行状況の確認・手配の支援を行った。</p> <p>○新学期に向けたよくある質問への回答（FAQ）を作成した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/for_student.html#FAQ</p> <p>○授業料免除申請期間4月4日～4月8日までを5月13日まで延長した。</p> <p>○本学独自の授業料免除を実施した。</p> <p>○教育学部同窓会から16名の被災学生に見舞金を贈呈した。また、6月には新たに7名の被災学生にも見舞金を贈呈した。</p> <p>○被災学生83名に対し、本学教職員・学生から集めた義援金の中から奨学金を支給した。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/index.php?id=322</p> <p>○学生後援会から、見舞金を57名に支給した。</p> <p>○内定取消や入社延期の状況を把握するとともに、岩手県、宮城県、福島県に就職が内定していた卒業生に連絡し、状況確認し、相談及び情報提供を行った。</p> <p>○震災の影響等で就職活動に支障の出ている学生を含めた進路未内定の学生のために、9月22日（木）に合同企業説明会を開催した。</p>

【4. 就職支援】 ①被災した学生に自大学の就職支援等を行うことができる
キャリアセンター等の利用

支部名	大学名	活動実績
北海道	北海道大学	○被災した大学の学生への就職支援として、キャリアセンターでの就職活動用PC使用や就職相談の受付体制を整備。
北海道	帯広畜産大学	就職支援室で被災地に就職した学生の相談を受付、1人の相談を行った。
東北	弘前大学	○被災学生に対して、学生就職支援センター機能（就職相談、就職情報の提供、パソコン等の機器利用等）を開放することとしたが、これまでのところ利用希望者はない。 URL: http://www.hirosaki-u.ac.jp/information/O7.pdf
東北	秋田大学	○学生支援総合センター（就職・キャリア形成推進室）において、就職関係情報の提供を行った。（福島大学生2名利用。公務員関係願書収集。） ○学生支援総合センター（就職・キャリア形成推進室）において、震災の影響により入社時期がずれ込む等の影響があった学生10名から相談を受付。無事入社に至るまでケアを行った。
東北	山形大学	○被災した学生や地震の影響で採用活動が止まっている学生に対し、4月24日に緊急就職ガイダンス・企業説明会を実施。217名の参加者がいた。 ○被災し避難している福島大学の学生1名に対し、履歴書の書き方の対応を行った。
関東・甲信越	埼玉大学	○被災大学学生に対し、本学就職支援担当窓口で就職支援を行う旨をホームページで発信（4月13日） http://www.saitama-u.ac.jp/announce/20110413.html
関東・甲信越	千葉大学	○就職情報室の開放（就職相談・関連情報の提供・パソコン等の機器の利用等） http://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/article2011/20110418syuusyoku.html ※4/18千葉大学HPに利用案内を掲載、現時点まで希望者はいない。
東京	東京学芸大学	・学生キャリア支援センター、学生課キャリア支援室においては、被災学生の要望に応じて就職相談を受けられる体制にはなっているが、現在申し出はない。
東京	東京工業大学	○キャリア相談の受付、求人情報/パソコンの利用、ガイダンス等への参加を可能とした。 http://www.titech.ac.jp/public/news/detail_1911.html?id=topics
東京	東京海洋大学	就職支援室において就職情報を提供出来るよう用意したが、希望者はなかった。
東京	お茶の水女子大学	○キャリア支援センターにおいて被災大学の学生の就職相談及び就職情報資料室の利用を案内している。
東京	一橋大学	○キャリア支援室で、被災した学生7名に対して個別進路指導を行った。 ○キャリア支援室で、被災した既卒業者1名に対して、進路指導を行った。
関東・甲信越	横浜国立大学	○キャリア・サポートルームに窓口を設けた。（卒業後も対応）
関東・甲信越	新潟大学	○被災した学生の申し込みにより利用させることにしているが、これまで実績はない。
関東・甲信越	長岡技術科学大学	・就職に関する情報提供などの支援を利用可能（詳細は要相談）
関東・甲信越	山梨大学	○利用実績なし。相談希望者があれば相談は可能。
関東・甲信越	信州大学	○キャリアサポートセンターにおいて被災学生に対し、就職相談や情報収集のためのパソコン利用を可能にした。
東海・北陸	富山大学	○キャリアサポートセンターにおいて被災学生の就職相談を受け、1名対応
東海・北陸	金沢大学	・就職支援室において被災学生の就職相談を受けける体制を整備

【4. 就職支援】 ①被災した学生に自大学の就職支援等を行うことができる
キャリアセンター等の利用

支部名	大学名	活動実績
東海・北陸	福井大学	就職支援室における被災学生の就職相談支援体制を整備
東海・北陸	静岡大学	○就職支援課において被災学生の就職相談を受付ける体制を整備。
東海・北陸	名古屋大学	被災地域の大学に在籍する学生の就職活動を支援するため、就職相談員による相談、学務部学生総合支援課就職支援室での就職関連情報の提供、情報機器の利用について全面的に支援できるよう対応した。
東海・北陸	愛知教育大学	○キャリア支援課の就職情報検索用パソコンの利用及び課員による就職活動のための相談対応を行うこととしているが、利用実績はない。
東海・北陸	名古屋工業大学	○就職情報室において被災学生の就職相談ができるよう体制を整備 URL: http://www.nitech.ac.jp/other/anti_disaster_17.html
東海・北陸	豊橋技術科学大学	○本学が所有する就職に関する情報の提供等を行う就職支援の体制を整備。
東海・北陸	三重大学	○キャリア支援センターにおいて被災学生の就職関連情報の提供及び就職相談等を受付けている。（現在希望者なし） http://www.mie-u.ac.jp/activity/contribution/20110428_hisaigakuseisyusyokusien.pdf
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	被災した本学学生の就職相談や、被災に伴う就職内定取り消し等に対する相談を常時受け付けることとした。
近畿	京都大学	・キャリアサポートセンターとして現在実績は無いが、今後被災地域学生については、キャリアサポートセンターの利用、情報収集、就職相談等について可能な限りの協力
近畿	大阪大学	○地震の影響に係る就職活動等の相談受け付け（11件）
近畿	神戸大学	○本学学生と同様、就職活動及びキャリアセンター活用を支援する。（利用者なし）
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	○就職相談窓口を利用できるよう体制を整備（実績はなかった。）
中国・四国	鳥取大学	○キャリアセンター内の資料、機器の利用は可能である。 ○就職相談があれば対応可能とした。（相談件数は、現在無し）
中国・四国	島根大学	○被災地方出身学生へ就職に関する支援について個別に通知 ○被災した大学の学生へ本学キャリアセンターで就職相談等の支援を行うための体制を整備
中国・四国	岡山大学	本学は、「キャリア開発センター」を設置して学生の就職支援を行っている。被災学生の要望があれば、就職相談等対応は可能である。（利用希望者なし）
中国・四国	広島大学	○キャリアセンターにおいて被災学生の就職相談体制を整備
中国・四国	山口大学	○利用できる体制を整備したが、利用者はなかった。
中国・四国	徳島大学	○被災した大学等の学生に対し、本学の就職支援センターを利用できる旨をホームページに掲載（23年4月末日現在まで問い合わせなし） URL: http://www.tokushima-u.ac.jp/tohoku_earthquake_disaster.html
中国・四国	愛媛大学	○被災学生の就職相談等の支援を提供できることとした。
中国・四国	高知大学	○被災地域に実家がある就職活動中の学生に対して、就職活動に困難な状況があれば就職室に連絡するよう案内しているが現在、相談は無い。

【4. 就職支援】 ①被災した学生に自大学の就職支援等を行うことができる
キャリアセンター等の利用

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	福岡教育大学	○被災した学生の就職相談等をキャリア支援センターで受け付けることとしている。（利用実績なし）
九州	九州大学	・被災した学生から就職支援等の相談があれば、キャリアサポート課で対応。
九州	九州工業大学	○キャリアセンター設置のパソコン利用及び就職関係資料の閲覧を可能にした。 〔URL: http://www.kyutech.ac.jp/info/id793.html 〕
九州	佐賀大学	○被災した学生の就職相談の体制は整備したが、相談を申し込んだ学生はいなかった。
九州	長崎大学	○被災学生から就職相談があれば、就職支援班（就職支援・キャリア情報コーナー）において対応
九州	大分大学	被災等により在学する大学の就職支援が困難な学生、避難しているため在学する大学での就職支援が受けられない学生、被災等の影響で内定・採用取り消しを受けた学生（今春卒業者を含む）を対象として、キャリア開発課の窓口で、就職相談や就職関連情報の提供、キャリア・カウンセラーによるキャリア相談や就職活動の指導等を行う体制を整備した。 URL: http://www.oita-u.ac.jp/O1oshirase/gakusyusien_syusyoku.html
九州	宮崎大学	○キャリア支援室において就職相談の受け付け体制を整備
九州	鹿児島大学	○4月13日「被災した大学の学生へのメッセージ」として本学HPと就職支援センターHPの「お知らせ」に掲載した。 帰省・避難で来鹿された際は、求人その他の就職情報の入手や就職相談等に本学就職支援センターを利用できる旨のメッセージ。 ・東日本大震災により被災した地域の大学・短大等に在学中の学生の皆様へ（4月13日） URL: http://www.kagoshima-u.ac.jp/important/2011/04/post-11.html ・「東北地方太平洋沖地震」による就職および就職活動への影響について（3月22日） URL: http://www.kagoshima-u.ac.jp/important/2011/03/post-9.html
九州	鹿屋体育大学	○被災学生からの申し出があった場合には、今後検討する。
九州	琉球大学	○就職センターにおいてPC利用や求人票閲覧、就職相談等、本学学生と同等の支援が出来る体制を整備した。（受け入れ実績はなし）

【4. 就職支援】 ②被災した学生に対し、就職活動中の短期宿泊に供することが可能な
宿泊施設の提供

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	弘前大学	○被災学生に対して、弘前市、青森市、津軽地域等における就職活動中に短期宿泊の申し出があった場合、可能な限り学内宿泊施設を提供することとしたが、これまでのところ希望者はない。
東北	山形大学	○様々な関東の施設から、被災した学生の短期宿泊の受け入れが可能との申し出があり、3人の学生が利用した。
関東・甲信越	千葉大学	○就職情報室の開放（就職相談・関連情報の提供・パソコン等の機器の利用等） http://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/article2011/20110418syuusyoku.html ※4/18千葉大学HPに利用案内を掲載、現時点まで希望者はいない。
東京	東京工業大学	○東京工業大学の短期宿泊施設、学生寮等の利用を可能とした。 http://www.titech.ac.jp/public/news/detail_1911.html?id=topics
東京	東京海洋大学	職員集会所等の宿泊施設を用意したが、希望者はなかった。
東海・北陸	金沢大学	・「オリンピック記念青少年総合センター」が就職活動するための宿泊施設として無償提供されることについて周知
東海・北陸	福井大学	大学の宿泊施設利用申し込みのサポート体制を整備
東海・北陸	静岡大学	○就職活動中の学生を受け入れる体制を整備。
東海・北陸	名古屋大学	職員会館等の学内宿泊施設の利用について、無償利用等が可能となるよう対応したが、入居希望はなかった。
東海・北陸	愛知教育大学	○当地域の企業への就職活動のため来県中の学生に対し、学内の学外者用宿泊施設を、2泊を限度に無料提供することとしているが、利用実績はない。
東海・北陸	三重大学	現在（該当者なし）特段の整備は行っていない。（要請等あれば整備について検討。）
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	申し出があれば受け入れることで検討する。
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	○学内宿泊施設を臨時で利用できるよう体制を整備（入居希望者はなかった。）
中国・四国	鳥取大学	○職員用宿舎を臨時で利用できるよう体制を整備中(職員宿舎16室を被災者用に確保したが、現在、入居希望者は無)
中国・四国	広島大学	○ゲストハウス、職員用宿舎及び学生宿舎を無料で利用できるよう体制を整備
中国・四国	徳島大学	○被災した大学等の学生に対し、就職活動中の短期宿泊についても相談願いたい旨をホームページに掲載（23年4月末日現在まで問い合わせなし） URL http://www.tokushima-u.ac.jp/tohoku_earthquake_disaster.html
中国・四国	高知大学	○被災地域に実家がある就職活動中の学生のため、高知県内に無料で提供できるアパートを確保したが、現在、申請者はいない。（平成23年12月末）
九州	福岡教育大学	○被災した就職活動中の学生に対し、宿泊希望があった場合には学内の宿泊施設を紹介することとしている。（利用実績なし）
九州	九州大学	・就職活動中の被災した学生から、宿泊施設の相談があれば、キャリアサポート課で対応。
九州	九州工業大学	○学寮、職員宿舎、学内宿泊施設及び学外研修施設の利用を可能とし、使用料は原則免除とすることとした。
九州	長崎大学	○就職活動中の被災学生から、宿泊施設について相談があれば対応
九州	大分大学	別府職員会館を臨時で利用することは可能である。

【4. 就職支援】 ②被災した学生に対し、就職活動中の短期宿泊に供することが可能な
宿泊施設の提供

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	宮崎大学	○受け入れ体制を整備

【5. 被災大学への教職員の派遣】

支部名	大学名	活 動 実 績
北海道	北海道大学	○災害復旧工事発注の応援のために、建築担当及び機械担当の技術職員2名を東北大学に派遣。(4月17日～4月23日)
北海道	北海道教育大学	《全学》○被災文教施設応急危険度判定に係る技術的支援のため危険度判定士2名(施設課職員)を東北・関東甲信越地方に派遣準備したが、現在のところ派遣要請はない。 《全学》○災害復旧の事業計画書の作成支援のため技術職員2名(施設課職員)を派遣準備(派遣先未定)したが、現在のところ派遣要請はない。 《旭川校》○日本発達障害ネットワークからの派遣依頼を受け、教員1名を発達障害専門家派遣チームの一員として、宮城県及び福島県に派遣(4月6日～4月13日) 《旭川校》○日本発達障害ネットワークからの派遣依頼を受け、教員2名を発達障害専門家派遣チームの一員として、宮城県石巻市に派遣(5月10日～5月13日) 《旭川校》○日本発達障害ネットワークからの派遣依頼を受け、教員2名を発達障害専門家派遣チームの一員として、久慈・宮古地域及び釜石・大船渡地域に派遣(10月14日～10月19日) 《旭川校》○日本発達障害ネットワークからの派遣依頼を受け、教員2名を発達障害専門家派遣チームの一員として、久慈・宮古地域及び釜石・大船渡地域に派遣(1月26日～1月30日) 《札幌校》○東日本大震災心理支援センターからの派遣依頼を受け、教員1名を日赤医療チームの一員として岩手県陸前高田市へ派遣(4月11日～4月13日) 《札幌校》○岩手県教育委員会からの派遣依頼を受け、教員1名を学校支援カウンセラーとして陸前高田市の2小学校へ派遣(6月7日～6月10日)
北海道	小樽商科大学	○被災文教施設危険度判定派遣職員として2名の施設課職員を登録しているが、派遣要請はなかった。(5月まで)
北海道	帯広畜産大学	○文教施設応急危険度判定士の派遣職員名簿に登録した。 ○施設担当職員の派遣協力の体制を整備した。
北海道	北見工業大学	人事院規則15-16の施行に準じ、ボランティア休暇の上限日数の引き上げ、対象となる活動地域の拡大、さらに適用期間の延長を行った。教職員の派遣の実績はない。
東北	弘前大学	○被害調査及び災害復旧事業計画書の作成業務のため技術職員4人を福島大学に派遣(4月5日～8日)
東北	秋田大学	○福島大学へ被害状況調査支援のため、職員1名派遣(3月28日～4月1日)
東北	山形大学	○被災文教施設応急危険度判定の応援のため、技術職員3名を東北大学に派遣(3月15日～16日)
関東・甲信越	群馬大学	○被災した宮城県の教育関連施設の応急危険度判定を実施するため、文教施設応急危険度判定士1名を派遣(4月18日～22日)
東京	東京学芸大学	・被災施設を有する国立大学法人等に対する災害復旧事業計画書の作成支援(派遣予定者調査票の提出を行い、派遣日程等について連絡待ちの状況)
東京	東京藝術大学	○被災文教施設応急危険度判定に係る技術的支援のため技術系職員1人を宮城県に派遣(4月18日～22日)
東京	東京工業大学	○文部科学省からの求めに応じ、被災文教施設応急危険度判定士1名を宮城県内学校施設(大和町9施設 県立1施設、富谷町14施設、登米市内 県立6施設)に派遣。(4月18～22日) ○文部科学省を通じ被災大学からの求めに応じるため、災害復旧事業(施設整備関係)に3人を派遣登録中。(被災大学からの要請待ち) ○東北大学へ本学施設運営部職員1名を派遣。今後2名を派遣予定。
東京	東京海洋大学	○被災文教施設への応急危険度判定対応可能職員の登録(対応可能職員を登録したが、派遣要請はなかった。)
関東・甲信越	上越教育大学	○文部科学省の照会により、被災文教施設応急危険度判定士に1名登録しているが、現時点まで被災文教施設等からの派遣依頼はない。

【5. 被災大学への教職員の派遣】

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	福井大学	○被災文教施設応急危険度判定のため、職員2名の派遣体制を整備（文部科学省に被災文教施設応急危険度判定派遣職員名簿を提出済み） ○国立大学等への支援（災害復旧の事業計画書作成）のため、職員2名の派遣体制を整備（文部科学省に派遣予定者調査表を提出済み） ○調査団13名（学長、理事、教員、事務）を福島県に派遣し、福島県知事と面談し、支援のあり方等について意見交換するとともに、各調査目的に応じた調査等を実施（5月24日～26日） ○保健管理センター准教授1名を福島県に派遣し、心のケア・チームと合流し、住民との相談活動に参画（6月4日～6日）（7月12日～17日）（12月12日～17日）
東海・北陸	岐阜大学	被災大学に対して申し入れたが、「受入体制が整っていない」とのことで派遣しなかった。
東海・北陸	名古屋大学	施設系職員2名を災害復旧事務のため、東北大学に派遣 （第1陣 2名 4月11日～15日） （第2陣 2名 5月23日～27日）
東海・北陸	愛知教育大学	○教育復興支援ボランティアとして学生を派遣する際のリーダーとして、南三陸町（8/8～12）及び気仙沼市（8/16～21）へ教職員各1名を派遣した。なお、岩沼市（9/5～9）へ、同じくリーダーとして教員1名を派遣した。
東海・北陸	名古屋工業大学	○国立大学法人等施設担当部長会より依頼のあった技術職員等の派遣について、派遣予定者を回答したが、現時点では連絡がない。
東海・北陸	豊橋技術科学大学	○災害復旧事業に係る派遣人員として施設担当職員2名を登録している。
東海・北陸	三重大学	○東北大学、福島大学等における災害復旧事業（施設整備関係）の担当職員として、施設部から1名を登録予定。 ○被災文教施設応急危険度判定を担当する職員として、施設部から5名を登録。（派遣要請なし）
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	国立大学協会の要請に応じ1名程度派遣可能としているが、現時点での派遣要請はない。文部科学省の要請に応じ被災文教施設応急危険度判定士として1名の職員を登録しているが、現時点での派遣要請はない。
近畿	京都大学	・被害状況調査及び概算事業費算出業務支援のため技術系職員5名を派遣 ・被災地への文教施設応急危険度判定士1名の派遣 ・その他、研究科単位にて職員を派遣
近畿	大阪大学	○災害復旧費の算出と要求書の作成及び災害復旧工事の執行のため、施設部所属の技術職員3名を東北大学に派遣（4/4～4/8） 第二弾として、医学部附属病院所属の1名を含む技術職員3名を派遣（5/10～5/13）
近畿	大阪教育大学	○大阪教育大学東日本大震災復興支援対策委員会を設置し、学生・教職員がボランティア活動を行うための体制を検討している。 ○原子力発電所事故による避難住民の一時帰宅に伴う緊急被ばくスクリーニング作業に、教員1名を2回、福島県へ派遣
近畿	神戸大学	○東北大学からの「施設災害復旧事業に係る技術支援者の派遣依頼」に対し、1班4名からなる施設系技術職員で構成されたチームを5班編制し4/11から5月下旬まで1班10日間毎派遣した。 http://www.kobe-u.ac.jp/info/topics/menu/sf2011_03_28_01.htm ○教職員研修指導のため教員2名を東北大学に派遣（4/19-20） ○シンポジウム「震災とジェンダー」講演のため教員1名を岩手大学に派遣（8/28）
近畿	奈良教育大学	○学校支援カウンセラー派遣（1名）（5月24日～5月27日） 大槌高等学校（岩手県）
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	○災害復旧応援のため技術系職員を文部科学省へ回答（派遣実績はなかった。）
中国・四国	鳥取大学	○応急危険度診断士、被災者の心のケアにかかる人員、施設系職員の派遣依頼に対して、派遣可能人員を提出

【5. 被災大学への教職員の派遣】

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・四国	岡山大学	岩手県教育委員会の要請と東日本大震災心理支援センターのコーディネートにより、本学の教員2名（日本臨床心理士会・岡山県臨床心理士会所属の臨床心理士）が宮古市内3小学校に入り、被災した児童・生徒・保護者への心のケアや、学校に対する相談体制整備のためのコンサルテーションを行った。 （派遣期間）平成23年5月9日から5日間・平成23年6月13日から5日間
中国・四国	広島大学	○文部科学省からの依頼により、被災文教施設応急危険度判定士の資格を有する職員3人の派遣を準備（実際の派遣なし） ○全国施設担当部課長会（会長：東京大学）からの依頼により、被災大学等への技術職員の派遣を準備（実際の派遣なし）
中国・四国	山口大学	○災害復旧工事発注の応援のため、技術系職員1人を登録 ※派遣要請はなく支援の終了。（6/1文科省から連絡） ○文教施設応急危険度判定士として、技術系職員2人を登録 ※現時点においては要請がないため、未派遣である。 ○東北大学へ技術系職員1人を派遣予定（24.10.1～24.12.28（3ヶ月間））
中国・四国	鳴門教育大学	○宮城教育大学教育復興支援センターが実施している、各種支援プログラムについて、要請に応じ積極的に支援を行うこととしている。
九州	福岡教育大学	○現段階で派遣している職員はいないが、文部科学省から依頼があった「平成23年東北地方太平洋沖地震等における被災文教施設応急危険度判定士の派遣について」に基づき、被災文教施設応急危険度判定士として技術職員1名を登録している。
九州	九州大学	・4月18日～4月22日の5日間、施設被害状況の把握及び災害復旧作業のため、施設部職員2名を東北大学へ派遣。 ・東北大学から国立大学協会を通じて、災害復旧工事に係る設計、積算、工事発注及び現場管理の為に技術職員の人的支援について協力依頼があり、施設部職員5名（1名当たり3ヶ月程度）の派遣が可能である旨を回答。
九州	長崎大学	○公立大学法人福島医科大学における放射線および被ばく者医療に関する業務を行うため、7月15日付けで教授1名を福島医科大学へ出向させた ○被ばく医療についての知識と経験を生かすため、10月1日付けで、病院永井隆記念国際ヒバクシャ医療センター准教授が福島県立医科大学教授に就任した
九州	熊本大学	○福島県立医科大学病院緊急被ばく医療チームへ被ばく線量評価担当者として教員（1名）を派遣した。（平成23年3月20日～24日） ○東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンターからの依頼により、教員（1名）を派遣し、震災時のメンタルヘルス（カウンセリング等）に関する技術提供（特に発達障害児・者（自閉性障害・注意欠陥多動性障害・アスペルガー障害等）の特性を考えた面接支援に関する技術提供）を行った。（平成23年4月16日～20日、8月23日～24日） ○文部科学省からの依頼により、被ばくスクリーニング協力者として教員及び技術職員（延べ13名）を福島県へ派遣した。（平成23年5月21日～継続中8月21日）
九州	大分大学	被災大学から教職員の派遣要請があれば積極的に対応することとしている。
九州	宮崎大学	○現時点では、被災大学からの要請はないが、対応できる体制を整備
九州	鹿児島大学	○被災した学校施設の応急危険度判定調査職員 ・3月14日 文部科学省（文教施設部）に対して施設部職員1名の派遣が可能である旨回答したが、派遣要請はなかった。 ○災害復旧事業（施設整備関係）に係る施設担当職員の派遣について ・3月28日 文科省文教施設企画部から、災害復旧事業（施設整備関係）に係る施設担当職員の被災法人への派遣について可能な限り協力願いたい旨の依頼があり、本学では建築1名、機械設備1名の派遣が可能である旨回答したが、派遣要請はなかった。
九州	鹿屋体育大学	○文科省や国立大学協会等から、被災文教施設応急危険度判定士や災害復旧事業事務に係る技術職員派遣依頼があったが、人員が少ないため対応が困難である旨を回答している。
九州	琉球大学	○医療支援を参照。その他、事務職員3名を医療支援の補助として、岩手県へ派遣した。（事務職員1名：3月15日～3月22日、事務職員2名：4月5日～4月12日）

【6. 被災者への支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
北海道	北海道大学	<p>○職員住宅20室を被災者用に用意したが、2月末時点の入居の要請はない。</p> <p>○防災科学技術研究所が中心に進めている災害情報ボランティアとして教員1名及び学生7名が参加し、被災地（岩手県陸前高田市）で発見された写真等の清掃・展示作業に従事。（5月2日～7日）</p> <p>○臨床心理学教員等による被災者対象の傾聴電話相談窓口を開設し、2件の電話相談を実施。（5月9日～）</p> <p>○企業との共同研究における臨床実証実験の一環として、被災地のツルハドラッグ店舗において、遠隔健康相談を実施。（5月12日～3月31日予定）</p> <p>○岩手県共同実習船「翔洋」が東日本大震災により被災し、解体、廃船となったため、岩手県からの要請を受け、附属練習船おしよる丸が平成23年10月3日から6日までの日程（宮古港乗下船）で、岩手県立宮古水産高校の乗船実習を実施した。実習指導は本学練習船教員が行い、東北沖合での海洋観測、いか釣り・解剖実習、操船、船橋・機関室当直、魚肉ソーセージ作りなどにより、漁業従事者及び船舶職員としての基礎的な知識、技術を習得させた。本乗船実習は今後も継続的に行う予定。</p> <p>○気仙沼小泉地区の集団移転計画に、本学教授がコミュニティ・アーキテクト（計画策定の指導役）として参加。（6月20日～）</p> <p>○1993年北海道南西沖地震の津波被災地である奥尻島の災害対応・復興過程に関する問い合わせ対応及び情報提供を行っている。（4月1日～）</p> <p>○南三陸町「震災復興策定研修会」にて、1993年北海道南西沖地震の津波被災地である奥尻町の復興過程を報告。（5月31日）</p> <p>○気仙法人会の要請に基づき、同会の実施する「地震・津波に関する講演会」で本学教員が講演及び参加者との意見交換を行った。（8月8日）</p> <p>○南三陸町志津川中学校において、教職員向けに、1993年北海道南西沖地震で被災した奥尻町における子供たちのその後について情報提供及び震災教育についての助言を行った。（9月8日）</p>
北海道	北海道教育大学	<p>《全学》○職員宿舍6室を被災者用に用意したが、現在のところ入居希望者はない。</p> <p>《全学》○福島県の子どもたちを北海道に招き夏休みを過ごしてもらう「ふくしまキッズ夏季林間学校」（7月25日～8月28日）のボランティアに本学学生122名が参加した。また、「ふくしまキッズ冬のプログラム（平成23年12月24日～12月30日）」のボランティアに本学学生が21名参加した。今後、「ふくしまキッズ春のプログラム（平成24年3月25日～3月31日）」のボランティアに本学学生約10名が参加する予定である。</p> <p>《札幌校》○札幌校校内学生団体みちのくkiduが東日本大震災の影響で札幌に避難してきている子どもたちを迎え入れ、レクリエーションや学習等の活動を実施する「みちのくkidsスクール（8月1日～7日）」を開催し、本学を中心に学生約120名が参加した。また、本団体は「お料理教室（平成23年11月27日）や「みちのくkids冬スクール（平成24年1月13日～15日）」等の活動を通じて継続的な支援活動を行っている。</p>
北海道	室蘭工業大学	○合宿研修所を被災者用に用意した。（入居の実績はない）
北海道	小樽商科大学	○職員宿舍5室を被災者用に用意したが、入居希望者はなかった。（5月まで）
北海道	帯広畜産大学	被災者用の住居として、職員住宅4戸（12部屋）を用意した。（現在のところ入居予定なし）
北海道	旭川医科大学	○職員住宅を被災者用に用意したが、入居希望はなかった。（平成23年4月下旬まで実施）
東北	弘前大学	<p>○被災地からの要望に対する教育力向上プロジェクト出前授業の実施（グラスハープ・アンサンブル：宮古市・8/25～26、岩手県野田村10/23）、（7/28～29 岩手県野田村で復興まちづくり提案のワークショップ開催）</p> <p>○「きたかみ震災復興ステーション」コンソーシアムに教育学部住居学研究室が参加し、北上市に拠点を置いて活動する、北上市沿岸地域支援サポートにおいて、沿岸地域からの避難者への復興支援（雇用等の相談窓口）及び沿岸地域の復興支援活動（避難地ニーズを支援希望者へマッチング）等を行う。（8月からステーションの立ち上げ開始、9月1日運営開始）</p> <p>○福島県伊達市からの依頼を受け、平成24年1月20日開催の講習会「放射能に対して健康に生活するための注意点・安心した子育て」に保健学研究科・被ばく医療総合研究所教員を派遣、また同年2月3日開催の講習会「放射線被曝リスクの正しい理解とこれからの対応」に被ばく医療総合研究所教員を派遣した。</p>

【6. 被災者への支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	岩手大学	岩手県から被災者への提供可能物件について照会があり、住宅及び仮設住宅候補地として次のとおり提供することとした。 ○被災者への住居の提供（青山第三宿舍10室） ○仮設住宅候補地の提供（農学部附属滝沢農場：所在地 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子）18万㎡ 現時点で入居等に係る具体的な連絡はない。
東北	東北大学	・学内に避難所を開設し、地元の被災者及び学生延べ2,000人程度受入れ（3月11日～16日） ・非常食、炊き出し、飲料水、布団等を提供（3月11日～16日）
東北	宮城教育大学	○県内の教育委員会や学校現場への救援物資の提供（随時） ○被災学校の教員に対するメンタルヘルスケアの指導 ○被災児童・生徒へのメンタルヘルスケア ○スクールカウンセラーの配置
東北	秋田大学	○教育文化学部附属教育実践研究支援センター臨床心理相談室が「こころのケアガイド秋田大学 災害時支援」を作成。各課程において、本ガイドを利用して被災学生に対するケアを実施中。臨床心理相談室では被災学生への相談および被害学生を担当する教員への相談を5月31日まで受け付け、その後も随時受け付けることとしたが、相談者はいなかった（24年2月20日現在）
東北	福島大学	○学内に避難所を開設し、地元の被災者延べ168人を受入れ。（3月16日～4月30日） ○中心市街地の大学施設として附属中学校体育館を避難所開設及び避難者支援 県内の被災者延べ320人を受入れ。（3月17日～26日） ○本学職員宿舍・野田住宅のうち8戸を計画的避難区域の住民に無償貸与。（室内蛍光灯やカーテン、ガス台、湯沸機、テーブル等の備品も無償貸与）（6月1日～最大2年） ○子ども達への学用品（文房具）支援。（4月～現在） ○避難区域に指定され、サテライト校で離れ離れの学校生活を送る高校生の団結を深めることを目的としたスポーツ大会を8月17日に実施。約200名の高校生が参加。 ○世界的な災害科学の拠点及び今後起こりうる災害に対する復興支援を目的として「うつくしま未来研究センター」を設置。http://fure.net.fukushima-u.ac.jp/
関東・甲信越	茨城大学	○水戸キャンパス内に避難所を開設し、学生及び近隣住民を受け入れ（3月11日～3月18日）期間中の最大人数：500名 ○茨城大学附属中学校に避難所を開設し、学生及び近隣住民を受け入れ（3月11日～3月13日）期間中の最大人数：60名
関東・甲信越	筑波大学	○文部科学省に、被災者入居可能宿舍として26戸を報告 ○被災した職員の父母等を、つくば市内の宿舍に受入れ（世帯宿舍3戸） ○ライフライン被災により宿舍での生活が困難になった留学生等（約550名）を春日キャンパス及び春日プラザを避難所として収容した。 ○3月から現在まで定期的に、避難所生活している子どもを対象に、避難所地域でスポーツレクなどの活動を展開している。 ○6月から福島県伊達市の仮設住宅において、科学的根拠に基づいた個別に適した運動・食事プログラムを提供する「ICTを活用した仮設住宅居住者への遠隔健康支援プロジェクト」を開始した。 ○6月から宮城県仙台市等での仮設住宅において、特に身体活動量の制限される高齢者の健康支援のため、「避難所における廃用症候群防止プログラムの立案および健康コミュニティの形成プロジェクト」を開始した。 ○被災地の障がい児・者を対象とした身体活動への支援を行うために、支援ニーズに関する情報の収集（福島県：会津地方へ避難した方、浜通りに在住する方）を実施し、身体活動のための用具の支援と人的支援を継続的に行っている。 ○いわき市に「板倉構法」を用いた仮設住宅の建設。 ○真壁にて震災復興支援ポスター作成、応急危険度判定分布図の作成。 ○被災博物館資料のレスキュー活動、破損石造文化財の修復、水損掛け軸などの応急処置（防カビ）、公文書等のクリーニング、収蔵環境の空気質調査等。

【6. 被災者への支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	宇都宮大学	<p>○職員宿舍の無償貸与を実施（入居期間：1年間以内）した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居条件は、自宅が被災し、居住困難であり、本学学生の一親等の親族が入居する場合。 ・大学HPで周知。21家族が入居中（平成24年2月29日現在） <p>○3月30日～4月24日にかけて宇都宮市内避難所において、避難してきた子どもに学習支援を行った。</p> <p>○宇都宮市内避難所での仮設間仕切りの設営（教員1名、技術職員1名）を4/2、4/4、4/15に行った。</p> <p>http://www.shigerubanarchitects.com/SBA_NEWS/SBA_news_5.htm</p> <p>○4月11日から月2回程度、いわき市仮設住宅におけるコミュニティづくりを支援するため、予備的調査を行った。</p> <p>○6月18日～7月30日にかけて日光市内避難所において、避難してきた子どもに学習支援を行った。</p> <p>○24年1月9日、宮城県亶理町被災地区でのもちつき大会を支援した。</p> <p>○24年2月11日、12日に宮城県亶理町公共ゾーン仮設住宅にて訪問傾聴活動を行った(協力NPO法人亶理いちごっこ)</p>
関東・甲信越	群馬大学	<p>○4月初旬に太田市在住者から新入生被災学生へアパートの1年間無償提供の申し出があったが、入居希望者はなかった。</p>
関東・甲信越	千葉大学	<p>職員宿舍26戸を要援護者用の県外避難についての受け入れ施設として登録 ※2月末現在入居希望者なし</p>
東京	東京外国語大学	<p>職員宿舍5室を、本学在学生の被災地にいる家族について受入を優先（用意）したが、入居希望者はいなかった。</p>
東京	東京学芸大学	<ul style="list-style-type: none"> ・職員住宅6室を被災者用に用意したが、入居希望者はなかった。 ・5月の学生委員会で、被災学生1名に学生寮の臨時入寮許可を出した。
東京	東京農工大学	<p>○文部科学省からの照会に基づき、利用可能な宿舍・寮の戸数を回答したが、入居者を受入れた実績はなかった。</p>
東京	東京工業大学	<p>○文部科学省からの求めに応じ、県外避難の被災者に対し本学で受入可能な宿泊施設について、下記のとおり情報提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流会館 単身棟 13部屋（大田区石川台） ・藤が丘寮（男性教職員専用寮） 20部屋（横浜市青葉区藤が丘）
東京	東京海洋大学	<p>○職員宿舍を臨時で利用できるよう体制を整備（職員宿舍10戸を被災者用に用意したが、入居希望者はなかった。）</p>
東京	お茶の水女子大学	<p>○長野県から志賀高原にある施設を被災者に提供できないかとの打診があり、了承した。</p>
東京	電気通信大学	<p>○被災者への住居提供のため職員宿舍を7室用意したが、入居希望者はいなかった。</p> <p>○学生・福利厚生施設（宿泊施設）を、自治体等からの被災者要請に備えて確保したが、入居希望者はいなかった。</p>
東京	一橋大学	<p>○小平国際学生宿舍に被災地域の学生の緊急入寮を受け付け、学生2名に対し住居を提供した。（HPにて募集案内を記載） URL:http://www.hit-u.ac.jp/function/outside/news/2011/0328_1.html</p>
関東・甲信越	横浜国立大学	<p>○職員用宿舍を確保した。 （職員宿舍（世帯用23室、単身用1室）を被災者用に用意したが、入居希望者は無し）</p>
関東・甲信越	新潟大学	<p>○職員宿舍等36室（五十嵐地区職員宿舍10室、国際交流会館4室、理学部附属臨海実験所宿泊施設8室、農学部附属フィールドセンター宿泊施設14室（村松8、佐渡6））を確保した。</p>

【6. 被災者への支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	長岡技術科学大学	・職員宿舍3室を被災者用に用意できる旨、文科省に連絡したがその後の入居連絡はまだなし。 ・福島を被災地に就職した本学OBとその同僚（計2名）を避難先としてゲストハウスに宿泊させた。 ・茨城出身で3月卒業した学生をゲストハウスに就労が決まるまで宿泊させた。（実家は避難生活。就職先が福島の被災地で勤務開始が遅れたため）
関東・甲信越	上越教育大学	○上越市からの要請により、避難所として職員宿舍に7世帯32人を受入れた。（4月9日）2月末日現在、5世帯18人を受入れている。 9月1日より、上記職員宿舍を仮設住宅として貸与する変更契約を上越市と取り交わした。（8月31日） ○本学職員及び学生の親族等で被災した方について、職員宿舍及び学生宿舍を臨時的に貸与する特別措置を定め、2世帯10人を受け入れた。（3月17日）10月末までに全世帯退去済み。
関東・甲信越	山梨大学	○低レベル放射線下にあり、屋外での身体活動が制限されている郡山市・福島市の幼児・児童・生徒の発育発達を保障するために、大学院生・学生・東京都及び山梨県の小学校教員とともに、以下のような支援を実施している。①遊びの広場「PEP Kids Koriyama」におけるプレイリーダーの資質向上のための講習会の実施と、幼児児童の運動量・基本的動作の獲得などの調査（平成23年12月～現在）、②保育士・教員・スポーツ指導者を対象としたレクチャーと室内運動実技講習会の実施（平成23年8月より、毎月1回実施）、③幼児・児童・生徒の生活実態・心の健康度・体力運動能力のデータ収集と分析をもとにした保育所・幼稚園・小学校・中学校・地域での子どもの発育発達を保障するための取り組みの提供（平成23年8月～現在）
関東・甲信越	信州大学	○被災者の受入が可能な職員宿舍について調査し、7戸がある旨を文科省に回答したが、入居希望者はなかった。
関東・甲信越	総合研究大学院大学	○宿泊施設5室16名分を被災者用に、文科省協力依頼（3/16）に基づき、用意したが、入居希望者はなかった。
東海・北陸	富山大学	○職員用宿舍47室を要援護者等の県外避難についての受け入れ施設として登録していたが、希望する要援護者はなかった。
東海・北陸	金沢大学	・入居希望者は現時点ではない ・宿舍の入居可能部屋数を調査（3月15日） ・被災者の受入可能人数を調査（3月17日）
東海・北陸	福井大学	職員住宅18室を被災者用に用意し、5名が入居（現在は退居）
東海・北陸	岐阜大学	要援護者等の県外避難についての受け入れ施設登録（国際交流会館C棟2室）
東海・北陸	静岡大学	○被災した教職員の親族を支援するため、職員宿舍1戸を提供した。 URL: http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_ukeire_forout.html URL: http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq_kisoku.pdf
東海・北陸	浜松医科大学	職員住宅6室を被災者用に用意したが、入居希望者はなかった。
東海・北陸	名古屋大学	本学のレジデンス等の空きを確保しつつ、愛知県と協議しながら県営住宅を提供できるよう対応したが、入居希望はなかった。
東海・北陸	愛知教育大学	○心理教育相談室及び教育臨床総合センターの教員が中心となり、愛知県被災者支援センターの中のパーソナルサポートチームに所属し、広域避難者のための個別支援拡充協議や関連団体主催の広域避難者向けの交流会参加などを通し、避難者への心理教育やカウンセリングを行っている。
東海・北陸	名古屋工業大学	○文科省からの要請に基づき、職員住宅20室を被災者用に用意したが、入居希望はなかった。

【6. 被災者への支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	豊橋技術科学大学	○職員宿舎（3LDK）を7室用意したが、現在のところ入居希望はない。 ○家計支持者の住居が全壊した本学学生に対し、見舞金を支給（7月22日）。 ○家計支持者の住居が全壊した本学学生に対し、見舞金を支給（2月14日）。
東海・北陸	三重大学	○文科省国立大学法人支援課からの要請に基づき、鳥居住宅2戸、渋見宿舎6戸入居可能として登録。 ○鳥居住宅1戸に8月17日より入居受入。
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	本学職員宿舎を3部屋用意したが、現在のところ、入居希望者はいない。
近畿	滋賀大学	○職員宿舎2戸を被災者支援住宅として彦根市へ提供
近畿	京都大学	・職員宿舎16室を被災者用に用意したが、入居者はなかった。
近畿	京都教育大学	○職員宿舎5室を被災者に被災者用に用意したが、入居希望者はなかった。
近畿	京都工芸繊維大学	○職員住宅3室及びゲストハウス3室を被災者用に用意したが、入居希望者はなかった。 URL: http://www.kit.ac.jp/O1/shinsaitaiou.html
近畿	大阪大学	○宿泊施設1室を被災者に提供し、3名（1世帯）が入居（6月末退去）
近畿	大阪教育大学	○職員宿舎等22室を被災者用に用意したが、入居希望者はなかった。
近畿	兵庫教育大学	・文部科学省からの被災者受入に係る宿泊施設の照会に対し、職員宿舎の空き室情報（2戸）を提供したが、現時点で入居希望者はない。
近畿	神戸大学	○職員宿舎29室、宿泊施設7室を被災者用に用意したが、入居希望者はなかった。 ○地域連携推進室の公募事業「平成23年度学生地域アクションプラン」にて支援している学生団体「ユース六篠」が、兵庫県篠山市（活動拠点）にて収穫した米や黒大豆を被災地に届けた。 ○東日本大震災に関する点字による情報提供を行っている。 http://suzume.med.kobe-u.ac.jp/eq/ 医学部附属病院のHPでも公開している。 http://www.hosp.kobe-u.ac.jp/topic/news/earthquake.html
近畿	奈良教育大学	○平成23年4月末現在において、本学管理下の職員宿舎4居室分を被災者受入れ用として確保。但し、4月末以降に本学教職員が入居希望した場合は、これを充当することとしている。
近畿	奈良女子大学	○職員宿舎6室を被災者用に用意したが、入居希望者はなかった。
近畿	和歌山大学	教職員宿舎の提供が可能である旨、文部科学省に報告している。（現在入居予定なし。）
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	○提供可能な職員用宿舎戸数を文部科学省へ回答（職員宿舎23室を被災者用に用意したが、入居希望者はなかった。）
中国・四国	鳥取大学	○職員用宿舎を臨時で利用できるよう体制を整備中(職員宿舎16室を被災者用に確保したが、現在、入居希望者は無)
中国・四国	島根大学	○被災者及び被災地からの患者さんへの住居として職員宿舎を確保（松江地区10戸、出雲地区15戸）
中国・四国	岡山大学	被災者用宿舎の確保の文部科学省からの調査依頼に対し、職員宿舎等（35室）を確保した。（現時点では入居者はいない）
中国・四国	広島大学	○ゲストハウス、職員用宿舎及び学生宿舎を無料で利用できるよう体制を整備

【6. 被災者への支援】

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・四国	山口大学	○文部科学省からの職員宿舎等調査に伴い、受け入れ可能施設を把握しているが、現時点においては受け入れ要請はない。 ○文部科学省からのスクリーニング派遣協力の依頼に伴い、教員3人を登録。そのうち2人が延べ4日、現地住民に対するスクリーニングを実施した。（7月2日、8月8日、9日、26日）（大学教職員からの派遣は当面行わない方向（9/14文科省から連絡））
中国・四国	鳴門教育大学	○職員宿舎30室を被災者用に準備している、2/29現在、入居希望者はいない。
中国・四国	香川大学	○非常勤講師宿泊施設（幸町会館）と貸し出し用パソコンを被災受験者に提供（3月14日～3月23日）
中国・四国	愛媛大学	○支援用住居として、職員用宿舎を15戸準備した。（3月24日）※入居希望なし
中国・四国	高知大学	○職員宿舎等の空き状況を、高知財務事務所に提供し受入体制を整えている。
九州	福岡教育大学	○職員宿舎への入居可能室数27室を文部科学省に連絡済み。（利用実績なし）
九州	九州大学	・要請に基づき職員宿舎を一時的に提供できるよう体制を整備。 ・福岡に一時避難された方のご家族の方の学内保育施設の利用を可能とした。 ・4月9日から、福岡県に一時避難されている福島大学教員に香椎浜の国際交流会館の家族用部屋1室を提供。 ・4月12日～28日に、農学研究院で受け入れた東北大学農学研究科の学生に対し、松原寮1室を提供。 ・7月14日～16日に、福岡県へ研究に来られた東北生活文化大学の教員及び学生に職員会館（宿泊施設）を提供。
九州	九州工業大学	○職員宿舎、学内宿泊施設及び学外研修施設の利用を可能とし、使用料は原則免除とすることとした。
九州	佐賀大学	○利用可能な職員用宿舎・宿泊施設等22室の情報提供を行ったが、入居及び利用希望者はなかった。
九州	大分大学	文部科学省から被災者の受入可能施設について調査があり、本学は職員宿舎、看護師宿舎、別府職員会館の空き部屋が受入可能と回答した。
九州	宮崎大学	○入居可能な職員用宿舎数（15室）を確保
九州	鹿児島大学	○職員用宿舎等（13戸）を貸与可能として文科省、九州財務局に報告 ただし、平成24年2月末現在貸与していない。 ○警戒区域への一時帰宅者に対するスクリーニング支援活動 7月24日～26日 文部科学省EOC医療班からの要請に対して、一時帰宅者のスクリーニング支援活動に1名が従事した。 （一時帰宅に伴う放射線測定従事者として、7月20日現在、本学より4名の技師等を登録している。RI実験室技術職員1名、附属病院放射線技師長等2名、医歯研教授1名）
九州	鹿屋体育大学	○文科省より、職員宿舎等の被災者の入居可能な部屋数調査があり、職員用宿舎7室を受け入れ可能として準備している。現在のところ希望者はない。
九州	琉球大学	○被災者受け入れのための職員宿舎空き室4戸の修繕工事を行い、即時入居可能な状態としているが、現在のところ未入居である。

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
北海道	北海道大学	<p>○本学の被災学生に関する救援と本学及び他大学学生の修学支援に関する救援を行うため、学内に「東日本大震災学生救援センター」を設置。2月23日現在で55件の相談あり。(4月6日)</p> <p>○東日本大震災学生救援センター、保健センター、学生相談室が連携し、被災した学生のメンタル面の対応を行う体制を整備。</p> <p>○本人又はその家族等が被災した本学学生の緊急的な支援策を図ることを目的として、34人に一時金(学生支援金)を給付。</p> <p>○留学生等に対する情報提供の一環として、「福島第一原子力発電所における事故の影響に関する説明会(英語での説明会)」を2回実施(4月11日、26日)</p> <p>○公共政策大学院において、平成24年度入学者を対象とした被災者支援奨学金制度を整備。</p> <p>○文部科学省からの要請に基づき、函館における空間放射線量率調査を実施。(3月28日～12月27日)</p> <p>○厚生労働省健康局からの要請に基づき、福島県及びその近隣の地域の水道水の検査(水道水中の放射性ヨウ素131、放射性セシウム134及び放射性セシウム137の測定)に協力することを決定。2月末日時点では、検査依頼はない。</p> <p>○文部科学省からの要請に基づき、福島県及びその近隣の地域の井戸水に含まれる放射性物質の環境モニタリング(井戸水中の放射性ヨウ素131、放射性セシウム134及び放射性セシウム137の測定)に協力することを決定。2月末日時点では、検査依頼はない。</p> <p>○震災の影響で本州への帰宅が困難となった者(研究員4名、学生7名)に苫小牧研究林宿泊施設を提供。(3月11日～22日)</p> <p>○東北大学を幹事校として仙台で開催予定だった「第3回イノベーション創出若手研究人材養成担当者会議」を、震災の影響を踏まえ、東北大学主催・北海道大学共催として、本学札幌キャンパス(農学部大講堂)で開催。(7月15日・16日)</p> <p>○文部科学省からの要請に基づき、避難地域への一時帰宅等に伴う被曝スクリーニング対応支援のために、5月末から8月にかけて測定器を持参した教員10名を延べ43日間、福島県に派遣。</p> <p>○宮城県子ども総合センターの要請に基づき、本学教授が被災地の児童の心のケアに関する専門職員研修会で講演・及び事例相談を実施予定。(9月20日～22日)</p> <p>○文部科学省、農林水産省のプロジェクト「放射性物質による環境影響への対策基盤の確立」に参加し、環境モニタリングおよび除染に関わる研究に従事し、福島で5回の現場実験を実施。また、大学でそれらの基礎データを取得する際に在籍学生13名が協力。</p> <p>○文部科学省・国際原子力人材育成イニシアティブ事業(原子力人材育成等推進事業費補助金)・「多様な環境放射能問題に対応可能な国際的人材の機関連携による育成」に採択され、福島大学等と連携して環境放射能に関する人材育成を行う予定。(平成23年9月から事業開始予定)</p> <p>○農林水産省からの依頼に基づき、GMサーベイメータ3台、シンチレーションサーベイメータ2台を(独)家畜改良センターへ貸与。</p> <p>○廃棄予定のパソコンを被災地のボランティアやNPO法人等に寄附する取組を行っているNPO法人イーパーツからの要請に基づき、本学で廃棄手続きが済んだパソコン20台を提供。</p> <p>○北大ロボットアーキテクト(サークル)主催で行われるロボット教室(本年度で3回目)を、今年は被災地から札幌に避難されている子ども達を無料で招待する「被災者支援ロボット教室」として開催。(10月15日・16日)</p> <p>○札幌市立小中高校約300地点において空間放射線量率調査を実施(8月23日～25日)</p> <p>○平成23年度科学技術戦略推進費「放射性物質による環境影響への対策基盤の確立」『放射性物質の分布状況等に関する調査研究』による空間線量率の測定および土壌調査に本学教員が参加。(6月9日、10日)</p> <p>○東日本大震災で被災した歴史的建造物の調査研究活動を目的とした「災害特別調査研究ワーキンググループ」が日本建築学会建築歴史・意匠委員会直属の組織として設置され、本学教員がその委員兼情報担当として、ホームページ(http://news-sv.aij.or.jp/rekishi/sO/dswg/)の作成管理、情報収集・発信を行った。(5月13日～)</p> <p>○平成23年9月に文化庁から日本建築学会が事業委託を受けた「東日本大震災被災建造物復旧支援事業(文化財ドクター派遣事業)」の一環で、本学教員が宮城県村田町の主に土蔵造の建物の被災調査のコーディネート、現地調査・助言を行った。(2月11日～19日)</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
北海道	北海道教育大学	<p>《函館校》○卒業・修了生で、被災地域またはその近隣に移動をする場合、家財の移転が困難な学生に対し、一時預かりなどの配慮を行った。</p> <p>《函館校》○学生有志による、募金活動等復興支援に向けた計画が2件提出された。</p> <p>《岩見沢校》○募金活動を実施 http://www.hokkyodai.ac.jp/iwa/ (→義援金の欄へ移動)</p> <p>○チャリティーマーケット「てとととマート」を開催(第1回:5月8日~15日, 第2回:7月2, 3日)。芸術課程美術コース所属の学生が制作した絵画, 工芸品, 雑貨等を販売し, 売上金を日本赤十字社を通じて被災地に全額寄付した。第2回には札幌市立大学, 大谷短期大学の学生も参加した。</p> <p>《札幌小学校》○被災児童(福島市から)を8月17日から受入</p> <p>《札幌小学校》○被災児童(福島市から)を9月12日から受入</p> <p>《函館小学校》○被災児童(いわき市から)を4月1日から受入</p> <p>《函館幼稚園》○被災園児(いわき市から)を4月1日から受入</p> <p>《函館幼稚園》○被災園児(福島市から)を4月5日から受入</p> <p>《函館幼稚園》○被災園児(福島市から)を1月17日から受入</p> <p>《函館幼稚園》○11月中旬に福島大学附属幼稚園に「創作活動」に使えるようなイチョウや紅葉の枯れ葉、クルミや松ぼっくり、栗などミカン箱に換算して約5個分を届けた。</p> <p>《旭川小学校》○被災児童(仙台市から)を4月20・47日から受入</p> <p>《旭川中学校》○生徒・PTA・教職員の寄付による文具並びに学用品等(ボールペン、シャープペン、鉛筆、消しゴム、ノート、絵本等)約190kgを支援物資として宮城教育大学附属学校園に送付(4月27日)</p>
北海道	室蘭工業大学	<p>○被災した本学学生の支援のため、学内で支援金を募集した。(3,207,675円)</p> <p>被害の程度に応じて、25名に合計1,680,000円を支給した。残額は被災学生の後期授業料免除にあてた。</p> <p>○保健管理センターと連携して、被災した学生のメンタル面の支援(ケアサポート)体制を整備した。</p> <p>○学生寮明德寮の寮費免除を実施。(6ヶ月免除3名、12ヶ月免除3名、免除額351千円)</p> <p>○学生後援会による見舞金支給を決定した。(9名270千円)。</p> <p>○東日本大震災調査・研究費補助事業を設け、学内公募の結果6件(8650千円)を採択した後、調査・研究を実施した。</p>
北海道	北見工業大学	<p>外国人留学生・研究生向けに、大学ホームページ上で各国の駐日大使館情報を提供している。 http://www.kitami-it.ac.jp/public_relations/shinsai_index.html</p>
東北	弘前大学	<p>○弘前大学被ばく医療総合研究所が、4月1日に「放射線を考える」というテーマで市民公開講座を開催し、157名が参加した。 URL:http://www.hirosaki-u.ac.jp/houdou/shinsai.html</p> <p>○弘前大学保健学研究科が、4月7日に「弘前大学被ばく状況調査チーム」派遣報告会を開催し、学内関係者及び報道機関に公開した。</p> <p>○被ばく状況調査及び研究等の活動拠点として、福島県福島市に弘前大学の拠点を設置(平成23年6月~平成24年1月)</p> <p>→上記拠点到代わる施設として、連携協定を締結した福島県浪江町の復興支援活動実施のための施設を浪江町周辺に設置する予定。</p> <p>○弘前大学農学生命科学部が、農地からの塩分及び放射性物質の除去について、植物によるファイトレメディエーションを中心とした研究プロジェクトを立ち上げた。</p> <p>○弘前大学保健学研究科では、「弘前大学東日本大震災対応研究プロジェクト」として、福島第一原子力発電所からの核分裂生成物の環境への漏洩に伴う放射能汚染や放射線量値の評価、解析を行い、既存の計測手法に関する問題点を抽出してさらなる精度向上や迅速性の向上を図る等の研究に着手した。</p> <p>○連携協定を締結している福島県浪江町を中心とした地域の復興を目指した取り組みのため、本学教職員8名がチェルノブイリ原子力発電所と関連施設を視察し、専門家や現地住民との意見交換を行った。(ウクライナ:12月1日~12月6日)</p> <p>○東日本大震災で被災した本学学部入学志願者に対し、経済的負担を軽減し進学機会の確保を図るため、検定料を免除することとした。 (申請期限:3月下旬現時点での許可者数:103名)</p> <p>○弘前大学人文学部亀ヶ岡文化研究センターでは、文化庁東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業(文化財レスキュー事業)への協力機関として、被災アーカイブの緊急的な保存修復処置を行っている。現在、文化庁より段ボール2箱分受領したほか、岩手県野田村にて救済活動を実施し(1月20日)、5箱分の資料を救出、脱塩・洗浄作業を開始した。</p> <p>○平成23年9月29日、計画的避難区域とされている地域の課題に適切に対応するため、福島県浪江町と連携に関する協定書を締結した。</p> <p>○平成23年7月、岩手県教育委員会から岩手県内小中学校グラウンド土壌の核種分析依頼を受け分析を実施。同年8月に回答。</p> <p>○弘前大学保健学研究科では、平成23年10月21日(金)に、放射線の基礎知識、福島県での支援活動などを地域住民に伝えるための市民公開講座「学んでみよう放射線」を開催した。平成24年2月3日(金)には、「放射線の基礎知識」として、放射線の人体への影響などについて市民講演会を行った。</p>
東北	岩手大学	<p>○教職員のボランティアを被災地に派遣し、避難所の配食補助、受付補助、側溝のヘドロの掻き出し、家屋清掃、物資運搬等を実施。延べ261名が参加した。(4月29日~10月29日)</p> <p>○物資支援として、ICT機器(中古パソコン1102台等)、学用品(ノート・鉛筆等)、辞書(995冊)、リサイクル自転車(21台)等を提供した。</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	東北大学	<ul style="list-style-type: none"> ・東北大学災害復興新生研究機構の創設 ・放射線モニタリング関係 ・遺体検案（5月中旬まで実施） ・塩害調査 ・新たな津波対策の指導 ・ロボット活用による被害調査（原子炉建屋内の状況調査に投入）（6月まで実施） ・震災廃棄物（被災車両の現地調査、適正処理とリサイクル） ・震災情報の発信とアーカイブ化（東北大学の様々な分野の専門家が震災の実態を報告） ・臨床心理相談室 メンタル・ケア相談（宮城県教育委員会、仙台市教育委員会等の要請を受け、学校等における児童等のメンタル・ケアの相談、教職員・保護者に対する助言・援助を行う。） ・無料法律相談（本法科大学院の実務家教員（弁護士）が仙台弁護士会と連携し、震災関係について無料で法律相談を電話にて行っている。） ・被災博物館レスキュー活動（3月下旬まで実施） ・宮城県沿岸の漁場環境の共同調査 など
東北	宮城教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ○震災に伴う子どもの心のケアについての研修会の実施（附属学校教員向け） ○震災復興、心のケア等に関するセミナーや講演会を16回実施（6月4日～現在） ○子どもや親、教師を対象とした心のケアに関する研修会等を各地で実施（5月26日～現在） ○構内の合宿施設を全面改修し、研修・合宿施設としてリニューアルし、学外のボランティア学生等が最大50～60人宿泊できるようにした。
東北	秋田大学	<ul style="list-style-type: none"> ○秋田県へ大気中の放射線量を測定する機器（ガンマ線シンチレーションサーベイメータ）の貸し出し。 ○秋田県からの依頼による放射性物質測定について支援。秋田県の測定機器が障害で測定できない場合、検体数が多い場合などに秋田大学で測定を行った（8月7日～9月16日）。それ以降も依頼があった場合に支援出来る体制をとっている。 ○避難児童・生徒に対する学生ボランティア派遣の用意があることを秋田県教育委員会に申し出た。 ○附属学校園の養護教諭4名を被災地の学校へ派遣し、児童生徒、教職員に対し「心のケア」や保健室等の衛生管理について専門性を活かした支援を行った（秋田県教育委員会からの依頼による）。 ○原子力災害対策本部から要請があり、放射線のスクリーニングのため福島県へ放射線技師等を延べ9名派遣（5月21日～23日、5月24～28日、6月13～16日、17～20日、20～23日、27～30日、30日～7月3日、9～11日、8月7～10日）。 ○被災者の経済負担を軽減し、受験生の進学機会の確保を図るために、平成24年度学部入試に係る検定料免除の特別措置を実施。
東北	山形大学	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアを希望する教職員に対して、社会福祉協議会のボランティア活動保険への加入にかかる費用を大学が全額負担している。 ○新潟大学が支援した灯油について、新潟大学とのリレーによる運搬を実施した。 ○被災の影響により、アパート等への入居に遅延が生じている、または退居後に荷物を運ぶことができない学生に対して、一時的に荷物を保管する場所として体育館を一部開放した。 ○被災の影響により、引っ越し等で生じた粗大ゴミの処分が困難な学生から粗大ゴミを回収し、大学が代わりに処分、または再利用が可能なものについては学生主催のバザーに提供した。 ○山形市総合スポーツセンターにおいて教員(理学部)、職員、SCITAセンター学生スタッフ及び有志のボランティアにより被災した子供達向けの実験教室を実施した。(計6回、各回20名弱) ○山形県からの依頼により、水道水・大気中の放射線量の測定を行っている。 ○山形県栄養士会から栄養指導等の要請を受け、教員を避難所に派遣した。 ○山形県臨床心理士会から心理的支援等の要請を受け、心理学担当教員を避難所に派遣した。 ○文部科学省に対し、空間放射線量率データを提供（継続中） ○余震に備えるとともに、エネルギー消費を極限まで低下させるために、3月27日（日）まで建物の閉鎖及び施設の使用を停止し、電気・重油・ガスを含めて3000世帯程度のエネルギー節約に貢献した。 ○学部内に向けて、不要な照明を落とす等の節電を呼びかけている。 ○入社式や内定者懇談会への出席、就職活動、実家への帰省のために関東方面への移動を希望する学生・教職員を対象として「工学部」～「JR那須塩原駅」間の臨時バスを3月24日(木)～4月13日(水)まで運行した。 ○ドイツ政府からの依頼に基づき放射線測定器を貸し出した（5月上旬） ○山形県知事からの依頼により東日本復興支援県会議に委員を派遣した（小山副学長） ○内閣府参与、山形県副知事からの依頼に基づき復興支援案をまとめ提言した（教員参加） ○米沢市内への原発避難住民の受け入れを支援するために民間ボランティア組織を立ち上げ、行政を側面から支援した（教員コーディネーター） ○「みんなの日常の10%をあつめて、＜新しい東北＞を生きるエネルギーに！」をコンセプトとする「スマイル・トレード10%」キャンペーンを開始した。

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
東北	山形大学	<p>○北京林業大学（中国協定校）において震災不安を除去するための学校説明会を開催</p> <p>○中国の学術振興会、日本語学校において山形県の安全説明会を開催</p> <p>○基盤教育科目「実践的キャリア教育学」の一環として、被災地に不足する生野菜を被災地に届けるため、山形市内の農場にて野菜を有機栽培で育てるボランティアや、山形県内観光地のお祭りにおける義援金の募集活動等を行った。これらの活動には、のべ合計208名（うち山大学生203名）が参加した。</p> <p>○大学コンソーシアムやまがたの活動拠点「ゆうキャンパス・ステーション」を被災者の休憩所・情報収集の場として開放（3月15日～4月30日）</p> <p>○郡山市ふれあい科学館において、教員(理学部)、職員、SCITAセンター学生スタッフにより被災した子供達向けの実験教室を下記日程につき実施。 平成23年8月15日 10:00～16:00 300名</p> <p>○イオン石巻において、教員(理学部、基盤教育院)、職員、SCITAセンター学生スタッフ、山形県庁職員、山形県立博物館職員、鶴岡工業高等専門学校教員、NPO小さな天文学者の会会員、東北文教大学教員及び学生、仙台市科学館職員、東北薬科大学教員及び学生、東北大学女性研究者育成支援推進室サイエンス・エンジェル、株式会社ナリカ及び有志のボランティアにより被災した子供達向けの実験教室を下記日程につき実施。 平成23年9月25日 10:00～16:00 5400名</p> <p>○スポーツアリーナそまにおいて、教員(理学部)、職員、SCITAセンター学生スタッフ及び有志のボランティアにより被災した子供達向けの実験教室を下記日程につき実施。平成24年2月18日 13:00～16:00</p> <p>○教員(人文学部・基盤教育院)及び学生ボランティアにより、津波被害を受けた博物館資料(書籍)のクリーニング作業を実施。週一回不定期開催。 次年度以降も継続。</p>
東北	福島大学	<p>○「福島大学東日本大震災総合支援プロジェクト」による調査研究、地域貢献。 http://www.fukushima-u.ac.jp/press/H23/pdf/13_01.pdf</p> <p>○震災に伴う原発事故への対応として、放射線測定チームによる測定とその結果の公開。</p> <p>○福島大学災害復興研究所による講演会・シンポジウム・研究会の開催、仮設住宅を視察し、災害復興支援に協力。 http://fsl-fukushima-u.jimdo.com/</p> <p>○被災自治体への復興支援ニーズ聞き取り調査の実施。</p> <p>○9月に双葉八町村(広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村)の被災者を対象に災害復興実態調査を実施</p> <p>○1月17日に双葉八町村と東日本大震災及び東京電力第一原子力発電所事故からの復旧・復興に向けた連携協定を締結</p> <p>○福島県内の教育長や校長会・PTA連合会等と共に「大震災後の福島県の教育復興を進める会」を設立し、福島県の教育復興と学校教員の確保を求める陳情書を県知事等関係者へ提出(11/21)。</p> <p>○福島県内の小中学校に対して「震災後の学校状況調査アンケート」を実施し、結果を報告。</p> <p>○教育復興シンポジウム「福島県の教育復興へ向けて～福島県の未来を支える子ども達のために～(12/18)」を開催。</p> <p>○大学院地域政策科学研究科東京サテライト「政策課題プログラム(災害復興)」の開設記念フォーラム(2/6)において、ノーベル経済学賞受賞者のアマルティア・セン教授の講演会(演題:東日本大震災からの復興一人間の安全保障をもとめて)を開催。 http://fsl-fukushima-u.jimdo.com/ 福島大学大学院東京サテライト記念フォーラム/</p>
関東・甲信越	茨城大学	<p>○被災地である高萩市において、復興支援イベントであるNHKとの共同企画「ハルカとミチカ」～最先端と身近な機材で触れる宇宙～を開催した。学生ボランティア102名が、会場設営から、ステージ出演、体験ブース開催など、市民2000名が参加したイベントを支えた。学生実行委員会が募集した義援金を北茨城市・高萩市・日立市に寄付</p> <p>○福島県での一時帰宅者に対するスクリーニングの応援として教員6名を延べ14日間派遣</p> <p>○産学官イノベーション創成機構では、震災によって新たに発生するニーズ・産業を展望し本学の人材、研究シーズを整理して、新産業を中長期的に育成するため「東日本大震災対応プロジェクト」を実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 震災対応企業訪問: 45件 2) 震災対応技術相談: 43件 3) 茨城県及び県内支援機関等との交流会: 7回 4) 震災対応共同研究実施: 13件 5) 震災対応競争的外部資金獲得支援 <p>○大震災・放射能汚染の復興と再生に向けた調査・研究・地域貢献に関する支援事業を推進するため「茨城大学大震災・放射能汚染復興支援会議」を設置し、運営機関である復興支援会議運営委員会が活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災からの復興に向けて20チームが調査研究を実施 ・放射能災害からの復興に向けて17チームが調査研究を実施 <p>○茨城大学社会連携事業会において義援金を募集し、同事業会からの拠出とあわせて500万円を茨城県に寄付(6月3日)</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	筑波大学	<p>○幼稚園・保育園・小学校・中学校教員を対象にして、重点公開講座「東日本大震災におけるこころのケアについて」を6月7日に開催した。（無料）</p> <p>○筑波大学東日本大震災復興支援プログラムとして救急・災害医療講演会「原発事故に対する緊急被災者医療班の立ち上げ及びドクターヘリの問題点」を9月2日（金）に実施</p> <p>○市民講座「基礎からわかる地震・津波・放射能～よく知り正しく怖がる～」を7月10日（日）に開催し、中学生を含む一般市民を対象に正しい知識とリスクの考え方を理解できるようにわかりやすく解説した。</p> <p>○重点公開講座「放射線の科学」（放射線の性質と生体影響、他4講義）を9月17日（土）から5回開催し、一般市民を対象に放射能、放射線に関する正しい知識を得て、そのリスクを正当に判断できるようにわかりやすく解説した。（無料）</p> <p>○復興・再生に向けた最先端の研究を発信するため、平成24年1月28日に、第2回筑波大学研究成果発表フォーラム2012を東京キャンパス文京校舎で行った。</p> <p>○筑波大学教育開発国際協力センターとAPECによる国際シンポジウム「自然災害における日本の役割」を平成24年2月15日開催した。そして、域内での共通した防災教育のための教科書作りが開始された。</p> <p>○筑波大学東日本大震災復興支援プログラムとして「茨城災害医療フォーラム」を平成24年3月19日（月）日立市で開催予定。</p> <p>○つくば災害復興緊急医療調整室（T-DREAM）活動として、「筑波大学附属病院 東日本大震災記録集」を平成24年3月末に発刊予定。</p> <p>○筑波大学アイソトープ総合センターによる放射線量測定結果について、筑波大学HPにより情報の提供・公開を行っている。</p> <p>○つくば市における放射線量の測定や放射線に関する市の方針の策定のために専門家を派遣している。</p> <p>○放射線の測定地が比較的高い取手市は、本学アイソトープ総合センター長の助言のもと、市内5か所の後援をモデルに、除染検証作業を実施した。</p> <p>○本学アイソトープ総合センター長が、市民の不安解消のために土浦市が作成した市民向け放射能の手引きの作成にあたり、監修を務めた。</p> <p>○IAEAと本学が協力し、日本における放射線測定値の正当性を確固たるものとするため、日本を代表する21の機関がプロジェクトに参加した環境物質の放射性核種測定技能試験プロジェクトが開始された。</p> <p>○被災地の海洋生物学研究者にセンター施設の研究環境を提供（下田臨海実験センター）【8月まで実施】</p> <p>○8月9日から11日、原発事故のために外で遊べない福島県いわき市の子供たち34人を筑波大学に招待し、「遊びにおいでよ サマーキャンプinつくば」を実施した。</p> <p>○文部科学省「子どもの学び支援ポータルサイト」に登録し、被災児童・生徒等が必要としている支援に対応するようにした。</p> <p>○高大連携による出前講義の実施：高大連携の一環として、被災地に位置する高等学校（11校）における本学教員の出前講義を実施した。（平成23年12月まで実施）</p> <p>○「東日本大震災復興・再生支援プログラム」を立ち上げ、学内公募し、合計26プログラムを採択し、教職員・学生の復興支援活動をサポートしている。</p> <p>http://www.tsukuba.ac.jp/disaster0311/supportprogram.pdf</p> <p>○本学の復興支援活動を全学的かつ組織的に取り組む体制を整備し、支援活動の効果的かつ円滑な実施を図ることを目的とし、「復興・再生支援ネットワーク」を立ち上げた。</p> <p>○東日本大震災に校舎がより崩壊し、現在プレハブ校舎にて授業を行っている筑波大学近隣の常総市立石下西中学校の校舎にて生徒の心のケアにあたっている（2012年2月3日～3月14日）。</p> <p>○真壁にて震災による被害を受けた家屋等にかけてあるブルーシートを目立ちにくい10YRシートにかえる活動。</p> <p>○真壁にて取り壊し意向のあった登録文化財や空き家登録文化財の保存活用方策の検討。</p> <p>○いわき市、会津若松市にて応急仮設住宅の住環境（温熱環境）調査。</p> <p>○芸術学美術史コースと美術史領域において発刊している『筑波大学芸術学美術史学会通信No.9』に、増淵鏡子氏（福島県立美術館学芸員）による投稿原稿短文を依頼。内容は震災復興に向けての福島県立美術館における取り組みについて。</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	宇都宮大学	<p>○福島大学から馬の避難として、本学馬術部が受け入れた。それに伴い、福島大学の馬術部学生に本学学生寮を1ヶ月間、無償で貸与した。</p> <p>○本学の就職支援システムの利用期間を卒業・修了後1年間から3年間に延長した。</p> <p>○被災された大学等に所属する学生及び教職員への附属図書館の利用サービス提供 http://www.lib.utsunomiya-u.ac.jp/</p> <p>○県内企業が製造した工業製品の輸出にあたっての放射線量測定を行った。 (サーベイメータの不足など県の体制が整わなかった時期に相談(3企業)と製品の放射線量測定(1企業)を行った。)</p> <p>○放射線に関する講演を13回行った。(バイオサイエンス教育研究センター所属教員)</p> <p>○県農政部と共同で県内農耕地の放射線量を測定した。</p> <p>○県農政部と宇都宮大学農学部が共同で「放射性物質対策農業技術委員会」を立ち上げ、県内農耕地の放射性物質の対策の元となる「放射性物質に関する農業技術対策指針」の策定に協力した。</p> <p>○学校敷地内放射線量測定プロジェクトを実施し、栃木県北部の小中学校9校で測定と除染作業を行った。</p> <p>○6月19日に被災地の障害児・者支援のための映画チャリティ上映会を開催。(協力・教育学部社会福祉ゼミ、参加者約80名) http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/index.php?id=282</p> <p>○被災地の宇都宮大学教育学部附属学校の放射線量調査を8月31日から開始した。</p> <p>○8月20日～8月24日に福島県の保育所・児童養護施設等の聞き取り調査を行い、震災時の対応及びその後の対応ニーズを調査した。</p> <p>○「福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト」を有志の教員と学生が立ち上げ、東京外国語大学、群馬大学、茨城大学等の教員と連携しながら、福島原子力発電事故後、放射能汚染による健康被害の不安を抱えて生活・避難している乳幼児家族・妊産婦さんのニーズを確認し、希望する支援のコーディネートを行っている。その他、避難中の母親達が顔を合わせて相談し合える場として「茶会」を催すなどの活動を行っている。また7月から9月にかけて、福島に拠点をおく「うつくしまNPOネットワーク」と共同でのアンケート調査の実施、10月には福島出身の家族を対象としたちびっ子キャンプの開催、2012年1月には「とちぎ暮らし応援会避難者交流集会」の相談窓口提供等を行った。さらに2011年の7月と2012年2月にはプロジェクトの報告会を開催し、活動状況を広く一般に周知することにも努めた。</p> <p>○国際学部において、ボランティア活動(当面は東日本大震災被災地支援活動のみとする。)に参加する学生の支援を目的とした「国際学部同窓会学生ボランティア支援ファンド」を創設し、被災地におけるボランティア活動に必要な経費を支援した。</p> <p>○「震災と児童福祉施設」調査研究チームを立ち上げ、9月以降、栃木県内の保育関係機関(行政等)や保育所を訪問し、震災への対応やその後の保育内容への影響について調査している。(現在、続行中)</p> <p>○23年11月から12月にかけて震災後の対応について宇都宮市の全保育所(未認可、事業所内を含む)に対してアンケート調査を実施した。</p> <p>○24年1月19日、「震災と児童福祉施設」調査研究チームとして宇都宮市保育所園長研修会「保育所における震災時の対応～東日本大震災を通して」に講師として協力した。</p> <p>○24.2.19「3.11その時保育は」と題して震災時の保育所の対応について講演会を開催した。(講師は天野珠路日本女子体育大学准教授)</p> <p>○津 漆の芸術祭 2011～東北へのエールへのアート作品の提案「東北のものけ“面”プロジェクト」2011年4月より漆による作品にとりかかり、会津若松・喜多方への3回にわたる訪問を経て完成させ、10月1日(土)～11月23日(水)福島県会津若松市末廣酒造 嘉永蔵にて展示を行なった。プロジェクト URL http://www.aizu-artfest.gr.fks.ed.jp/yell/sakuhin/O_a/07_utsunomiya.pdf</p> <p>○10月26日に本学UUプラザにおいて学生ボランティア活動報告会を実施した。(参加者約80名) http://www.utsunomiya-u.ac.jp//topics/index.php?id=399</p> <p>○平成24年度においても、引き続き入学金免除・徴収猶予及び授業料免除を実施することを公表した。</p> <p>○3月1日～31日に栃木県内各地で3.11の記憶を語り合い、語り継ぐ振り返りを行う「東日本大震災ワークショップキャンペーン」を実施することとした。 http://www.utsunomiya-u.ac.jp/topics/index.php?id=439</p> <p>○平石地区まちづくり協議会の平石地区放射線量マップ作りに協力した。</p> <p>○附属図書館において11月1日から12月27日まで『「3.11後」の今、地震の歴史と向き合う』と題し、所蔵資料を調査し解説をまとめ上げ、復興支援の一環として企画展を開催した。 http://www.lib.utsunomiya-u.ac.jp/tenjikai2011.html</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	群馬大学	<p>○被災された外国人住民に対する支援活動等を行うための組織「災害時多言語支援センター茨城」に対して教育学部の助教1名を派遣</p> <p>○平成23年3月16日より群馬県桐生地区の住民からの要望に応じて、桐生タイムス社と連携し、工学部にて測定した放射線量のデータを桐生タイムス紙面に掲載。また、文部科学省高等教育局高等教育企画課からの空間放射線量率調査依頼に基づき、平成23年3月28日より12月28日までデータを提供中。さらに群馬県環境森林部環境保全課からの要請により、群馬県にデータ提供し、平成23年4月1日より群馬県ホームページに掲載。</p> <p>URL : http://www.pref.gunma.jp/05/e0900020.html</p> <p>URL : http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/05/09/1305855_050919u.pdf</p> <p>○釜石市教育委員会からの協力要請に応じて、被災した釜石市の児童・生徒への進学・就学支援要請のホームページを開設</p> <p>URL : http://www.ce.gunma-u.ac.jp/bousai/index.html</p> <p>○これまでに津波防災教育を実施してきた地域の被害状況や避難実態について現地調査結果の速報を、工学研究科広域首都圏防災研究センターホームページにて公開</p> <p>URL : http://www.ce.gunma-u.ac.jp/bousai/index.html</p> <p>○留学生向け震災関連の情報提供ホームページを開設</p> <p>URL : http://cier.aramaki.gunma-u.ac.jp/page2/info.html</p> <p>○校庭における空間放射線量測定の実務の技術的指導のため、桐生市内小学校・中学校・幼稚園に工学部の准教授1名を派遣（6月2日）</p> <p>○文部科学省が実施した福島県下約2,200箇所の土壌及び空間の放射線量の調査に工学研究科教授1名（6月12日～15日）、重粒子線医学研究センター研究員1名（6月26日～30日）が参加した。</p> <p>○福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト【群馬】として、福島から避難し、群馬県内で生活している乳幼児や妊産婦の家庭を支援</p> <p>http://www.gunma-u.ac.jp/sb/sb.cgi?eid=268</p> <p>・社会情報学部において、放射線と子ども・私たちの生活についての講演会及びワークショップを開催（12月6日）</p> <p>○「県内の学校園に転校してきた児童生徒の学校園における居場所づくりについての学校支援」を目的として、群馬ピア・サポート研究会との共催で、「心のケア」についての研修会を開催（10月29日）</p> <p>http://www.gunma-u.ac.jp/sb/sb.cgi?eid=282</p> <p>○桐生市と地域の自治会が主催する「まちなかサロン」の市民を対象とした放射線に関する講演会において、工学部教授が講演（平成24年1月23日）</p>
関東・甲信越	埼玉大学	<p>○本学被災学生に対し、授業料免除の再募集を実施（3月16日）</p> <p>http://www.saitama-u.ac.jp/announce/2011-0316-1720-1.html</p> <p>○本学被災学生のための専用相談窓口の設置（3月25日）</p> <p>http://www.saitama-u.ac.jp/announce/2011-0325-1453-2.html</p> <p>○本学被災学生を対象に「埼玉大学東日本大震災緊急支援奨学金」を創設（4月6日）</p> <p>http://www.saitama-u.ac.jp/announce/2011-0406-1830-1.html</p> <p>○本学被災学生等（卒業生含む）に対し、本学の宿泊施設を提供</p> <p>○被災地に対し、学生サークルがリサイクルした自転車40台を寄贈した。（4月5日）</p> <p>○被災地に対し、学生サークルがリサイクルした自転車27台を寄贈した。（5月21日）</p> <p>○被災地に対し、学生サークルがリサイクルした自転車46台を寄贈した。（5月28日）</p> <p>○災害救助法の適用範囲以外で、震災等による自主避難等で被害を受けた学生、被災救助法の適用範囲で被害を受けたが、被災証明が受けられなかった学生及び直接の被害は受けていないが風評被害等の影響により間接的に被害を受けた学生で、就学に困難を来した165名に対して、免除枠を拡大し授業料免除を実施した。</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	千葉大学	<p>○被災学生への緊急奨学金として最大10万円を1年間無利子で貸与する制度を用意しているが、現時点で希望者はいない。</p> <p>○被災学生への経済的支援として、給付型支援金（1人30万円）を用意し、19名に支給した。また、追加募集を実施している。</p> <p>○本学の被災学生に対し無償住居提供の申し出のあった住居を紹介し、2名が入居した。</p> <p>○文部科学省の「東日本大震災 子どもへの学び支援ポータルサイト」による支援（教育学部附属学校）</p> <p>4/14 軟式野球用バット10本（宮城県巨理郡巨理町立荒浜中学校）</p> <p>5/6 ホイッスル8個（福島県立浪江高校）</p> <p>5/11 A4フラットファイル500冊（福島県立富岡高校）</p> <p>5/23 サッカーボール10個、フットサルボール10個、ラインカー3個（宮城県東松島市立大曲小学校）</p> <p>5/24 幼児用椅子31個（みやぎ・わらすっこプロジェクト）</p> <p>6/17 藍染Tシャツ38枚（岩手県岩泉町立小本中学校）</p> <p>12/1 パイプ椅子50脚（宮城県石巻市立鹿又小学校）</p> <p>12/1 タンバリン10個、カスタネット15個、マラカス8個、ブロック2組、木製電車・レール1組（宮城県立気仙沼支援学校）</p> <p>12/9 床上積み木12組、中型箱積み木3組、小型箱積み木1組（いわき・さくらんぼ保育園（福島県いわき市））</p> <p>12/9 幼児用口ッカー9個、靴箱7個、幼児用机6個（学校法人あしのめ学園草の芽星谷幼稚園（宮城県気仙沼市））</p> <p>○震災当日の帰宅困難者（市民等）への対応 （西千葉キャンパス）西千葉駅周辺で帰宅困難となった市民約90名に大ホールを開放 （松戸キャンパス）松戸駅周辺で帰宅困難となった市民7名に対して学生用集会場の一部を開放</p> <p>○文部科学省の要請により空間放射線量率調査を実施し、文部科学省へ報告。</p> <p>○応用物理学会への放射線線量計の貸与 NaIシンチレーションサーバイメータ 3台（4/15～12/31） ポケットサーバイメータ 10台（4/15～12/31）</p> <p>○放射線測定作業（6/3～6/7）【福島県南相馬市】 原子核実験研究者の組織「原子核懇話会」の呼びかけに応じて、福島県内における放射線測定作業に理学研究科の教員が5名が参加。</p> <p>○放射線に関する講演会の実施 4月27日、学内けやき会館大ホールを会場に、放射線に関する講演会を教職員、学生及び市民を対象に実施。</p> <p>○環境ISO学生委員会が中心となり、10代から20代女性用を中心とした服や靴を集め、ダンボール39箱分を陸前高田第一中学校に送付。現地に帰省していた環境ISO学生委員会メンバーがその配布を行った。</p> <p>○教育学部附属幼稚園の教諭が避難所に絵本コーナーを設置・整理。また、岩手県教育委員会職員や地元NPOと連携し、避難所や子育て支援施設で子どもたちへ絵本の読み聞かせを行った。</p> <p>○小型無人ヘリコプターを利用した被災地空撮（5/2～5）【岩手県～宮城県】 被災地復興の定点観測を視野に入れた実験を実施</p> <p>○環境ISO学生委員会により学内放置自転車を整備し南三陸町に50台寄贈。</p> <p>○研修の実施 （独）放射線医学総合研究所の協力の下、福島第一原発救急医療室へ派遣予定の看護師に対して、放射線医療に関する研修会を実施した。 12月22日（木）9:20～16:40 11名参加（他大学含む）</p>
東京	東京大学	<p>○教育・研究を活かした救援・復興支援活動 教員がそれぞれの研究を活かした救援・復興支援活動プロジェクトを展開（27部局から84のプロジェクトが活動中） http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/project_list.html</p> <p>○救援・復興支援室の設置（平成23年4月11日） http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/index_j.html</p> <p>○被災地で救援・復興支援活動を行う東大構成員を支援するため、岩手県に救援・復興支援室遠野分室、大槌連絡所（平成23年5月13日）及び遠野東大センター（同7月25日）を開設。</p> <p>○被災した学校建築に対して復旧に関する技術的支援、指導（平成23年3月～）（生産技術研究所）</p> <p>○津波被害図と被災地マップの公開（生産技術研究所） http://stlab.iis.u-tokyo.ac.jp/eq_data/</p> <p>○Google Earth上で利用可能な航空写真と浸水域の判読結果を公開（生産技術研究所）</p> <p>○被害写真の収集によって被害の全体像を把握するシステムを開発、実施（生産技術研究所）</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	東京医科歯科大学	<p>○宮城県公立学校等の応急危険度判定のため、宮城県へ職員（被災文教施設応急危険度判定士）を派遣（4月18日～22日）</p> <p>○原子力災害対策特別措置法に基づく福島県警戒区域への住民の一時帰宅に伴うスクリーニングへの協力のため、福島県へ教員（放射線取扱主任者）及び技術専門職員を派遣（6月3日～6日、6月5日～6日、6月27日～29日、7月14日～17日、8月1日～4日、8月9日～12日）</p> <p>○福島第一原子力発電所事故に伴い放出された放射線物質の分布状況等に関する緊急調査研究のため、福島県へ教員（放射線取扱主任者）及び技術専門職員を派遣（6月12～13日、6月13日～14日）</p>
東京	東京学芸大学	<p>・日本学生支援機構奨学金の緊急採用・応急採用制度を、被災学生のうち、説明や申請要領を希望する者には説明・資料配布をして対応。学芸むさしの奨学金（緊急支援）については、入学金・授業料の免除と合わせて4月末から被災学生と学生委員会委員が面接して、被災状況に応じた学芸むさしの奨学金の給付を予定。なお、財源となる寄附金として、学内教職員から学芸むさしの奨学金のための寄附を募った。</p> <p>・被災地出身の新入生の学生寮入寮選考の配慮等。被災在学生の寄宿料免除等。</p> <p>・三菱商事緊急支援奨学金（東日本大震災）給付（1年間月額10万円）において、1大学2名の推薦枠を先方と交渉し、23年度は12名の採用を得た。また、24年度は5名の継続給付が決定した。</p> <p>・大学院博士課程の学生が、岩手県宮古市、大船渡、釜石周辺において、震災地域における障害児の教育実態（特別支援学校の被災状況含む）と発達支援に関する現地調査に従事</p> <p>入学手続き者に対して弾力的な取扱いを行った。</p> <p>・後期日程追試を3月17日に、後期日程再度の追試を4月5日に行った。</p> <p>・「多文化児童生徒に対するメンタルヘルスケア」及び「多文化児童生徒を指導する教員に対するメンタルヘルスケア」の体制を整備したが、利用者はなかった。</p> <p>・東北関東大震災に関わって子どものこころのケアを行う学校の先生のための電子メール相談Webサイト「先生のためのメール相談」を開設。</p> <p>・宮城県石巻市内の仮設住宅集会所で、子供の放課後を支援するボランティアに、留学生センターから留学生9人（教員研修留学生7名、研究生1名、日本語日本文化研修生1名）と引率教員1名が参加。他に、石巻市内の小中学校で児童の交流会や、図書の整理や支援物資の仕分けを行った。（24年2月12日～18日）</p> <p>・大学教員による「先生おでんせプロジェクト（先生おでんせプロジェクト実行委員会委員）」：岩手県教育委員会共催予定</p> <p>東日本大震災発災直後から、児童生徒の避難、避難所運営、学校再開に尽力するなど休みなく努力いただいている被災地岩手の小中学校、高等学校の先生方を東京に招き、被災地を離れリフレッシュして研修していただく機会を提供するプログラム（事業費用は、企業、個人の協賛による）。</p> <p>・大学教員による東日本大震災で楽器を失った学校に中古の楽器や楽譜を贈るプロジェクト「Wind Band for Green」活動を実施した。</p> <p>・附属国際中等教育学校生徒がフリーマーケットによる義援金集めと募金を行った。</p> <p>・福島県相馬市から市内の児童生徒の学習支援について協力要請があり、検討を行っている。</p>
東京	東京農工大学	<p>○文部科学省からの協力要請に基づき、空間放射線量調査を3月30日以降、毎日実施した。（8月5日まで実施）</p> <p>なお、8月5日以降の調査については、文部科学省からの依頼により週1回（毎週水曜日）の測定を実施した。（12月28日の測定をもって終了）</p> <p>○文部科学省からの協力要請に基づき、学校建築物の応急危険度判定のため職員1名を4月13日～17日まで被災地に派遣した。</p> <p>○文部科学省からの協力要請に基づき、原子力発電所の事故対応のため教員1名を文部科学省に派遣した。（7月末日まで実施）</p> <p>○震災発生後、学内に「東日本大震災対策本部（本部長：学長）及び復興支援室」を設置し、学生・被災者等への支援・対応等を行う体制を整備した。</p> <p>○学生・被災者等への支援・対応等の情報の一元化を図るため、専用HPを開設し、必要な情報の発信に努めている。</p> <p>○文部科学省からの協力要請に基づき、一時帰宅者に対する放射線スクリーニング作業のため、7月と8月にそれぞれ1回ずつ職員1名を福島県に派遣した。</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	東京藝術大学	<p>○教員有志が自身の作品や著書を持ち寄り、「東京藝大教員による被災地復興支援・文化財救援 作品展」を開催（6月1日～7月10日）。期間中の作品の売上金は、被災地域の文化財の救援と修理及び保存の支援金として、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団へ寄附。</p> <p>秋には同展第2弾を開催（10月4日～10日）。期間中の作品の売上金は第1弾と同様に寄付した。</p> <p>○東京藝術大学が郵船クルーズ（株）に協力する形で、大型客船「飛鳥Ⅱ」の岩手県大船渡市寄港に合わせ、市民に対し、復興芸術支援を行った。（7月27日・28日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員、学生により、県立大船渡高校の生徒へ絵画教室実施。 ・教員、学生による演奏会の実施（船内ステージ）。 <p>○国立大学協会へ申請した、震災復興・日本再生支援事業で、事業名「日本一美しい漁村」をめざし、石巻市雄勝の地区特性を活かした復興住宅モデルづくり等事業」が採択され、復興に向けて「石巻市雄勝町の住民による復興まちづくり協議会」に定期的に参加し、協議会を支援している（建築科・准教授）</p> <p>○東日本大震災後、5月から開始された文化庁・日本建築学会による文化財ドクター派遣事業に参加し、栃木県の文化財建造物を分担した。5月～10月に計5回の被害状況調査を実施、9月～12月に計3回の復旧の現地指導を行った。引き続き、現在も文化財ドクターとして、災害復旧修理の指導を行っている。（文化財保存修復建造物研究室）</p> <p>○茨城大学六角堂 宝珠復元研究（茨城大学からの受託） （平成23年11月～平成24年12月）</p> <p>東日本大震災の津波によって、明治38年に岡倉天心が建設した六角堂は、津波により土台だけ残して流失するという甚大な被害を受けた。海中調査の結果、建物頂部の宝珠の破片を複数発見した。これらの破片から3Dデジタル技術で形状を復元し再建に協力する。</p> <p>研究内容としては、破片の3D計測を行い、そのデータを基に当初の形状を復元し、実際に宝珠を復元するに当たって、必要な立体資料を制作する。また3Dデータを応用し展示用のための宝珠のレプリカも制作する。（文化財保存修復彫刻研究室）</p> <p>○木造地藏菩薩立像制作～鎮魂の「おやこ地藏尊」制作～ （長野県 善光寺様より受託） （平成23年12月～平成24年3月）</p> <p>長野県善光寺による東日本大震災被災者追悼事業の一環として、地藏菩薩立像を制作することを目的とする。</p> <p>かつて陸前高田に生育していた松材（津波により倒木となってガレキとなっていたもの。現在は地元材木店・村上製材所の有志により提供）を用いて地藏菩薩立像4軀制作したのち、東日本大震災被災者1周年（平成24年3月11日）に陸前高田・曹洞宗海岸山普門寺へ3軀、善光寺へ1軀奉納する。（文化財保存修復彫刻研究室）</p> <p>○浸水した石巻文化市民センター所蔵の油彩画作品32点を受け入れ、応急処置を現在実施している。 （文化財保存修復油画研究室）</p> <p>○共生パーク『仮設住宅に一枚の絵を』プロジェクト</p> <p>知的障害障害児（者）、東京藝術大学、武蔵野美術大学の学生のコラボレーションの展示。1これらの作品を岩手県一関市に展示し、仮設住宅にお住まいの被災者に無料で作品を持って行き、そして好きな絵があれば、仮設住宅の自分の部屋の中に飾ってもらう。（文化財保存修復日本画研究室）</p> <p>○被爆した書類の取扱い方法を寄稿（2011/04/28 http://www.hozon.co.jp/hobo/category/disaster_radiation.html）（文化財保存科学研究室）</p> <p>○海水で被災した紙資料の救助のために必要な洗浄の効果を実際に検討し、現状の方法で問題無いことを明らかにし、その結果を奈良文化財研究所の研究集会（2011年12月）などで公表した。（文化財保存科学研究室）</p> <p>李 壘、稲葉政満、久利 元昭 海水で被災した紙資料の洗浄と湿熱劣化試験 保存科学研究集会2011「被災文化財のレスキュー -保存科学の果たすべき役割と課題-（奈良、2011）」</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活動実績
東京	東京藝術大学	<p>○せんだいメディアテークが開設した「3がつ11にちをわすれないためにセンター」と協力し、大学院映像研究科学生で構成する複数の撮影チームを継続的に派遣して震災復興の記録映像を制作し、震災復興アーカイブ作成を支援している。その成果は『なみのおと』としてまとめられ、10月の山形国際ドキュメンタリー映画祭2011で公開され、その後、被災地での上映会や映画祭など、各地で順次上映されている。記録映像制作は、今後も複数年にわたり継続する予定。（7月から継続中）</p> <p>○「被災地美術館応援企画」 「今、美術の力で被災地美術館所蔵作品から」（8月2日～21日） 被災地美術館の所蔵品から、今回の震災およびかつての震災や原発事故に関連する作品や、復興を支えるような表現をもった地元ゆかりの作家による作品などを選抜し、一つの会場に結集することで、厳しい現状を乗り越えるエネルギーとしたとの願いから本展を企画した。</p> <p>各館の復興へ向けた取り組みは多様であり、今後の道のりも様々ですが、この度集結した作品には、困難に立ち向かっている方々の心に寄り添い、励ましと勇気とを与えてくれる力が満ちあふれています。それはまさしく「美術の力」というべきものだと思います。</p> <p>被災地域の美術館の現状を多くの方々にも共有してもらおう機会となるとともに、各館には復興を支えて行くであろう素晴らしい作品が所蔵されていることを知っていただける好機ともなるでしょう。</p> <p>○チャリティーコンサート 「故郷」（ふるさと）～被災地出身演奏家の祈りに応えて～（5月20日） 本年4月3日に行われたフランスのボーヴェ大聖堂にてチャリティーコンサートのリハーサル時に「難民を助ける会」等の関係者が集まり、本学教授から、震災被災者のために音楽を通じた復興支援を行いたい旨を伝えたことがきっかけとなる。宮城県石巻市出身、東京藝術大学音楽学部卒で、現在東京フィルハーモニー交響楽団のトランペット奏者の呼びかけとし、「故郷」（ふるさと）チャリティーコンサートを開催した。</p> <p>ウインドオーケストラ（吹奏楽団）は、今回の趣旨に賛同した被災地出身等の演奏家75名、合唱20名、制作スタッフ等が参加、そのほとんどが東京藝術大学関係者やOB等で構成されている。 ・津波で楽器を全て流された石巻市の小中高等学校へ募金および寄附金を原資として楽器を寄贈。</p> <p>○被災地支援コンサート（音楽学部学生） 4月25日（台東区生涯学習センター）及び5月19日（JR上野駅ガレリア）に管楽アンサンブルの演奏会を行い、義援金を募った。</p> <p>○Save Tohoku in 松戸（音楽学部教員、学生） 河川敷やギャラリー等でコンサートやトークイベントを行い、支援物資の寄付を募った。NPO法人や東北大学と連携して実施。</p> <p>○被災地復興支援コンサート（音楽学部教員） 9月6日、7日に石巻市立大川中学校、鹿妻小学校、木の屋石巻水産事務所で開催された、心の癒しを必要とする被災者向けのコンサートに音楽学部教員が出演協力。</p> <p>○ピアノ寄贈（音楽学部） 釜石市の中学校及び合唱団に篤志団体の協力を得て音楽学部所蔵のピアノ計2台を寄贈した。</p>
東京	東京工業大学	<p>○組織的かつ集中的に震災に対処するために設置した東日本大震災対策本部の下に放射線対策室を設置し放射線に関する基礎知識の説明会を学内向けに開催するとともに、一般の方が参加できる講演会も開催した。</p> <p>○文部科学省からの求めに応じ放射線計測に協力している他、大学としても放射線の計測を行い、地元自治体へ提供、HP上で公開している。</p> <p>○OCIC（キャンパス・イノベーション・センター）の一部居室を被災8大学に対しては無償（光熱水料等は実費）で提供することとした。</p> <p>○被災学生に対し、特別給付奨学金を給付した。</p> <p>○大学院社会理工学研究科が、被災地に滞在し復興のお手伝いをしながら技術の利活用についてまとめる授業「災害ソリューション実践」を開講した。</p> <p>○被災自治体及び環境省等の要請から、本学放射線総合センターの教員が放射線汚染の調査やアドバイス、除染等に関する講演会等を行っている。</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	東京海洋大学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 被災した学生から精神面で相談があった場合、本学で定期的実施している、臨床心理カウンセラーによる学生相談を受けるよう勧めている。 ○ 課外活動等については、震災直後は自粛とし、3月24日からは注意喚起に変更して、課外活動の施設・設備・備品などの安全を確認するように注意を促している。 ○ 震災当日、品川駅周辺の帰宅困難者に対し、休憩場所、毛布、水1316本、非常食（乾パン約336個、アルファ米600食）を提供、また江東区越中島地域周辺住民の広域避難場所として、避難場所、水144本、非常食（乾パン約384個、アルファ米650食）を提供（3月11日） ○ 海洋科学部において、学生、教職員、地域住民に向けて、6月13日～24日に「東日本大震災の復興支援ならびに安心生活のための展示・相談会」を開催した。 展示 http://www.kaiyodai.ac.jp/news/3105/15517.html ・現地報告 ・地震・津波・沿岸・安全 ・原発・放射性物質・放射線モニタリング ・安心生活と知恵 ・復興支援とボランティア ・節電と省エネ ・附属図書館から ・生協から 相談会(本学在学学生向け) ・学業相談 ・生活相談 ・経済相談 ・健康相談 ・復興支援相談 ・よろず相談 ○ 放射能測定等、海洋科学部の教員などが被災地に行く際の資金的支援を行った。 ○ 東日本大震災被災地復興プロジェクト研究 本学では、東日本大震災の復旧・復興支援の一環として、7つのテーマからなる「東日本大震災被災地復興プロジェクト研究」を開始し、研究を推進している。 http://www.kaiyodai.ac.jp/topics/2101/15921.html ○ 東日本大震災で被災した、本学学部、大学院及び水産専攻科の入学志願者について、検定料免除の特別措置を講じた。 http://www.kaiyodai.ac.jp/admission-cms/topic/16039.html ○ 岩手大学及び北里大学との三陸水産業の復興と地域の持続的発展に寄与するための3大学連携 【岩手大学及び北里大学と「三陸水産業の復興と地域の持続的な復興に向けた3大学連携推進に関する基本合意書」に調印】 (平成23年10月30日) http://www.kaiyodai.ac.jp/topics/2101/16109.html 【「三陸水産業の復興に向けた3大学連携推進シンポジウム」を開催】 (平成23年10月30日) http://www.kaiyodai.ac.jp/event/1101/16069.html 【岩手大学及び北里大学と「全国水産系研究者フォーラム」を開催】 (平成24年1月7日) http://www.kaiyodai.ac.jp/topics/2101/16513.html ○ その他 【【一般参加自由】お茶の水女子大学との東日本大震災に関する合同シンポを開催】 (平成23年12月17日) http://www.kaiyodai.ac.jp/event/1101/16290.html 【水産海洋PFフォーラム「東日本大震災における産学官による被災地支援/復興の取組」を開催】 (平成24年1月13日) http://www.kaiyodai.ac.jp/event/1101/16507.html
東京	お茶の水女子大学	<ul style="list-style-type: none"> ○附属学校において、学用品等の物品提供について文部科学省ポータルサイトに掲載 岩手県の公立高校に大学ノート370冊提供 宮城県の公立中学校に角椅子20脚提供 岩手県の公立小学校にスリッパ520足提供 福島県の保育園に幼児用箱入り積み木30箱提供 ○岩手県教育委員会と予め現地のニーズを調査した上で、津波と地震で破壊された被災地（大槌町、釜石市、山田町）の小・中学校の理科室に必要な教材・教具を開発及び購入して、現地へ送付するとともに、送付した教材・教具を授業で活用できるようにするための教員研修を実施している。
東京	電気通信大学	<ul style="list-style-type: none"> ○電気通信大学の所在地である調布市の被災地支援活動「調布から！復興支援プロジェクト」に電気通信大学ボランティア推進部の学生が参加し、事業運営に関わっている。

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
東京	一橋大学	<p>○学生相談室が定期的に刊行しているリーフレット「セルフヘルプ」で今年度は震災被害を直接間接的に受けている学生に向けたものを作成した。タイトルは「重大な危機に直面している/するかもしれないあなたへ」である。震災により心理的に不安定になった学生がどのようにすれば心理的安定を得られるかが内容として書かれている。</p> <p>○震災により採用取りやめとなった学生が、留年して就活しているため、キャリア支援室において進路指導をしている。</p> <p>○保健センター准教授（精神科医師）が福島県立医科大学心のケアチームの医師として5/23～5/27、9/5・6、10/11、10/25、11/22、12/13、12/27に福島県相馬市において活動した。内容：①公立相馬総合病院での精神科外来②相馬市、南相馬市、新地町にある避難所回り</p> <p>○東日本大震災のボランティア活動に関心を持ってもらうことを目的に、本学図書館会議室において、首都圏の大学生による震災写真巡回展を開催（12月12日～16日）</p> <p>○東日本大震災チャリティ・シンポジウム「苦境を勝機に導くリーダーシップ」（主催：ビジネス・フォーラム、協力：一橋大学イノベーション研究センター）に、イノベーション研究センターの米倉誠一郎教授が企画から参加し、モデレーターにつとめた。来場者から集めた募金を支援金として、全額寄附した。（2011年7月19日に終了）</p> <p>○緊急チャリティセミナー「世界を変えるソーシャルビジネスの力」（主催：森ビルアカデミーヒルズ、一橋大学イノベーション研究センター、九州大学）に、イノベーション研究センターの米倉誠一郎教授が企画から参加し、2006年ノーベル平和賞受賞者ムハマド・ユヌス博士をゲストに招きご講演いただき、対談を行った。来場者から集めた募金を支援金として、全額寄附した。（2011年07月19日に終了）</p> <p>○次世代リーダー育成および復興支援プロジェクト「日本復興を考える学生会議」（被災地支援のアイデアをもつ若者を全国から募り、その企画実現までをサポートするプロジェクト。ダイヤモンド社・AMEXの共催）の企画立案の段階からアドバイザーとして助言・ご指導し、最終審査に至るまでプロジェクトをサポートした。発表審査会では審査員を務めた。（2011年10月8日に終了）</p>
東京	政策研究大学院大学	<p>附属機関の政策研究センターにおける緊急提言 教職員3名がボランティア休暇を取得して被災地支援活動を行った。</p>
関東・甲信越	横浜国立大学	<p>○YNU特別奨学金の支給（支給人数 2232名）</p>
関東・甲信越	新潟大学	<p>○被災した学生向けに学生寮（五十嵐寮）の部屋を確保（男子13室、女子25室）し、希望者5人が入寮した。</p> <p>○被災した学生に対するメンタルケア体制を整備した。</p>
関東・甲信越	長岡技術科学大学	<ul style="list-style-type: none"> ・科目等履修生の検定料、入学料及び授業料を免除 希望者なし ・平成23年度に実施する入学試験の検定料について、免除を実施。 ・福島県から長岡市に避難されている方々の避難所（2箇所）において、放射線相談会（セカンドオピニオン活動）を行う。（避難所閉鎖、終了）
関東・甲信越	上越教育大学	<p>○NPO法人上越地域学校教育支援センターと連携し、学生ボランティア（24人延べ125人）による避難児童生徒（延べ179人）への学習支援等を行った。（3月27日～4月5日の10日間）</p> <p>○妙高市における東日本大震災避難児童生徒への学習支援等に係る学生ボランティア（学部1人、大学院2人の計3人、3月29日～31日、4月4日の4日間）</p> <p>○子どもの学び支援ポータルサイト「支援の提案情報」に附属学校の学用品、給食用食器等の支援を登録</p> <p>○教員1名が南三陸町志津川保育所への絵本、文具等を搬入（6月24日）</p> <p>○新潟県義務教育課、新潟県臨床心理士会と連携した事業において、新潟県内に避難している被災児童を対象に心のケアを行った。4月と6月に合計4回、3小学校において延べ9人の児童及び保護者に面接を行った。</p> <p>○教員による福島県内の公立学校教員等を対象とした研修支援（【国立大学協会】震災復興・日本再生支援事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月20日：南会津郡南会津町立荒海小学校 1名 ・ 11月18日：白河市立白河中央中学校 1名 ・ 11月24日：南会津郡南会津町立荒海小学校 1名 ・ 2月21日：田村市立船引小学校 1名 ・ 2月24日：いわき市立田人第一小学校 1名 ・ 3月 6日：郡山市立片平小学校 1名（予定） ・ 3月 7日：郡山市立大槻小学校 1名（予定） ・ 3月16日：福島県教育委員会 5名（予定） <p>○教員1名が東北大学植物園標本館の復旧作業に従事（2月18日～19日）</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
関東・甲信越	信州大学	○松本市及び上田市の2キャンパスにおいて、空間放射線量を測定し、文部科学省に報告している。 ○文部科学省「子どもの学び支援ポータルサイト」を通じ、被災地へ液晶プロジェクタ、扇風機等の物品を提供した。
東海・北陸	富山大学	○被災した本学の学生へ救護金を支給（6月13日～7月15日） ○臨床心理士の資格を持つ教員（3名）を岩手県へ派遣（5月9日～6月18日） ○福島県での一時帰宅のためのスクリーニングへ職員を延べ28名派遣（5月25日～8月27日） ○岩手県の地域包括支援センター業務（総合相談）へ教員（1名）を派遣（2月5日～2月11日）
東海・北陸	金沢大学	・福島県庁の依頼により、学際科学実験センターアイソトープ理工系研究施設において土壌の放射能物質汚染の分析調査を実施（4月3日から） ・学会からの依頼により、大気浮遊塵試料の測定（5月19日、7月28日） ・東京大学総長及び大阪大学総長からの通知「福島での環境放射線調査に関して各大学へのお願い」に基づき、以下の活動を実施 ○理工研究域物質化学系教授及び医薬保健研究域保健学系助教が現地調査（6月11日～6月13日、6月4日～6月7日及び6月11日～6月14日） ○東京大学からの依頼により、土壌試料の測定（6月9日、6月10日、6月16日、6月30日、7月2日、7月5日・計280試料） ・学会からの依頼により、医薬保健研究域医学系の講師1名が死体の検案及び身元確認業務のため派遣（宮城県4月5日～4月12日）（福島県5月7日～5月15日） ・学会からの依頼により、医薬保健研究域医学系の教授1名が死体の検案及び身元確認業務のため派遣（宮城県5月28日～6月5日） ・宮城県からの依頼により、こどものこころの発達研究センター職員1名をスクールカウンセラー業務のため派遣（5月9日～5月14日、7月18日～7月23日） ・医薬保健研究域保健学系教授が北陸地区（富山、石川、福井）のリハビリテーション科を有する病院で被災者の受入可能な施設のリストを作成し、日本リハビリテーション医学会に提出。リストは日本リハビリテーション医学会及び北陸地方会のホームページに掲載され、一般公開中（4月21日） ・日本作業療法士協会の依頼により、医薬保健研究域保健学系の教授が、宮城県内での作業療法の活動を実施（5月6日～5月16日） ・公益社団法人地盤工学会の依頼により、理工研究域環境デザイン学系助教が現地調査（4月1日～4月3日、4月18日～4月21日） ・公益社団法人土木学会の依頼により、理工研究域環境デザイン学系教授が現地調査（3月16日～3月21日、3月31日～4月5日） ・本学教員による「東北地方太平洋沖地震と石川県の地震・津波防災に関する講演会」を開催（4月9日） ・本学教員による「福島第一原子力発電所の事故と放射線被ばくについて」を開催（4月28日） ・本学教員による「金沢大学市民セミナー“石川県の地震と津波”」を開催（6月11日） ・本学教員による放射性物質に汚染された水を処理するための研究チームを設置（4月26日） →汚染土壌の除去作業に活用（伊達市・10月下旬から約1か月間） ・学内の震災支援に関する研究に対して学内助成金の交付を決定（8月5日） ・本学教員による「金沢大学市民公開講座“市民のための放射能・放射線の話”」を開催（8月6日） ・平成23年度大学改革シンポジウム「防災・日本再生シンポジウム」を実施（10月8日） ・本学教員による「ふるさと科学者実験セミナー」を開催（2月11日） ・人間社会研究域の教員が被災地調査（釜石市、陸前高田市、石巻市でヒアリング）を実施（2月19日～2月21日）
東海・北陸	福井大学	○教育地域科学部教員1名が、福井県における支援物資分類及び積荷作業に参加（3月25日） ○福島県知事からの要請で、ライフサイエンス支援センター及び高エネルギー医学研究センターが連携して、平成23年度放射性物質除去・低減技術開発事業（水産分野）に係る支援を実施。（国大協の平成23年度「震災復興・日本再生支援事業」に採択（事業名：放射性物質が海面漁業に与える影響の研究支援に係る放射性物質の測定）） ○工学部教員及び学生が、放射線測定フィールドワークを実施（2月27日～）
東海・北陸	岐阜大学	空間放射線量の測定（4月11日～12月末まで実施）

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
東海・北陸	静岡大学	<p>○被災地の復旧・復興に直ちに活用可能な研究成果や中長期的取組みに貢献できる研究、東海地震に備えた教育研究等について、『静岡大学における「知による貢献」』として情報をとりまとめ、HPに公開するとともに、報道機関に情報提供した。(6月3日) URL:https://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/knowledge/k_index.html</p> <p>○文部科学省から福島県において放射線のスクリーニングを行う専門家の派遣要請があり、理学部の教員3名が現地へ赴き、作業にあたった。今後も継続的に作業に協力することとしている。(5月～)</p> <p>○人文学部、教育学部、こころの相談室、静岡県臨床心理士会が協同して相談の場や、活動・遊びの場の提供を行っている。</p> <p>○教育学部とつながりの深いNPO法人「ピュアスポーツクラブ」及び「卓球交流会」が、避難中の方を対象に各種教室・イベント等への参加を受け付けている。</p> <p>○NPO法人「SABJA(サビジャ:在日ブラジル人を支援する会)」等が開催するイベントで、講演・説明会を実施。 URL:http://www.ed.shizuoka.ac.jp/intro/ed_shien2011_1.html</p> <p>○防災総合センターが静岡県臨床心理士会と協働で作成した、『支援者のための災害後のこころのケアハンドブック』が、静岡県から被災地へ多数送付された。 URL:http://www.shizuoka.ac.jp/th_earthquake/eq20110323_care.html</p> <p>○静岡大学教育学部附属幼稚園に1名の被災者を受け入れた。</p> <p>○大学生協で行っている公務員講座の受講生が、不要になった参考書を被災者へ送付する等した。</p> <p>○学生(公認及び非公認サークル等)が学外で募金活動を行い、集まった義援金は日本赤十字社に寄付した。</p>
東海・北陸	浜松医科大学	<p>○宮城県講習衛生行政支援のため教員3名を派遣(4月1日～10日)</p> <p>○放射線空間線量を学内で定時測定し文部科学省にデータを提供(4月11日～12月末)</p>
東海・北陸	名古屋大学	<p>福島第一原子力発電所周辺の警戒区域から避難していた住民の方々が一時帰宅することに伴い、文部科学省からの依頼に基づき、被災スクリーニング検査対応が可能な専門家を福島県に派遣。8月末現在26人の専門家を派遣登録。延べ派遣者数38名、延べ従事日数95日。</p>
東海・北陸	愛知教育大学	<p>○被災者への支援活動に加え、愛知県被災者支援センタースタッフに対する支援活動(心理教育、コンサルテーション、リサーチ等)を行っている。</p>
東海・北陸	名古屋工業大学	<p>○岩手大学の依頼により、ICT機器の提供を学内に募った。5月6日発送 URL:http://www.nitech.ac.jp/news/2011/928.html</p> <p>○岩手県災害対策本部からの要請により、教員1名を企業被害把握業務支援のため派遣(3月21日～25日)</p>
東海・北陸	豊橋技術科学大学	<p>○福井県での研修中に帰宅困難となった八戸高専の学生を交通機関復旧までの期間、本学ゲストハウスに宿泊受入。</p> <p>○被災した国立高等専門学校5校を教職員が訪問し、支援要望等の聞き取り実施(5～6月)</p>
東海・北陸	三重大学	<p>○練習船勢水丸による物資輸送等 文科省専門教育課からの照会に基づき、物資輸送、海上宿泊施設としての利用が可能として登録。(現在利用要請なし)</p> <p>○思い出し隊みえin三重大学を組織し、個人の貴重な品々を救い出し被災地に返送。</p> <p>○東日本大震災による災害派遣活動中の自衛隊員に向けて、「三重大学体育会応援団」及び「よさこいサークル天狗っ」が激励演舞及び激励メッセージのビデオレターを収録。</p>
東海・北陸	北陸先端科学技術大学院大学	<p>留学生の一時帰国に伴う注意や届出について指導。</p> <p>東京都健康安全研究センターが提供する環境放射線情報の提供継続に係る協力要請に対して、本学情報社会基盤研究センターが、以下の内容の協力を行った。(6月22日協力終了)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学で運用しているミラー・サーバを用いた情報発信機能の代替 ・東京都のマスター・サーバの性能改善・増強の方策に関する助言

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	京都大学	<ul style="list-style-type: none"> ・震災対策本部の設置 ・学内におけるエネルギー消費の削減協力 URL: http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news5/2011/111216_1.htm <ul style="list-style-type: none"> ・福島県への放射線測定者の派遣（19班：57名） ・住民の一次帰宅に伴うスクリーニング実施専門家の派遣（24名） ・原子炉実験所にて文部科学省からの要請による避難所での放射線検査、文部科学省非常災害対策センター（EOC）や内閣府原子力安全委員会への情報提供、地方自治体からの技術的な問い合わせへの対応 URL: http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/message.html <ul style="list-style-type: none"> ・防災研究所にて「平成23年東北関東大震災対策検討本部」を立ち上げ、本災害に関わる調査、調査に関する危機管理、復旧支援や共同調査等における研究所内や関係機関との調整を実施 URL: http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/saigai/tohoku2011/index.html <ul style="list-style-type: none"> ・被災した学生等への心のケアの実施 URL: http://baby.educ.kyoto-u.ac.jp/aboutus/shien/ <ul style="list-style-type: none"> ・本学としての復興支援検討会議の開催 URL: http://www.cpier.kyoto-u.ac.jp/2011/04/%E3%80%90%E9%96%8B%E5%82%AC%E5%A0%B1%E5%91%8A%E3%80%91%E3%80%80%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%80%80%E5%A4%A7%E8%A6%8F%E6%A8%A1%E8%87%AA%E7%84%B6%E7%81%BD%E5%AE%B3%E5%AF%BE%E7%AD%96%E3%83%BB/ <ul style="list-style-type: none"> ・被災地でのロボットを用いた支援活動 ・本学留学生15名に対して英語による放射能に関する説明会を実施 ・京都大学シンポジウム「大震災後を考える」—安全・安心な輝ける国づくりを目指して—を実施中 URL: http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news4/2011/110714_1.htm
近畿	京都教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員が支援活動を行う場合の取扱いを定めた。 ○教員が児童生徒のメンタルサポート、住宅被害調査、土壌放射線調査及び土壌除染等に従事した。
近畿	京都工芸繊維大学	<ul style="list-style-type: none"> ○被災した受験生の検定料免除の事例：学部入試の受験生2名
近畿	大阪大学	<ul style="list-style-type: none"> ○被災学生に対する特別奨学金（60万円以内を給付）制度を整備 ○被災学生について、学生寮に4名受入れ（無償） ○福島県が実施している放射線被曝スクリーニング支援のため、専門知識等を有する教職員を派遣（随時） ○文部科学省による放射線量等分布マップ作成業務に参画し、土壌サンプリング、現地対策本部での人員調整・機材準備、放射能の測定を実施（随時）
近畿	大阪教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ○学校危機メンタルサポートセンターにおいて、教員や教育委員会からの電話相談を受け、現在までに30件以上の対応を実施 URL:http://nmsc.osaka-kyoiku.ac.jp/east_japan/
近畿	兵庫教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ・4月19日～21日の間、ボランティアサークルが、「播州鯉」と呼ばれる鯉のぼりの産地である地元加東市と共同し、本学学生及び教職員に対して、復興応援メッセージを記入した鯉のぼりを作製し被災地に送ることを呼びかけ、226枚のメッセージ付き鯉のぼりが集められた。 ・加治佐学長のメッセージ「子どもたちに一日も早い笑顔を」を記した長さ3メートルの鯉のぼり（製作：小竹光夫教授（専門分野：書写・書道教育））を作成した。 なお、加治佐学長のメッセージ鯉のぼりは、226枚の復興応援メッセージを記入したミニ鯉のぼりとともに、宮城県仙台市の兵庫ボランティア・インフォメーションセンターを通じて被災地の避難所に届けられた。 ・本学学部学生及び大学院生の2名が、加東市立社中学校で、1年生約150人を対象に、宮城県や岩手県でのボランティアの体験について講演を行い、自ら考え行動することの大切さを話した。 ・本学富永良喜教授（専門分野：臨床心理学、トラウマ心理学）が、災害で子ども達が受けた心の傷を分かりやすく解説することにより、子どもたちに現実を受け入れてもらいながら、克服に導く内容の絵本「かばくんのきもちー絵本で学ぶストレスマネジメント」を出版した。

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
近畿	神戸大学	<p>○福島第一原発の冷却活動に教職員を派遣 http://www.kobe-u.ac.jp/info/topics/menu/sf2011_03_28_01.htm</p> <p>○震災の影響により一時帰国した留学生の履修登録期間の延長 http://www.kobe-u.ac.jp/info/topics/menu/sd2011_04_12_02.htm</p> <p>○震災の影響で授業料の納付が困難になった学生について、授業料免除申請の受付を延長した(4月8日まで)。</p> <p>○神戸市消防局による福島第一原発冷却活動の後方支援</p> <p>○一般からの放射線に関する問い合わせ、企業からの問い合わせに対応</p> <p>○管理下でない放射性同位元素発見時の対応協力</p> <p>○内海環境教育研究センター(マリンサイト)で、被災地の大学の研究室が継代維持していた微細藻の株を一時的に預かった(3月~9月)</p> <p>○被災地の小中高等学校へ顕微鏡35台を寄贈</p>
近畿	奈良教育大学	<p>○日本教育大学協会近畿地区会が実施する「学生ボランティア活動支援事業」に申請し、活動に参加した学生への活動支援を行った(17名 @2000円)。</p>
近畿	奈良女子大学	<p>○震災支援関係授業授業科目の立ち上げ(前期開講科目のため、8月5日で終了) 震災直後の3月下旬に素早く対応し、下記科目を新規に立ち上げ4月から正規科目として開講した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目名: キャリアデザイン・ゼミナールB29: 震災支援の企画と実践 ・概 要: 遠隔地からでもできる支援の方法を受講生が企画を実践する ・対象等: 全学部全回生対象、2011年度前期開講、1単位 ・担当者: 小川伸彦 文学部准教授 ・受講者数: 17名 <p>■授業の成果は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募金活動・チャリティバザーでの収益を元に、仮設住宅に家電などを送るプロジェクトを実施。集まった約5万円を活用し、扇風機・アイロン・掃除機・トースター・ハエ取り紙などを9便に分けて岩手・宮城・福島の各県被災者に送った。 ・仙台フィルを応援する学外団体による募金に協力した。 ・仮設住宅にカラフルな表札を送るプロジェクトを実施した。 ・奈良県内に避難している被災者との交流会に参加した。 <p>○入学検定料における特別措置 平成24年度入学志願者を対象に、申請に基づき入学検定料を免除した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免除許可件数 6件 <p>○附属中等教育学校では、OECD「東北スクール」プロジェクトに、生徒および教員が協力している。国語の授業において、被災地取材した毎日新聞の記者の協力を受けた授業をしている。</p>
近畿	和歌山大学	<p>○ボランティア活動のための修学上の配慮 被災地でのボランティア活動を希望する学生に対し、ボランティア活動の実践を本学の自主演習として単位の付与やボランティア活動のため休学する場合の学費の取扱等について配慮を行います。【対応状況】 現地で1~2週間の活動を行う場合に限り、本学の自主演習として扱う。但し、テーマを決めて申請し審査を行う ボランティア公欠扱いとしない</p>
近畿	奈良先端科学技術大学院大学	<p>○文部科学省空間放射線量率調査への実施協力(4月11日~)</p> <p>○8月10日から測定頻度が毎日から1週間に一度になった。</p> <p>○文部科学省通知に基づき、12月27日(火)の測定を最後に調査終了。</p>
中国・四国	鳥取大学	<p>○教育支援として、宮城県石巻市の児童・幼児向けに本学附属小学校で行う図書の読み聞かせをウェブ配信し、いつでも・どこでも「読み聞かせ」を視聴できる学びの機会を提供</p> <p>○宮城県名取市閩上港の海底沈下物調査のため、教員2名を派遣</p> <p>○宮城県石巻市教育委員会と連携し、石巻市内の小中学校で子どもたちに科学の楽しさを伝え、理科の学びの機会を与えることを目的とした「出前おもしろ実験室」を開催 (平成23年度 国立大学協会震災復興・日本再生支援事業)</p>
中国・四国	島根大学	<p>○文部科学省の要請を受け、被災応急危険度判定士に2名を派遣登録</p> <p>○文部科学省の要請を受け、災害復旧事業計画書の作成支援者に1名を派遣登録</p> <p>○被災によるストレスに対する心のケアについて保健管理センターの相談体制を整備</p> <p>○震災復興に貢献可能な提供技術を全学的に調査し、Web掲載 URL: http://shimane-u.ac.jp/sinsai.html</p> <p>○本学が加盟している一般社団法人大学ICT推進協議会からの協力要請を受け、「東日本大震災被災中小企業復興支援再生PC寄贈プロジェクト」に参加し、学内において寄贈可能なPCを募り、取りまとめを実施(1月末)し、今後、本学においてPCの再生作業を実施したうえで発送予定</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・ 四国	岡山大学	<p>震災復興支援を目的とした岡山大学学生を中心とする団体「おかやまバトン」が実施する被災地の中学生を中心とした団体受入プログラムにおいて、本学宿泊施設を無償貸与した。 平成23年12月23日～26日 受入人数24名</p>
中国・ 四国	広島大学	<p>http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html</p> <p>○神谷 緊急被ばく対策委員会委員長が、福島県放射線健康リスクアドバイザーへ就任（4月1日） ○広島大学を代表して、神谷緊急被ばく対策委員長が次のとおり委嘱を受けている。 ・平成23年3月～ 福島県立医科大学理事長付特命教授 ・平成23年4月～ 内閣官房政策調査員 ・平成23年7月～ 福島県立医科大学副学長</p> <p>○神谷緊急被ばく対策委員会委員長による「原子力災害における放射線の健康影響」等の講演（8月末日現在） ・福島県における講演（33回、約9,400人） ・福島県以外での講演（9回、約1,500人）</p> <p>○福島県等での緩急放射線モニタリング実施（3月28日～30日） ○警察庁の依頼による歯科医師の派遣（4月8日～14日） ○広島大学病院における傷病者受入体制の整備等 ・被ばく傷病者受入体制として、重傷4床、中傷4床を確保するとともに、広島県内6病院の連携による被ばく患者受入体制として、重傷10人、中傷11人分を確保（3月16日） ・除染設備の仮設配管及び貯留設備の整備を完了するとともに、多数被ばく傷病者用除染テントを設置（3月16日～6月13日） ・サーベイ検査 これまでに、34人に対して実施（広島県警察機動隊の帰還隊員の検査についても、警察学校において別途実施） ・内部被ばく特別検診 毎週月曜日午後、予約制によりホールボディカウンタを使用した内部被ばく特別検診を実施（8月1日から受付開始）（WBC修理のため1月から中断中。修理は終了、放医研による校正作業が終わり次第再開予定）※12月末日までの受診者数 53人</p> <p>○日本病院薬剤師会による岩手県立大船渡病院及び避難所への薬剤師の派遣（4月4日～11日、4月24日～5月7日） ○福島第一原発の事故が健康に与える影響（英語版）資料を国立大学協会へ提供（特に、関東地域大学の留学生への説明に使用） ○宮城派遣一次隊ボランティア派遣（社団法人日本理学療法士学会）生活機能対応専門職チームへ教授1人が参加（4月16日～23日） ○医療スタッフのボランティア派遣（日本プライマリ・ケア連合学会）で、宮城県石巻市（病院及び避難所）へ看護ケア担当者として教授が参加（6月3日～5日） ○宮城県登米市の依頼により、認定農業者を対象に「放射線の基礎と宮城の汚染」についての講演を准教授が実施（8月19日） ○日本産科婦人科学会の依頼により、岩手県石巻地区の産科拠点病院へ産科医2人を派遣（9月17日～23日） ○被災した幼児・児童・生徒と保護者・教師を対象とした教育・心理相談を実施（7月26日～）</p> <p>○イベント「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」プログラムの【「たたら」の中に生まれる「鉄」、そして「宇宙」の中に生まれた「地球」（9月10日開催）】へ、被災地から広島県に避難している小学校5・6年生、中学生、高校生20人を招待（参加希望者なし） ○広島市被災者支援ボランティア本部による福島県相馬市内の仮設住宅集会所等への看護師（教授）の派遣（8月26日から）（2月末現在、延べ14人） ○市民団体「繋がろう広島」の依頼により、広島県へ自主避難している方の検体（東京都、神奈川県からの4人の母乳）と比較のための検体（広島市、福山市在住の2人の母乳）を受領、検出器により母乳の放射線測定を実施（9月30日） ○日本プライマリ・ケア連合学会の依頼により、福島県南相馬市（市立総合病院）へ理学療法士（助教）、作業療法士（教授）を派遣（9月18日、19日、10月4日～7日） ○日本プライマリ・ケア連合学会の依頼により、宮城県気仙沼市（本吉病院）へ看護師（教授）を派遣（1月7日、8日） ○広島大学福島原発事故関連放射線環境調査チームの活動 ①福島県南相馬市へ教授を派遣、サンプリングと講習及び講演会（市議会講堂）を実施（9月28日、29日） ②福島県南相馬市へ教授及び准教授2人を派遣、大気ダスト及び土壌のサンプリングと講習を実施（10月19日、20日） ③福島県南相馬市へ教授及び准教授2人並びに大学院生を派遣、サンプリングと講演会を実施（11月30日、12月1日） ○広島大学大学院リーディングプログラム（放射線災害復興プログラム）経費による派遣 ①南相馬市へ教授及び准教授を派遣、環境放射能測定、大気ダストサンプリング、地下水、河川水及び土壌のサンプリングを実施（2月29日～3月2日）</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・四国	山口大学	<p>○被災企業から内定を取り消された者（平成23年3月卒業者）の就職支援を行った結果、他の企業に採用された。</p> <p>○本学のR1実験施設(小串地区)が、放射線測定機器を日本アイソトープ協会に2台、山口県に2台貸し出している。</p> <p>○文部科学省HP「子どもの学び支援ポータルサイト」登録の支援提案の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県気仙沼市立九条小学校へ粘土8個及び粘土板8個を支援提供（5月11日） ・宮城県東松島市立浜市小学校へアコーディオン2台を支援提供（8月31日） ・福島県楡葉町学校再開いわき準備室へ、トライアングル等楽器25点を支援予定（平成24年3月） <p>○被災した志願者に対して、検定料の免除ができるよう規則を制定し、申請受付を公表した。（4件の申請あり）</p>
中国・四国	徳島大学	<p>○被災した学生3名（実家が全壊又は半壊）について、学生後援会より被災見舞金（一人30万円）を支給</p> <p>○農畜水産物の放射性物質検査のため、徳島県農林水産物ブランド戦略総局にサーバイメータ（アロカTCS-172）を貸出</p> <p>○放射線に関する住民説明会（日本学術振興会研究事業部主催、福島県いわき市主催、福島県いわき市小川地区、川前地区、勿来地区：7月27日～29日）の専属講師として、放射線防護計測の専門家（教員1名）を派遣</p> <p>○放射線に関する住民説明会（日本学術振興会研究事業部、福島県白河市主催、白河市7地区：10月～12月の7日間）の専属講師として、放射線防護計測の専門家（教員1名）を派遣</p> <p>○放射線・除染講習会（福島県災害対策本部主催、福島県内各地：24年1月開催の6日間延べ10回）に放射線の専門家（教員3名）を派遣</p> <p>○全国被災地交流集会（関西学院大学、平成24年1月8日）において、放射線の専門家（教員1名）を派遣、依頼講演「除染の課題について」によって情報提供を行った。</p> <p>○徳島大学パイロット事業支援プログラム「ふくしま・とくしま、共に歩もう～原子力災害復興における住民支援プロジェクト」の一環として、福島県白河市立五箇中学校にて放射線学習会を開催（24年1月21日）。教員3名、学生1名を派遣</p> <p>○放射線・除染講習会（福島県災害対策本部主催、福島県内各地：24年2月開催の5日間延べ6回）に放射線の専門家（教員2名）を派遣</p> <p>○徳島大学パイロット事業支援プログラム「ふくしま・とくしま、共に歩もう～原子力災害復興における住民支援プロジェクト」の一環として、福島県白河市町内会連合会の依頼により、放射線講演会（24年1月22日）に、放射線防護計測の専門家（教員1名）を派遣</p> <p>○徳島大学パイロット事業支援プログラム「ふくしま・とくしま、共に歩もう～原子力災害復興における住民支援プロジェクト」の一環として、日本種苗協会福島支部長主催による農家、園芸家に対する放射線勉強会を開催（24年2月25日）。教員1名、学生1名を派遣</p> <p>○徳島大学パイロット事業支援プログラム「ふくしま・とくしま、共に歩もう～原子力災害復興における住民支援プロジェクト」の一環として、福島県白河市立表郷中学校にて放射線学習会を開催（24年2月25日）。教員1名、学生1名を派遣</p> <p>○放射線・除染講習会（福島県災害対策本部主催、福島県内各地：24年3月開催の5日間延べ9回）に放射線の専門家（教員3名）を派遣</p> <p>○被災地の物産（米、スープ、漬物）を引き受けて、総合科学部の学生有志ら（5～10人）が中心になって、徳島市内のイベント会場などでそれらを即売、その売上げを被災地の販売元に発送</p>
中国・四国	鳴門教育大学	<p>○日本発達障害ネットワークからの派遣依頼を受けた教員1名が、専門家チームの一員として、宮城県仙台市、福島県福島市ほかで活動した。（4月6日～4月13日）</p> <p>○教員1名が、自分が代表を務める版画団体「徳島版画」に呼びかけ、6月下旬に徳島県鳴門市でチャリティ展覧会を開催し、売り上げ64,000円を日本赤十字社徳島県支部へ義援金として寄附した。</p> <p>○教員1名が、徳島県内小学校児童から支援物資と励ましの手紙を預かり、石巻市内の被災者に届け、被災者からのお礼のメッセージを小学校児童に届けた。（8月上旬）</p> <p>○教員1名が、NTT東日本と連携し、仙台市、東松島市、石巻市、女川町の被災した小・中学校にて、児童生徒、教職員、被災者用コンピュータ、通信回線、デジタル教材、校務支援システム等を提供するとともに、今後の災害に強い情報環境作りのための支援希望内容を調査し（4月17日～18日、8月3日）、協働学習用マルチメディア掲示板システムを開発し、被災地の学校と全国の学校がインターネットを介して協働学習を行える環境を構築した。（8月～、現在も遠隔操作等により管理・運営等の支援を継続中）</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
中国・四国	香川大学	<ul style="list-style-type: none"> ○「香川大学東日本大震災復興支援対策本部」を設置（3月28日） ○地震による交通機関への影響により受験が困難になった受験生に対して、一般入試（後期日程）の追試験を実施 ○「東日本大震災子どもの学び支援ポータルサイト（文部科学省）」を活用し、宮城県石巻市立住吉中学校剣道部へ竹刀20本の支援を実施 ○高松市中央卸売市場の招請により、原発災害による風評被害の防止を目的とした放射性物質に関する基礎知識や生鮮食品の安全・安心に関する研修会への講師派遣を予定（5月13日） ○教員が所属するボランティア団体メンバーとともに、宮城県石巻市でボランティア活動を実施（4月4日～4月8日） ○本学危機管理センターが東京湾沿岸及び房総半島沿岸において、被害状況の調査を実施（4月2日～4月3日） ○本学危機管理センターが主催し、「ボランティアのためのメンタルヘルス講習会」を実施（4月28日） ○自治体（三木町）からの依頼による被災児童のホームステイ受入に対する学生ボランティア ○職員宿舎（家族用10室、単身用38室）を用意可能だが、入居希望や要請はなかった。 ○留学生のため「緊急相談窓口」を開設 ○学生2団体（「Let's help Japan!! PROJECT」、「SOKUS（香川大学学生災害復興支援団体）」）が学内及び街頭募金等活動を実施中 ○厚生労働省健康局水道課長からの依頼により、千葉県の水道水中の放射性物質の検査を継続的に実施中 ○医学部において教員と学生が、医療支援チームや学生ボランティア活動について「東日本大地震災害活動報告」を実施（6月17日） ○本学学生ボランティア団体「SOKUS」のメンバーが宮城県で行ったボランティア活動の報告会を実施（6月24日） ○本学学生が、ボランティア活動により知り合った宮城県議員を通じて、教育学部附属高松小学校から小学生用学用品を東松島市野蒜小学校へ提供（7月7日） ○「東日本大震災子どもの学び支援ポータルサイト（文部科学省）」を活用し、福島県津若松市のNP ○法人寺子屋方丈舎元気玉プロジェクト事務局物資班へ色鉛筆（24色セット）30個の支援を実施（10月11日） ○「チーム香川STUDENTS（香川大学医学部学生ICLS勉強会を中心に災害医療に関心のある香川大学医学部生有志）」が主催し、東北地方の大学から災害支援に従事してきた東北大学、福島県立医科大学及び福島大学の医療系学生7名を招待し、これまでの支援について活動報告会を実施（10月29日）
中国・四国	愛媛大学	<ul style="list-style-type: none"> ○留学生約120人に向けて「福島第一原子力発電所の現状と今後の見通しについて」説明会を開催した。（3月18日） ○附属小学校職員が、被災者支援のため、福島県石巻市と宮城県気仙沼市で、ボランティア活動を行った。（5月、8月）
中国・四国	高知大学	<ul style="list-style-type: none"> ○被災児童へ手作りノート(8,880冊)を作成し、いわき市教育委員会事務局宛に送付 [教育学部学生 他]
九州	福岡教育大学	<ul style="list-style-type: none"> ○学生1名から、実家の家財道具等が被害を受けたことにより、日本学生支援機構奨学金の緊急採用の申し出があり、採用された。 ○上記学生について、震災による被害が特別な事情に該当すると判断し、選考の結果、平成23年度後期分授業料を全額免除とした。 ○被災した方・被災した子どもたちの心理相談を無料で受ける体制を整備（5月から実施）（利用実績なし） ○被災した受験生のために、追試験日の設定や、入学手続期間の配慮をしたが、対象となる受験生はいなかった。 ○被災者支援のための学生サークル「あくしゅ」を立ち上げ、被災地に様々な支援物資を提供したり、募金活動を実施した。今後も様々な形で支援を行っていく予定。 ○平成24年度一般入試及び推薦入試において、被災した受験生に対し検定料免除の特別措置を講じた。3名の受験生から申し出があり、検定料を免除した。 ○『頑張ろう！日本プロジェクト』を立ち上げ、附属久留米中学校教諭が被災地取材し、その情報をもとに、全生徒で「自分たちに今できること」を考え、それをメッセージ集にして宮城教育大学附属中学校へ渡した。（23年12月21日） ○附属福岡中学校2年生が、宮城教育大附属中3年生の合格祈願という精神的な支援を行うため、絵馬を作成し、送り返された絵馬を太宰府天満宮に奉納した。

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	九州大学	<p>○専門家の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震・津波関係：理学研究院附属 地震火山観測研究センター ・原子力関係：工学研究院、理学研究院、医学研究院、アイソトープ総合センター ・災害復興関係：工学研究院、経済学研究院 <p>○被災地域のインフラ復興支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台空港内のインターネット網の緊急整備に関する支援要請を受け、システム情報科学研究院の教員が開発した無線バックホール装置10台を貸し出した。 <p>○外国人留学生・研究者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生、外国人研究者等、協定大学、留学生の家族宛てメッセージやQ&Aを作成し、送付・本学ウェブサイト掲載。 ・外国人研究者及び留学生向けセミナーを4月18日に開催。外国人教員も含め計111名が参加。 <p>○震災関係講演会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月10日（日）「TEDxEarthquake9.0ーソーシャル・ビジネスによる被災者復興支援を考える」 ・4月22日（金）「自然災害フォーラム 九大2011」 ・4月27日（火）本学の留学生及び外国人研究者のための特別セミナー開催。 <p>“2011 To-hoku earthquake and tsunami, and Nuclear accident at Fukushima II reactor site”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月11日（水）「東日本大震災における被災者と心のケア」 ・6月4日（土）高校生・大学生を対象とする公開講座を開催 <p>” エネルギーの源「放射線って何」- 正しく理解するための基礎知識 -”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月13日（月）技術シンポジウム「社会インフラの防災と危機管理を考える」 ・8月2日（火）教員・学生・民間企業の研究者などを対象とするセミナーを開催 <p>「一今後のエネルギーの課題と展望を考える」を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月11日（木）原子炉の安全性・放射線の基礎知識に関する地元企業経営者への講演会開催。 ・11月10日（木）～11月11日（金）「斜面災害における予知と対策技術の最前線に関する国際シンポジウム福岡2011」（国大協「平成23年度防災・日本再生シンポジウム」採択事業） ・平成24年3月8日（木）「東日本大震災の現場を知るー震災後一年、そしてこれからー」 ・平成24年3月11日（日）「震災フォーラム：東日本大震災から1年が経過して」 <p>○教育復興支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語文化研究院において、ユネスコスクール支援のための大学間ネットワーク（14大学で構成、言文は九州・山口県を担当）の一員である岩手大学、東北大学、宮城教育大学の依頼により、岩手県及び宮城県内の小・中学校への学用品（文房具、体操着、楽器など）を提供するための呼びかけを実施。（現地のニーズ等の状況により終了。）
九州	九州工業大学	<p>○空間放射線量率調査の実施に協力できることを文部科学省に回答した。</p> <p>○相談窓口を設置した。（学費、就職活動、メンタルケア等の相談に対する対応） 〔 URL: http://www.kyutech.ac.jp/shinsai/index.html#sub2 〕</p> <p>○留学生に対するHP公表による情報提供を実施した。 〔 URL: http://www.kyutech.ac.jp/info/id791.html 〕</p> <p>○被災地大学からの要請により、放射線測定器(GMサーベイメーター)を無償で貸し出した。</p> <p>○大学構内の放置自転車について、警察への確認及び整備後、被災地へ送付した。 (9台：8/29)</p> <p>○大学構内の放置自転車について、警察への確認及び整備後、被災地へ送付した。 (14台：11/17)</p>
九州	佐賀大学	<p>○被災地区の学校に対し、学校支援カウンセラーとして本学教員を派遣した。 (6月13日～18日)</p> <p>○海浜台地生物環境研究センターが、陸前高田市の名勝「高田の松原」の再生活動を、唐津市ならびにNPO法人(KANNE)協働し、支援活動を展開している。</p>
九州	長崎大学	<p>○法医学教室の教員1名が福島県において検死活動(3月15日～25日), (4月29日～5月6日)</p>
九州	熊本大学	<p>○医学部附属病院発達小児科において、被災地の子ども達に関するメール相談を受け付けている。(平成23年7月19日～継続中) http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujuhou/earthquake/mental_health.html</p> <p>○教員(生命科学部)が日本婦人科腫瘍学会の常務理事として石巻市を視察し(平成23年8月14日)、現地で活動する医師の実情(医師数の減少等)の把握を行った。</p> <p>○教員(生命科学部)が、自身が理事長を務める日本臨床化学会において募金活動を行った。</p> <p>○文部科学省からの依頼により、環境放射能水準調査における空間放射線量率調査への協力(測定・報告)を行った。(平成23年4月11日～12月27日)</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	大分大学	4月7日に危機対策本部（東日本大震災対応）を設置した。 事務職員1名が、ボランティア休暇を活用し、気仙沼でボランティア活動を行った。
九州	宮崎大学	<p>○文部科学省から、被災文教施設の応急危険度判定士の登録及び派遣準備の依頼があり、2名を登録・派遣予定(待機)</p> <p>○警察庁から、死体検案業務のための派遣要請 法医学分野教員の延べ3名を派遣（3月18日～4月24日）</p> <p>○文部科学省プロジェクト「放射性物質の分布状況等に関する調査研究」の実施に伴い、工学部教員1名が福島での環境放射線調査（土壌試料の採取及び測定）に参加（6月3日～5日）</p> <p>○独立行政法人物質・材料研究機構から、土壌・ため池を対象とした放射性物質汚染除去の現地調査、試験等の依頼があり、7月3日～5日、7月7日～10日、8月22日～26日、10月16日～10月22日に教員1名を派遣</p>
九州	鹿児島大学	<p>○空間放射線量率調査の要請 ・3月21日 文部科学省（高等教育企画課）に対して、環境放射能水準調査における空間放射線量率調査の実施に協力することは可能である旨回答（本学独自で3月15日より本学キャンパス内で空間線量率の測定を実施）</p> <p>○汚染検査機材の自主的提供 ・3月25日 文科省放射線規制室、日本アイソトープ協会からの要請により、福島県民の不安解消のための汚染検査機材として、本学アイソトープ実験室よりGMサーベイメータ6台を搬出</p> <p>○鹿児島大学学術情報基盤センターの支援 ・NPO法人と鹿児島大学との協定締結※により、本学のリユース可能なPCを学生ボランティアを活用して、ソフト等の設定・入れ替えを行い被災地へ当面100台を提供する。（ボランティアセンターを窓口（主幹）として、学術情報基盤センターがバックアップを行う。） ※協定については、5月10日に締結した。 http://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2011/05/post-75.html 8月末現在、リユースPC49台を被災地へ発送済み。今後も継続して活動を行っていく。 http://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2011/07/pc.html 継続して活動を進めており、今年度は、これまでの発送済み分を含めて約70台提供する予定である。</p> <p>○土壌分析態勢の確率 高純度Ge半導体検出器の調整を行い、8月中旬には土壌放射能の測定が対応可能となっている（ただし試料受入れは日本放射線安全管理学会を窓口とする）。</p> <p>○福島県農業総合センターの依頼による農地土壌及び野菜の放射能分析を実施した（11月15日から1月15日）。</p> <p>○本学教員がボランティア休暇を活用して、復興支援活動 理工学研究科・准教授 1名 飲料水確保のための復旧支援活動および水質調査 宮城県仙台市・石巻市・名取市 平成23年4月26日～平成23年4月28日（3日間） 臨床心理学研究科・准教授 1名 あそぶ寺子屋及びリラクゼーション教室開催による、被災児童・被災者への心理支援 岩手県宮古市 平成23年8月8日～平成23年8月12日（5日間）</p> <p>○日本天文学会2011年秋季年会（当初、東北大学で開催予定）を鹿児島大学で開催することになった。 http://www.asj.or.jp/tennet/archives/msg00907.html</p> <p>○東日本大震災被災地への医療支援派遣報告会を開催（5月24日） 5月24日東日本大震災被災地への医療支援報告会を開催した。8名の教職員が、活動内容や被災地の状況、今後の課題について報告し、教職員、学生、マスコミ関係者約300名が参加した。 URL:http://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2011/06/post-79.html</p> <p>○災害（東日本大震災）支援ボランティア活動報告会を開催（6月29日） URL:http://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2011/07/post-99.html</p> <p>○クラブ（K I R P：東日本大震災支援～鹿児島国際市民プログラム）の設置 鹿児島大学に留学している外国人学生たちの何か自分たちにはできないかという被災者を思う強い気持ちから鹿児島大学留学生会（KUFSA）が中心となり、国際戦略本部が協力して、2011年4月11日にスタートした。本学の教職員や日本人学生の有志がコアメンバーとして参加しており、今後、継続的に活動への参加協力を広く市民によびかけていく。5月21日のカントリートーク（タンザニア）と6月10日に開催されたさつまあげパーティにおいて同活動の募金活動が行われた。7月23日には、鹿児島大学留学生会（KUFSA）主催チャリティフットサル大会にも参加し、募金活動を行った。 URL:http://www.kagoshima-u.ac.jp/topics/2011/06/post-85.html</p>

【7. その他】

支部名	大学名	活 動 実 績
九州	鹿児島大学	<p>○教育学部附属特別支援学校の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月6日 全国特別支援学校知的障害教育PTA連合に義援金として10万円振込。 ・10月20日 宮城県石巻市近郊の特別支援学校で雑巾が不足しているとの情報を受け、作業学習で古いタオルを使ってダンボール箱1箱分の雑巾を作り、宮城県特別支援教育センターに送付。 ・12月16日 ベルマーク教育助成財団からの「東日本大震災被災校への緊急友愛援助」依頼を受け、24,948円を振込。 <p>○講演会での報告</p> <p>2月10日 大学教職員、学生、防災関係者、一般市民を対象とした「東日本大震災での災害支援に関する講演会」で、本学附属病院医師、学生等が、医療支援派遣経験等について講演した。</p> <p>○国際島嶼教育研究センター・教授 1名</p> <p>2011年10月被災犠牲者6名を出した仙沼市立鹿折小学校全校生徒に対して校長からの依頼があり講和「地域・身近なひとの助け合い・支えあい」を行った。</p> <p>2012年2月気仙沼大島で長期支援活動を継続している団体の要望に添えて、2012年1月決定した7年後の架橋・復興方針に関し、架橋後の島嶼社会・生活変化に関する全国事例について情報提供活動を行った。</p> <p>○国大協支援事業「震災復興・日本再生支援事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島県松川浦の水産業復興および環境調査に関する共同研究 ・岩手県養殖漁場の生産性に関する津波影響モニタリングと底質改善事業
九州	鹿屋体育大学	<p>○留学生及び平成23年度入学予定者全員に対して、安否確認を行った。</p> <p>○被災した在学生に対し、授業料免除、学生宿舍の優先入居、寄宿料免除について検討した結果、前・後期分授業料の免除（2名）、今年度学生宿舍入居許可（1名）及び前期分寄宿料の免除（1名）を行った。また、教員で組織している任意団体からの見舞金として8万円を送った（1名）。さらに、来年度の学生宿舍入居許可（3名）を行い、これについては、次年度以降も検討していく予定。</p>
九州	琉球大学	<p>○教育学部教員が被災地において災害ボランティア活動（3月14日～3月31日）を行い、4/20に教育学部の教員による学生向け報告会を開催した。</p> <p>○在籍留学生在が自主作成した絵はがきを国際課窓口で販売し、その収益金全額を義援金として寄付した。（平成23年9月まで）</p> <p>○文部科学省からの協力依頼により、4月11日から毎日14時に空間放射線量率の測定をおこなった。なお、結果等については、文部科学省へ報告を行うとともに、ホームページに掲載した。（平成23年12月まで）</p> <p>○被災地への支援を呼びかける、Animo!東北（本学学生等の有志）によるイベント「24時間チャリティーマラソンfor東北（6/11,12）」の開催に当たり、本学学生援護会から活動資金の一部を支援した。なお、本イベントによる収益（485千円）は、日本赤十字社へ寄付された。</p> <p>○東日本大震災による福島原発事故について、機器分析支援センターから放射線測定器を貸し出し（4月～6月）、福島県の各地で放射線測定に使用され、被災した現地に貢献した。この活動に対して福島県農民運動連合会より琉球大学長宛に感謝状が贈られた。（H23年6月26日）</p> <p>○留学生センターで7月9日に開催した「留学生まつり」において、フリーマーケットを行い、収益金の全額を大学を通して寄付した。</p> <p>○支援先特定支援金として、宮城県多賀城市多賀城市立東豊中学校吹奏楽部に、被災によって損壊した楽器補修のため10万円を、琉大ミュージカル2011Into the Woods教員&受講生一同として寄付を行った。寄付金の振込みに関しては、同中学校同吹奏楽団の復興を支援する団体「フォーラムキャッツ」（代表者：鈴木玉能氏）を通じて渡して頂いた。また琉大ミュージカル代表（本学教員）が同中学校同吹奏楽部現部員29名に対して、琉大ミュージカル2011Into the Woodsの「特製Tシャツ」（全3色、29着分¥32,190）をプレゼントした。（2011年8月）</p> <p>○6月末に東北支援のチャリティー・コンサートを開催し、純益の約50万円を茨城大学附属小学校に寄付した。</p> <p>○事務職員2名が気仙沼市にてボランティア活動を行った。（7/18～22、7/23～30）</p> <p>○法文学部教員が、大船渡市の学校支援を行った。（6/13～17）</p> <p>○理学部（生物系）から福島県のボランティア獣医師グループへ光学顕微鏡5台を提供した。</p> <p>○医学部附属病院教員1名が岩手県閉伊郡山田町ならびに岩手県宮古市重茂にて支援活動を行った。（4/22～5/6）</p> <p>○医学部附属病院教員1名が岩手県にて土壌調査の協力をを行った。（6/12～6/15）</p> <p>○機器分析支援センターにて、食品等の放射能検査について県内及び県外から依頼分析（受託試験）を受け入れ、2月現在で900件余の測定を実施した。また、自治体及び県民からの放射能測定、検出器、数値データ等の評価について相談を受け対応した。</p>

No.	品名	規格	単位	合計数量
1	DENT.EX 歯間ブラシ 4本入	ライオン M	箱	90
2	DENT.EX 歯間ブラシ 4本入	ライオン S	箱	90
3	DENT.EX 歯間ブラシ 4本入	ライオン SS	箱	90
4	DENT.EX 歯間ブラシ Flexyneck	ライオン M	箱	150
5	DENT.EX 歯間ブラシ Flexyneck	ライオン S	箱	150
6	DENT.EX 歯間ブラシ Flexyneck	ライオン SS	箱	90
7	DENT.EX 歯間ブラシ Flexyneck	ライオン SSS	箱	60
8	DENT.チェックアップ スタンダード	ライオン 120g	本	10
9	LEDヘッドライト スイッチ&ACアダプター付	ウェルチ・アレン・ジャパン 49020	台	2
10	MMI ハルスオキシメータ 赤色LEDディスプレイ	村中医療器(株) 502-030-06	台	1
11	MMI聴診器 成人用	村中医療器 502-004-21 黒 MMI-A6010BL	個	2
12	MS温シップ「タイホウ」	20g×5枚×50袋	箱	1
13	N-マルチスティックスSG L.	シーメンスHCD 100マイ	箱	1
14	PL配合顆粒	1g×100包	箱	7
15	アーチスト錠2.5mg	第一三共KK 100T	箱	5
16	アクティベーター	クラレ 4ml	個	1
17	アダプターバッテリーパック充電用	ウェルチ・アレン・ジャパン 74180	個	4
18	アトエア250ディスクス60吸入用	グラクソ・スミスクラインKK 1個	箱	10
19	アマリール1mg錠	100錠	箱	3
20	アルカリ電池	日立 単3 LR6EW4P	個	28
21	アルカリ電池	日立 単4 LR03EW4P	個	136
22	アルコールカクメン 4×4	ニチエイ 200入	箱	2
23	アレグラ錠60mg	100錠	箱	3
24	アレロック錠5mg	100錠	箱	2
25	アロイブライマー	クラレ 5ml	個	1
26	いろはす(水)	555ml	本	72
27	ウットウェッジ 50入	デンテック S	袋	1
28	エキスカレーター 角柄	YDM #4	本	4
29	エステクシート	0.1*1800*50m(透明)	巻	1
30	エプコシート	乳白 2100mm*25m	巻	12
31	エプコテープ	110P	巻	20
32	エレベーター D型	YDM 3C	本	2
33	エレベーター D型	YDM 3S	本	2
34	エレマノ血圧計	テルモ ES-H55P H55 ピンク	台	1
35	エントウェーブ アソートキット A	FKG 21mm	個	13
36	エントウェーブ アソートキット A	FKG 25mm	個	13
37	エントゲージ	YDM 21154	個	1
38	オルメテック錠20mg	第一三共KK 100T	箱	5
39	カルシペックスII	日本歯科薬品	個	1
40	クラビット錠500mg	第一三共KK 100T	箱	5
41	クラビット点眼液0.5%	参天製薬KK 5mL×50本	箱	1
42	クリアフィル AP-X 4.6g	クラレ A3	個	2
43	クリアフィル トライエスホントND セット	クラレ 2505	箱	1
44	クリアフィル マホント セット	クラレ 1970	箱	1
45	ケナログ口腔用軟膏0.1%	プリストル 5g×10本	箱	2
46	ゲンタシン軟膏0.1%	10g×10	箱	2
47	コーンスーブ(180)	180/袋	袋	20
48	コアハター	ジーシー 10g	個	1
49	コンクールF	ウェルテック 100ml	個	1
50	サジテン点眼液0.05% 5mL	10本	箱	1
51	サンコハルト リンガルバー線 30cm	デンツプライ三金 F	パック	1
52	サンコハルトクラスフ線 1m	デンツプライ三金 1.0	箱	1
53	サンスター義歯用ハブラシ	サンスター	本	10
54	シムピコトタービューハイラ-60吸入	1本	箱	10
55	ジョインティース 臼歯 48歯	ニッシン S4M	組	8
56	ジョインティース 臼歯 48歯	ニッシン S4S	組	8
57	ジョインティース 前歯 48歯	ニッシン S4M	組	6
58	ジョインティース 前歯 48歯	ニッシン S4S	組	6
59	ジョインティース 総歯 28歯	ニッシン S4M	組	16
60	ジョインティース 総歯 28歯	ニッシン S4S	組	16
61	シンジバルコートハッカー 両頭	ヒューフレディ CSI1	本	1
62	スカルヘル 20入り	フェザー 11	箱	1
63	ストリップスロール 15m 8mm	カーハ-ベ No.686	個	1
64	ダイアグリコ錠40mg	100T	箱	5
65	タイプN95微粒子用マスク	スリーエムヘルスケア(株) 1860	箱	1
66	ダイヤモンドディスク 両面 87XD	ホリコ 87XD	ケース	2
67	ティスホン エキスプローラー	BSAサクライ 10入り	パック	20
68	ティスホン ピンセット	BSAサクライ 1入り	パック	40
69	ティスホン ミラー	BSAサクライ 10入り	パック	50
70	ティッシュコンディショナーII 1-1セット	松風 ホワイト	箱	1
71	テオロン錠100mg	100T	箱	3
72	テオロン錠200mg	エーザイKK 100T	箱	2
73	テキサルチン口腔用軟膏1mg/g	日本化薬KK 5g×10本	箱	1
74	テバス錠0.5mg	0.5mg PTP500錠	箱	1

75	テルモ歯科用注射針 30G	テルモ S	個	1
76	テルモ電子体温計C205	テルモ(株) ET-C205S	本	1
77	デンタポート 根管拡大形成キット	モリタ製作所	本	1
78	デンタポート 根管長測定モジュール	モリタ製作所 DP-RCM2	台	1
79	デントシエクト専用ノズル	昭和薬品 20本入	箱	1
80	デンフィット S	昭和薬品 1.5g	箱	1
81	トクヤマリベースII Nセット	トクヤマ ピンク	箱	1
82	トルクテック 5倍速コントラ ライト付	モリタ製作所 CA-5IF-0	本	1
83	トレレジン 液	松風 250ml	箱	1
84	トレレジン 粉500g	松風 P	箱	1
85	ニシカ スピン 20本入	日本歯科薬品	箱	1
86	ノボラビット注フレックスペン	5本	箱	5
87	ノルバスク錠5mg	ファイザー-KK 1000T	箱	2
88	ハイボントテンポラリーセメント (ハード) 液	松風 60ML(70g)	個	1
89	ハイボントテンポラリーセメント (ハード) 粉	松風 125g	個	1
90	ピバシエルエツト	東京技研 120g	本	10
91	ピバシエルエツト	口腔湿潤ジェル	本	12
92	ピバリーくんカップ エコミー 5オンス	日本デキシー 100入	袋	5
93	ファミチジンD錠20mg「サワイ」	PTP1000T	箱	1
94	フィジオクリン キシリ錠剤	ニッシン 30錠入	箱	4
95	フジIX GP 1-1P	ジーシー A3	箱	1
96	フマルトン点鼻液0.05%	10本	箱	1
97	プラスチックコップ	デキシー 50個入	パック	4
98	プルミエラインブリカッ咬合紙 青	センジヨー 1/2	箱	1
99	プルミエラインブリカッ咬合紙 赤	センジヨー 1/2	箱	1
100	フロリドケル経口用2%	持田製薬 5g×30本	箱	1
101	ベースセメント 共用 液 20g	松風	箱	1
102	ベースセメント 粉 50g	松風 ホワイト	箱	1
103	ペンキュアー 2000	モリタ製作所 VL-10	台	1
104	ボールポイントアプリケーター	YDM 25015	本	2
105	ホクナリンテープ0.5mg	70枚	箱	1
106	ホクナリンテープ1mg	70枚	箱	4
107	ポリエチレンろ紙	Aqua ロールタイプ	巻	2
108	ポリデント	酵素入り 32錠	箱	10
109	ポリペール	ヘルク 90L 7タ付	個	4
110	メフチンエア-10μg吸入	100回 5mL×10	箱	1
111	ブリカッ坐剤25	50個	箱	1
112	モースパップ30mg 6枚	40袋	箱	2
113	ユージダイン 液	昭和薬品 20ML	箱	1
114	ユージダイン 粉	昭和薬品 50g	箱	1
115	ユナシン錠375mg	ファイザー 100T	箱	1
116	ユニファストII スターターセット	ジーシー 3-1P	箱	1
117	ユニファストIII 液	ジーシー 250g	個	1
118	ユニファストIII 粉	ジーシー 300g	個	1
119	ユニフィルローフロー 単品 2本入	ジーシー A3	箱	2
120	ヨウ化カリウム丸50mg「日医工」	1000丸	箱	1
121	ライフ	サイフロンカー	個	1
122	ランタス注シロスター-3mL	100単位/mL×2本	箱	2
123	リチウム電池	ソニー CR2450B-ECO	個	76
124	リボスチン点眼液0.025%	5mL×10	箱	2
125	リモイスコート 30ml ノンアルコール性保護膜形成剤	アルケア 17711	本	2
126	リンテロンVG軟膏0.12% 10g	50枚	箱	1
127	レジャーシート	2畳用	枚	2
128	レジャーシート	3畳用	枚	2
129	レジャーシート	4.5畳用	枚	1
130	レジ袋	No45 100枚入	袋	1
131	レバミル注フレックスペン	ノボルディスクファーマKK 2K	箱	5
132	ローラーコットン 綿球	ニチエイ 6mm(L)	箱	1
133	ロキソプロフェン錠60mg「EMEC」	エルメットエーザイ H1000T	箱	1
134	鋭匙	YDM C2	本	1
135	角綿 4×4 500g入	ニチエイ No.4	箱	1
136	環境放射線モニタ	(株)堀場製作所 PA-1000	台	2
137	技工フライヤー ヤング #R74	YDM 18474	本	1
138	技工フライヤー 三嘴	YDM 18483	本	1
139	義歯ブラシ		本	100
140	吸収缶	日本船舶薬品 GMI-HRコンピネーションカートリッジ微粒子+有機珪素	個	8
141	給食材料		式	1
142	口内清潔ウェットシート個包装タイプ	白十字(株) 46399	箱	20
143	歯ブラシ	コンバク外スリムS	本	15
144	歯ブラシ	プロスペックアダルトS	本	20
145	歯ブラシ	ルセロ B-10S	本	30
146	歯ブラシ	ルセロ B-20S	本	35
147	歯ブラシ	ルセロ P-10S	本	30
148	歯ブラシ	ルセロ P-20S	本	35
149	歯科用ライオデント義歯ブラシ	ライオン	本	60

150	歯科用水銃注射筒 ルアー先	エムイス 5cc	本	3
151	歯間ブラシ(フロスヘッド)	6本入り Mサイズ	箱	6
152	歯間ブラシ(フロスヘッド)	6本入り SSサイズ	箱	6
153	歯間ブラシ(フロスヘッド)	6本入り Sサイズ	箱	6
154	新ホリクリップ		個	30
155	新ホリクリップ無添加	GC 40g	個	10
156	単二電池	1パック 2個入り	個	9
157	天然水阿蘇550mlPET	サントリー	本	24
158	天然名水	500ml	本	48
159	電子血圧計 エレマーノ	テルモ株 ES-H55	台	2
160	等速コントラ Ti-MAX X25L ライト付	ナカニシ C601	台	2
161	等速ストレート トルクテック ライト無	モリタ製作所 ST-DH	本	2
162	透明ポリ袋	90L 10枚入 0.05*900*1000	袋	10
163	日田天領水	350ml	本	72
164	抜歯鉗子	YDM #10S	本	3
165	抜歯鉗子	YDM #17	本	3
166	抜歯鉗子	YDM #4	本	3
167	抜歯鉗子 残根用 新型	YDM 17070	本	1
168	筆 No.4 ユニファスト サーモレジン	ジーシー 10入	箱	1
169	防毒マスク ウルトラツイン GM	日本船舶薬品 Mサイズ	個	2

◆その他

- 被災された外国人住民に対する支援活動等を行うための組織「災害時多言語支援センター茨城」に対して教育学部の助教1名を派遣

- 平成23年3月16日より群馬県桐生地区の住民からの要望に応じて、桐生タイムス社と連携し、工学部にて測定した放射線量のデータを桐生タイムス紙面に掲載。また、文部科学省高等教育局高等教育企画課からの空間放射線量率調査依頼に基づき、平成23年3月28日より12月28日までデータを提供中。さらに群馬県環境森林部環境保全課からの要請により、群馬県にデータ提供し、平成23年4月1日より群馬県ホームページに掲載。
URL：<http://www.pref.gunma.jp/05/e0900020.html>
URL：http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/05/09/1305855_050919u.pdf

- 釜石市教育委員会からの協力要請に応じて、被災した釜石市の児童・生徒への進学・就学支援要請のホームページを開設
URL：<http://www.ce.gunma-u.ac.jp/bousai/index.html>

- これまでに津波防災教育を実施してきた地域の被害状況や避難実態について現地調査結果の速報を、工学研究科広域首都圏防災研究センターホームページにて公開
URL：<http://www.ce.gunma-u.ac.jp/bousai/index.html>

- 留学生向け震災関連の情報提供ホームページを開設
URL：<http://cier.aramaki.gunma-u.ac.jp/page2/info.html>

- 校庭における空間放射線量測定の実務の技術的指導のため、桐生市内小学校・中学校・幼稚園に工学部の准教授1名を派遣(6月2日)

- 文部科学省が実施した福島県下約2,200箇所の土壌及び空間の放射線量の調査に工学研究科教授1名(6月12日～15日)、重粒子線医学研究センター研究員1名(6月26日～30日)が参加した。

- 福島乳幼児・妊産婦支援プロジェクト【群馬】として、福島から避難し、群馬県内で生活している乳幼児や妊産婦の家庭を支援
<http://www.gunma-u.ac.jp/sb/sb.cgi?eid=268>
・社会情報学部において、放射線と子ども・私たちの生活についての講演会及びワークショップを開催(12月6日)

- 「県内の学校園に転校してきた児童生徒の学校園における居場所づくりについての学校支援」を目的として、群馬ピア・サポート研究会との共催で、「心のケア」についての研修会を開催(10月29日)
<http://www.gunma-u.ac.jp/sb/sb.cgi?eid=282>

- 桐生市と地域の自治会が主催する「まちなかサロン」の市民を対象とした放射線に関する講演会において、工学部教授が講演(平成24年1月23日)